
JD Edwards EnterpriseOne コンフィ ギュレーター 9.0 製品ガイド

2008 年 12月

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複製、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アSEMBル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993-2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999-2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.
Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.
Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.
This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.
This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).
This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).
This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com). All rights reserved.
This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

目次

はじめに

この PeopleBook について	xiii
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xiii
アプリケーションの基礎.....	xiii
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xiv
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xiv
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xiv
追加情報.....	xiv
表記規則.....	xvi
表記規則.....	xvi
注意事項の表示.....	xvii
国、地域、業種の表記.....	xvii
通貨コード.....	xviii
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xviii
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xviii

まえがき

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ - まえがき.....	xxi
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xxi
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xxi
この製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxii

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ - はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータの概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータの統合.....	1
JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータの導入.....	2
グローバル導入の手順.....	3
コンフィギュレータの導入手順.....	3

第 2 章

コンフィギュレータについて.....	5
コンフィギュレータの業務環境および概念について.....	5

業務環境およびコンフィギュレーション品目.....	5
今日のコンフィギュレーション方法.....	6
コンフィギュレータの定義.....	6
ビジネス環境およびコンフィギュレータ.....	6
コンフィギュレータの利点.....	7
コンフィギュレーション品目および製造環境.....	7
コンフィギュレーション品目および製造環境.....	8
コンフィギュレーション品目の分析.....	8
コンフィギュレータの必要性の評価.....	9
コンフィギュレーション品目.....	9
コンフィギュレータの機能.....	15
コンフィギュレータ・システムの統合.....	15

第 3 章

キットおよびコンフィギュレータについて.....	17
キットおよびコンフィギュレータ.....	17
キットおよびコンフィギュレータの機能比較.....	17

第 4 章

コンフィギュレータの設定.....	19
コンフィギュレータの設定について.....	19
コンフィギュレータ設定の前提条件について.....	20
受注オーダーにおけるコンフィギュレーション品目の価格設定について.....	25
購買オーダーにおけるコンフィギュレーション品目の原価計算について.....	27
基準日有効日付を使用したコンフィギュレーション品目価格設定および原価計算について.....	27
規則処理について.....	29
ブール論理について.....	32
構成品の重複利用について.....	33
コンフィギュレーション品目のメディア・オブジェクトの添付について.....	35
コンフィギュレータ固定情報の設定.....	35
コンフィギュレータ固定情報について.....	35
コンフィギュレータ固定情報の設定に使用するフォーム.....	36
コンフィギュレータ固定情報の定義.....	36
コンフィギュレーション品目セグメントの設定.....	37
コンフィギュレーション品目情報について.....	38
コンフィギュレーション品目セグメントについて.....	38
共通属性について.....	39
事前設定.....	40

コンフィギュレーション品目セグメントの設定に使用するフォーム.....	40
コンフィギュレーション品目情報の定義.....	41
コンフィギュレーション品目セグメントの定義.....	44
コンフィギュレーション品目セグメント詳細の定義.....	46
ユーザ定義セグメント値の設定.....	47
コンフィギュレーション品目のコピー.....	48
コンフィギュレーション品目セグメント情報の特定.....	50
コンフィギュレーション品目の印刷.....	50
セグメント間編集規則の設定.....	50
セグメント間編集規則ロジックについて.....	51
エラー・メッセージについて.....	52
セグメント間編集規則の設定に使用するフォーム.....	53
セグメント間論理ステートメントの定義.....	54
セグメント間論理ステートメントの値の定義.....	57
セグメント間論理ステートメントの範囲の定義.....	57
セグメント間編集規則のコピー.....	58
カスタム・エラー・メッセージの設定.....	58
セグメント間編集情報の確認.....	59
セグメント間編集規則の印刷.....	59
アセンブリ組込規則の設定.....	59
アセンブリ組込規則について.....	59
アセンブリ組込規則ロジックについて.....	62
上級アセンブリ組込規則について.....	67
誘導計算について.....	67
外部プログラム参照について.....	70
コンフィギュレーション・テーブルについて.....	71
スマート部品について.....	71
ホットスポット・アセンブリ組込規則について.....	72
アセンブリ組込規則の設定に使用するフォーム.....	74
ホットスポットに対するコードの定義.....	76
アセンブリ組込規則プログラム(P3293)の処理オプションの設定.....	77
アセンブリ組込規則ロジックの定義.....	78
上級アセンブリ組込規則の定義.....	84
アセンブリ組込規則のコピー.....	84
誘導計算のテスト.....	85
アセンブリ組込規則の印刷.....	85
コンフィギュレーション・テーブルの設定.....	85
コンフィギュレーション・テーブルの設定について.....	86
コンフィギュレーション・テーブルの設定に使用するフォーム.....	88
コンフィギュレーション・テーブルのテーブル名の定義.....	90

コンフィギュレーション・テーブルの定義プログラム(P3281)の処理オプションの設定.....	90
コンフィギュレーション・テーブルのディメンションの定義.....	90
テーブル/品目相互参照プログラム(P3282)の処理オプションの設定.....	92
コンフィギュレーション・テーブル/コンフィギュレーション品目の相互参照の定義.....	92
Cテーブルのテーブル戻りセグメント値の定義.....	93
コンフィギュレーション・テーブル値プログラム(P3283)の処理オプションの設定.....	93
コンフィギュレーション・テーブルの値の定義.....	93
アセンブリ組込規則とコンフィギュレーション・テーブルの関連付け.....	94
コンフィギュレーション・テーブルのコピー.....	94
コンフィギュレーション・テーブルの確認.....	95
コンフィギュレーション規則テーブル値の印刷.....	96
第 5 章	
コンフィギュレーション品目の改訂の使い方.....	97
コンフィギュレーション品目の改訂プログラムについて.....	97
規則処理について.....	98
基準日有効日付を使用したコンフィギュレーション品目価格設定および原価計算について.....	101
事前設定.....	102
コンフィギュレーション品目に対するオーダーの入力.....	102
コンフィギュレーション品目に対するオーダーの改訂について.....	102
コンフィギュレーション品目に対するオーダーの入力に使用するフォーム.....	104
コンフィギュレーション品目の改訂(P3210)の処理オプションの設定.....	105
コンフィギュレーション検証を使用したコンフィギュレーション品目に対するオーダーの入力.....	108
動的コンフィギュレーションを使用したコンフィギュレーション品目に対するオーダーの入力.....	110
コンフィギュレーション品目に対する既存オーダーに基づいたオーダーの入力.....	110
共通属性のコンフィギュレーション品目への割当.....	110
コンフィギュレーション品目の共通属性について.....	110
事前設定.....	111
共通属性のコンフィギュレーション品目への割当に使用するフォーム.....	111
共通属性値の割当.....	111
カスタム構成部品およびカスタム価格調整の入力.....	112
カスタム構成部品およびカスタム価格調整について.....	112
カスタム構成部品およびカスタム価格調整の入力に使用するフォーム.....	113
カスタム構成部品およびカスタム価格調整の追加.....	113
コンフィギュレーション品目に対するエラー・メッセージの修正.....	115
コンフィギュレーション品目に対するエラー・メッセージについて.....	115
コンフィギュレーション品目に対するエラー・メッセージの修正に使用するフォーム.....	116
コンフィギュレーション品目に対するエラー・メッセージの修正.....	116
コンフィギュレーション品目在庫の確認.....	116

コンフィギュレーション品目在庫について.....	117
コンフィギュレーション品目在庫の確認に使用するフォーム.....	117
コンフィギュレーション品目在庫の確認.....	117
コンフィギュレーション品目履歴の確認.....	117
コンフィギュレーション品目履歴について.....	117
コンフィギュレーション品目履歴の確認に使用するフォーム.....	118
コンフィギュレーション品目履歴の確認.....	118
コンフィギュレーション・テキストの確認.....	118
コンフィギュレーション・テキストについて.....	118
コンフィギュレーション・テキストの確認に使用するフォーム.....	119
コンフィギュレーション・テキストの確認.....	119

第 6 章

コンフィギュレーション品目に対するオーダーの入力.....	121
コンフィギュレーション品目のオーダー入力について.....	121
コンフィギュレーション品目受注オーダーについて.....	123
コンフィギュレーション品目直送オーダーについて.....	125
コンフィギュレーション品目転送オーダーについて.....	127
コンフィギュレーション品目事業所間オーダーについて.....	129
コンフィギュレーション品目組合せオーダーについて.....	130
コンフィギュレーション品目購買オーダーについて.....	132
コンフィギュレーション品目構成品の購買オーダーについて.....	134
コンフィギュレーション品目作業オーダーについて.....	138
受注設計生産におけるコンフィギュレーション品目オーダーについて.....	139
事前設定.....	140
コンフィギュレーション品目に対する販売見積の入力および変換.....	141
コンフィギュレーション品目販売見積について.....	141
コンフィギュレーション品目の販売見積から受注オーダーへの変換について.....	141
事前設定.....	142
コンフィギュレーション品目に対する販売見積から受注オーダーへの変換に使用するフォーム.....	143
コンフィギュレーション品目の販売見積から受注オーダーへの変換.....	143
コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーの入力.....	143
コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーについて.....	143
コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーの代替処理について.....	145
事前設定.....	145
コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーの入力に使用するフォーム.....	146
コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーの入力.....	146
コンフィギュレーション品目に対する在庫調整.....	146
コンフィギュレーション品目に対する受注オーダーのオフライン処理の使い方.....	147

コンフィギュレーション品目に対する受注オーダーのオフライン処理について.....	147
事前設定.....	152
オフライン処理によるコンフィギュレーション品目の受注オーダーの作成に使用するフォーム.....	152
オフライン処理によるコンフィギュレーション品目の受注オーダーの作成.....	152
サーバーへのコンフィギュレーション品目の受注オーダーのアップロード.....	153
受注オーダー・バッチ・トランザクション・エディタ(R4210Z)の使用.....	153

第 7 章

コンフィギュレーション品目の使い方.....	155
コンフィギュレーションIDについて.....	155
コンフィギュレーション品目と製造管理について.....	155
コンフィギュレーション品目の計画.....	156
コンフィギュレーション品目の作業オーダー処理.....	157
コンフィギュレーション品目の原価計算と会計処理.....	159
コンフィギュレーション品目の作業オーダーの変更.....	167
受注設計生産におけるコンフィギュレーション品目作業オーダーの変更.....	169
コンフィギュレーション品目の仕掛品の再評価.....	171
コンフィギュレーション品目作業オーダーの作業時間と作業量.....	172
コンフィギュレーション品目の作業オーダー完了.....	172
コンフィギュレーション品目と流通について.....	172
コンフィギュレーション品目の在庫.....	173
コンフィギュレーション品目の在庫状況.....	173
ピッキング・リスト.....	174
出荷.....	174
請求書.....	178
コンフィギュレーション品目と調達管理について.....	178
事前設定.....	181
コンフィギュレーション品目履歴の確認.....	182
コンフィギュレーション品目履歴について.....	182
コンフィギュレーション品目履歴の確認に使用するフォーム.....	182
コンフィギュレーション品目履歴の確認.....	182
コンフィギュレーション品目の関連オーダーの確認.....	182
コンフィギュレーション関連オーダー・プログラムについて.....	183
コンフィギュレーション品目の関連オーダー確認に使用するフォーム.....	183
コンフィギュレーション品目の関連オーダーの確認.....	183
コンフィギュレーション品目の在庫検索の実行.....	184
コンフィギュレーション品目の在庫検索について.....	184
コンフィギュレーション品目の在庫検索の実行に使用するフォーム.....	184
コンフィギュレーション品目の在庫検索の実行.....	185

付録 A

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータで使用するテーブル.....187
JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータで使用するテーブル.....187

JD Edwards EnterpriseOne用語集..... 191

索引207

この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要となる情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

注意: 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお勧めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ)
- ドキュメンテーションのダウンロード

最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ)

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

重要: アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html

ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせて使う操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒()で区切られています。
[] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

注意事項の表示

表記規則

注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

注意: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

国の表記

国際標準化機構 (ISO) が定める国コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の国コード」

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF (米国連邦政府)
- E&G (教育/公的機関)

通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の通貨コード」

ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合があります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されません。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/IC)のコードが表示されます。値は次のとおりです。 空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。 A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。 D: バッチが正常に転記されています。 E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。

P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。

U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。

事業所	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
ビジネスユニット	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
カテゴリ・コード	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
会社	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
通貨コード	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
伝票会社	伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。 会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。 2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。
伝票番号	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
伝票タイプ	ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。 P: 買掛金伝票 R: 売掛金伝票 T: 時間および給与伝票 I: 在庫伝票 O: 購買オーダー伝票 S: 受注オーダー伝票
有効日付	住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。

- 住所の変更が有効になる日付
- 賃貸契約が有効になる日付
- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

会計期間、会計年度

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

元帳日付

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社に割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne製品
- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎
- この製品ガイドで使用する共通フィールド

JD Edwards EnterpriseOne製品

この製品ガイドには、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOne製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne調達/外注管理
- JD Edwards EnterpriseOne製造管理 – 製造現場
- JD Edwards EnterpriseOne製造管理 – 製造データ管理
- JD Edwards EnterpriseOne所要量計画
- JD Edwards EnterpriseOne製造管理 – 受注設計生産ファンデーション
- JD Edwards EnterpriseOne品質管理
- JD Edwards EnterpriseOne作業オーダー管理
- JD Edwards EnterpriseOne価格管理

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド』に記載されています。

JD Edwards EnterpriseOneの最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOneは、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて<http://oracle.com/contracts/index.html>のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

この製品ガイドで使用する共通フィールド

品目No.	コンフィギュレーション品目を識別する番号を入力します。
コンフィギュレーション品目 エイリアス	<p>UDC 32/CIの値を入力します。この値は、規則によって参照されるコンフィギュレーション品目の特定のインスタンスを指定します。</p> <p>「アセンブリ組込規則」フォームの「コンフィギュレーション品目エイリアス」フィールドでは、特定の組込品目を参照できます。これは必須フィールドではありません。「コンフィギュレーション品目エイリアス」フィールドは、重複した構成部品に使用します。重複した構成部品にこのフィールドを使用しない場合、重複した構成部品は、キャッシュに格納されている最初の重複した品目の値に基づいて処理されます。</p> <hr/> <p>重要: 正しい重複品目がコンフィギュレーションで使用されていることを確認するには、「コンフィギュレーション品目エイリアス」フィールドを使用してください。</p> <hr/> <p>コンフィギュレーション品目エイリアスは、アセンブリ組込規則を使用して品目に割り当てられる場合があります。システムでは、コンフィギュレーション品目エイリアスとそのアセンブリ組込規則の別の品目に割り当てられていないかが検証されます。これによって、任意の規則上の2つの構成部品が同じコンフィギュレーション品目エイリアスに割り当てられることを回避できます。</p> <p>コンフィギュレーション品目エイリアスがアセンブリ組込規則に割り当てられると、セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則の「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」および「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドを、コンフィギュレーション品目エイリアスを参照するように設定できます。コンフィギュレーション品目とその規則内の品目に割り当てられていることが検証されます。</p>
コンフィギュレーション品目 エイリアス - 左、コンフィギュレーション品目 エイリアス - 右	<p>UDC 32/CIの値を入力します。この値は、条件の左側または右側で参照されるコンフィギュレーション品目の特定のインスタンスを指定します。</p> <p>「セグメント間編集規則」フォームおよび「アセンブリ組込規則」フォームの「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」および「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドでは、特定の組込品目を参照できます。これは必須フィールドではありません。「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」および「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドは、重複する構成部品とともに使用されます。重複した構成部品にこれらのフィールドを使用しない場合、重複した構成部品は、キャッシュに格納されている最初の重複した品目の値に基づいて処理されます。</p> <hr/> <p>重要: コンフィギュレーションで重複した品目が正しく使用されるようにするには、「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」および「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドを使用することをお勧めします。</p> <hr/>
誘導計算	<p>規則に関連付けられた数量、価格、時間、または値を指定する代数式を入力します。</p> <p>次の例は、有効な誘導計算の構文を表しています。</p> <p>セグメント参照</p>

S3はセグメント3を表します。

S3=Piston=は品目ピストン(Piston)のセグメント3を表します。

三角関数と対数関数

SIN(20)は20のサインを表します。

COS(S3)はセグメント3のコサインを表します。

TAN(S4)はセグメント4のタンジェントを表します。

ARC(S3)はセグメント3のアーク・タンジェントを表します。

LOGは10を底とする対数を表します。

LNは自然対数を表します。

2**5は指数で、2の5乗を表します。

サブストリング

SUBSTR(S10, 1, 4)はセグメント10の最初の位置から4文字分のサブストリングを表しています。

結合

CONCAT(S3, S4)はセグメント3とセグメント4の値を結合します。

外部フィールド

計算の一部としてアクセスする、非コンフィギュレータ・テーブル内のフィールドを指定します。フィールド名の前にアンパサンド文字を付けます。たとえば、&T2AMTU(WD)は品目補足データベース・テーブルの金額フィールドとデータ・タイプWDを表します。

外部プログラム

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneシステムではない外部プログラムが計算に使用されるよう指定します。外部プログラムの名前を入力して、「誘導計算」フィールドに「EXTVAR」と入力します。

スマート部品

'P' S4は、セグメント4の値が2000の場合、スマート部品番号P2000を表します。

記述

セグメント番号に関連付けられたフィーチャまたはオプションの名前を入力します。

有効開始、有効開始日付、有効終了、有効終了日付

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムの規則の有効期間の開始および終了を表す日付をそれぞれ入力します。この日付によって、規則をオーダーのコンフィギュレーション検証の実行時に処理するかどうかが決まります。この日付範囲は、セグメント間編集規則とアセンブリ組込規則に適用されます。

外部プログラムID

外部変数に値を指定する外部プログラムの名前を入力します。

行タイプ

取引行の処理方法を制御するコードを入力します。これにより、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne一般会計、JD Edwards EnterpriseOne作業原価、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理など、連動して取引を処理するシステムが制御されます。また、行をレポートに印刷する場合や、行を計算に組み込む場合の条件も指定します。次のようなコードがあります。

S: 在庫品目
J: 作業原価
N: 非在庫品目
F: 運賃
T: テキスト情報
M: その他費用
W: 作業オーダー

AND/OR選択 (演算子、オペランドおよびAND/OR選択)

複合データの選択ロジックがAND条件(A)とOR条件(O)のどちらに基づいているかを指定するコードを入力します。コンフィギュレーション管理には、コンフィギュレーション品目の他に、部品、価格、原価、または作業工程を組み込むことができます。AとO以外の有効値は次のとおりです。

I: IF
E: ELSE
*: THEN

次に例を示します。

I Seg 1 = A
* Part B
E Part C
E Part D

IF セグメント1がAに等しい, THEN 部品Bを含む.

IF セグメント1がAに等しい, ELSE 部品Cおよび部品Dを含む.

製品コード、ユーザー定義コード

ユーザー定義コードが格納されているテーブルを識別するコードを入力します。このテーブルは、UDCタイプと呼ばれることもあります。

計算セグメントを定義する場合、ユーザー定義コードを入力する必要はありません。

比較演算子

ブール論理のオペランドの関係を表すコードを入力します。次のコードのいずれかを指定できます。

CE: 場合によっては等しい
EQ: 等しい
LT: より小さい
LE: 以下
GT: より大きい
GE: 以上
NE: 等しくない
NL: より小さくない
NG: より大きくない

規則テーブル、規則テーブル名

コンフィギュレーション品目に必要なアセンブリ組込規則の数を最小限にするために設定するデータ集合の名前を入力します。このフィールドには、

ユーザー定義コード・テーブル32/TNの規則テーブル名を指定します。1つの規則テーブルでアクセス可能なキーは1個から20個までで、最大99個の値を返すことができます。アセンブリ組込規則で規則テーブルを参照する際は、規則テーブルに関連付けられている値が規則キーを基に取得されます。たとえば、セグメント10を品目の色に定義した場合、顧客がセグメント10にRed(赤)と入力した際に品目Red Component(赤色の構成品)が取得されるように規則テーブルを設定できます。この例では、テーブルは次のようになります。

品目の色: 値

Red(赤): Red Component(赤色の構成品)

テーブルは次の内容を表しています。

品目の色を表すセグメント値がRed(赤)の場合に、品目Red Component(赤色の構成品)をコンフィギュレーション品目の受注オーダーおよび作業オーダーの部品リストで使用します。

コンフィギュレーション・テーブルは、R(作業工程)規則以外のすべての規則タイプで作成できます。

セグメント事業所

「セグメント項目」フィールドの品目の事業所を指定します。

管理レポートに必要な会計実体のビジネスユニットを入力します。プロフィット・センター、部門、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所などを入力できます。

このビジネスユニットは、レポート用に受注オーダー/購買オーダーの見出しに入力されたビジネスユニットと同じです。

このデータは入力時に常に右揃えされます。たとえば、CO123は「____CO123」と表示されます。セキュリティ・メカニズムが備わっているため、ユーザーは権限外のビジネスユニットを入力および検索できません。

セグメント記述

セグメント番号に関連付けられたフィーチャまたはオプションの名前を入力します。このフィールドへの値の入力は、「コンフィギュレーション品目」、「事業所」、「セグメントNo.」および「セグメント項目」の各フィールドの情報に基づいて、自動的に行われます。

コンフィギュレーション品目内のセグメントには、個別の値を入力できます。セグメント値は、セグメント区切り文字という特殊文字で区切られています。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムの場合、セグメント番号に関連付けられたフィーチャまたはオプションの名前がセグメント記述になります。

セグメント項目

別のコンフィギュレーション・レベルで前に選択したセグメントを参照します。

セグメントNo.

セグメントをシステムに定義する際の順序を設定する番号を入力します。セグメント番号はユーザーが定義します。

セグメント間編集規則では、設定値によって有効なコンフィギュレーションが定義されていることを確認するために、セグメント番号が参照されます。

アセンブリ組込規則では、価格、構成品部品、作業工程、および計算値をコンフィギュレーション品目に定義するために、セグメント番号およびそのセグメントに関連付けられた値が参照されます。

スマート部品

規則に関連付けられた部品番号を計算する計算式を入力します。部品番号の計算式は、リテラル値(定数)とセグメントの回答値(変数)から構成さ

れます。リテラル値は、一重引用符で囲む必要があります。次に例を示します。

部品番号はリテラル値の 'P'、およびセグメント4の値で構成されます。スマート部品の計算でセグメント4の値が2000の場合、スマート部品はP2000になります。

別のレベルで入力済のセグメントを参照するには、そのレベルの品目番号をセグメント番号で指定します。たとえば、ピストン (Piston) のセグメント4の表記は、次のとおりです。

誘導計算: S4=Piston=

SUBSTR(S4, 2, 3) では、2が開始位置、3がサブstringの長さを表します。

2つのフィールドを結合するには、結合関数を使用します。たとえば、CONCAT(S3, S1) では、セグメント3とセグメント1の値を結合して1つのフィールドにします。

トランザクション・タイプ

UDC 32/DEの値を入力して、コンフィギュレーション品目の構成部品によって生成されるトランザクションのタイプを指定します。トランザクション・タイプに適合しないトランザクション、処理オプション、および事業所を条件に指定した場合、トランザクションは生成されません。「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームの「トランザクション・タイプ」フィールドと「明細行の生成」フィールドを使用します。値は次のとおりです。

- 0: 受注オーダー
- 1: 直送
- 2: 転送
- 3: 事業所間
- 4: 購買オーダー

注意: 直送オーダーまたは購買オーダー・トランザクション・タイプを選択する場合は、構成部品目の「仕入先番号」を入力する必要があります。

このフィールドは、規則タイプがPの場合にのみ機能します。

「トランザクション・タイプ」フィールドの値が4(購買オーダー)の場合、構成部品目の在庫タイプと行タイプの両方が検証されます。擬似品目の在庫タイプ、あるいは購買オーダーや作業オーダーを生成するように設定された行タイプの品目はサポートされていません。

((選択条件の先頭を表す
かっこ)、) (選択条件の末
尾を表すかっこ)

左かっこと右かっこを入力してコンフィギュレータの条件付き規則をグループ化します。

たとえば、(セグメント1 = A OR セグメント2 = B) AND セグメント3 = Cという条件を定義するには、次のように表記します。

(Seg 1 = A 0 Seg 2 = B) A Seg 3 = C

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ – はじめに

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータの概要
- JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータの統合
- JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータの導入

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータの概要

コンフィギュレータは、複雑な製品の選択やコンフィギュレーションを自動化するツールです。複雑な製品には、関連するフィーチャやオプションがあります。この関連付けは、フィーチャやオプションの間に関連や相互関係がある場合や、製品の半組立品に部品が関連付けられている場合に発生します。コンフィギュレータにより製造業者は、顧客固有の要望に沿った複雑なコンフィギュレーションを既存の製品に対して行うことができます。コンフィギュレータでは、製品定義（フィーチャおよびオプション）、規則、計算を使用して、コンフィギュレーション最終品目を作成できます。コンフィギュレータの使用により、非常に複雑なコンフィギュレーション製品を作成できます。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータの統合

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータはその他のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションと連携し、すべての情報をSCMIに完全に統合します。コンフィギュレータにより、最終製品の製造や組立のコンフィギュレーションが可能になります。コンフィギュレータは、フロント・オフィスとバック・オフィスをつなぐ製品です。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータの機能は、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システム、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システム、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システム、JD Edwards EnterpriseOne製造管理システム、JD Edwards EnterpriseOne流通管理システムといったオラクル社製品とシームレスに統合されています。最も単純な形式として、コンフィギュレータの機能は受注と製造を統合します。この統合では、受注オーダーの入力により、作業オーダーの作成や顧客への製品の出荷が行われます。

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムでは、品目情報、売上原価と購買原価、および保管場所別の引当可能数量が保存されます。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムを使用してコンフィギュレーション品目とその構成部品、およびコンフィギュレーション半組立品の品目情報を設定します。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理のプログラムでは、識別方法、在庫方法などのコンフィギュレーション品目の情報が定義されます。

JD Edwards EnterpriseOne製造データ管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne製造データ管理(PDM)システムを使用すると、各製造品目に関する情報を整理および管理できます。また、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータでは、品目間の関係および品目の製造方法を定義します。

JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne製造現場管理(SFM)システムでは、製造作業オーダーを管理、追跡して、工場内の部品の流れを制御できます。また、製品の完成に必要な情報を効果的に管理、伝達できます。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータはJD Edwards EnterpriseOne SFMと連動して、コンフィギュレーション品目の作業オーダーを管理します。ただし、コンフィギュレーション品目の作業オーダーを処理するには、JD Edwards EnterpriseOne製造管理システムの製造現場プログラムでビジネス固有の情報を入力する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、受注オーダーの処理を全面的に管理します。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータではJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムと連動して、コンフィギュレーション品目の受注オーダーの入力方法および処理方法を設定できます。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでは、購買業務を全面的に管理します。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータではJD Edwards EnterpriseOne調達管理と連動して、コンフィギュレーション品目の購買オーダーの入力方法および処理方法を設定できます。

JD Edwards EnterpriseOne作業オーダー管理

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne作業オーダー管理システムでは、作業オーダーの処理を管理します。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータではJD Edwards EnterpriseOne作業オーダー管理と連動して、コンフィギュレーション品目の作業オーダーの入力方法および処理方法を設定できます。

JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne受注設計生産(ETO)システムでは、主として受注設計生産(ETO)環境下にあるプロジェクト管理を全面的に制御します。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータではJD Edwards EnterpriseOne ETOと連動して、プロジェクトの一部を構成するコンフィギュレーション品目の様々なオーダー・タイプの入力方法および処理方法を設定できます。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータの導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムの導入に必要な手順の概要を説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOneに関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータについて、どのESU(電子ソフトウェア更新)をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistantを使用します。JavaベースのツールであるEnterpriseOne and World Change Assistantを使用すると、必要となるESUを検索してダウンロードするためにかかる時間を75%以上削減できます。さらに、複数のESUを一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

グローバル導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムのグローバル導入の推奨手順を示します。

手順	参照
1. グローバル・ユーザー定義コード・テーブルを設定します。	
2. 会計期間パターン、会社およびビジネスユニットを設定します。	
3. システム自動採番を設定します。	
4. 勘定科目を設定します。	
5. 一般会計固定情報を設定します。	
6. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「多通貨処理の一般会計の設定」
7. 元帳タイプ規則を設定します。	
8. 住所録レコードを設定します。	
9. デフォルト事業所およびプリンタを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Development Tools: Report Printing Administration Technologies Guide、「Working with Report Printing Administration」
10. 事業所固定情報を設定します。	
11. 製造および流通AAI(自動仕訳)を設定します。	
12. 伝票タイプを設定します。	
13. 製造現場カレンダーを設定します。	
14. 製造固定情報を設定します。	

コンフィギュレータの導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータのアプリケーション別の推奨導入手順を示します。

手順	参照
1. コンフィギュレータ固定情報を設定します。	第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「コンフィギュレータ固定情報の設定」、35ページ
2. コンフィギュレーション品目情報を設定します。	第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「コンフィギュレーション品目情報の定義」、41ページ

手順	参照
3. コンフィギュレーション品目セグメントを設定します。	第 4 章、「 <u>コンフィギュレータの設定</u> 」、「 <u>コンフィギュレーション品目セグメントの設定</u> 」、37ページ
4. セグメント間編集規則を設定します。	第 4 章、「 <u>コンフィギュレータの設定</u> 」、「 <u>セグメント間編集規則の設定</u> 」、50ページ
5. アセンブリ組込規則を設定します。	第 4 章、「 <u>コンフィギュレータの設定</u> 」、「 <u>アセンブリ組込規則の設定</u> 」、59ページ
6. コンフィギュレーション・テーブルを設定します。	第 4 章、「 <u>コンフィギュレータの設定</u> 」、「 <u>コンフィギュレーション・テーブルの設定</u> 」、85ページ

第 2 章

コンフィギュレータについて

この章では、次の内容について説明します。

- コンフィギュレータの業務環境および概念について
- コンフィギュレーション品目および製造環境
- コンフィギュレーション品目
- コンフィギュレータの機能
- コンフィギュレータ・システムの統合

コンフィギュレータの業務環境および概念について

ここでは、次の事項について説明します。

- 業務環境およびコンフィギュレーション品目
- 今日のコンフィギュレーション方法
- コンフィギュレータの定義
- ビジネス環境およびコンフィギュレータ
- コンフィギュレータの利点

業務環境およびコンフィギュレーション品目

今日の製造業者は、詳細な仕様に準拠する複雑な製品コンフィギュレーションの作成を顧客から求められます。製造業者は顧客の仕様に対して基本的な製品を作成し、また数レベルにおよぶカスタマイズも行います。

コンフィギュレーション品目とは顧客が指定する製品で、既製品を購入できる見込み生産品目ではありません。顧客がコンフィギュレーション製品を指定するため、フィーチャとオプションは最終製品に関連付けられます。このため、最終品目の組合せは無限に存在します。

また、顧客はオーダー入力時の詳細なリアルタイム情報、およびオーダーから製品配送までのリードタイム短縮などのサービスの向上を求めます。

製造業者には、このような顧客のコンフィギュレーションとカスタマイズ・ニーズへの対応力が必要です。昨今のビジネスでは、紙面上の事務処理、対応の遅延、システム・インテグレーションの欠如、および製品の規模とその煩雑化に悩まされています。製造業者は、専門化された(コンフィギュレーション)製品を優位な価格で提供できる力を必要としています。

製造業者での機敏な対応には、最終製品の有効なコンフィギュレーションを作成するため顧客の仕様を入力する際に支援が必要です。また、製造業者は顧客の要件を、組織内の全員、関連する事業所および仕入先に連絡する必要があります。販売、製造、およびサービスを担当する会社部門では、迅速かつ正確で、信頼のおけるシステムが必要です。

今日のコンフィギュレーション方法

通常、製造業者は複雑な製品コンフィギュレーションを処理するため、次の3つの方法を使用します。

- 最初の方法では、一意の最終部品番号を作成します。この方法では、有効な最終品目を作成するためのフィーチャとオプションのすべての組合せに部品番号を作成します。この方法は部品番号の量が増えすぎ、効率的に管理できなくなるため、煩雑になり変更に対応しづらくなります。
- 2つ目の方法では、手動で記述を補足し、汎用の最終部品番号を作成します。最終製品に組み込まれるフィーチャとオプションに関する重要情報が、テキストに埋め込まれています。システム内のすべての在庫レコードは、フィーチャとオプションが最終品目ごとに異なる場合でも、同じ部品番号を持つため同一製品として表示されます。この方法では、部品に関する十分な監査証跡が残されず、優先度および所要量計画が限定され、原価が誤って報告されます。これは、ソフトウェア・システムに埋込みテキスト情報を取得して使用する方法がないため発生します。
- 3つ目の方法では、複雑な製品を処理するために開発されたツールであるコンフィギュレータを使用します。

コンフィギュレータの定義

コンフィギュレータは、複雑な製品の選択やコンフィギュレーションを自動化するツールです。複雑な製品には、関連するフィーチャやオプションがあります。この関連付けは、フィーチャやオプションの間に関連や相互関係がある場合や、製品の半組立品に部品が関連付けられている場合に発生します。コンフィギュレータにより製造業者は、顧客固有の要望に沿った複雑なコンフィギュレーションを既存の製品に対して行うことができます。これにより、ユーザーは製品定義(フィーチャおよびオプション)、規則、計算を使用して、コンフィギュレーション最終品目を作成できます。コンフィギュレータの使用により、非常に複雑なコンフィギュレーション製品を作成できます。

コンフィギュレータはこれまで、顧客の仕様に従って最終製品を構成するため、「製品コンフィギュレータ」と呼ばれていました。このコンフィギュレータは同じ機能を持ちますが、コンフィギュレータの新しい用語は、受注処理を自動化するために不可欠なものとなりつつあるため、「販売コンフィギュレータ」と呼ばれます。

ビジネス環境およびコンフィギュレータ

コンフィギュレータは、受注処理において受注オーダー入力担当者を支援します。受注オーダー入力中に収集され、生成された情報は、製造および流通プロセスをサポートする組織とやり取りされます。

今日の競争の激しいビジネス環境では、コンフィギュレーション品目の多数のトランザクション・タイプを実行する能力が特に重要になっています。このため、受注オーダー・システムでは、販売見積を処理し、コンフィギュレーション品目のクレジット・オーダー、直送オーダー、転送オーダー、事業間オーダー、組合せオーダーを管理する能力が必要です。企業はこのようなトランザクションによって、グローバルな経営を実現し、仕入先との密な連携を保つことができます。

また、コンフィギュレーション品目の購買オーダーを作成する能力も必要です。一部の企業には、親コンフィギュレーション品目、または最終製品に組み込まれるコンフィギュレーション構成部品を製造する仕入先があります。これには、電子産業などが該当します。

一部の製造業者では、受注オーダーを作成せずにコンフィギュレーション品目の作業オーダーを作成する機能が求められています。この機能があれば、製造業者は柔軟に在庫コンフィギュレーション品目を作成できます。

一部では、エンジニアリング・プロジェクト管理モジュールによる統合の必要性が生じています。受注設計生産環境では、コンフィギュレーション品目であるプロジェクトの構成品を使用できます。このため、これらの品目を購買品目または製造品目に関係なく管理できる能力は、プロジェクト全体に不可欠になります。

コンフィギュレータの利点

コンフィギュレータは集中的な、フロントエンドでの詳細な設定が必要ですが、次のタスクの実行を可能にする利点があります。

- フィーチャ品目とオプション品目の指定
- フィーチャとオプションの間の関係の構築
- コンフィギュレーション部品リストの生成
- コンフィギュレーション作業工程の作成
- コンフィギュレーション価格の設定
- オーダー・リードタイムの短縮
- 顧客サービスの向上
- 作成する最終部品番号の削減
- コンフィギュレーション監査証跡の作成

複雑で高度なコンフィギュレーション製品を販売する場合は、コンフィギュレータが提供する表示と見積の支援は強力な販売ツールになります。カスタマ・サービス担当者は、オーダーを入力するために製品を深く知る必要はありません。カスタマ・サービス担当者は、コンフィギュレータによってコンフィギュレーションを理解し、顧客は表示されるエラー・メッセージによって有効なコンフィギュレーション製品をオーダーすることができます。また、カスタマ・サービス担当者は、価格や重量などの情報をリアルタイムで顧客とやり取りできます。

オーダーが完了し、顧客がそれを認めると、オーダーによって適切で正しい情報が製造部門と流通部門に通知されます。統合システムでは、適切なタイミングで正しい製品が作成されます。

コンフィギュレータには詳細な設定、製品変更に対する適時の綿密な管理が必要とされますが、そのツールとしての能力はそれ以上に大きな利点です。コンフィギュレータによって、組織全体において正確な仕様と製品の要件を仕入先のみでなく、顧客とやり取りすることができます。

コンフィギュレーション品目および製造環境

コンフィギュレータが適しているかどうかを判断するには、コンフィギュレーション品目と製造環境の両方を理解する必要があります。

ここでは、次の事項について説明します。

- コンフィギュレーション品目および製造環境
- コンフィギュレーション品目の分析
- コンフィギュレータの必要性の評価

コンフィギュレーション品目および製造環境

コンフィギュレータは、組立生産環境および受注生産環境に最も適しています。キット処理は通常、キット間またはキット内の構成品の間に関係が構築されていなければ、受注ピッキング環境に適しています。受注設計生産環境では、1回しか作成されない独特の品目が作成されます。このため、このような環境では通常、コンフィギュレータおよび関連する設定への投資は、費用対効果が高まりません。基本的な受注生産環境は次のとおりです。

受注ピッキング

受注ピッキング環境では、キット(構成品の部品リスト)を選択します。受注ピッキング環境では、キット処理またはコンフィギュレータを使用できます。使用するツールは、製品の仕様によって異なります。一般的に、キット処理ではフィーチャとオプションを処理できます。通常、キット間または各キット内の部品間には関係は存在しません。キットと部品はすべて組合せ可能です。このため、キット処理の方法は検証に使用できます。キット処理は、複雑な仕様や条件付き部品所要量には適していない場合があります。

受注ピッキング環境の例としては、コンピュータ業界があります。顧客がモニター、プリンタ、およびその他の品目を選択すると、その顧客の製品と同梱する必要のある適切なケーブル、ユーザー・ガイド、梱包用材などを含むキットを選択できます。

組立生産

組立生産とは、フィーチャとオプションの組立後、製品の最終組立前に顧客に問い合わせる製造環境です。このため、原材料と構成品はフィーチャとオプションと呼ばれる半組立品のレベルまで作成されます。顧客が仕様を通知すると、組立品が最終製品に作成されます。

組立生産の例としては、自動洗濯機があります。フィーチャとオプションの間に関係がある場合でも、個々のフィーチャ、オプション、およびフレームは半組立が可能です。顧客の仕様が指定されると、フィーチャとオプションの半組立品がフレームに取り付けられ、最終製品が製造されます。

受注生産

受注生産では、顧客は製品構造のどのレベルでも、製造を開始する前に仕様を指定します。この製造方法では、半組立品は存在せず、原材料と構成品のみがあります。製造は顧客が仕様を指定した後に開始されます。

この製造方法の例としては、建築物(木材)、窓、ドアなどがあります。このような製品は、製造を開始する前に顧客が長さ、幅、厚み、仕上げ、スタイルなど、製品の属性を指定する必要があるため受注生産されます。

受注設計生産

受注設計生産は、原材料および構成品のレベルから開始し、最終品目を製造します。受注設計生産環境には、フィーチャやオプションはありません。通常、受注設計生産品は専門化されており用途が限定されるため、製造される最終製品は1つのみです。ただし、製品と一部の共通構成品を製造するプロセスは汎用的に使用される場合があります。

受注設計生産の例としては、スペース・シャトル、人工衛星、注文住宅、ビルや橋などの建築プロジェクトがあります。このような製品は通常、特殊な仕様に従って1回のみ製造されます。

コンフィギュレーション品目の分析

製品および製造プロセスを理解する必要があります。製品および製造プロセスをより理解しやすくするため、拡張データ収集と製品分析を実行します。

製品を理解するため、販売およびマーケティング資料を収集および確認します。販売およびマーケティング・チームがフィーチャ、オプションおよび製品を理解しやすい方法を決定します。顧客に何を表示するかを検討します。

設計図面と部品表を検討します。また、製造品目と組立品（フィーチャ、オプション、最終製品）製造の作業工程を検討します。設計チームおよび設計チームがどのように製品を把握するかを決定します。製品の定義方法と製造方法を把握していることを確認します。

販売およびマーケティング、受注オーダー入力、調達、製造、組立および設計の担当者と面談し、フィーチャ、オプション、最終組立品、およびこれらの構成品の間の関係をより詳細に定義し、理解を深めます。すべての担当者が同様に製品を理解していることを確認し、理解に差異があればそれを明確にします。

コンフィギュレータを使用する前に、コンフィギュレーション品目に関する次の質問に対して答えられることを確認してください。

- 顧客は、どのようにコンフィギュレーション品目を発注しますか。
- コンフィギュレーション品目の価格設定をどのように行いますか。
- コンフィギュレーション品目はどんなフィーチャとオプションから構成されますか。
- コンフィギュレーション品目にはどんな作業工程が必要ですか。
- 価格、フィーチャ、オプション、構成品、および作業工程手順をサポートするために、どんな計算が必要ですか。

これらの質問（および発生すると考えられる同様な質問）に答えることにより、顧客に販売するコンフィギュレーション品目に含めるフィーチャおよびオプションの判断ができます。また、コンフィギュレーション品目を組み立てる際の最良の戦略を立てるための確固とした情報も得られます。コンフィギュレーション品目を組み立てるための戦略を決定することによって、システムの初期設定時の時間が節約でき、その後の調整が容易になります。

コンフィギュレータの必要性の評価

ビジネス製造環境を決定し、製品のフィーチャ、オプション、最終組立品、および（特に重要な点として）それらの間の関係を理解すると、コンフィギュレータの必要性を判断することができます。

任意の製造環境で製造される、フィーチャ、オプション、またはその半組立品の関連部品の間に関係がない製品については、キット処理が最も適したツールです。一方、コンフィギュレータは、受注設計生産環境で製造する複雑で独自の最終品目に対しては、費用対効果の高いツールではありません。

コンフィギュレータの必要性を決定する上での基本的な決定ポイントは、最終製品が複雑なもので、顧客の仕様に基づいているということです。また、フィーチャとオプションの間に関係があり、それらの一部が他と互換性がない場合もあります。製造の作業工程と製品価格設定は、最終品目のコンフィギュレーション製品に基づいて変更されます。

製造環境で無効な製品構成を回避するため、フィーチャとオプションの間関係を定義する必要がある場合は、コンフィギュレータが最適なツールになります。

コンフィギュレーション品目

コンフィギュレーション品目は、多くの製造業者で販売されています。コンフィギュレーション品目は、フィーチャとオプションを組み合わせて作られる製品です。フィーチャとオプションには、サイズ、容量、パワー定格、色、使用資材などを含めることができます。たとえば、フォークリフトは、ブーム・アセンブリ、エンジン・タイプ、油圧システムなどの他に、電源、カウンタウエイト、および塗装色などのフィーチャとオプションを組み合わせて作られるコンフィギュレーション品目です。

その他に、次のようなコンフィギュレーション品目の例があります。

- 備品
- 紙製品
- 建築物
- 商業印刷物
- 制御および計測装置
- 運搬設備
- 窓、ドア、およびその他の寸法規格品

顧客からのコンフィギュレーション品目に対するオーダーでは、フィーチャやオプションが指定されます。コンフィギュレータを使用することにより、コンフィギュレーション品目に関する複雑な顧客オーダーに対応できます。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムによって、比較的少ない種類の構成部品から多種多様なコンフィギュレーション品目を組み立てることができます。ビジネス慣習と顧客のニーズに基づいて、販売対象にするコンフィギュレーション品目を構成するフィーチャとオプションのコンフィギュレーションを設定できます。

コンフィギュレーション品目のオーダーを入力すると、要求した品目のフィーチャとオプションについてJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムから入力を求められます。コンフィギュレーション品目についての質問に答えると、入力した情報はあらかじめ定義済の設定情報と照合されます。コンフィギュレーションの確認が正常に終了すると、オーダーが処理されます。

また、コンフィギュレータ・システムには、フィーチャとオプションの処理を可能にするキット処理も用意されています。ただし、キット処理は、条件付き部品所要量のようなフィーチャや複雑な仕様に対しては適切でない場合があります。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムは、次の特性を持つ品目に適しています。

- 複雑な仕様
- フィーチャやオプションに応じて変更される作業工程
- 他のフィーチャと互換性のないフィーチャ
- 組立品を定義する複数の作業オーダー

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムを使用すると、ビジネスにおける次のベスト・プラクティスが促進されます。

- 使用する最終部品番号の削減
- 動的な作業オーダーの部品リストと作業工程の作成
- オーダー実績とコンフィギュレーションの監査証跡の作成
- オーダーの正確性の向上
- リードタイムの短縮
- よりよいマージン情報の提供
- 顧客サービスの向上

次の表は、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムの主な用語を定義したものです。

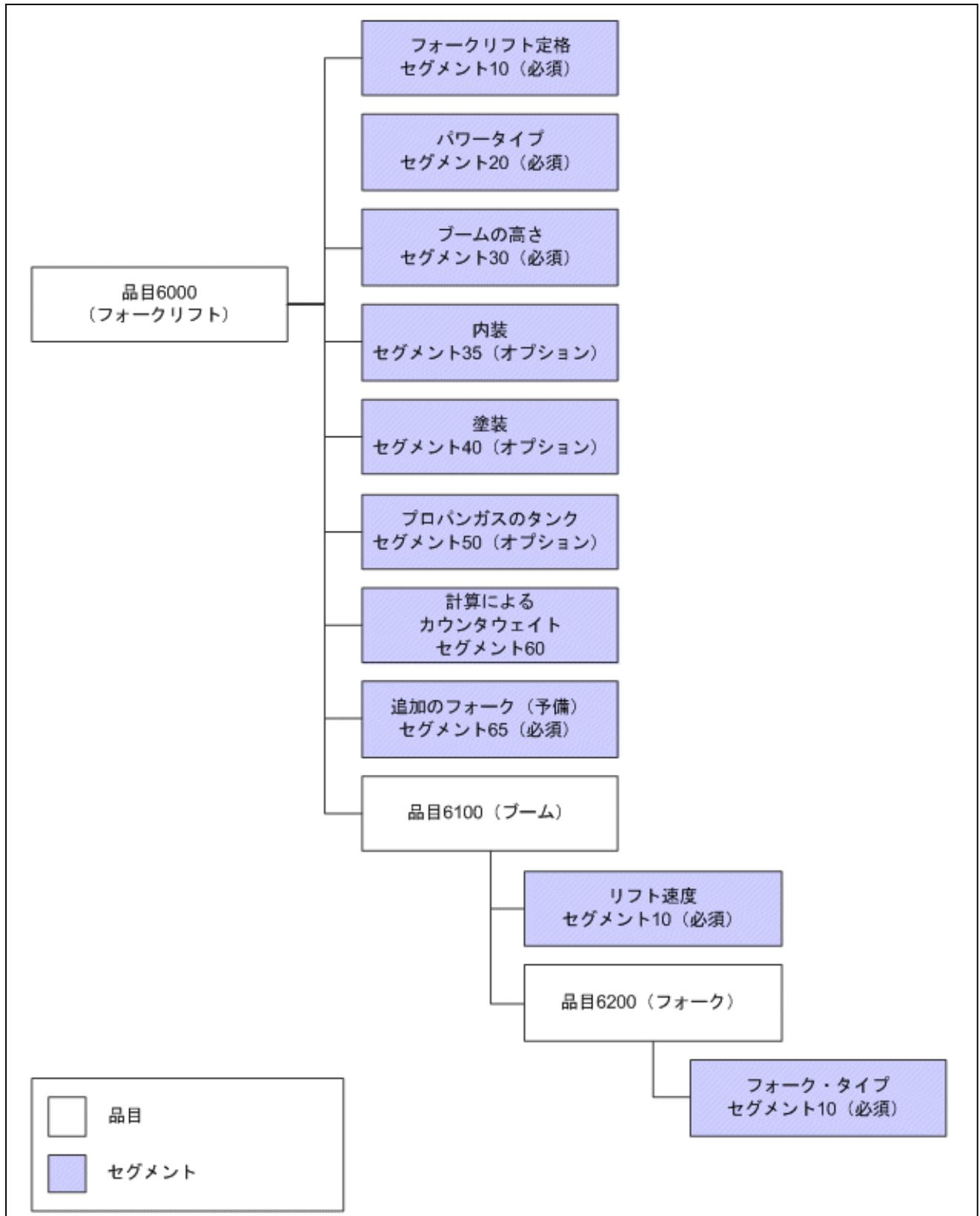
要素	説明
コンフィギュレーション品目	<p>フィーチャとオプションを組み合わせて作られる製品です。フィーチャとオプションには、サイズ、容量、パワータイプ、色、使用資材などが含まれます。</p>
複数レベル・コンフィギュレーション品目	<p>コンフィギュレーション品目内のコンフィギュレーション半組立品です。フォークリフトのようなコンフィギュレーション品目は、ブーム、エンジン、油圧装置などの半組立品を含むため、複数レベル・コンフィギュレーション品目と呼ばれることがあります。各半組立品には、エンジン内のキャブレターのように、さらに半組立品が含まれる場合もあります。複数レベル・コンフィギュレーション品目は、次のようなツリー構造または階層を持っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フォークリフト 2. エンジン 3. キャブレター <p>JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、最終製品のコンフィギュレーション品目を検証するのと同じ方法で、半組立品も検証されます。各半組立品に含まれるセグメントは、あらかじめ定義されている設定情報の照会時に有効になっている必要があります。</p> <p>複数レベル・コンフィギュレーション品目の例については、この章の最後にある図を参照してください。</p>

要素	説明
セグメント	<p>コンフィギュレーション品目を構成するフィーチャとオプションです。各セグメントは、コンフィギュレーション品目の特性を表します。たとえば、初期データに含まれているフォークリフト(コンフィギュレーション品目 6000)には、次のセグメントが含まれます。</p> <p>10: フォークリフト定格 20: パワータイプ 30: ブームの高さ 35: 内装 40: 塗装 50: プロパンガスのタンク 60: 計算によるカウンタウエイト</p> <p>さらに、各セグメント内で使用可能なオプションを指定できます。たとえば、フォークリフト定格セグメントでは次のオプションが使用できます。</p> <p>2000ポンド 4000ポンド 6000ポンド</p> <p>オーダー入力では、セグメントはコンフィギュレーション品目属性に対する質問を表します。</p>
セグメント値	<p>オーダー入力時に入力された、コンフィギュレーション品目属性に対する質問への回答です。</p>
セグメント間編集規則	<p>コンフィギュレーション品目のセグメント間の関係を設定するために使用する論理ステートメントです。次に例を示します。</p> <p>セグメント10(フォークリフト定格) = 6000ポンドの場合、セグメント20(パワータイプ) = GAS</p> <p>セグメント間編集規則を使用することにより、無効なコンフィギュレーションを回避し、エンドユーザーによる無効なオーダー入力を減らすことができます。セグメント間編集規則を使用して、オーダーのセグメントが検証されます。コンフィギュレーションが規則に違反している場合は、エラー・メッセージが表示されます。</p>
アセンブリ組込規則	<p>要求されたオーダーのフィーチャやオプションを、コンフィギュレーション品目の作成および価格設定に必要な特定の値、構成品、作業工程、およびと計算値に変換する規則です。次に例を示します。</p> <p>セグメント10 = 6000かつセグメント30 \geq 10の場合、部品 F170または部品 F175を使用する</p>

要素	説明
構成品の重複利用	1つの親コンフィギュレーション品目に同一コンフィギュレーション構成部品を複数設定できます。単一の部品番号が使用され、重複する構成部品に対し、それぞれ個別にコンフィギュレーションを行うことも、同一の設定にすることもできます。重複した構成部品は、アセンブリ組込規則Pを使用して設定します。
コンフィギュレーション規則テーブル	コンフィギュレーション規則テーブルは、コンフィギュレーション品目に対して定義するデータの集合です。オーダー処理時に、アセンブリ組込規則によってこのテーブルが参照され、情報が取得されます。テーブルを使用することにより、必要となるアセンブリ組込規則の数を減らすことができます。処理設定にかかる時間は増えますが、アセンブリ組込規則の数が減るためシステムの処理速度は向上します。
コンフィギュレーションID	各コンフィギュレーションを識別するIDです。IDは暗号化アルゴリズムを使用して生成されます。コンフィギュレーション品目のセグメントやレベルの数とは関係なく、常に32文字のダイジェストに変換されます。ダイジェストは常に32文字の長さで、空白以外の数字と文字で構成されます。ダイジェストは意味のない文字列で、ここから元の値は特定できません。

例: 複数レベル・コンフィギュレーション品目

次の図は、複数レベル・コンフィギュレーション品目のフォークリフト(品目6000)の例を示しています。半組立品には、ブーム(品目6100)とフォーク(品目6200)があります。セグメントは、フォークリフト品目とその半組立品に対するフィーチャとオプションを表します。



複数レベル・コンフィギュレーション品目

コンフィギュレータの機能

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムを使用すると、次の機能を実行できます。

- コンフィギュレーション品目の様々なフィーチャとオプションの指定
- セグメント間の関係の設定による無効な製品コンフィギュレーションの回避
- 複数レベル・コンフィギュレーション品目の定義
- 複数レベル・コンフィギュレーション品目のそれぞれのレベルに関連付けられた複数作業オーダーの定義
- オプションおよびフィーチャのデフォルト値またはデフォルト範囲の設定
- 代数定義を持つオプションに対する値の計算
- 事業所間で使用する共通規則の作成
- 価格調整、作業工程、および部品を制御するアセンブリ組込規則の作成
- アセンブリ組込規則により参照されるデータのテーブルの定義

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムによって、コンフィギュレーション品目の部品表、作業工程、価格設定、およびその他重要なビジネス情報が作成されます。オーダー入力の際にリアルタイムでコンフィギュレーション製品の仕様と情報が提供されるため、顧客サービス・レベルが向上します。フロント・オフィスからバック・オフィスへのシームレスなインテグレーションにより、社内の他の部門とのコミュニケーションが改善されます。このプロセスによってエラーが減少し、製品の品質も向上します。

コンフィギュレータ・システムの統合

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne Supply Chain Managementソリューションの多くのシステムの中の1つです。JD Edwards EnterpriseOne Supply Chain Managementを使用すれば、在庫や労務リソースを調整し、スケジュールに合せた製品の納入ができます。このシステムは、企業および業務の計画作成とその遂行を明確化する閉ループの製造システムです。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムにより、最終製品の製造や組立のコンフィギュレーションが可能になります。コンフィギュレータは、フロント・オフィスとバック・オフィスをつなぐ製品です。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムの機能は、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne在庫管理、JD Edwards EnterpriseOne受注管理、JD Edwards EnterpriseOne調達管理、JD Edwards EnterpriseOne製造管理、JD Edwards EnterpriseOne流通管理の各システムとシームレスに統合されています。最も単純な形式として、コンフィギュレータの機能は受注と製造を統合します。この統合では、受注オーダーの入力により、作業オーダーの作成や顧客への製品の出荷が行われます。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムにより、コンフィギュレーション構成品やコンフィギュレーション最終品目が定義されます。コンフィギュレーション品目セグメントにより、フィーチャとオプションが定義されます。次に、セグメント間編集規則により、これらのフィーチャおよびオプションの関係や制限が定義されます。アセンブリ組込規則により、部品、作業工程、価格または原価（あるいはその両方）および計算方法が定義されます。コンフィギュレーション・テーブルを使用することにより、必要となるアセンブリ組込規則の数を減らし、処理時間を短縮できます。メディア・オブジェクトをフィーチャおよびオプションに添付し、製品情報を追加することもできます。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータは、コンフィギュレーション処理をサポートする独自のテーブルとプログラミングを備えた、内蔵型システムです。JD Edwards EnterpriseOne受注管理、JD Edwards EnterpriseOne調達管理およびJD Edwards EnterpriseOne作業オーダー管理はJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムと連携し、ビジネス・プロセスで要求される特定のオーダー・タイプを作成します。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムは、コンフィギュレーション処理において、他のシステムに依存しません。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータと他の必須のJD Edwards EnterpriseOneシステムが設定されると、コンフィギュレーション品目オーダーが取り込まれます。オーダー要求は顧客、社内の需要、および関連する事業所など様々なソースから出されます。オーダー入力担当者は、オーダーを入力するために特に深い製品知識を必要としません。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータは、エラー・メッセージやその他の視覚的なヒントによって、顧客が選択したフィーチャとオプションが有効かどうかを伝えます。オーダー入力中、コンフィギュレーション品目の規則は動的に処理されます。または、コンフィギュレーション検証機能の使用を選択することもできます。

コンフィギュレーション品目のオーダー入力ポイントは次のとおりです。

- 受注オーダー入力
- 転送オーダー入力
- 直送オーダー入力
- 購買オーダー入力
- 作業オーダー入力
- プロジェクト・ワークベンチ - 購買オーダーおよび作業オーダー

JD Edwards EnterpriseOneでは、事業所間オーダー、およびコンフィギュレーション品目の組合せオーダーをサポートしています。

入力する特定のオーダー・タイプに対してコンフィギュレーション品目、オーダー入力バージョン、および処理オプションが正しく設定されている場合、オーダーが完了し、承認されると対応するビジネス関数がシステム内で実行されます。

オーダー入力の完了時にコンフィギュレーション作業オーダーが関連する場合は、製品の製造に使用する作業オーダー見出しが表示されます。オーダー処理プログラム(R31410)を使用し、次を生成します。

- 作業オーダー(コンフィギュレーション構成部品およびコンフィギュレーション最終品目)
- 部品リスト
- 作業工程
- 作業オーダー原価計算

コンフィギュレーション品目は、請求と出荷のため継続してJD Edwards EnterpriseOneシステムで処理されます。

第 3 章

キットおよびコンフィギュレータについて

この章では、次の内容について説明します。

- キットおよびコンフィギュレータ
- キットおよびコンフィギュレータの機能比較

キットおよびコンフィギュレータ

キットおよびコンフィギュレータは、コンフィギュレーション品目のオーダー入力、製造、出荷で使用可能なツールです。ツールにはそれぞれ製造モデルおよび流通モデルにおける最適分野があります。各ツールについて基本的な理解をしておくことで、ビジネス状況に応じて最適なツールを選択できます。

キットとは、構成部品と呼ばれる在庫品目を1つにまとめたもので、1つの親品目に関連付けられています。構成部品とは保管されている在庫品目のことで、親品目としてまとめて販売されます。キット処理の使用により、オーダー入力担当者は顧客オーダーの処理を正確に完了できます。キットは、受注ピッキング環境だけでなく、受注組立環境の単純な製品に対しても使用できます。オーダー入力に対してキット処理を行う品目の例としては、コンピュータやステレオ・システムなどがあげられます。

コンフィギュレータが使用される環境は、受注ピッキング環境(構成部品間に関連がある場合)、受注組立環境、および受注製造環境です。オーダー入力に対してコンフィギュレータを使用する品目の例としては、コンピュータやガレージのドアなどがあげられます。

キットおよびコンフィギュレータの主要な機能と相違点については、コンフィギュレーション比較表で説明します。

キットおよびコンフィギュレータの機能比較

次の表では、キットおよびコンフィギュレータで使用可能な機能について説明しています。

機能	キット	コンフィギュレータ
製品構造	単一レベル	複数のコンフィギュレーション・レベル 注意: 製品構造とは、部品表のレベルやコンフィギュレーション・ツリー構造のレベルのようなレベル、および構造内のコンフィギュレーション品目の有無を指します。

機能	キット	コンフィギュレータ
最終品目の識別	単一品目番号	固有のコンフィギュレーションID 注意: 最終品目IDでは、親最終品目のIDが参照されます。
オーダー入力方法	降順でデータ入力	降順でデータ入力
オーダー入力のユーザーインターフェイス	スタティック・グリッド	スタティックまたはダイナミック・フォーマット
コンフィギュレーションの検証	相互参照チェックなし	ブール論理(IF-THEN-ELSE)とテーブルを使用した相互参照チェック 注意: コンフィギュレーション検証とは、構成部品、組立品、コンフィギュレーション品目の選択に対する、親最終品目のコンフィギュレーションの妥当性を確認する相互参照チェックのことを指します。
グラフィック・オブジェクトの添付	受注オーダーの行品目ごとのスタティック・メディア・オブジェクト	品目またはオプションごとのスタティック・メディア・オブジェクト
コンフィギュレーション固有の計算	計算なし	入力処理時の計算
作業オーダーの階層構造	親作業オーダーのみ(子作業オーダーなし)	複数の作業オーダーおよび複数レベルの親/子関係が可能
部品表および部品リスト	部品表で定義	アセンブリ組込規則で定義
作業工程	親品目に対する基本作業工程	コンフィギュレーション作業工程

第 4 章

コンフィギュレータの設定

この章では、コンフィギュレータの設定、コンフィギュレータ設定の前提条件、受注オーダーにおけるコンフィギュレーション品目の価格設定、購買オーダーにおけるコンフィギュレーション品目の原価計算、基準日有効日付を使用したコンフィギュレーション品目価格設定および原価計算、規則処理、プール論理、構成品の重複利用、コンフィギュレーション品目のメディア・オブジェクト添付の各概要、および次の方法について説明します。

- コンフィギュレータ固定情報の設定
- コンフィギュレーション品目セグメントの設定
- セグメント間編集規則の設定
- アセンブリ組込規則の設定
- コンフィギュレーション・テーブルの設定

コンフィギュレータの設定について

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムを設定すると、コンフィギュレーション品目のオーダーを入力が可能になります。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムの設定には、次の項目の設定が含まれます。

- コンフィギュレータ固定情報
- コンフィギュレーション品目情報
- コンフィギュレーション品目セグメント
- セグメント間編集規則
- アセンブリ組込規則
- コンフィギュレーション・テーブル
- メディア・オブジェクトの添付

コンフィギュレータ固定情報では、各事業所に対するJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムの処理が制御されます。たとえば、固定情報によって次が制御されます。

- 販売見積処理
- 在庫確認
- 計算済セグメントの表示

コンフィギュレーション品目情報では、コンフィギュレーション品目データのオーダー伝票上の表示形式が定義されます。ユーザーは受注オーダー、購買オーダー、作業オーダーのXアセンブリ組込規則の基準日を定義します。また、動的コンフィギュレーション入力も有効にできます。

セグメントとは、コンフィギュレーション品目のフィーチャおよびオプションのことです。セグメントは、色、素材、サイズなど、製品の特徴を表します。わかりやすくするために、コンフィギュレーション品目の各セグメントに番号を割り当てます。「表示順序」フィールドの情報によって、オーダー入力時にセグメント値を指定する順序が決まります。

セグメント値間の関係を設定する論理ステートメントを使用して、セグメント間編集規則を設定します。セグメント間編集規則を使用して、オーダー入力時に無効なコンフィギュレーションが行われないようにします。セグメント間編集規則にはカスタム・エラー・メッセージを定義できます。

アセンブリ組込規則によって、オーダー入力で指定された、コンフィギュレーション品目の製造に必要な特定の構成品および工程作業のフィーチャが処理されます。様々な種類のアセンブリ組込規則を使用して次の定義を行うことができます。

- 構成品
- 価格調整/原価調整
- 作業工程
- 計算値
- ホットスポット値

オーダー入力中に、コンフィギュレーション品目の構成品によって生成されるトランザクションのタイプを指定できます。アセンブリ組込規則には、代数計算式、スマート部品、外部プログラム参照などの高度なロジックも備わっています。

アセンブリ組込規則にテーブルを設定して、セグメント値に基づく情報を参照することもできます。構成品、価格、および計算値に対してテーブルを定義できます。テーブルを使用することで、必要な規則の数が減少し、規則の管理が簡潔になり、また処理速度が向上します。

テキスト、イメージ、OLEなどのメディア・オブジェクトをコンフィギュレーション品目に添付できます。メディア・オブジェクトの添付により、コンフィギュレーション品目、構成品およびコンフィギュレーション品目セグメント値に関する情報が追加されます。これらの情報はオーダー入力担当者にとって役立ちます。

注意: セグメント、規則およびコンフィギュレーション品目は、1つの事業所に適用する固有のもの、または全事業所に適用する汎用のものを指定できます。「事業所」フィールドをブランクにすると、事業所全体を指定することになります。汎用の事業所設定を使用しない場合は、セグメント、規則、品目情報を事業所全体で同じ設定にする必要があります。汎用の事業所セグメントを定義した場合は、汎用のセグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則も定義する必要があります。

コンフィギュレータ設定の前提条件について

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムは、他のJD Edwards EnterpriseOneシステムと連動します。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムを設定する前に、次のJD Edwards EnterpriseOneシステムの内容を理解しておく必要があります。

- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne製造データ管理
- JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理

- JD Edwards EnterpriseOne 調達管理
- JD Edwards EnterpriseOne 作業オーダー管理
- JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産

注意: ここに示す情報は、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムの設定に固有のもので、その他のシステムの設定に関する詳細は、それぞれの製品ガイドを参照してください。

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理およびJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムでは、品目情報、売上原価と購買原価、および保管場所別の引当可能数量が保存されます。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムを使用してコンフィギュレーション品目とその構成部品、およびコンフィギュレーション半組立品の品目情報を設定します。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムのプログラムでは、識別方法、在庫方法などのコンフィギュレーション品目の情報が定義されます。

品目番号、品目名、在庫タイプ、原価、価格情報など、全事業所間で品目ごとに固有の品目マスター情報を入力します。

品目マスターの改訂を実行する際は、在庫タイプ・フィールドでコンフィギュレーション品目の「C」を選択します。

オーダー入力時に作業オーダー見出しを自動生成する場合は、行タイプ・フィールドで作業オーダーの行タイプを選択します。作業オーダーが不要な場合は、在庫品目の行タイプを選択します。

コンフィギュレーション品目の正確な原価情報を収集するには、「在庫原価レベル」フィールドで「3」を選択します。この操作を行うことで、コンフィギュレーション品目の原価情報が品目、事業所、保管場所、ロットの各レベルで特定されます。各コンフィギュレーション品目のコンフィギュレーションはそれぞれ固有であるため、在庫原価レベルをこの原価明細のレベルに指定しないと、コンフィギュレーション構成部品およびコンフィギュレーション最終品目の正確な原価情報は入手できません。

「コンフィギュレータの原価計算方法」フィールドは、購買オーダー上のコンフィギュレーション品目のみに原価計算方法を指定する場合にも使用できます。

コンフィギュレーション品目の価格設定には、いくつかの方法があります。この価格設定方法は、「キット/コンフィギュレータ価格設定方法」フィールドで値を選択して指定します。次の価格設定方法から選択します。

- 構成品の表示価格を合計してコンフィギュレーション品目の価格を決定する。
- コンフィギュレーション品目の表示価格を使用する。
- アセンブリ組込価格設定規則を使用して価格を決定する。
- 構成品の割引価格を合計する。

構成部品およびコンフィギュレーション品目の基本価格は、システムで設定できます。JD Edwards EnterpriseOne価格管理では、どの価格設定方法コードも使用できます。また、価格調整またはXアセンブリ組込規則を使用して、どの価格設定方法が選択されているかに関係なく、コンフィギュレーション品目の価格を設定することもできます。Xアセンブリ組込規則は原価調整もサポートしています。

品目マスター内のコンフィギュレーション品目の品目番号は品目ごとに同じであるため（たとえば、フォークリフトは品目6000）、追加情報がないと、コンフィギュレーション品目を在庫に入れることができません。追加情報によって、コンフィギュレーションの識別が可能になります。そのため、コンフィギュレーション品目は、ロット管理する必要があります。また、コンフィギュレーション品目は、特定の保管場所に保管する必要があります。ロットと保管場所を管理することで、各コンフィギュレーション品目を一意に識別できます。

ロット番号は、「ロット処理タイプ」フィールドに値を設定すると、コンフィギュレーション品目に自動的に割り当てることができます。ロット管理を有効にするかわりに、ロットと保管場所が作業オーダー完了時に自動的に割り当てられるように処理オプションを設定したり、ロットと保管場所を完了時に手入力したりすることもできます。ロットおよび保管場所の情報をコンフィギュレーション品目に割り当てるときに使用する方法は、ユーザーが決定する必要があるビジネス・プロセスです。

品目マスター・プログラムでは、「追加システム情報」フォームでコンフィギュレーション品目に標準リードタイムを定義できます。この値を使用して、固定リードタイムを基に作業オーダーの開始日付が計算されます。作業オーダー見出しの開始日付は、通常は逆算スケジュールで、受注オーダーなどのオーダーの要求日付に基づいて算出されます。各コンフィギュレーション品目は一意であり、計画システムでは計画が困難であるため、このフィールドを使用してコンフィギュレーション品目の作業オーダーを正確にスケジュールします。

品目の汎用情報を入力した後は、特定の事業所の品目ごとに固有の情報を事業所品目プログラム (P41026) で入力できます。

在庫タイプ、行タイプ、ロット処理タイプ、および保管場所をコンフィギュレーション品目、コンフィギュレーション半組立品、および構成品に対して事業所レベルで定義できます。

JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理および JD Edwards EnterpriseOne コンフィギュレータ

JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理システムを使用すると、各製造品目に関する情報を整理および管理できます。また、JD Edwards EnterpriseOne コンフィギュレータ・システムでは、品目間の関係および品目の製造方法を定義します。

コンフィギュレーション品目の部品表の作成は必須ではありませんが、コンフィギュレーション品目の製造済構成品の部品表を作成できます。アセンブリ組込規則を使用してコンフィギュレーション品目に使用される構成品の関係を定義します。アセンブリ組込規則に基づいて、コンフィギュレーション構成部品が受注オーダーと作業オーダーに追加されます。

設定時は、特定のフィーチャまたはオプションの一般部品をグループ化したモジュール部品表の作成を検討します。たとえば自動車の場合、標準とデラックスのどちらかを選択できる内装パッケージの例などが考えられます。各パッケージには固有の部品が含まれているため、個別にモジュール部品表を作成できます。

計画部品表は JD Edwards EnterpriseOne コンフィギュレータ・システムには不要ですが、計画部品表を使用すると、特定のフィーチャおよびオプションに対する要求が管理しやすくなります。

コンフィギュレーション品目に使用可能な作業工程すべてとアセンブリ組込規則を定義すると、作業オーダーに添付する作業工程を選択できます。作業工程にアセンブリ組込規則を使用すると、作業工程全体または特定の作業工程を指定して、コンフィギュレーション品目の作業オーダーに添付できます。作業工程組込規則を入力しない場合は、コンフィギュレーション品目に対する作業工程を入力する必要はありません。

JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理および JD Edwards EnterpriseOne コンフィギュレータ

JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理システムでは、製造作業オーダーを管理、追跡して、工場内の部品の流れを制御できます。また、製品の完成に必要な情報を効果的に管理、伝達できます。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムはJD Edwards EnterpriseOne製造現場管理と連動して、コンフィギュレーション品目の作業オーダーを管理します。コンフィギュレーション品目の作業オーダーを処理するには、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne製造管理システムの製造現場プログラムでビジネス固有の情報を入力する必要があります。

製造現場管理システムでは、受注オーダー入力時に作業オーダー見出しを生成できます。この2つのオーダー・タイプをサポートするには、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムがJD Edwards EnterpriseOne作業オーダー・システムおよびJD Edwards EnterpriseOne製造現場管理システムと連動するように設定されていることを確認する必要があります。

また、製造現場管理システムでは、製造作業オーダー処理プログラム(P48013)を介してコンフィギュレーション品目の作業オーダーを直接入力することもできます。この機能を使用すると、事前の製造または在庫が必要なコンフィギュレーション品目に対する作業オーダーの生成が可能になり、より柔軟にビジネス要件に対応できます。

作業オーダーは、作成されると、ビジネス・プロセスに従って、オーダー処理(R31410)および他の製造現場プログラムを介して、JD Edwards EnterpriseOne製造現場管理システム内で処理されます。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理およびJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、受注オーダーの処理を全面的に管理します。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムではJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムと連動して、コンフィギュレーション品目の受注オーダーの入力方法および処理方法を設定できます。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、通常受注オーダー以外に、コンフィギュレーション品目に使用する販売見積、クレジット、転送、直送、事業所間、組合せの各種オーダーもサポートされています。

コンフィギュレーション品目のオーダーを入力するには、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne流通管理システム内でJD Edwards EnterpriseOne受注管理プログラムにビジネス固有の情報を入力する必要があります。

使用するシステムに対するオーダー行タイプと伝票タイプ(オーダー・タイプ)を設定する必要があります。オーダー行タイプによって、特定のオーダー・タイプに対して入力する明細行の処理方法が決まります(たとえば、Tはテキスト行です)。また、伝票タイプによって、トランザクションの発生元と目的が決まります(たとえば、SOは受注オーダーです)。その後、オーダー・タイプと行タイプを組み合わせて、オーダー処理規則を設定します。オーダー処理規則は、ビジネスのオーダー処理サイクル内の特定の手順を定義します。

受注オーダーの入力時にコンフィギュレーション品目の作業オーダーが生成される行タイプを、新規に設定します。

通常受注オーダー・サイクルは、受注オーダー入力、梱包、出荷、および請求からなります。作業オーダー生成の行タイプと受注オーダーの伝票タイプに対し、作業オーダーの部品リストの作成およびコンフィギュレーション品目の作業オーダーの完了の各ステップを受注オーダーの処理サイクル・ステップに追加できます。この2つの製造プロセスでは、関連する受注オーダー処理を更新することもできます。

コンフィギュレーション品目の販売見積の入力には、通常、作業オーダー生成の行タイプと販売見積の伝票タイプが使用されます。ただし、システムの設定を追加して、見積オーダーの生成時に、関連する作業オーダー見出しが作成されないようにすることができます。

コンフィギュレーション品目のクレジット・オーダーの入力には、クレジット・オーダーの行タイプと伝票タイプが使用されます。クレジット・オーダーを使用すると、顧客からの返品を受け取りを行うことができるため、コンフィギュレーション品目を在庫に戻すことができるようにシステムを設定する必要があります。

コンフィギュレーション品目に使用する、転送、直送、事業所間、組合せの各オーダーをサポートするには、行タイプ、伝票タイプ、およびオーダー処理規則を適切に設定する必要があります。この4つのオーダータイプをサポートするには、調達管理システムがJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムと連動するように設定されていることを確認する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理およびJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでは、購買業務を全面的に管理します。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータシステムではJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムと連動して、コンフィギュレーション品目の購買オーダーの入力方法および処理方法を設定できます。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでは、通常の購買オーダー以外に、コンフィギュレーション品目に使用する転送、直送、組合せの各種オーダーに対する受注オーダーの入力時に作成される購買オーダーもサポートされています。また、コンフィギュレーション品目の構成品に対する購買オーダーも生成できます。

コンフィギュレーション品目の購買オーダーを入力するには、JD Edwards EnterpriseOne流通管理システム内でJD Edwards EnterpriseOne調達管理プログラムのビジネス固有の情報を入力する必要があります。

使用するシステムに対するオーダー行タイプと伝票タイプ(オーダータイプ)を設定する必要があります。オーダー行タイプによって、特定のオーダータイプに対して入力する明細行の処理方法が決まります(たとえば、Tはテキスト行です)。また、伝票タイプによって、トランザクションの発生元と目的が決まります(たとえば、OPは購買オーダーです)。その後、オーダータイプと行タイプを組み合わせて、オーダー処理規則を設定します。オーダー処理規則は、オーダー処理サイクル内の特定の手順を定義します。

コンフィギュレーション品目の行タイプと購買オーダーの伝票タイプを設定します。

オーダー処理規則も設定して、購買オーダー処理サイクル内の特定の手順を定義します。通常の購買オーダーサイクルは、購買オーダー入力、購買オーダーの印刷と伝達、および商品またはサービスの入荷からなります。

コンフィギュレーション品目に使用する、転送、直送、組合せの各オーダーをサポートするには、行タイプ、伝票タイプおよびオーダー処理規則を適切に設定する必要があります。この4つのオーダータイプをサポートするには、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムがJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムと連動するように設定されていることを確認する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne作業オーダーおよびJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne作業オーダー管理システムでは、作業オーダーの処理を管理します。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータシステムではJD Edwards EnterpriseOne作業オーダー管理システムと連動して、コンフィギュレーション品目の作業オーダーの入力方法および処理方法を設定できます。

コンフィギュレーション品目の作業オーダーを入力するには、JD Edwards EnterpriseOne製造管理システム内で作業オーダープログラムにビジネス固有の情報を入力する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne作業オーダー管理システムは、大規模なプロジェクトの一部を構成する小規模で短期間の作業を管理するシステムです。短期間で完了できるプロジェクト向けに、迅速な設定、簡単な原価計算、および基本的なスケジュール設定を実行できるように設計されています。

作業オーダーを作成すると、作業プロセスが開始されます。作業オーダーには実行する必要がある作業を指定します。実行された作業は履歴として記録されます。

作業オーダー・システムでは、作業オーダー入力処理を介してコンフィギュレーション品目の作業オーダーを直接入力できます。この処理により、事前の製造または在庫が必要なコンフィギュレーション品目に対する作業オーダーの生成が可能になり、ビジネス要件により柔軟に対応できます。

コンフィギュレーション品目の作業オーダーを入力するには、製造作業オーダー処理プログラム (P48013) およびその処理オプションを適切に設定する必要があります。

作業オーダーは、作成されると、ビジネス・プロセスに従って、オーダー処理 (R31410) および他の製造現場プログラムを介して、JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理システム内で処理されます。このため、JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理システムが設定されていることを確認する必要があります。

製造現場管理システムでは、受注オーダー入力時に作業オーダー見出しも生成できます。これらのオーダー・タイプをサポートするには、JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムが JD Edwards EnterpriseOne 作業オーダー管理システムおよび JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理システムと連動するように設定されていることを確認する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産および JD Edwards EnterpriseOne コンフィギュレータ

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産 (ETO) システムでは、主として受注設計生産 (ETO) 環境下にあるプロジェクト管理を全面的に制御します。JD Edwards EnterpriseOne コンフィギュレータ・システムは ETO システムと連動して、プロジェクトの一部を構成するコンフィギュレーション品目の様々なオーダー・タイプの入力方法および処理方法を設定できます。

JD Edwards EnterpriseOne ETO システムでは、コンフィギュレーション品目に使用される受注オーダー、購買オーダー、および作業オーダーがサポートされています。

適切なシステム (JD Edwards EnterpriseOne 受注管理、JD Edwards EnterpriseOne 調達管理、JD Edwards EnterpriseOne 作業オーダー管理など) が JD Edwards EnterpriseOne ETO および JD Edwards EnterpriseOne コンフィギュレータと統合されるように設定されていることを確認する必要があります。

受注オーダーにおけるコンフィギュレーション品目の価格設定について

コンフィギュレーション品目の価格設定を行うには、まず「品目マスターの改訂」フォームの「キット/コンフィギュレータ価格設定方法」フィールドを設定します。キット/コンフィギュレータ価格設定方法によって、キットまたはコンフィギュレーション品目の販売価格の設定方法を指定します。構成部品または親品目の価格設定を行うかどうかは、価格設定方法コードによって決まります。

次の表で、使用する方法のコードのタイプについて説明します。

方法	説明
キット/コンフィギュレータ価格設定方法1	構成品の表示価格が合計されてコンフィギュレーション品目の価格が決定されます。コンフィギュレーション品目の価格の計算時に、品目基本価格テーブル (F4106) 内の構成品の価格がすべて加算されます。その際、コンフィギュレーション品目の価格を割引できます。また、Xアセンブリ組込規則が設定されているかどうかチェックされます。X規則がある場合は、コンフィギュレーション品目の価格に適用されます。X規則は、送料など、価格に対する追加料金に使用できます。

方法	説明
キット/コンフィギュレータ価格設定方法2	コンフィギュレーション品目の価格はF4106テーブルから取得されます。この価格は、受注オーダーのコンフィギュレーション品目の価格で、割引できません。また、Xアセンブリ組込規則が設定されているかどうかチェックされます。X規則がある場合は、コンフィギュレーション品目の価格に適用されます。X規則は、送料など、価格に対する追加料金に使用できます。
キット/コンフィギュレータ価格設定方法3	Xアセンブリ組込規則のみを使用して、コンフィギュレーション品目の価格設定が行われます。基本価格は、アセンブリ組込規則の「誘導計算」フィールドを使用して、コンフィギュレーションに取り込むことができます。F4106テーブルから基本価格を取り込むには、「誘導計算」フィールドに&BPUPRCと入力する必要があります。X規則が他にもある場合は、それらもコンフィギュレーション品目の価格に適用されます。このX規則は、送料など、価格に対する追加料金に使用できます。
キット/コンフィギュレータ価格設定方法4	構成品の割引価格の合計が、コンフィギュレーション品目の価格に適用されます。親品目は割引されません。そのため、コンフィギュレーション品目も割引されません。また、Xアセンブリ組込規則が設定されているかどうかチェックされます。X規則がある場合は、コンフィギュレーション品目の価格に適用されます。X規則は、送料など、価格に対する追加料金に使用できます。

注意: 品目基本価格テーブル(F4106)をコンフィギュレーション品目の価格設定に使用している場合、基本価格を取り込むためにXアセンブリ組込規則の「誘導計算」フィールドに&BPUPRCと入力していると、そのオーダーの基本価格は2倍になります。F4106テーブルを使用して基本価格を取り込む場合、Xアセンブリ組込規則は、送料など、他の価格調整のみに使用する必要があります。

「品目マスターの改訂」フォームでキット/コンフィギュレータ価格設定方法を定義したら、構成品およびコンフィギュレーション品目の基本価格をF4106テーブルに定義する必要があります。基本価格は品目の価格設定に使用されます。品目に特別な価格設定または割引を定義すると、基本価格に基づいて割引価格が計算されます。

次の価格の定義には、基本価格設定を使用します。

- 品目または品目グループ
- 特定の期間
- 異なる単位
- 異なる通貨

類似した特性を持つ品目または顧客をグループ化するには、価格設定グループを使用します。この方法によって、基本価格の入力および管理のプロセスを合理化できます。

また、JD Edwards EnterpriseOne価格管理では、どの価格設定方法コードも使用できます。JD Edwards EnterpriseOne価格管理では、受注オーダーに対する、無償品の品目などの品目行の新規追加がサポートされています。

価格調整またはXアセンブリ組込規則を使用すると、どの価格設定方法が選択されているかに関係なく、コンフィギュレーション品目の価格を設定できます。X規則は基本価格設定および価格管理とも連動します。

購買オーダーにおけるコンフィギュレーション品目の原価計算について

購買オーダーのコンフィギュレーション品目の原価計算を行うには、まず「品目マスターの改訂」フォームの「コンフィギュレータ原価計算方法」フィールドを設定します。コンフィギュレータ原価計算方法によって、コンフィギュレーション品目の原価の設定方法を指定します。構成部品または親品目の原価計算を行うかどうかは、原価計算方法コードによって決まります。

次の表で、使用する方法のコードのタイプについて説明します。

方法	説明
コンフィギュレータ原価計算方法1	コンフィギュレーション原価調整を使用して構成品の基準原価を累計し、その合計に値引を適用します。
コンフィギュレータ原価計算方法2	コンフィギュレーション原価調整を使用して親品目の基準原価を累計し、その合計に値引を適用します。
コンフィギュレータ原価計算方法3	コンフィギュレーション原価調整を累計し、その合計に値引を適用します。
コンフィギュレータ原価計算方法4	コンフィギュレーション原価調整を使用して、個別に値引された構成品の原価を累計します。

「品目マスターの改訂」フォームで「キット/コンフィギュレータ原価計算方法」を定義したら、構成部品およびコンフィギュレーション品目の基準価格を品目原価テーブル(F4105)に定義する必要があります。基準原価は品目の原価計算に使用されます。品目に特別な原価調整または値引を定義すると、基準原価に基づいて値引原価が計算されます。

また、JD Edwards EnterpriseOne価格管理では、どの原価計算方法コードも使用できます。ただし、総勘定元帳への仕訳は作成されません。

原価調整またはXアセンブリ組込規則を使用すると、どの原価計算方法が選択されているかに関係なく、コンフィギュレーション品目の原価を計算できます。X規則は基本価格設定および価格管理とも連動します。

基準日有効日付を使用したコンフィギュレーション品目価格設定および原価計算について

品目の設定時に、コンフィギュレーション品目およびコンフィギュレーション品目の構成品の価格と原価情報を定義します。価格と原価のアセンブリ組込規則(X規則)では、オーダー入力時に価格調整および原価調整も定義されます。X規則の検証は、基準日とも呼ばれるユーザー定義日付に基づいています。基準日は、コンフィギュレーション品目の受注オーダー、購買オーダー、および作業オーダーにそれぞれ個別に定義されます。

基準日コードは、「コンフィギュレーション品目データ」フォーム (W3291A) の品目レベルで設定されます。コンフィギュレーション品目情報は、コンフィギュレーション品目オーダーの入力前に必要です。親コンフィギュレーション品目の基準日設定は、子コンフィギュレーション品目に継承されます。

次の表に、X規則の基準日として選択される日付について示します。

基準日	受注オーダー	購買オーダー	作業オーダー
要求日付 (デフォルト)	○	○	○
取引/オーダー日付	○	○	○
ピッキング予定日付	○		
価格有効日付	○	○	
システム日付	○	○	○
納入約束日付		○	
当初納入約束日付		○	
有効予定日付			○
開始日付			○

アセンブリ組込規則の設定時に、有効開始日付と有効終了日付が各規則に入力されます。次に、有効開始日付と有効終了日付が「コンフィギュレーション品目データ」フォームの基準日設定とともに使用され、オーダー入力時に有効な規則が決定されます。有効なすべてのX規則がオーダーに適用され、価格と原価が計算されます。

たとえば、コンフィギュレーション品目は、オーダー日付を受注オーダー基準日として、要求日付を作業オーダー基準日として使用するよう設定されます。品目の受注オーダーが、要求日付に10月15日を指定して8月15日に入力されると、8月15日に有効なXアセンブリ組込規則が検索されます。有効なX規則により、価格調整がその受注に適用されます。コンフィギュレーション品目の作業オーダーが入力されると、X規則の検証と作業オーダーの原価調整に10月15日が使用されます。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムの基準日有効日付の機能は、JD Edwards EnterpriseOne価格管理の機能と類似しています。JD Edwards EnterpriseOne価格管理では、ユーザーはオーダー日付や要求日付など、様々な日付を指定して価格調整を組み込むことができます。「価格有効日付」の基準日コードは、JD Edwards EnterpriseOne価格管理と同期を保つため、X規則の検証時にJD Edwards EnterpriseOne価格管理と同じ日付が使用されます。これは受注オーダーと購買オーダーの両方に該当します。

参照: [第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「コンフィギュレーション品目情報の定義」、41ページ](#)

参照: [第 5 章、「コンフィギュレーション品目の改訂の使い方」、「基準日有効日付を使用したコンフィギュレーション品目価格設定および原価計算について」、101ページ](#)

規則処理について

コンフィギュレーション品目のオーダーを入力する場合は、受注オーダー入力(P4210)、購買オーダー入力(P4310)、および製造作業オーダー処理(P48013)プログラムによってコンフィギュレーション品目の改訂プログラム(P3210)を呼び出します。コンフィギュレーション品目の改訂プログラムのコンフィギュレーション品目フォーム(W3210B)は、品目のコンフィギュレーションと規則処理の実行に使用します。

オーダー入力中、コンフィギュレーション品目の規則は動的に処理されます。または、コンフィギュレーション検証機能の使用を選択することもできます。動的コンフィギュレーション入力は、「コンフィギュレーション品目データ」フォーム(W3291A)の品目レベルで有効化または無効化されます。子コンフィギュレーション品目は、親コンフィギュレーション品目の動的コンフィギュレーション入力設定を継承します。

動的コンフィギュレーションが有効か無効かに関係なく、変更されたセグメントに関連する規則のみが処理されます。セグメントの回答値が変更され、それが有効になるたびに、そのセグメントを参照するすべてのコンフィギュレーション規則が処理対象としてマークされます。規則は動的コンフィギュレーション入力設定に基づいて処理されます。

動的コンフィギュレーション入力が有効な場合、オーダーが入力されると品目のコンフィギュレーションが動的に検証されます。セグメントの回答値が変更されるたびに、すべてのコンフィギュレーションに新しい値が反映されます。セグメントの回答値が変更されると、他のセグメントの許容値すべてが更新され、処理されたセグメント間編集規則に基づいて有効な値のみが含まれるようになります。セグメント間編集規則が処理された後、そのセグメントに有効な値がなくなった場合は、そのセグメントはコンフィギュレーションから削除されます。

処理済のアセンブリ組込規則により、構成部品、価格調整、原価調整およびホットスポットが更新されます。

動的コンフィギュレーション入力によって、製品が構成され、無効なセグメント値を選択する可能性が減少すると、即時にフィードバックが返されます。コンフィギュレーションは、オーダーへの即時引当が可能 な状態になります。

動的コンフィギュレーション入力が無効な場合、コンフィギュレーション品目フォームに「コンフィギュレーション検証」ボタンが表示されます。コンフィギュレーション品目のオーダーを入力するには、セグメントの値を入力し、「コンフィギュレーション検証」ボタンをクリックします。変更されたセグメントに関連する規則を処理して、品目コンフィギュレーションが検証されます。

このオーダー入力および規則処理の方法には、セグメント間編集規則のエラー・メッセージを表示する機能があります。表示されたエラー・メッセージから、コンフィギュレーション品目のコンフィギュレーションについて理解することができます。また、顧客のセグメント選択では有効なコンフィギュレーションを生成できない場合の理由を顧客に説明することができます。

セグメント間編集規則エラーがない場合は、「オーダーに追加」ボタンをクリックしてコンフィギュレーションを受け入れます。

コンフィギュレーション品目フォームが表示され、グリッドがロードされた後、コンフィギュレーション品目のオーダーを入力します。オーダーを入力する場合は、このオーダーがJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータでレベルごとに次のように処理されていることが検証されます。

1. セグメント値を変更するか、「オーダーに追加」ボタンをクリックしてすべてのデフォルト値を受け入れます。
2. セグメントの設定が検証されます。
ユーザー定義コード(UDC)の検証、値の範囲チェック、英数字チェック、長さチェック、必須チェックなどが行われます。
3. 変更されたセグメントに関連するアセンブリ組込規則が処理されます。
 - a. Cアセンブリ組込規則の処理およびCセグメントの更新

計算によって導かれるセグメントの回答値がコンフィギュレーションの検証に必要なため、C規則がまず処理されます。この回答値は、コンフィギュレーション品目に対する他の計算を実行するときにも必要な場合があります。

b. Pアセンブリ組込規則の処理

c. Qアセンブリ組込規則の処理

Qアセンブリ組込規則が処理され、コンフィギュレータ構成部品テーブル(F3215)に構成部品が格納されます。構成部品は、原価を設定するための販売見積(P4210)および部品リスト作成と原価設定のためのオーダー処理(R31410)に使用されます。

d. Rアセンブリ組込規則の処理

Rアセンブリ組込規則が処理され、コンフィギュレータ作業工程テーブル(F3212)に作業工程が格納されます。作業工程は、原価を設定するための販売見積(P4210)および作業工程作成と原価設定のためのオーダー処理(R31410)に使用されます。

e. Xアセンブリ組込規則の処理

f. Hアセンブリ組込規則の処理

4. 変更されたセグメントに関連するセグメント間編集規則を処理します。

動的コンフィギュレーション入力が無効な場合は、エラー・メッセージが表示されます。

動的コンフィギュレーション入力がある場合は、次のように処理されます。

- 他のセグメントの許容値がすべて更新され、有効な値のみが含まれます。
- あるセグメントの許容値が1つのみの場合は、有効な値が設定されます。
- セグメントに対して有効な値がなくなった場合は、コンフィギュレーションからセグメントが削除されます。

5. セグメント間編集規則エラーがない場合は、「オーダーに追加」ボタンを有効化します。

6. 「オーダーに追加」ボタンをクリックします。

次の図で規則処理を説明します。

注意: JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則での上方および下方参照をサポートしています。上方および下方参照には、制限はありません。

作業オーダーの処理

PおよびQアセンブリ組込規則のすべての構成部品は、F3215テーブルに格納されます。作業工程、Rアセンブリ組込規則の出力は、F3212テーブルに格納されます。オーダー処理プログラム (R31410) が実行されると、部品リストと作業工程がF3215とF3212テーブルから取得され、部品リスト・マスター・ビジネス関数 (MBF) と作業工程MBFに戻されます。このため、R31410ではコンフィギュレーション品目規則は処理されません。

エラー状況

コンフィギュレーション品目のオーダーを入力する際、いくつかの状況ではコンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) でエラーが表示されます。

1つめとして、セグメントがUDCテーブルに添付されていない場合は、セグメントの回答値のフィールドに自由形式で入力できます。セグメントに値の範囲が割り当てられている場合は、違反のためエラーが発生します。

2つめは、セグメントがUDCに添付されていない場合、セグメント間編集規則が作成され、違反した場合にエラーが生成されます。

最後に、1つめの状況としてエラーが発生すると思われませんが、デフォルトのセグメント値でエラー状況になるときにコンフィギュレーション品目の改訂プログラムを最初に実行すると、複数のエラーが表示される場合があります。

エラー状況を最小限にするため、可能なかぎりセグメントにUDCを添付します。また、コンフィギュレーション品目のデフォルトのセグメント回答値を検討し、デフォルト値が有効なコンフィギュレーションを示すことを確認します。

コンフィギュレーション品目を設定する際、エラーを回避するようにセグメントの質問を設計できます。たとえば、最初に最も重要な質問をします。これによって、コンフィギュレーションを無効にするような選択肢は顧客に示されません。たとえば、最初に、車両の色ではなく、自動車かトラックのどちらを顧客が必要かを質問します。

また、警告メッセージも使用できます。警告メッセージには、その選択がコンフィギュレーションで有効かどうかに関する情報が示されます。選択した値は削除されませんが、警告によってユーザーは別のものを選択することができます。

ブール論理について

ブール論理は2進法に基づいているため、1または0 (真または偽) のビット・システムが使用されます。ブール論理では、代数形式で記述されたステートメントを使用して、代数演算が行われます。ステートメントには、概念またはオブジェクトの関係が定義されています。ブール論理ステートメントを使用することで、条件をより明確に制御できます。ブール論理では、ステートメントをより直観的に理解できるようにするため、英単語が使用されています。しかし、ブール論理は必ずしも簡単ではありません。

ブール論理では、演算子と呼ばれる単語を使用して、ステートメントの値の真偽を判断します。ブール演算子とは、正確な条件文を作成するために項や句とともに使用される接続詞のことです。最も一般的な演算子はANDまたはORですが、様々なシステムで様々な記号がブール演算子に使用されています。

ネスト

ネストとは、複数のブール演算子をステートメントで使用する場合に、ブール演算子を論理的な順序で組み合わせる方法のことです。かっこは、演算子の優先順位の設定と変数のグループ化を行うために使用します。かっこを使用すると、変数間の関係の制限や順序設定を的確に制御できます。

注意: ネストが複雑な場合、処理時間は通常より長くなることがあります。

演算子ORを使用してネストされたブール論理ステートメントを記述する際は、項をかっこで囲む必要があります。次に例を示します。

(Gas OR Propane) AND (08 OR 10)

条件付き論理

最も単純な形式の条件文はIF-THENステートメントで、次の2つの部分から構成されます。

- 仮定部: 仮定部はIFで始まります。
- 結論部: 結論部はTHENで始まります。

IF-THENステートメントの基本的な形式は次のとおりです。

IF 条件, THEN ステートメント.

IFでIF-THENステートメントが始まり、THENでIFステートメント内の条件が満たされた場合に行われるアクションが指定されます。次に例を示します。

IF パワータイプがプロパン以外, THEN プロパン・タンク以外を選択.

複数の変数

ネストを使用すると、IF-THENステートメントの条件部分およびステートメント部分で複数の変数を使用できます。次に例を示します。

IF フォークリフト定格が6000ポンド AND パワータイプがプロパン, THEN プロパン・タンクは50ポンドでなければならない.

ELSEが含まれた条件文

IF-THEN-ELSEステートメントも使用できます。ステートメントのELSE部分では、IFステートメント内の条件が満たされなかった場合に行われるアクションが指定されます。

IF-THEN-ELSEステートメントの基本的な形式は次のとおりです。

IF 条件, THEN ステートメント (ELSE ステートメント).

次に例を示します。

IF 塗装色が標準, THEN 部品番号S-200を選択 ELSE 部品番号C-100を選択.

構成品の重複利用について

1つの親コンフィギュレーション品目に対し、同一のコンフィギュレーション構成成品を複数追加できます。新たに同一構成成品を追加する場合は、それぞれ固有のコンフィギュレーションを行うことも、すでにコンフィギュレーションが行われている構成成品の設定をそのままコピーすることもできます。1つの部品番号で1つの構成成品の様々なコンフィギュレーションを表すことができます。そのため、管理する部品番号の数は少なく済みます。

1つの親品目に同一コンフィギュレーション構成成品を重複して追加するには、適切なPアセンブリ組込規則を親品目に追加します。規則が無条件か条件付きかに関係なく、同じコンフィギュレーション構成成品を1つの親コンフィギュレーション品目に複数追加できます。

同一コンフィギュレーション構成成品を重複して、デフォルトのコンフィギュレーションの一部として追加する場合も(無条件規則を使用)、後で行うコンフィギュレーションの一部として追加する場合も(条件付き規則を使用)、コンフィギュレーションはそれぞれ個別に行うことができます。ただし、部品番号については共通です。同じ部品番号を使用することで、関連するセグメント、アセンブリ組込規則、およびセグメント間編集規則をすべて1つの品目に対して設定できます。また、その後、その品目に対して様々なコンフィギュレーションを作成できます。

現時点では、セグメント間編集規則、アセンブリ組込規則、および誘導計算で、上位コンフィギュレーション品目を参照できます。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、上位コンフィギュレーション品目のセグメント選択に基づき、規則が正しく処理されます。重複した構成成品がある場合に上位コンフィギュレーション品目が参照されると、処理が複雑になります。

「セグメント間編集規則」および「アセンブリ組込規則」フォームの「コンフィギュレーション品目エイリアス」フィールドでは、特定の組込品目を参照できます。これは必須フィールドではありません。「コンフィギュレーション品目エイリアス」フィールドは、重複した構成成品に使用します。重複した構成成品にこのフィールドを使用しない場合、重複した構成成品は、システム・ロジックに基づいて処理されます。

重要: 正しい重複品目がコンフィギュレーションで使用されていることを確認するには、「コンフィギュレーション品目エイリアス」フィールドを使用してください。

コンフィギュレーション品目エイリアスは、アセンブリ組込規則を使用して品目に割り当てられる場合があります。システムでは、コンフィギュレーション品目エイリアスとそのアセンブリ組込規則の別の品目に割り当てられていないかが検証されます。これによって、任意の規則上の2つの構成成品が同じコンフィギュレーション品目エイリアスに割り当てられることを回避できます。

コンフィギュレーション品目エイリアスがアセンブリ組込規則に割り当てられると、セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則の「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」および「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドを、コンフィギュレーション品目エイリアスを参照するように設定できます。コンフィギュレーション品目とその規則内の品目に割り当てられていることが検証されます。

例: 構成成品の重複使用

棚のコンフィギュレーションでは、棚の高さによって、引き出しを2つまたは3つにすることができます。

- * body (コンフィギュレーション可能な棚本体をコンフィギュレーションに無条件に追加)
- * drawer (コンフィギュレーション可能な引き出しをコンフィギュレーションに無条件に追加)
- * drawer (コンフィギュレーション可能な引き出しをコンフィギュレーションに無条件に追加)
- I height = 36 * drawer (棚の高さが36インチの場合、コンフィギュレーション可能な3つ目の引き出しをコンフィギュレーションに追加)

この例の引き出しのインスタンスのコンフィギュレーションは、それぞれ個別に行うことができます。ただし、部品番号はすべて共通です。

コンフィギュレーション品目のメディア・オブジェクトの添付について

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムで使用するコンフィギュレーション品目のマスター・レコード、セグメント、およびUDCにメディア・オブジェクトを添付できます。コンフィギュレータ・システムのこの機能を使用すると、コンフィギュレーション品目、コンフィギュレーション品目セグメント、およびUDC値に視覚的な情報を補足できます。この情報は、オーダー入力のセグメントの回答に使用できます。メディア・オブジェクトに使用できるものには、写真、画像、ファイル、テキスト文書などがあります。メディア・オブジェクトの情報は、もともと紙文書にあった情報の場合が多くあります。

注意: メディア・オブジェクトは、「ロー」メニューの「社内用添付」オプションで、「事業所品目」ではなく、「品目マスター」に添付します。

定義したメディア・オブジェクトは、オーダー入力時にコンフィギュレーション品目フォームに表示されます。コンフィギュレーション品目を「品目フィルタ」オプションから選択すると、品目マスターにある、関連するコンフィギュレーション品目番号のメディア・オブジェクトのイメージが表示されます。ローを選択すると、セグメントまたはセグメント回答値のユーザー定義コードに対するメディア・オブジェクトが表示されます。

オーダー入力時のメディア・オブジェクトの表示は、コンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) の処理オプションで制御します。「メディア・オブジェクトの表示」処理オプションでは、添付したメディア・オブジェクトをオーダー入力時にフォームに表示するかどうかを制御します。「メディア・オブジェクトの表示順序」オプションでは、複数のタイプのメディア・オブジェクトがコンフィギュレーション品目、コンフィギュレーション・セグメント、またはUDCセグメント値に添付されている場合に、メディア・オブジェクトをフォームに表示する順序を指定します。

コンフィギュレータ固定情報の設定

この項ではコンフィギュレータ固定情報の概要と、コンフィギュレータ固定情報の定義方法について説明します。

コンフィギュレータ固定情報について

コンフィギュレータ固定情報を使用して、各事業所に対するJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムの処理を制御します。事業所ごとに次の処理を行うことができます。

- コンフィギュレーション・セグメント(コンフィギュレーション・STRING)の区切り文字の定義
- オーダー入力時に計算セグメントを表示するかどうかの定義
- コンフィギュレータ・エラー文字の指定
- 受注オーダー入力時の親品目の在庫状況の確認
- 販売見積原価に、製造に要した労務費と間接費を含めるかどうかの設定
- 受注オーダー入力時に、一致するコンフィギュレーションが在庫内に見つかった場合に使用する、在庫行タイプの定義
- 販売見積伝票タイプの指定

コンフィギュレータ固定情報はコンフィギュレータ固定情報テーブル(F3209)に格納されます。

コンフィギュレータ固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コンフィギュレータ固定情報の改訂	W3209B	「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)、「コンフィギュレータ固定情報」 「コンフィギュレータ固定情報の処理」フォームの「追加」ボタンをクリックします。	コンフィギュレータ固定情報を定義します。

コンフィギュレータ固定情報の定義

「コンフィギュレータ固定情報の改訂」フォームにアクセスします。

コンフィギュレータ固定情報 - コンフィギュレータ固定情報の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(D)

事業所 * Eastern Manufacturing Center

セグメント区切文字 計算済みセグメントを表示

コンフィギュレータ・エラー文字

販売見積

伝票タイプ・リスト

原価・販売見積

引当可能数量

在庫確認

在庫行タイプ

「コンフィギュレータ固定情報の改訂」フォーム

事業所別にコンフィギュレータ固定情報を定義します。

セグメント区切文字

オーダー入力時にコンフィギュレーション品目に使用する区切り文字を入力します。この文字は事業所ごとに同じである必要があります。デフォルトの文字は「/」です。

別の文字を指定することもできますが、「*」の使用および区切り文字指定後の文字の変更は行わないことをお勧めします。

セグメント区切り文字には、セグメント質問の回答値に使用されない文字を指定してください。

コンフィギュレータ・エラー文字

計算のエラーを表すコード(例:「!」)を入力します。このコードは1文字の値です。デフォルト値は1です。

計算済みセグメントを表示

オーダー入力時に計算セグメントを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

0: オーダー入力時に計算セグメントは表示されません。ただし、セグメント値は履歴に保存されます。複数レベルのコンフィギュレーション品目を入力する場合、計算セグメントしか含まれていないレベルは表示されません。デフォルト値は0です。

1: 計算済セグメントが表示されます。

伝票タイプ・リスト	販売見積に有効な伝票タイプを定義するとき使用する伝票タイプを、見積伝票タイプ・リストUDC(32/QL)から選択します。たとえば、販売見積の伝票タイプの定義は、事業所ごと、または見積タイプごと(会社ごとの見積、季節ごとの見積など)に行うことができます。
原価-販売見積	オーダー・タイプが販売見積の伝票タイプのいずれかに一致する場合の原価の累計方法を指定します。このチェックボックスを選択すると、オーダー処理プログラム(R31410)では、P、Q、R、およびX(原価)の各アセンブリ組込規則に基づいて、コンフィギュレーション品目の原価が計算されます。このチェックボックスの選択を解除すると、PおよびXの各アセンブリ組込規則が適用されている原価だけが累計されます。
在庫確認	<p>親コンフィギュレーション品目の在庫があることを受注オーダー入力時に確認するかどうかを指定します。デフォルト値は1です。</p> <p>受注オーダー更新時に親品目のコンフィギュレーションに対する在庫が検索されます。複数の品目がある場合、その保管場所、ロット、および引当可能数量がすべてフォーム上に表示されます。フォームからは、更新時にハード・コミットする品目を選択できます。品目が1つだけの場合、その品目が更新時に在庫にハード・コミットされます。</p> <p>在庫確認機能を使用すると、システムのパフォーマンスが低下する場合があります。</p> <hr/> <p>注意: 親コンフィギュレーション品目の在庫確認は、受注オーダー入力時にのみ機能します。</p> <hr/>
在庫行タイプ	<p>取引行の処理方法を制御するコードを入力します。これにより、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne一般会計、JD Edwards EnterpriseOne作業原価、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理など、連動して取引を処理するシステムが制御されます。また、行をレポートに印刷する場合や、行を計算に組み込む場合の条件も指定します。値は次のとおりです。</p> <p>S: 在庫品目 J: 作業原価 N: 非在庫品目 F: 運賃 T: テキスト情報 M: その他費用 W: 作業オーダー</p>

コンフィギュレーション品目セグメントの設定

この項では、コンフィギュレーション品目情報の概要、コンフィギュレーション品目セグメント、共通属性、事前設定、および次の方法について説明します。

- コンフィギュレーション品目情報の定義
- コンフィギュレーション品目セグメントの定義

- コンフィギュレーション品目セグメント詳細の定義
- ユーザー定義セグメント値の設定
- コンフィギュレーション品目のコピー
- コンフィギュレーション品目セグメント情報の特定
- コンフィギュレーション品目の印刷

コンフィギュレーション品目情報について

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムを使用するには、まず各コンフィギュレーション品目のコンフィギュレーション品目情報とセグメントを定義する必要があります。

「コンフィギュレーション品目データ」フォームで、次を実行します。

- コンフィギュレーション品目情報のオーダー伝票上の表示形式の定義
- 受注オーダー、購買オーダー、作業オーダーのXアセンブリ組込規則の基準日の定義
- 動的コンフィギュレーション入力の有効化

コンフィギュレーション品目情報は、品目レベルで設定され、コンフィギュレーション品目情報(F3290)テーブルに格納されます。

コンフィギュレーション品目情報は、コンフィギュレーション品目オーダーの入力前に必要です。新規コンフィギュレーション品目に対してコンフィギュレーション品目情報が設定されていない場合は、最初にその品目の「コンフィギュレーション品目セグメントの改訂」フォーム(W3291L)でコンフィギュレーション品目セグメントを定義すると、デフォルト値で情報が生成されます。受注オーダー、購買オーダー、および作業オーダーの基準日デフォルト値は、要求日付に設定されます。

コンフィギュレーション品目情報は、あるコンフィギュレーション品目から別の品目にコピーできます。コンフィギュレーション品目情報のある品目から別の品目にコピーする場合、コンフィギュレーション品目情報レコードが対象(コピー先)事業所品目になれば、元(コピー元)の事業所品目から対象の事業所品目にコピーされます。コピー先品目にレコードがある場合は、コピーは実行されません。コピー元の品目に情報がない場合は、エラーが発行されます。

F3290/F3291プログラム(R893291)のテーブル変換を実行すると、変換によってX規則基準日が要求日付に設定され、動的コンフィギュレーション入力が無効になります。

コンフィギュレーション品目セグメントについて

セグメントとは、コンフィギュレーション品目のフィーチャおよびオプションのことです。セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則では、論理ステートメントにセグメントが使用されます。セグメントは、色、素材、サイズなど、製品の特性を表します。セグメントでは、UDC、値の範囲および計算を利用して、特定のフィーチャまたはオプションに使用可能な選択肢を定義できます。わかりやすくするために、コンフィギュレーション品目の各セグメントに番号を割り当てます。「表示順序」フィールドの情報によって、オーダー入力時にセグメント値を指定する順序が決まります。

セグメントをコンフィギュレーション品目に新しく追加するときは、既存セグメントの一覧の最後に入力します。この操作によってコンフィギュレーション情報の順序が保持されます。この順序の保持は引当可能数量チェック機能を使用する場合に重要になります。

コンフィギュレーション品目へのセグメントの割当は、番号順に行います。

品目6000(フォークリフト)は次のセグメントから構成されています。

- 10: フォークリフト定格
- 20: パワータイプ
- 30: ブームの高さ
- 35: 内装
- 40: 塗装
- 50: プロパンガスのタンク
- 60: 計算によるカウンタウエイト
- 65: 追加のフォーク(予備)

次の3種類のセグメントが定義できます。

- 必須: オーダー入力時、この情報を必ず指定する必要があります。UDCテーブル値、値の範囲および数値検証による値のチェックが行われます。
- 任意: オーダー入力時、この情報の入力は任意です。UDCテーブル値、値の範囲および数値検証による値のチェックが行われます。
- 計算: オーダー入力時、このセグメントの値が計算されます。C(計算)アセンブリ組込規則で計算を定義します。計算セグメントにはUDCまたは値の範囲を定義する必要はありません。計算セグメントには数字または英数字を指定します。

注意: コンフィギュレーション品目のセグメント情報は、他の事業部に転送できるように、事業部間で合わせる必要があります。

オーダー入力時に、各セグメントの値を入力できます。この値には制限があり、次のいずれかに従う必要があります。

- 英数字チェック
- 範囲チェック
- すべての値を含むUDCテーブル

一方、レベル数に制限がない、複数レベルのコンフィギュレーション品目を定義することもできます。この場合は、各レベルのセグメント数にも制限はありません。アセンブリ組込規則を使用して品目レベルおよび関連する作業オーダーを定義します。

セグメントを使用して、有効なコンフィギュレーションを保持するセグメント間編集規則を定義します。オーダー入力時、確実に品目が製造できるように、フィーチャとオプションの組合せが確認されます。また、セグメントは、コンフィギュレーション固有の価格、構成、計算値、作業工程を決定するアセンブリ組込規則の定義にも使用します。

注意: セグメントは、C(計算)アセンブリ組込規則の値がCアセンブリ組込規則を使用していないセグメント(必須または任意のセグメント)の回答値フィールドに入力されるように、設定できます。

共通属性について

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムの共通属性とは、1つのコンフィギュレーション品目内の複数のセグメントに共通する特徴または特性のことです。共通属性は、共通属性UDCテーブル(32/CA)に設定および定義できます。その後、コンフィギュレーション品目セグメント・プログラム(P3291)の「共通属性」フィールドを使用して、共通属性を特定のセグメントに割り当てます。

注意: 共通属性機能を使用する場合は、コンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) の処理オプションの「処理」タブの、「共通属性の表示」オプションおよび「共通属性表示スコープ」オプションを設定します。

共通属性の値は、オーダー入力時に入力します。「コンフィギュレータ共通属性」フォームの「属性値」フィールドに入力された値は、その共通属性に関連付けられたセグメントすべての回答値フィールドに自動的に設定されます。この処理によって、オーダー入力が簡単になり、オーダー入力時間が短縮され、また、損失をもたらしかねないオーダー入力エラーも減少します。

例: 共通属性

家具業界では、共通属性を多用します。ソファのコンフィギュレーションでは、色を共通属性にできます。“色”共通属性を、フレーム、底面のクッション、アーム・カバー、アクセサリ・クッションの各セグメントに関連付けます。顧客が色を指定すると、担当者はその値を共通属性フォームの属性フィールドに入力します。この色は、入力された共通属性に関連付けられているすべてのセグメントの回答値として適用されます。

事前設定

コンフィギュレーション品目セグメントを入力する前に、次の操作を行う必要があります。

- コンフィギュレーション品目の在庫タイプがC(コンフィギュレーション済)であることの検証
- 「品目マスターの改訂」でのキット/コンフィギュレータ価格設定方法の設定
- 製造された構成部品に部品表があることの検証
- コンフィギュレーション品目および製造される構成部品の作業工程の作成

コンフィギュレーション品目セグメントの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コンフィギュレーション品目の処理	W3291K	「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)、「コンフィギュレーション品目セグメント」	既存のコンフィギュレーション品目を事業所ごとに確認します。
コンフィギュレーション品目データ	W3291A	「コンフィギュレーション品目の処理」フォームでコンフィギュレーション品目を選択し、「ロー」メニューの「コンフィギュレーション品目情報」を選択します。	コンフィギュレーション品目情報を定義します。
コンフィギュレーション品目セグメントの改訂	W3291L	「コンフィギュレーション品目の処理」フォームでコンフィギュレーション品目を選択し、「選択」ボタンをクリックするか、「ロー」メニューの「セグメント」を選択します。	コンフィギュレーション品目セグメントを定義します。
コンフィギュレーション品目セグメント詳細	W3291M	「コンフィギュレーション品目セグメントの改訂」フォームでセグメントを選択して、「ロー」メニューの「詳細」を選択します。	コンフィギュレーション品目セグメントを定義します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
ユーザー定義コード	W0004AI	「コンフィギュレーション品目セグメントの改訂」フォームでコンフィギュレーション品目セグメントを選択し、「ロー」メニューの「ユーザー定義コード」を選択します。 「ユーザー定義コードの処理」フォームで製品コードとコード・タイプを入力し、「追加」ボタンをクリックします。	ユーザー定義セグメント値を設定します。
コンフィギュレーション品目のコピー	W3299C	「コンフィギュレーション品目の処理」フォームでコンフィギュレーション品目を選択し、「コピー」ボタンをクリックするか、「ロー」メニューの「品目のコピー」を選択します。	コンフィギュレーション品目をコピーします。 この処理では、セグメント、セグメント間編集規則、およびアセンブリ組込規則を新規または既存のコンフィギュレーション品目にコピーします。
セグメント・ユーザー定義コードの用途先	W32910A	「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)、「セグメント・ユーザー定義コードの用途先」 「セグメント・ユーザー定義コードの用途先」フォームで製品コードとUDCを入力し、「検索」ボタンをクリックします。	コンフィギュレーション品目セグメント情報を特定します。 特定のコンフィギュレーション品目に関連付けられたセグメント、およびコンフィギュレーション品目に対するテーブル変更の影響を確認します。

コンフィギュレーション品目情報の定義

「コンフィギュレーション品目データ」フォームにアクセスします。

「コンフィギュレーション品目データ」フォーム

関連要素の印刷

構成要素を印刷

コンフィギュレーション品目情報をオーダー伝票に印刷するかどうかを指定するコードを入力します。受注オーダーの場合は、ピッキング・リストと請求書が印刷されます。作業オーダーの場合は、部品リストが印刷されません。値は次のとおりです。

- 0: 印刷しない。
- 1: 印刷する。

テキスト・ストリング

受注オーダー(ピッキング・リストおよび請求書の印刷)と作業オーダー(部品リストの印刷)に対し、コンフィギュレーション・テキスト形式とユーザー定義形式のどちらで出力するかを指定するコードを入力します。ユーザー定義形式は、セグメントそれぞれに定義します。ユーザー定義形式では、セグメント番号、説明、値、または値の説明を印刷できます。値は次のとおりです。

- 1: コンフィギュレーション・テキスト形式
- 0: ユーザー定義形式

品目を表示

コンフィギュレーション品目番号を印刷するかどうかを指定するコードを入力します。選択すると、セグメント値情報の前に品目番号がテキスト形式またはユーザー定義形式で印刷されます。値は次のとおりです。

- 1: 印刷する。
- 0: 印刷しない。

日付基準のX規則

日付基準の受注オーダー

コンフィギュレーション品目の受注オーダーの価格および原価計算に適用する前に、X規則を検証するための日付を指定するUDC 32/SBの値を入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 要求日付

- 1: 取引日付
- 2: ピッキング予定日付
- 3: 価格有効日付

この値を選択すると、受注オーダーの価格有効日付が取り込まれ、X規則の基準日として使用されます。価格有効日付は、受注オーダーが入力されるとJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムで決定されますが、価格管理固定情報、優先情報または手入力された値から取り込まれる場合もあります。

価格有効日付は、JD Edwards EnterpriseOne価格管理と同期を保つため、X規則の検証時にJD Edwards EnterpriseOne価格管理と同じ日付が使用されます。

- 4: システム日付

日付基準の購買オーダー

コンフィギュレーション品目の購買オーダーの価格および原価計算に適用する前に、X規則を検証するための日付を指定するUDC 32/PBの値を入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 要求日付

- 1: 取引日付
- 2: 納入約束日付
- 3: 当初納入約束日付
- 4: 価格有効日付

この値を選択すると、購買オーダーの価格有効日付が取り込まれ、X規則の基準日として使用されます。価格有効日付は、購買オーダーが入力されるとJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで決定されますが、価格管理固定情報、優先情報または手入力された値から取り込まれる場合もあります。

価格有効日付は、JD Edwards EnterpriseOne価格管理と同期を保つため、X規則の検証時にJD Edwards EnterpriseOne価格管理と同じ日付が使用されます。

- 5: システム日付

日付基準の作業オーダー

コンフィギュレーション品目の作業オーダーの価格および原価計算に適用する前に、X規則を検証するための日付を指定するUDC 32/WBの値を入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 要求日付

- 1: 取引日付
- 2: 有効予定日付
- 3: 開始日付
- 4: システム日付

注意: 親コンフィギュレーション品目の基準日設定は、子コンフィギュレーション品目に継承されます。

動的コンフィギュレーション

動的コンフィギュレーション入力

選択すると動的コンフィギュレーション入力が有効になります。この機能が有効な場合は、セグメントの回答値が変更されるたびに、すべてのコンフィギュレーションに新しい値の影響が反映されます。セグメント値に従属するコンフィギュレーション構成部品はすべて含まれるか、除外されます。すべてのホットスポット値は再計算されます。すべての価格と原価は再計算されます。有効なセグメント回答値のみ選択可能になります。

このチェックボックスは、デフォルトで選択解除されています。このため、動的コンフィギュレーション入力は無効になります。

コンフィギュレーション品目セグメントの定義

「コンフィギュレーション品目セグメントの改訂」フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション品目セグメント - コンフィギュレーション品目セグメントの改訂

OK(O) 検索(S) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

事業所 M30

品目 No. 6000

スキップ先セグメント

レコード 1-9

セグメント No.	記述	必須/任意	デフォルト値	表示順序	共通属性	コード (Y/N)	システムコード	UDC	下限許容値
10	Forklift Rating	R	4000	10		Y	32	LR	
20	Power Type	R	GAS	30		N	32	PT	
30	Boom Height	R	10	20		Y	32	BH	
35	Interior	O		60	PKG	N	32	IN	
40	Paint	O	STD	50	PKG	N	32	PA	
50	Propane Tank	O		40		Y	32	TK	
60	Calculated Counter Weight	C		70		Y			
65	Additional fork (spare)	R	NO	75		N	32	AF	

「コンフィギュレーション品目セグメントの改訂」フォーム

注意: セグメント間編集規則またはアセンブリ組込規則があるコンフィギュレーション品目の場合は、コンフィギュレーション品目セグメントを削除できません。

注意: 「コンフィギュレーション品目セグメントの改訂」フォームで「OK」をクリックすると、コンフィギュレーション品目のレコードが存在しない場合はレコードが生成されます。

必須/任意

コンフィギュレーション内のセグメントが必須か任意か、またはオーダー入力時にセグメント値を計算する必要があるかどうかを指定するコードを入力します。有効なコードは次のとおりです。

R: 必須。

O: 任意。

C: 計算。アセンブリ組込規則を使用した計算を定義します。

デフォルト値	<p>データ入力画面に表示される、関連するデータ項目の初期値を入力します。通常は、設定されているデフォルト値を使用すれば、オーダー入力のコンフィギュレーションは有効になります。</p> <p>データ項目のサイズとまったく同じ長さの値を入力する必要があります。</p> <p>値に空白が含まれている場合は、一重引用符で囲みます。キーワード*BLANKおよび*ZEROをデフォルト値として使用できます。デフォルト値として数値データを入力した場合は、データ項目を再表示すると、先頭のゼロがすべて削除されます。</p>
<p>警告: 空白の入力を認める場合は、デフォルト値は使用しないでください。</p>	
表示順序	<p>オーダー入力時にJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムによって行われる、フィーチャとオプションに関する質問の順序を設定する番号を入力します。</p> <p>コンフィギュレーション情報の整合性を維持できるように、新規のセグメントは必ず既存セグメントのリストの最後に入力する必要があります。そのため、このフィールドを使用して、オーダー入力時に「コンフィギュレーション品目の改訂」フォームに表示されるセグメントの順序の再設定が行われます。</p>
共通属性	<p>(オプション) 共通属性を指定するコードを入力します。共通属性とは、1つのコンフィギュレーション品目内の複数のセグメントに共通する特徴または特性のことです。オーダー入力時に共通属性の属性値を入力すると、共通属性に関連付けられたセグメントすべての回答値フィールドが更新されます。</p>
コード(Y/N) (コード数字)	<p>オーダー入力時にセグメント回答値を数字と英数字のどちらとして検証するかを指定する値を入力します。値は次のとおりです。</p> <p>Y: 回答値は数字で、右揃えになります。</p> <p>N: 回答値は英数字で、左揃えになります。</p>
下限許容値	<p>特定のセグメントの下限許容値を入力して、許容値の範囲を指定します。このフィールドに値を入力する場合は、上限許容値も入力する必要があります。</p>
上限許容値	<p>特定のセグメントの上限許容値を入力して、許容値の範囲を指定します。このフィールドに値を入力する場合は、下限許容値も入力する必要があります。</p> <p>計算セグメントを定義する場合、範囲チェックを定義する必要はありません。</p>
<p>注意: 値の範囲を使用する際は、下限から上限までの値の全範囲が適用されます。回答値を偶数、小数第2位、1/4インチなどには制限できません。範囲内の値はすべて有効な回答値になります。</p>	
計算 (誘導計算)	<p>(オプション) 誘導計算を小数第何位で丸めるかを指定する際に使用します。</p> <p>たとえば、誘導計算の結果が2190.123456789である場合、0と入力すると、整数2190に丸められます。</p> <p>4と入力すると、2190.1235に切り上げられます。</p> <p>誘導計算値の丸めフィールドを空白にすると、端数処理は行われません。</p>

次の桁の値が5から9の場合は、切り上げられます。次の桁の値が0から4の場合は、切り捨てられます。

セグメント保存

該当のセグメント値によってコンフィギュレーションが固有になるかどうかを指定する、UDC (32/YN)を入力します。値は次のとおりです。

0: 固有にならない。

1: 固有になる。

コンフィギュレーションが固有である場合、その品目を個別の保管場所に在庫する必要があります。

カテゴリ・コード更新

(オプション)オーダー入力時にセグメント値が入力される作業オーダーのカテゴリ・コードを入力します。

受注オーダー、購買オーダー、および作業オーダーへのコンフィギュレーション品目情報の印刷を制御するには、次のフィールドに値を入力します。

セグメント前スペース、セグメント後スペース

ユーザー定義形式での出力時に、セグメント情報の前または後に出力するスペースの数を入力します。

改行

セグメント情報の印刷後に改行するかどうかを指定するユーザー定義コード(32/YN)を入力します。値は次のとおりです。

1: セグメント情報の後で改行します。

0: 改行せずに印刷を続行します。

改行しない場合は、コンフィギュレータ固定情報に含まれるコンフィギュレータのセグメント区切り文字が印刷されます。

セグメントNo.印刷、セグメント記述印刷、セグメント値印刷、セグメント値記述印刷

セグメント番号、セグメント記述、セグメント値、またはセグメント値記述をオーダー伝票に印刷するかどうかを指定するUDC (32/YN)を入力します。値は次のとおりです。

0: 印刷しない。

1: 印刷する。

受注オーダーの場合は、セグメント番号、セグメント記述、セグメント値、またはセグメント値記述がピッキング・リストと請求書に印刷されます。作業オーダーの場合は、セグメント番号、セグメント記述、セグメント値、またはセグメント値記述が部品リストに印刷されます。

注意: コンフィギュレーション品目のテキストの出力形式を選択できます。自動生成されたコンフィギュレーション情報を出力するか、または、受注オーダー、作業オーダー、ピッキング・リスト、および請求書に印刷されるカスタム・テキストを詳細グリッドで作成できます。

コンフィギュレーション品目セグメント詳細の定義

「コンフィギュレーション品目セグメント詳細」フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション品目セグメント - コンフィギュレーション品目セグメント 詳細

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

保存 削除 印刷 戻る 更新

事業所 M30

品目No. 6000

セグメント No. 10 記述 Forklift Rating

カテゴリ・コードの更新 表示順序 10

共通属性

必須 なし デフォルト値 数字 コンフィギュレータ保存セグメント
 任意 範囲
 計算値 UDC システム・コード 32 LR

印刷

セグメント情報前のスペース数 セグメントNo.の印刷

セグメント情報後のスペース数 セグメント記述の印刷

改行して新行開始 セグメント値の印刷

セグメント値記述の印刷

「コンフィギュレーション品目セグメント詳細」フォーム

ユーザー定義セグメント値の設定

「ユーザー定義コード」フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション品目セグメント - ユーザー定義コード

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

保存 検索 削除 戻る 更新

製品コード * 32 コンフィギュレーション管理

コード・タイプ * LR リフト定格

コード *

レコード 1 - 4 グリッドのカスタマイズ

<input checked="" type="checkbox"/>	コード	記述1 *	特殊取扱コード	ハードコード
<input checked="" type="radio"/>	2000	2000lb Capacity		N
<input type="radio"/>	4000	4000lb Capacity		N
<input type="radio"/>	6000	6000lb Capacity		N
<input type="radio"/>				

「ユーザー定義コード」フォーム

非計算セグメントのセグメント値のUDCテーブルを作成します。セグメントの参照先のUDCテーブルには、特定のフィーチャまたはオプションの使用可能なものが含まれます。

注意: UDCタイプには、55から59のコードを使用できます。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムで使用できるようにカスタムのUDCテーブルを設定する場合は、カスタムUDCがソフトウェア・アップグレードで上書きされないようこれらのシステム・コードを使用する必要があります。

注意: 必須セグメントをUDCテーブルに関連付ける場合は、UDCテーブルの値を選択する必要があります。任意のセグメントをUDCテーブルに関連付ける場合は、手動による値の入力もUDCテーブルの値の指定も行わないでください。

コード	UDCテーブルに新しく追加するUDCを入力します。
特殊取扱コード	<p>特定のUDC値に特別な処理要件があることを示すコードを入力します。このフィールドに入力する値は、各UDCのタイプに対して一意です。</p> <p>特殊取扱コードは様々な方法で使用されます。たとえば、使用言語に定義した特殊取扱コードでは、言語がダブルバイトかどうか、または大文字を使用しないかなどを指定します。このフィールドを有効にするには、プログラミングが必要です。</p>
ハードコード	<p>UDCがハードコードされているかどうかを表すコードを入力します。値は次のとおりです。</p> <p>Y: ハードコードされている。</p> <p>N: ハードコードされていない。</p>

コンフィギュレーション品目のコピー

「コンフィギュレーション品目のコピー」フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション品目セグメント - コンフィギュレーション品目のコピー

OK(O) 取消(L) ツール(T)

コピー元

コンフィギュレーション品目

事業所

コピー先

コンフィギュレーション品目 *

事業所

コピーオプション

コンフィギュレーション品目セグメント

セグメント間編集規則

アセンブリ組込み規則

計算(C)

部品(P)

部品リストのみ(Q)

作業工程(R)

価格(X)

ホット・スポット(H)

構成事業所

「コンフィギュレーション品目のコピー」フォーム

注意: コンフィギュレーション品目をコピーする際は、コピー元の品目から属性をコピーできます。ただし、規則タイプは別のタイプにコピーできません。たとえば、コピー元の品目に設定されているPアセンブリ組込規則をQアセンブリ組込規則にコピーすることはできません。

コピー・オプション

コンフィギュレーション品目データ、コンフィギュレーション品目セグメント、セグメント間編集規則、セグメント間編集規則、アセンブリ組込規則、計算(C)、部品(P)、部品リストのみ(Q)、作業工程(R)、価格(X)、ホットスポット(H)

「コピー・オプション」グループ・ボックスの属性を選択し、元のコンフィギュレーション品目(「コピー元」グループ・ボックス)から新規コンフィギュレーション品目(「コピー先」グループ・ボックス)に属性情報をコピーします。コピー対象のコンフィギュレーション品目に存在する属性のみがコピーされます。

構成事業所

2次または下位レベルのビジネスユニットを入力します。この入力値によって、事業所の下に複数の従属部門または作業があることが示されます。たとえば、構成品事業所の名称をMMCUと仮定します。

この場合、MMCUの構成は次のとおりになります。

事業所 - (MMCU)

部署A - (MCU)

部署B - (MCU)

作業123 - (MCU)

コンフィギュレーション品目のコピー時に「構成事業所」フィールドを使用すると、「構成事業所」フィールドで指定されている特定の事業所をアセンブリ組込規則のすべての行に入力できます。セグメントには事業所フィールドはないため、コピー対象のセグメントには影響はありません。指定した構成品事業所は、すべての行に反映されるため、指定した事業所から一部の構成品を取り込まない場合は、事業所に対する変更は手動で行う必要があります。「構成事業所」を指定せずにある事業所からコピー(たとえばM30からM10)すると、新しいアセンブリ組込規則レコードすべてに、コピー元事業所が入力されます。

指定した構成事業所は、規則の事業所と構成品の事業所が同じである規則にのみコピーされます。構成品の事業所が規則の事業所と異なる規則では、その違いが保持されます。

たとえば、品目6000の規則が事業所M30であり、その規則の各品目の構成事業所もM30であるとして、品目6000が品目M40にコピーされると、品目6000の規則の事業所と構成品の事業所はどちらもM30のため、すべての規則の構成品の事業所はM40にコピーされます。

品目6000の構成品が事業所M10から事業所M30に転送されると、規則の事業所と構成品の事業所が一致しません。このため、事業所M30の品目6000が事業所M40にコピーされると、一致する事業所M30の規則がすべてM40にコピーされます。事業所M10の構成品の規則はコピーされますが、事業所M10はそのまま残され、M40には変更されません。このため規則内に転送情報の設定が保持されます。必要であれば、規則は手動で変更できます。

作成対象のオーダーについては、指定した構成品の事業所マスターに品目が必要です。たとえば、指定したオーダー処理でオーダーされる構成品には、それぞれM10レコードが必要です。

需要事業所とは異なる事業所を作成した場合、複数事業所MRPプログラム(R3483)を実行しても、何も設定されません。事業所間関係の改訂プログラム(P3403T)を使用して、他の事業所からコピーする各品目に対し、適切な事業所間関係を作成する必要があります。「構成事業所」フィールドに値を指定するだけでは、計画システムは実行されません。

「構成部品事業所」フィールドでは、ユーザーはアセンブリ組込規則レコードを任意の事業所にコピーできますが、この事業所は、適切な複数事業所計画の関係が設定され、複数事業所生成プログラムが実行されるまでは、事業所間で実際に計画されることはありません。

コンフィギュレーション品目自体は事業所をまたいで計画できませんが、コンフィギュレーション品目の完成に必要な構成品は複数事業所からの供給として計画できます。

コンフィギュレーション品目は、ST/OT機能を使用して事業所をまたいで計画できます。

コンフィギュレーション品目セグメント情報の特定

「セグメント・ユーザー定義コードの用途先」フォームにアクセスします。

指定したUDCテーブルでは、テーブルを参照するすべてのコンフィギュレーション品目およびセグメントを特定できます。この機能は、コンフィギュレーション品目についてのテーブル変更の影響を確認する際に役立ちます。

コンフィギュレーション品目の印刷

「コンフィギュレーション品目セグメントの改訂」フォームで、「フォーム」メニューの「セグメントの印刷」を選択します。

コンフィギュレーション品目セグメントのハード・コピーが印刷されます。ハード・コピーを使用して、コンフィギュレーション品目セグメントの設定が正しいかどうかを確認します。

注意: 「バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン」フォームで、システムにあらかじめ用意されているバージョンXJDE0001をコピーして、変更可能なプログラムの別バージョンを作成します。

セグメント間編集規則の設定

この項では、セグメント間編集規則ロジックおよびエラー・メッセージのそれぞれの概要、および次の方法について説明します。

- セグメント間論理ステートメントの定義
- セグメント間論理ステートメントの値の定義
- セグメント間論理ステートメントの範囲の定義
- セグメント間編集規則のコピー
- カスタム・エラー・メッセージの設定
- セグメント間編集情報の確認

- ・ セグメント間編集規則の印刷

セグメント間編集規則ロジックについて

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、セグメント間編集規則を使用してオーダー入力時のフィーチャとオプションの設定が適切かどうかを確認されます。セグメント間編集規則では、ブール論理ステートメントを使用してコンフィギュレーション品目セグメント間の関係を設定します。オーダー入力時に、選択したフィーチャおよびオプションの値によって有効な製品コンフィギュレーションが行われることが、セグメント間編集規則によって確認されます。この確認を行うと、無効なセグメント値の組合せやセグメントの順序の設定を回避できます。無効なコンフィギュレーションに関するエラー・メッセージは、セグメントの順序およびセグメント間編集規則から得られるセグメント情報を基に表示されます。

各セグメント間編集規則には、IF/THEN/ELSEの論理ステートメントを使用して様々な条件を定義できます。たとえば、フォークリフトのセグメント30(ブームの高さ)には、セグメント10(リフト定格)の値に応じて異なる値を設定する必要があるとします。この例は、次のセグメント間編集規則で表されます。

If segment 10 equals 6000, then segment 30 must equal 12, else segment 30 must be less than or equal to 10.(セグメント10が6000の場合、セグメント30は12、そうでない場合は10以下である必要があります。)

参照: [第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「ブール論理について」、32ページ](#)

条件付き論理ステートメントのそれぞれの句は個別のレコードで、個別の行に記述します。

規則は、別の色で強調表示すると、自動的にグループ化されます。

規則が入力される順序を基に、規則番号が自動的に割り当てられます。規則番号とは、オーダー入力時のセグメント間編集規則の処理順序のことです。規則番号は、「セグメント間編集規則の処理」フォームで「ロー」メニューの「前に挿入」または「後に挿入」を使用すると、セグメント間編集規則の設定時に変更できます。

各規則の各行が入力される順序を基に、順序番号が規則の各行に自動的に割り当てられます。順序番号とは、規則内の各行が処理される際の処理順序のことです。順序番号は、「セグメント間編集グループの改訂」フォームで「ロー」メニューの「前に挿入」または「後に挿入」を使用すると、変更できます。

このシステムでは、複数レベルの参照が可能です。コンフィギュレーション品目の様々なレベルで、セグメントの値に対して上方参照および下方参照を実行できます。また、セグメント間の比較も可能です。たとえば、セグメント10はセグメント20より大きい場合などです。レベルをまたがっての比較も可能です。たとえば、事業所M30の品目6000のセグメント10が、事業所M30の品目6100のセグメント20より大きい場合などです。

セグメント間編集規則では、「セグメント項目 - 左」、「セグメント事業所 - 左」、「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」、「セグメント項目 - 右」、「セグメント事業所 - 右」および「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドを使用します。

コンフィギュレーション品目エイリアスは、アセンブリ組込規則を使用して品目に割り当てられる場合があります。システムでは、コンフィギュレーション品目エイリアスはそのアセンブリ組込規則の別の品目に割り当てられていないかが検証されます。これによって、任意の規則上の2つの構成部品が同じコンフィギュレーション品目エイリアスに割り当てられることを回避できます。

コンフィギュレーション品目エイリアスがアセンブリ組込規則に割り当てられると、セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則の「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」および「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドを、コンフィギュレーション品目エイリアスを参照するように設定できます。コンフィギュレーション品目とその規則内の品目に割り当てられていることが検証されます。

注意: セグメント間編集規則のネストは、無制限に行うことができます。ただし、ネストを行うと、システム・パフォーマンスに影響があります。規則のネスト階層が深ければ深いほど、処理速度は低下します。

動的コンフィギュレーションが有効であり、UDC値がセグメントに使用されると、オーダー入力時にセグメント間編集規則がセグメントに対してリストされた値に適用されます。セグメントの回答値が変更されると、他のセグメントの許容値すべてが更新され、処理されたセグメント間編集規則に基づいて有効な値のみが含まれるようになります。セグメント間編集規則が処理された後、そのセグメントに有効な値がなくなった場合は、そのセグメントはコンフィギュレーションから削除されます。

動的コンフィギュレーション入力のための規則作成

動的コンフィギュレーション入力で使用される規則を記述する場合は、補足規則を記述して関係を正確に構築する必要があります。補足規則を記述する際は、関係の両サイドの規則を記述し、どの値がセグメントの有効値リストに含まれるかを明確にします。1つの条件に基づいて有効な値を削除するようにセグメント間編集規則を記述する場合は、逆の条件に基づいて有効な値のリストに値を戻す規則も記述する必要があります。

たとえば、寝室は5部屋、主寝室は1部屋のみ設定可能な家のコンフィギュレーションがあるとします。セグメント10が主寝室の場合は、主寝室の値は他のすべての寝室セグメントの許容値から削除されるという規則を記述します。また、セグメント10が主寝室でない場合は、主寝室の値を寝室セグメントの有効値リストに戻すという規則を記述する必要があります。

セグメント10に選択した値が主寝室であり、この値を後で変更する場合に、この例に示す2つ目の規則が記述されていないと、主寝室の値は有効なセグメント選択肢としてコンフィギュレーションに戻されません。このため、処理中にエラーが発生します。

エラー・メッセージについて

コンフィギュレーション検証機能を使用したオーダー入力時に、無効なセグメント値の組合せがセグメント間編集規則で検出されると、エラー・メッセージが表示されます。

表示されるメッセージには、次のタイプがあります。

- **ハード・エラー・メッセージ:** セグメント値の組合せが必須条件に合致しない場合、ハード・エラー・メッセージが表示されます。続行するには、セグメント値を変更して問題を解決する必要があります。
- **ソフト・エラー・メッセージ:** セグメント値の組合せが任意条件に合致しない場合、ソフト・エラー・メッセージが表示されます。セグメント値を修正するか、またはエラー・メッセージを一時変更すると、品目のコンフィギュレーションを続行できます。

メッセージには、次の2つのタイプがあります。

- **自動生成メッセージ**

エラーが発生すると、エラー・メッセージが自動的に生成されます。自動生成エラー・メッセージには、違反されたセグメント間編集規則(ブール論理)が記載されています。計算セグメント値がセグメント間編集規則のエラー・メッセージに表示されます。次に例を示します。

IF Power Type {Seg 020} is not equal to PROPANE, THEN Propane Tank {Seg 050} should be equal to *BLANK. Power Type {Seg 020} is BATTERY. Propane Tank {Seg 050} is 50(Lb)TK.(パワータイプ{セグメント020}がPROPANE以外の場合、プロパン・タンク{セグメント050}は*BLANKである必要があります。パワータイプ{セグメント020}の値はBATTERYです。プロパン・タンク{セグメント050}の値は50(Lb)TKです。)

- **カスタム/ユーザー定義メッセージ**

特定の情報またはカスタムの情報が含まれているエラー・メッセージを、セグメント間編集規則に対して作成できます。カスタム・エラー・メッセージは、エラー内容がわかりやすくなるように詳細が記載されていたり、内容が簡略化されていたりします。たとえば、“定格荷重6000ポンドのフォークリフトには、ガスまたはプロパンのエンジンが必要です。”などのメッセージが作成できます。

カスタム・エラー・メッセージは、「セグメント間編集グループの改訂」フォームからメディア・オブジェクト機能にアクセスして設定します。

どのエラー・メッセージをオーダー入力時に表示するかを制御する選択肢は3つあります。自動生成メッセージ(セグメント間編集規則のエラー・メッセージ)のみ、カスタム・メッセージのみ、セグメント間編集規則とカスタム・メッセージの両方のうち、いずれかを表示できます。「セグメント間編集グループの改訂」フォームで「カスタム・メッセージ」フィールドの値をUDC32/CMから選択する必要があります。

重要: セグメント間編集規則の最初の部分には、カスタム・メッセージを設定できません。カスタム・メッセージは、ブール論理ステートメントのTHENおよびELSEなどの演算子に続く結論部に設定する必要があります。メッセージがセグメント間編集規則の別の部分に設定された場合、そのメッセージはエラー発生時に表示されません。

セグメント間編集規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
セグメント間編集規則の処理	W3292B	「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)、「セグメント間編集規則」	セグメント間編集規則を追加、変更および確認します。 セグメント間編集規則をコピーします。 「セグメント間編集規則の処理」フォームで、事業所とコンフィギュレーション品目を入力してコンフィギュレーション品目を検索します。 *RANGEを確認するには、「ロー」メニューの「IF/ELSE 範囲」または「THEN 範囲」を選択します。 *VALUESを確認するには、「ロー」メニューの「IF/ELSE 値」または「THEN 値」を選択します。
セグメント間編集グループの改訂	W3292A	<ul style="list-style-type: none"> 最初の規則を追加する際は、「セグメント間編集規則の処理」フォームで、「フォーム」メニューの「改訂」を選択します。 さらに規則を追加する際は、「セグメント間編集規則の処理」フォームでレコードを選択して「ロー」メニューの「編集グループの挿入」を選択し、「前に挿入」または「後に挿入」を選択します。 	セグメント間論理ステートメントを定義します。 条件付き論理ステートメントの各句に対し、グリッドのローを1つずつ使用します。 カスタム・エラー・メッセージを設定します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
値の改訂	W32921B	「セグメント間編集グループの改訂」フォームでレコードを新規入力します。 「IF値」フィールドに「*VALUES」と入力し、[Tab]を押します。	セグメント間論理ステートメントの値を定義します。
範囲の改訂	W32921E	「セグメント間編集グループの改訂」フォームでレコードを新規入力します。 「IF値」フィールドに「*RANGE」と入力し、[Tab]を押します。	セグメント間論理ステートメントの範囲を定義します。
規則コピー・ウィンドウ - セグメント間編集規則	W3297A	「セグメント間編集グループの改訂」フォームで空白行を選択し、「ロー」メニューの「コピー」を選択します。 コピー対象のローを選択して「選択」をクリックします。	コピー対象のセグメント間編集規則を選択します。 参照: 第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「コンフィギュレーション品目のコピー」、48ページ
セグメント間編集規則の用途先照会	W32920A	「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)、「セグメント間編集規則の用途先」	セグメント間編集情報を確認します。 セグメント間編集規則の用途先を確認します。

セグメント間論理ステートメントの定義

「セグメント間編集グループの改訂」フォームにアクセスします。

セグメント間編集規則 - セグメント間編集グループの改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

コンフィギュレーション品目: 6000 規則No.: 1

レコード 1-4	AND/OR 選択	親セグメント	セグメント記述	比較演算子	IF 値	比較セグメント番号	セグメント記述	必須
<input type="checkbox"/>	I	10	Forklift Rating	EQ	6000			R
<input type="checkbox"/>	*	20	Power Type	EQ	*VALUES			R
<input type="checkbox"/>	E	20	Power Type	EQ	*ALL			R

「セグメント間編集グループの改訂」フォーム

重要: セグメント間編集規則では、「セグメント項目 - 左」、「セグメント事業所 - 左」、「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」、「セグメント項目 - 右」、「セグメント事業所 - 右」および「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドを使用して、任意のレベルの品目を参照できます。セグメント間編集規則を記述する際は、「セグメント項目」フィールドに情報を入力してから、「セグメントNo.」フィールドにセグメント番号を入力します。この操作を行うことで、どのコンフィギュレーション品目からセグメント間編集規則のセグメント情報を取得するかが指定されます。

セグメントNo.	<p>質問に対する回答を参照するための番号を入力します。セグメント番号はユーザーが定義します。</p> <p>セグメント間編集規則では、設定値によって有効なコンフィギュレーションが定義されていることを確認するために、セグメント番号が参照されます。</p> <p>アセンブリ組込規則では、価格、構成品部品、作業工程、および計算値をコンフィギュレーション品目に定義するために、セグメント番号およびそのセグメントに関連付けられた値が参照されます。</p> <p>このセグメント番号がアセンブリ組込規則またはセグメント間編集規則で使用される場合は、これが条件の左側に使用されるセグメントになります。</p>
IF値	<p>該当のセグメントと規則の関係で有効な回答値を入力します。特定のUDC値または次のいずれかの値を入力できます。</p> <p>*VALUES: 論理規則で使用する複数の値のリストを指定します。値は45個まで入力できます。</p> <p>「*VALUES」と入力し、[Tab]を押してそのフィールドから移動すると、コンフィギュレーション品目規則の範囲/値プログラム (P32921) が呼び出され、値を変更できます。値は次のとおりです。</p> <p>*BLANK: 論理規則でブランク値を使用します。</p> <p>*ZERO: 論理規則の一部としてゼロの金額を検索します。</p> <p>*RANGE: 論理規則で値の範囲(たとえば、1から50)を使用します。値の範囲を入力します。範囲の開始値には、終了値未満の値を設定してください。</p> <p>「*RANGE」と入力し、[Tab]を押してそのフィールドから移動すると、コンフィギュレーション品目規則の範囲/値プログラム (P32921) が呼び出され、範囲を変更できます。</p> <p>*ALL: 論理規則ですべての値を使用します。</p>
セグメントNo.	<p>質問に対する回答を参照するための番号を入力します。セグメント番号はユーザーが定義します。</p> <p>セグメント間編集規則では、設定値によって有効なコンフィギュレーションが定義されていることを確認するために、セグメント番号が参照されます。</p> <p>アセンブリ組込規則では、価格、構成品部品、作業工程、および計算値をコンフィギュレーション品目に定義するために、セグメント番号およびそのセグメントに関連付けられた値が参照されます。</p> <p>このセグメント番号がアセンブリ組込規則またはセグメント間編集規則で使用される場合は、これが条件の右側に使用されるセグメントになります。</p>
必須	<p>UDC 32/AQの値を入力して、セグメント間編集規則の検証時に表示されるエラーのタイプを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>O: 任意(警告メッセージ)</p> <p>R: 必須(エラー・メッセージ)</p>
カスタム・メッセージ	<p>UDC (32/CM) の値を入力して、表示されるセグメント間エラー・メッセージを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>0: 標準のセグメント間エラー・メッセージ</p> <p>1: カスタム・エラー・メッセージ</p> <p>2: セグメント間エラー・メッセージとカスタム・エラー・メッセージ</p>

セグメント項目 - 左	条件の左側で参照されるセグメントに対する親コンフィギュレーション品目の品目番号を入力します。このフィールドを使用して、別のコンフィギュレーション・レベルで選択されているセグメントを参照します。
セグメント事業所 - 左	条件の左側で参照されるセグメント番号を含むコンフィギュレーション品目に関連する事業所を入力します。この値を使用して、別のコンフィギュレーション・レベルで選択されているセグメント、および「セグメント項目 - 左」フィールドの品目の事業所を参照します。
コンフィギュレーション品目 エイリアス - 左	<p>UDC 32/GIの値を入力します。この値は、条件の左側で参照されるコンフィギュレーション品目の特定のインスタンスを指定します。</p> <p>「セグメント間編集規則」および「アセンブリ組込規則」フォームの「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」フィールドでは、特定の組込品目を参照できません。これは必須フィールドではありません。「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」フィールドは、重複した構成部品に使用します。重複した構成部品にこのフィールドを使用しない場合、重複した構成部品は、キャッシュに格納されている最初の重複した品目の値に基づいて処理されます。</p> <hr/> <p>重要: 正しい重複品目がコンフィギュレーションで使用されていることを確認するには、「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」フィールドを使用することをお勧めします。</p> <hr/> <p>コンフィギュレーション品目エイリアスは、アセンブリ組込規則を使用して品目に割り当てられる場合があります。システムでは、コンフィギュレーション品目エイリアスがそのアセンブリ組込規則の別の品目に割り当てられていないかが検証されます。これによって、任意の規則上の2つの構成部品が同じコンフィギュレーション品目エイリアスに割り当てられることを回避できます。</p> <p>コンフィギュレーション品目エイリアスがアセンブリ組込規則に割り当てられると、セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則の「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」フィールドを、コンフィギュレーション品目エイリアスを参照するように設定できます。コンフィギュレーション品目とその規則内の品目に割り当てられていることが検証されます。</p>
セグメント項目 - 右	条件の右側で参照されるセグメントに対する親コンフィギュレーション品目の品目番号を入力します。このフィールドを使用して、別のコンフィギュレーション・レベルで選択されているセグメントを参照します。
セグメント事業所 - 右	条件の右側で参照されるセグメント番号を含むコンフィギュレーション品目に関連する事業所を入力します。この値を使用して、別のコンフィギュレーション・レベルで選択されているセグメント、および「セグメント項目 - 右」フィールドの品目の事業所を参照します。
コンフィギュレーション品目 エイリアス - 右	<p>UDC 32/GIの値を入力します。この値は、条件の右側で参照されるコンフィギュレーション品目の特定のインスタンスを指定します。</p> <p>「セグメント間編集規則」および「アセンブリ組込規則」フォームの「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドでは、特定の組込品目を参照できません。これは必須フィールドではありません。「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドは、重複した構成部品に使用します。重複した構成部品にこのフィールドを使用しない場合、重複した構成部品は、キャッシュに格納されている最初の重複した品目の値に基づいて処理されます。</p>

重要: 正しい重複品目がコンフィギュレーションで使用されていることを確認するには、「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドを使用してください。

コンフィギュレーション品目エイリアスは、アセンブリ組込規則を使用して品目に割り当てられる場合があります。システムでは、コンフィギュレーション品目エイリアスとそのアセンブリ組込規則の別の品目に割り当てられていないかが検証されます。これによって、任意の規則上の2つの構成部品が同じコンフィギュレーション品目エイリアスに割り当てられることを回避できます。

コンフィギュレーション品目エイリアスがアセンブリ組込規則に割り当てられると、セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則の「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドを、コンフィギュレーション品目エイリアスを参照するように設定できます。コンフィギュレーション品目エイリアスがその規則内の品目に割り当てられていることが検証されます。

セグメント間論理ステートメントの値の定義

「値の改訂」フォームにアクセスします。

セグメント間編集規則 - 値の改訂

閉じる(L) ツール(T)

✖ 🛠

```
IF Forklift Rating {Seg. 10/6000} is equal to 6000
THEN Power Type {Seg. 20/6000} must be equal to *VALUES
ELSE Power Type {Seg. 20/6000} is equal to *ALL
```

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ	
選択値	
<input type="radio"/> GAS	
<input checked="" type="radio"/> PROPANE	

「値の改訂」フォーム

選択値

オーダー入力時に表示されるコンフィギュレーションのフィーチャおよびオプションの質問に対する有効な回答値のリストを入力します。

セグメント間編集規則の定義では、セグメントの回答値と値を比較してコンフィギュレーションが有効かどうかを判断します。アセンブリ組込規則の定義では、セグメントの回答値と値を比較して個別にコンフィギュレーションを作成し、部品、価格、計算値、または作業工程に割り当てます。

セグメント間論理ステートメントの範囲の定義

「範囲の改訂」フォームにアクセスします。



「範囲の改訂」フォーム

開始、終了

数値範囲の開始値と終了値を入力します。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、*RANGE変数は、セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則に関連付けられた「IF値」フィールドで使用されます。*RANGEの値は、規則によって参照されるセグメントの回答値を表します。論理ステートメントによって戻される可能性がある値を絞り込むフィルタとして、UDCテーブルを使用できます。

値の範囲を使用する際は、下限から上限までの値の全範囲が適用されません。回答値を偶数、小数第2位、1/4インチなどには制限できません。範囲内の値はすべて有効な回答値になります。

セグメント間編集規則のコピー

「セグメント間編集規則の処理」フォームにアクセスします。

設定時間を短縮するため、セグメント間編集規則は1つのコンフィギュレーション品目から別のコンフィギュレーション品目にコピーできます。

1. 「セグメント間編集規則の処理」フォームで、「事業所」および「コンフィグ品目」フィールドに値を入力して、「検索」をクリックしてコンフィギュレーション品目を検索します。
2. レコードを指定して「編集グループの挿入」を選択し、「ロー」メニューの「前に挿入」または「後に挿入」を選択します。
3. 「セグメント間編集グループの改訂」フォームで空白行を選択し、「ロー」メニューの「コピー」を選択します。
4. 「規則コピー・ウィンドウ - セグメント間編集規則」で規則のコピー元となるコンフィギュレーション品目を特定します。
5. 1つまたは複数のレコードを選択して「選択」をクリックします。
6. 「セグメント編集グループの改訂」フォームで必要に応じて規則を変更し、「OK」を選択します。

カスタム・エラー・メッセージの設定

「セグメント間編集グループの改訂」フォームにアクセスします。

1. 「カスタム・メッセージ」フィールドに適切な値を入力します。

注意: セグメント間編集規則の最初の部分には、カスタム・メッセージを設定できません。カスタム・メッセージは、ブール論理ステートメントのTHENまたはELSEなどの演算子に続く結論部に設定する必要があります。メッセージがセグメント間編集規則の別の部分に設定された場合、そのメッセージはエラー発生時に表示されません。

2. 「ロー」メニューから「カスタム・メッセージ」を選択します。
3. 「メディア・オブジェクト・ビューア」で「テキスト」を選択します。

セグメント間編集情報の確認

「セグメント間編集規則の使途先照会」フォームにアクセスします。

セグメント間編集情報を確認し、規則を更新します。指定した品目番号とセグメントについて、規則ロジックとセグメントの値を確認できます。

セグメント間編集規則の印刷

「セグメント間編集規則の処理」フォームで「フォーム」メニューの「規則の印刷」を選択します。

このレポートでは、セグメント間編集規則のハード・コピーが出力されます。ハード・コピーを使用して、セグメント間編集規則の設定が正しいかどうかを確認します。

アセンブリ組込規則の設定

この項では、アセンブリ組込規則、アセンブリ組込規則ロジック、上級アセンブリ組込規則、誘導計算、外部プログラム参照、コンフィギュレーション・テーブル、スマート部品、ホットスポット・アセンブリ組込規則についての概要、および次の方法について説明します。

- ホットスポットに対するコードの定義
- アセンブリ組込規則プログラム (P3293) の処理オプションの設定
- アセンブリ組込規則ロジックの定義
- 上級アセンブリ組込規則の定義
- アセンブリ組込規則のコピー
- 誘導計算のテスト
- アセンブリ組込規則の印刷

アセンブリ組込規則について

アセンブリ組込規則では、オーダー入力時に要求された値が、コンフィギュレーション品目の製造、原価計算および価格設定に必要な、特定の構成品、作業工程、ユーザー表示情報および計算値に変換されます。アセンブリ組込規則には、代数計算式、スマート部品、外部プログラム参照などの高度なロジックも備わっています。

アセンブリ組込規則には、次の6つのタイプがあります。

規則	説明
<p>構成部品 (P) 規則</p>	<p>構成部品を定義して受注オーダーおよび作業オーダーの部品リストに記載します。</p> <p>コンフィギュレーション品目とコンフィギュレーション品目の構成部品に対する各種オーダー・タイプを生成するためのトランザクション・タイプと仕入先番号を定義します。</p> <p>複数レベルのコンフィギュレーション品目も、Pタイプの規則で定義します。</p> <p>たとえば、セグメント10が6000でセグメント30が10以上の場合は部品F170、それ以外の場合は部品F175を使用します。</p> <p>重要: JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムが機能するには、Pアセンブリ組込規則を1つ以上設定しておく必要があります。</p>
<p>作業オーダー構成部品 (Q) 規則</p>	<p>構成部品を定義して作業オーダー部品リストに記載します。オーダー処理プログラム (R31410) によって、部品リストの添付が実行されます。</p> <p>たとえば、セグメント10が標準の場合は、部品R100およびR105を組み込みます。</p>
<p>計算 (C) 規則</p>	<p>コンフィギュレーション品目の計算セグメントに対する数値計算を定義します。まずコンフィギュレーション品目セグメント・プログラムで、セグメントを計算セグメントとして定義する必要があります。計算セグメントの値は、他の規則の誘導計算で使用できます。</p>
<p>ホットスポット (H) 規則</p>	<p>表示専用として処理される、コンフィギュレーション品目に関する情報およびメッセージを定義します。この情報はオーダー入力フォームのホットスポット・フィールドに表示されます。H規則の計算方法はC規則と同様です。ただし、計算結果はコンフィギュレーションIDに影響しません。</p>

規則	説明
価格設定 (X) 規則	<p>価格調整と原価調整を定義します。X規則は、選択したキット/コンフィギュレータ価格設定方法を基に、個別に処理されます。通常、作業オーダーによって生成される行タイプを使用する場合は、原価調整を設定しないでください。X規則による原価調整は受注オーダーだけに影響します。オーダー処理プログラム (R31410) では、X規則を使用しなくても原価を再計算できます。</p> <p>たとえば、セグメント40がCUSの場合は、価格を650.00 USDで調整します。</p> <p>X規則の行タイプでは、在庫インターフェイスにNを設定する必要があります。また、「行タイプ固定情報の改訂」フォームの「非在庫品用品目マスターの編集」オプションの選択が解除されていることも確認する必要があります。この確認を行うことにより、「品目番号が無効です」というエラーがオーダー入力時に表示されなくなります。</p> <p>調整が親品目の価格に反映されるか、受注オーダーの新規明細合計行に入力されるかは、「価格積上げ」フィールドが有効になっているかどうかによって異なります。</p> <p>「コンフィギュレーション品目データ」フォームに定義されている基準日有効日付は、X規則の有効日付範囲とともに使用され、オーダー入力時に有効な規則を特定します。有効なすべてのX規則がオーダーに適用され、価格と原価が計算されます。</p> <p>参照: 第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「基準日有効日付を使用したコンフィギュレーション品目価格設定および原価計算について」、27ページ</p> <p>参照: 第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「コンフィギュレーション品目情報の定義」、41ページ</p>
作業工程 (R) 規則	<p>作業オーダーの作業工程およびその作業内容を定義します。オーダー処理プログラム (R31410) によって、作業オーダーの作業工程が追加されます。まず作業工程マスターの処理プログラム (P3003) で作業工程を定義しないと、作業工程規則を定義できません。</p> <p>たとえば、セグメント40がSTDの場合は標準塗装色の作業工程、それ以外の場合はカスタム塗装色の工程を使用します。</p>

重要: JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムが機能するには、Pアセンブリ組込規則を1つ以上設定しておく必要があります。

アセンブリ組込規則の情報を確認して、前述の規則を管理します。規則とテーブルは、非常に複雑な場合があります。照会プログラムを使用すると、設定対象の各種の規則およびテーブルに含まれるセグメントおよび構成成品を簡単に特定できます。不足品目、代替品目など、構成成品の変更による影響、および有効なセグメント値に対する変更による影響を判断できます。たとえば、仕入先がある塗装色を廃止した場合に影響を受けるコンフィギュレーションの数を特定できます。

ビジネス事例: アセンブリ組込規則

受注オーダーの作成時には、すべての明細情報が受注オーダーに出力されます。多くの場合、すべての情報が顧客に必要なわけではありませんが、受注オーダーにはすべての明細情報が含まれています。また、明細情報の中には顧客に公開したくないものもあります。適切な行だけを顧客の受注オーダーに印刷する必要があります。

受注オーダーを設定するには、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムのアセンブリ組込規則アプリケーションを使用します。部品を受注オーダーおよび作業オーダーの部品リストに追加するには、Pアセンブリ組込規則を使用します。また、部品を作業オーダーの部品リストだけに追加するには、Qアセンブリ組込規則を使用します。この2つのアセンブリ組込規則によって、受注オーダーおよび作業オーダーの部品リストを設定して、適切な情報を伝達できます。

アセンブリ組込規則ロジックについて

アセンブリ組込規則それぞれに、様々な条件の論理ステートメントを定義できます。このステートメントで、組み込む部品または品目の価格設定方法を決定できます。このロジックは、セグメント間編集規則で使用されるロジックと同様です。主な違いは、アセンブリ組込規則の論理ステートメントは条件付きのものも無条件のものも作成できるということです。

無条件のステートメントは、「AND/OR選択」フィールドのアスタリスク(THEN条件)で識別されます。セグメント回答値に関係なく同じ規則を適用する際は、無条件規則を使用します。条件付き規則を定義するには、まず無条件規則を定義する必要があります。無条件規則はすべて最初の規則(規則番号1)にまとめる必要があります。たとえば、部品が常に構成部品として含まれているか、または価格調整が常に行われる際は、無条件規則を使用します。

条件付き規則では、セグメント回答値を基に、ブール論理を使用してアクションの制御や条件付けを行います。また、AND/OR演算子を使用して、複合論理ステートメントを構成する条件付き規則を作成することもできます。次のPアセンブリ組込規則は、複合論理ステートメントの例です。IF Segment 10 equals 6000, AND segment 30 is greater than 10, THEN include part F170, ELSE include part F175。(セグメント10が6000で、かつセグメント30が10より大きい場合は部品F170を、そうでない場合はF175を含む。)

参照: [第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「ブール論理について」、32ページ](#)

条件付き論理ステートメントのそれぞれの句は個別のレコードで、個別の行に記述します。

規則は、別の色で強調表示すると、自動的にグループ化されます。

各規則が入力される順序を基に、規則番号が自動的に割り当てられます。規則番号とは、オーダー入力時のセグメント間編集規則の処理順序のことです。規則番号は、「アセンブリ組込規則の処理」フォームで「ロー」メニューの「前に挿入」または「後に挿入」を使用すると、アセンブリ組込規則の設定時に変更できます。

各規則の各行が入力される順序を基に、順序番号が規則の各行に自動的に割り当てられます。順序番号とは、規則内の各行が処理される際の処理順序のことです。順序番号は、「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームで「ロー」メニューの「前に挿入」または「後に挿入」を使用すると変更できます。

このシステムでは、複数レベルの参照が可能です。コンフィギュレーション品目の様々なレベルで、セグメントの値に対して上方参照および下方参照を実行できます。また、セグメント間の比較も可能です。たとえば、セグメント10がセグメント20より大きい場合は、品目F125が組み込まれます。レベルをまたがっての比較も可能です。たとえば、事業所M30の品目6000のセグメント10が、事業所M30の品目6100のセグメント20より大きい場合は、品目F250が含まれます。

アセンブリ組込規則では、「セグメント項目 - 左」、「セグメント事業所 - 左」、「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」、「セグメント項目 - 右」、「セグメント事業所 - 右」および「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドを使用します。

コンフィギュレーション品目エイリアスは、アセンブリ組込規則を使用して品目に割り当てられる場合があります。システムでは、コンフィギュレーション品目エイリアスはそのアセンブリ組込規則の別の品目に割り当てられていないかが検証されます。これによって、任意の規則上の2つの構成部品が同じコンフィギュレーション品目エイリアスに割り当てられることを回避できます。

コンフィギュレーション品目エイリアスがアセンブリ組込規則に割り当てられると、セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則の「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」および「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドを、コンフィギュレーション品目エイリアスを参照するように設定できます。コンフィギュレーション品目エイリアスがその規則内の品目に割り当てられていることが検証されます。

注意: アセンブリ組込規則のネストは、無制限に行うことができます。ただし、ネストを行うと、システムのパフォーマンスに影響があります。規則のネスト階層が深ければ深いほど、処理速度は低下します。

規則処理

コンフィギュレーション品目フォームが表示され、グリッドがロードされた後、コンフィギュレーション品目のオーダーを入力します。オーダーを入力する場合は、このオーダーがJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータでレベルごとに次のように処理されていることが検証されます。

1. セグメント値を変更するか、「オーダーに追加」ボタンをクリックしてすべてのデフォルト値を受け入れます。
2. セグメントの設定が検証されます。
UDCの検証、値の範囲チェック、英数字チェック、長さチェック、必須チェックなどが行われます。
3. 変更されたセグメントに関連するアセンブリ組込規則が処理されます。
 - a. Cアセンブリ組込規則の処理およびCセグメントの更新
計算によって導かれるセグメントの回答値がコンフィギュレーションの検証に必要なため、C規則がまず処理されます。この回答値は、コンフィギュレーション品目に対する他の計算を実行するときにも必要な場合があります。
 - b. Pアセンブリ組込規則の処理
 - c. Qアセンブリ組込規則の処理
Qアセンブリ組込規則が処理され、コンフィギュレータ構成部品テーブル (F3215) に構成部品が格納されます。構成部品は、原価を設定するための販売見積 (P4210) および部品リスト作成と原価設定のためのオーダー処理 (R31410) に使用されます。
 - d. Rアセンブリ組込規則の処理
Rアセンブリ組込規則が処理され、コンフィギュレータ作業工程テーブル (F3212) に作業工程が格納されます。作業工程は、原価を設定するための販売見積 (P4210) および作業工程作成と原価設定のためのオーダー処理 (R31410) に使用されます。
 - e. Xアセンブリ組込規則の処理
 - f. Hアセンブリ組込規則の処理
4. 変更されたセグメントに関連するセグメント間編集規則を処理します。
動的コンフィギュレーション入力が無効な場合は、エラー・メッセージが表示されます。
動的コンフィギュレーション入力がある場合は、次のように処理されます。
 - 他のセグメントの許容値がすべて更新され、有効な値のみが含まれます。

- あるセグメントの許容値が1つのみの場合は、有効な値が設定されます。
 - セグメントに対して有効な値がなくなった場合は、コンフィギュレーションからセグメントが削除されます。
5. セグメント間編集規則エラーがない場合は、「オーダーに追加」ボタンを有効化します。
 6. 「オーダーに追加」ボタンをクリックします。

次の図で規則処理を説明します。

注意: JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則での上方および下方参照をサポートしています。上方および下方参照に制限はありません。

アセンブリ組込規則の必須フィールド

次の表には、アセンブリ組込規則プログラムで、共通フィールド以外に各規則に指定する必要がある情報が記載されています。

規則	フィールド
P規則	<ul style="list-style-type: none"> • 品目番号 • 構成品事業所 • 部品印刷 • 数量 • 単位 • 作業順序番号 • 出庫タイプ • 行タイプ • 明細行生成 • トランザクション・タイプ • 仕入先No. <p>仕入先番号は、トランザクション・タイプ1(直送)および4(購買オーダー)に必要です。</p> <p>注意: P規則については、品目番号、スマート部品またはテーブル名を入力する必要があります。</p>
Q規則	<ul style="list-style-type: none"> • 品目番号 • 構成品事業所 • 数量 • 単位 • 作業順序番号 • 出庫タイプ • 行タイプ <p>注意: Q規則については、品目番号、スマート部品またはテーブル名を入力する必要があります。</p>
R規則	<ul style="list-style-type: none"> • 品目番号 • 構成品事業所 • 作業順序番号 <p>注意: すべての作業を使用する場合は、このフィールドを空白にします。</p>

規則	フィールド
X規則	<ul style="list-style-type: none"> • 単価 • 単位原価 • 価格積上げ • 行タイプ
C規則	<ul style="list-style-type: none"> • セグメント番号 • 比較演算子 <p>注意: C規則については、誘導計算またはテーブル名を入力する必要があります。</p>
H規則	<ul style="list-style-type: none"> • セグメント番号(ホットスポット番号) • 比較演算子 <p>注意: H規則については、誘導計算またはテーブル名を入力する必要があります。</p>

上級アセンブリ組込規則について

論理ステートメント以外に、上級アセンブリ組込規則の機能を任意に設定できます。上級アセンブリ組込規則は、「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームまたは「上級規則機能」フォームで設定します。

次の表に記載されているとおり、設定するアセンブリ組込規則のタイプによって上級アセンブリ組込規則の機能は変わります。

名称	P規則	Q規則	C規則	H規則	X規則	R規則
誘導計算	○	○	○	○	○	○
外部プログラム参照	○	○	○	○	○	○
コンフィギュレーション・テーブル	○	○	○	○	○	該当なし
スマート部品	○	○	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし

誘導計算について

すべての規則タイプで、1つ以上のセグメントの値を参照する計算を定義できます。誘導計算は、アセンブリ組込み規則編集グループの改訂フォームと上級規則機能フォームの両方で定義できます。

セグメント参照

計算式内では、どのセグメントも参照できます。同じコンフィギュレーション品目のセグメントを参照するには、「S」に続けてセグメント番号を入力します。

たとえば、「S3」という入力値は、セグメント3を表します。

異なるコンフィギュレーション品目のセグメントを参照するには、「S」、セグメント番号、およびコンフィギュレーション品目名を入力します。品目名は、等号で囲みます。

たとえば、「S3=Piston=」という入力値は、品目ピストン(Piston)のセグメント3を表します。

代数式

代数式を使用して、+、-、×、および÷の各演算子を使用した数学演算を組み合わせます。かっこで囲むと、計算を入れ子にすることができます。また、セグメント番号を計算式に埋め込んで、セグメント値を計算の一部として組み込むこともできます。

たとえば、次の計算式では、ブームが満載状態で伸びきっているフォークリフトが転倒しないようにするために必要なカウンタウェイトが計算されます。

$$\text{Derived Calculation: } S10 \div (4 \times \text{COS}(2 \times S30 \times 3.1416 \div 360 \times 2 \times 3.1416))$$

三角関数と対数関数

三角関数および対数関数は、単独で、または複合式の一部として使用できます。

次の三角関数を使用できます(値はラジアンで表しています)。

関数	説明
SIN(1.5)	1.5のサインを表します。
COS(S3)	セグメント3のコサインを表します。
TAN(S3)	セグメント3のタンジェントを表します。
ARC(S3)	セグメント3のアーク・タンジェントを表します。

次の対数関数を使用できます。

関数	説明
LOG	10を底とする対数を表します。
LN	自然対数を表します。
**	指数を表します。2**5は2の5乗です。

次の関数を使用できます。

関数	説明
SQR	平方根を表します。

サブistring

SUBSTR(サブistring)関数を使用すると、長い文字列の一部を計算式に組み込むことができます。

サブistringを計算するには、次の値を指定する必要があります。

- サブストリングを取得するセグメント
- 参照する値の文字列内の開始位置
- 参照する文字列の長さ

たとえば、セグメント10が400012の場合、次のように表すことができます。

関数	説明
SUBSTR(S10,1,4)	セグメント10の最初の位置から4文字分のサブストリングを表します。このサブストリングの値は4000です。
SUBSTR(S10,5,2)	セグメント10の5番目の位置から2文字分のサブストリングを表します。このサブストリングの値は12です。

結合

CONCAT(結合)関数を使用すると、2つの異なるセグメントの値を結合できます。次に例を示します。

関数	説明
CONCAT(S3,S4)	セグメント3とセグメント4の値を結合します。セグメント3の値が1001で、セグメント4の値がWH(白)の場合、結合された値は1001WHになります。

外部フィールド参照

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムの外部にあるフィールドを参照して、誘導計算で使用できます。

外部ファイル参照プログラムを使用して、次のテーブルからフィールドを選択します。

テーブル	名称
F0101	住所録マスター
F03012	業種別顧客マスター
F41002	単位換算係数
F4101	品目マスター
F4102	事業所品目
F41021	品目保管場所
F4105	品目原価
F4106	品目基本価格
F41092	品目補足データ・ユーザー定義コード

フィールド値の参照が終わると、その情報が「誘導計算」フィールドに表示されます。情報は、アンパサンド(&)で始まります。アンパサンドの後には、順にテーブルIDとフィールド・エイリアスが続きます。フィールド参照は、単独または複合式で使用できます。

フィールド値は、外部ファイル参照を介して組み込むこともできます。たとえば、品目6000(フォークリフト)の価格設定アセンブリ組込規則では、フィールド参照を使用してF4106テーブルから基本価格を取得します。計算式&BPUPRCが「誘導計算」フィールドに表示されます。この計算式に含まれるBPはF4106テーブルのテーブルIDで、UPRCは価格のエイリアスです。

規則の構成品の品目番号および事業所を使用して、適切なテーブルが検索されます。また、住所録マスターまたは請求指示テーブルのデータ取得には、住所録番号が使用されます。

補足データベースのフィールドを参照するには、データ・タイプも指定する必要があります。次のように、フィールドの後にデータ・タイプを入力します。

データ・タイプ	説明
&T2AMTU(WD)	品目補足データベース・テーブルの金額フィールドとデータ・タイプWDを表します。

F41002テーブルの単位フィールドを参照する際も、同様に単位を指定する必要があります。

リテラル・テキスト

リテラル・テキストを使用して、定数であるユーザー定義値を指定します。リテラルは、コンフィギュレータ機能で代替可能なテキストの追加に使用できます。リテラル・テキストを使用する場合、一重引用符で囲む必要があります。たとえば、'S10'はセグメント10の値を取得し、置換するのではなく、値S10を作成します。

スマート部品を作成するには、リテラル(定数)をセグメント値(変数)と結合して計算式を作成します。たとえば、リテラル「P」とセグメント4の値から構成されているスマート部品があるとします。この場合、計算式は'P' S4となります。セグメント4の値が2000だとすると、スマート部品の値はP2000となります。

参照: 第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「スマート部品について」、71ページ

外部プログラム参照について

本ソフトウェアの外部にあるプログラムを使用して、計算を定義できます。著しく複雑な計算を行うには、外部カスタム・ビジネス関数を参照します。

R、P、およびQの各規則の場合は、外部ビジネス関数によって、構成部品番号、構成部品事業所、および販売先番号が参照されます。H、C、またはXの各規則の場合は、外部ビジネス関数によって、コンフィギュレーション品目番号、事業所、および販売先番号が参照されます。

外部ビジネス関数を呼び出すには、あらかじめ複数の設定を行っておく必要があります。ビジネス関数オブジェクトを外部プログラム用に作成する必要があります。このビジネス関数オブジェクトは、作成後、オブジェクト・ライブラリアンに追加する必要があります。

アセンブリ組込規則プログラム(P3293)の関数使用コード処理オプションの値は、関数の呼び出しに使用されるオブジェクト・ライブラリアンのオブジェクト使用の値と同じである必要があります。

「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームで「誘導計算」フィールドにEXTVARと入力する必要があります。呼び出される外部ビジネス関数の名前を外部プログラム・フィールドに入力します。

外部関数の実行後、実行結果がEXTVARという名前の、組込規則内の30文字の変数に出力されます。

外部ビジネス関数では、キャッシュでソートされている入力済セグメントの値にアクセスしたり、使用したりすることもできます。B3200000データ構造は外部ビジネス関数に渡されます。

コンフィギュレーション・テーブルについて

コンフィギュレーション・テーブルを設定すると、アセンブリ組込規則を簡易化できます。設定には時間がかかりますが、テーブルを設定すると、規則の数が削減され、処理時間が短縮されます。各テーブルでは、アセンブリ組込規則を使用して、計算セグメントの戻り値、価格、および部品を参照したり、受注オーダーまたは作業オーダーに情報を表示したりします。

参照: [第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「コンフィギュレーション・テーブルの設定」、85ページ](#)

スマート部品について

品目の採番方法とアセンブリ組込規則を削減する必要性に応じて、スマート部品または特殊な品目番号を設定し、定義済セグメントの変数の値を使用します。スマート部品の使用は、アセンブリ組込規則の使用をより簡単にしたものとと言えます。

たとえば、ある製造業者では、コンフィギュレーション品目に対する塗装色が100種類あるとします。この場合、様々な塗装色を示すアセンブリ組込規則を100種類設定するかわりに、特殊な品目番号またはスマート部品を設定して塗装色を把握できます。上級規則機能フォームのスマート部品計算式フィールドの定義に従い、スマート部品によってセグメント品目と塗装色を組み合わせて1つの品目番号が採番されます。

スマート部品はPおよびQの各規則と連動します。スマート部品番号は、オーダー入力のセグメント値を使用して採番されます。スマート部品は、誘導計算と同様の方法で計算されます。ただし、スマート部品の計算結果は英数字の文字列です。スマート部品の計算結果として採番される品目番号を、品目マスター(F4101)と事業所品目テーブル(F4102)に定義する必要があります。

スマート部品の計算式では、略式、第2または第3の各品目番号を定義できます。スマート部品では、事業所固定情報に定義されている部品採番記号規則が使用されます。たとえば、スマート部品計算式で第3品目番号の識別記号が使用されている場合、第3品目番号が受注オーダーおよび作業オーダーの明細行に出力されます。

スマート部品の番号は、次の関数を使用して採番できます。

関数	説明
セグメント参照	別のレベルで入力済のセグメントを参照するには、そのレベルの品目番号をセグメント番号で指定します。たとえば、ピストンを表すセグメント4は、誘導計算でS4=Piston=と表します。
サブistring	文字列から特定の文字列を取り出すには、サブistring関数を使用します。セグメント、開始位置、および長さを指定すると、文字列が取り出されます。たとえば、セグメント4が1234の場合、最後の3文字(234)は、SUBSTR(S4, 2, 3)という表記で表すことができます。2が開始位置で、3がサブistringの長さです。

関数	説明
結合	2つのフィールドを結合するには、結合関数を使用します。たとえば、CONCAT (S3, S1) では、セグメント3とセグメント1の値を結合して1つのフィールドにします。
リテラル・テキスト	リテラル(定数)をセグメント値(変数)と結合して計算式を作成します。リテラル・テキストをスマート部品の計算に使用する場合、一重引用符で囲む必要があります。たとえば、リテラル「P」とセグメント4の値から構成されているスマート部品があるとした場合、計算式は'P' S4となります。セグメント4の値が2000だとすると、スマート部品の値はP2000になります。

ビジネス事例: 上級アセンブリ組込規則

ビジネスでは、オーダーの新規作成時に特殊な計算が実行されます。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムの上級アセンブリ組込規則の各機能を使用すると、セグメント参照、代数式、三角関数と対数関数、サブstring、結合、外部フィールド参照、外部ビジネス関数参照、コンフィギュレーション・テーブル、およびスマート部品をオーダー入力で活用できます。この機能により、製品コンフィギュレーションの検証時に計算を実行できます。したがって、計算値はオーダー入力担当者と顧客が利用できます。

ホットスポット・アセンブリ組込規則について

ホットスポットは、オーダー入力時に視覚情報を提供する場合に使用します。特定の種類の情報をオーダー入力処理時に表示すると、ユーザー側の効率が全体的に向上します。ホットスポット情報では、既定値(ハードコード値)またはユーザー定義の計算値を表示できます。ホットスポットは、表示専用です。

ホットスポット情報は、計算処理が正常にエラーなしで実行されると、有効になります。最初のホットスポットの選択値は、コンフィギュレーション品目の改訂プログラム(P3210)の処理オプションの設定を基に、表示されます。その後、ホットスポットの表示は動的に変更できます。ホットスポット・リンクをクリックし、UDC 32/HSテーブルから、新しく表示するホットスポットを選択します。

UDCには、ホットスポットの有効なエントリがすべて含まれています。また、UDCに含まれているコードによって、ホットスポット、記述、およびそのホットスポットがハードコードかどうかを表すフラグが参照できます。ハードコードのエントリは変更できません。また、999から降順で採番されます。ハードコードのホットスポット・エントリの例には、価格や原価(ともにオーダー入力モードで定義)、および重量があります。

ハードコードのホットスポット

ハードコードのホットスポットはあらかじめ決められています。また、変更はできません。ハードコードのホットスポットは、999から降順で採番されます。

ホットスポット値	説明
999	コンフィギュレーション内のすべての構成品の重量を加算した重量が表示されます。構成品の重量は、数量または単位を親品目の重量単位に変換して計算されます。販売見積(Q規則の結果)に含まれている構成品は、重量の積上げには含まれません。

ホットスポット値	説明
998	コンフィギュレーション内のすべての非コンフィギュレーション構成品の外貨原価を加算した原価(外貨)が表示されます。この外貨原価には、販売見積(Q規則の結果)の構成が含まれています。また、X規則で追加される原価、および「価格積上げ」がYに設定されているユーザー追加の原価も累計されます。
997	原価(外貨)998と同じ方法で累計される原価(国内通貨)が表示されます。ただし、累計されるのは国内通貨金額です。両方の通貨金額は個別に累計されます。また、2つの通貨金額間の換算は行われません。
996	受注オーダーで入力したモードに基づいて、原価(オーダー通貨)が原価(外貨)998または原価(国内通貨)997で表示されます。この処理によって、受注オーダーで両方の原価モードを入力できます。また、ホットスポットの選択を変更する必要もなくなります。
995	品目マスター・レコードの「キット/コンフィギュレータ価格設定方法」を基に計算される価格(外貨)が表示されます。どの品目の価格を累計するかは、この方法によって決まります。
994	価格(外貨)995と同じ方法で累計される価格(国内通貨)が表示されます。ただし、累計されるのは、国内通貨金額です。両方の通貨金額は個別に累計されます。また、2つの通貨金額間の換算は行われません。
993	受注オーダーに入力したモードに基づいて、価格(オーダー通貨)が価格(外貨)995または価格(国内通貨)994で表示されます。この処理によって、受注オーダーで両方の原価モードを入力できます。また、ホットスポットの選択を変更する必要もなくなります。
992	個別の受注オーダー行として合計されている外貨価格を累計する未合計価格(外貨)が表示されます。この処理には、X規則で追加される原価、および「価格積上げ」がNに設定されているユーザー追加の原価が含まれます。
991	未合計価格(外貨)992と同じ方法で累計される未合計価格(国内通貨)が表示されます。ただし、累計されるのは、国内通貨金額です。両方の通貨金額は個別に累計されます。また、2つの通貨金額間の換算は行われません。

ホットスポット値	説明
990	受注オーダーに入力したモードに基づいて、未合計価格(オーダー通貨)が未合計価格(外貨)992または未合計価格(国内通貨)991が表示されます。この処理によって、受注オーダーで両方の原価モードを入力できます。また、ホットスポットの選択を変更する必要もなくなります。
989	コンフィギュレータで品目に容量を含むように設定されている場合に、コンフィギュレーション内のすべての構成品の容量を加算した容量が表示されます。

注意: 前述の価格には、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の一括割引は含まれていません。

ホットスポット・アセンブリ組込規則の定義

H(ホットスポット)アセンブリ組込規則を定義するには、ホットスポットUDC値をUDCテーブル32/HSに定義する必要があります。

ユーザー定義のホットスポットは、Hアセンブリ組込規則を使用して指定します。ホットスポット規則は、C(計算)アセンブリ組込規則と同様に機能します。つまり、この処理では、誘導計算、外部プログラム・インターフェイスなどの機能を活用できるということです。コンフィギュレーション・テーブルもH規則タイプでサポートされています。

ホットスポット(H規則)は計算値(C規則)と同じ方法で処理されます。つまり、コンフィギュレーション検証が失敗すると、コンフィギュレータ固定情報で定義されているユーザー定義のエラー文字が表示されます。親品目の処理が最後に実行されるという点で、H規則はC規則とは異なります。また、どのレベルからのどのような参照も可能です。

UDC 32/HSの値は、F3293アセンブリ組込規則評価ビジネス関数(B3200460)で、ホットスポット(H規則)を数値または文字として処理する際に使用します。規則の結果が数字(Y/N)の定義に一致する場合、UDCの定義に基づいて丸められます。UDC 32/HSに関する第2行(Y/N)を使用すると、フォームに表示する前に結果を無効にする場合に使用する編集コードを入力できます。この編集コードは、標準的なプログラミング編集コードです。

注意: ホットスポットがUDC 32/HSに定義されている一方で、対応するHアセンブリ組込規則が定義されていない場合は、オーダー入力時にホットスポットによって、「コンフィギュレーション品目の改訂」フォームに値「0」が表示されます。

アセンブリ組込規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
ユーザー定義コード	W0004AI	「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)、「ホットスポット記述」 「ユーザー定義コードの処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	ホットスポットに対するコードを定義します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
アセンブリ組込規則の処理	W3293N	「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)、「アセンブリ組込規則」	事業所および規則タイプごとに、コンフィギュレーション品目を検索および確認します。 規則の値または範囲を確認するには、レコードを選択し、「ロー」メニューの「値」または「範囲」を選択します。
アセンブリ組込み規則編集グループの改訂	W3293A	最初の規則を追加する際は、「アセンブリ組込規則の処理」フォームで、「フォーム」メニューの「改訂」を選択します。 さらに規則を追加する際は、レコードを選択して「ロー」メニューの「編集グループの挿入」を選択し、「前に挿入」または「後に挿入」を選択します。 既存の規則を変更するには、規則を選択し、「選択」をクリックするか、「ロー」メニューから「編集グループ」を選択します。	アセンブリ組込規則ロジックを定義します。 アセンブリ組込規則をコピーします。 条件付き論理ステートメントの各句に対し、グリッドのローを1つずつ使用します。
値の改訂	W32921B	「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームの「値」フィールドに「*Values」と入力し、[Tab]を押して次のフィールドに移動します。	既存の値の確認や、値の新規定義を行います。 参照: 第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「セグメント間論理ステートメントの値の定義」、57ページ
範囲の改訂	W32921E	「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームの「値」フィールドに「*RANGE」と入力し、[Tab]を押して次のフィールドに移動します。	既存の範囲の確認や、範囲の新規定義を行います。 参照: 第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「セグメント間論理ステートメントの範囲の定義」、57ページ
上級規則機能	W3293B	「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューの「上級規則」を選択します。	上級アセンブリ組込規則を定義します。 注意: 上級規則の情報は、「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームで定義することもできます。
規則コピー・ウィンドウ - アセンブリ組込規則	W3297B	「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームで「ロー」メニューの「コピー」を選択します。	アセンブリ組込規則をコピーします。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
誘導計算	W329303B	「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューの「誘導計算」を選択します。	誘導計算をテストします。 精度をテストします。販売見積を実行して計算値を確認する必要はありません。 入力したセグメント値を基に、誘導計算を実行します。
構成品/仕入先使途先の処理	W32930A	「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)、「構成品/仕入先使途先の処理」	アセンブリ組込規則タイプ別に構成品を特定し、構成品の使用先を確認します。 Pのアセンブリ組込規則によって仕入先を特定し、仕入先が供給した構成品を確認します。
アセンブリ組込規則セグメント使途照会の処理	W329301A	「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)、「アセンブリ組込規則セグメント使途先照会」	アセンブリ組込規則の情報を検索および確認します。
テーブルで使用したアセンブリ組込規則の処理	W329302A	「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)、「アセンブリ組込規則テーブル使途先照会」	規則タイプ別にテーブルを特定し、テーブルの使用先を確認します。

ホットスポットに対するコードの定義

「ユーザー定義コード」フォームにアクセスします。

ホットスポットに対するUDCをUDCテーブル32/HSに定義する必要があります。ホットスポットを定義すると、対応する計算と一緒にアセンブリ組込規則を定義できます。

「記述02」のカラムがUDCテーブルに表示されない場合は、UDC 32/HSの設定を次のように変更します。

1. 「ユーザー定義コードの処理」フォームで、「フォーム」メニューから「コード・タイプ」を選択します。
2. 「コード・タイプ」QBE (例示照会プログラム) 行にHSと入力し、「検索」をクリックします。
3. 「選択」をクリックして「ユーザー定義コード・タイプ」フォームにアクセスします。
4. 「第2行(Y/N)」フィールドにYと入力します。
この手順では、最初のUDCテーブルの2つ目の記述フィールドが表示されます。
5. 「数字(Y/N)」フィールドがYに設定されていることを確認します。
6. 「OK」をクリックし、「閉じる」をクリックします。
7. 「ユーザー定義コードの処理」フォームで、「記述02」カラムがテーブルに表示されている場合は、「追加」ボタンをクリックします。

コード 定義するホットスポットの番号を入力します。

記述01 ホットスポットの番号を入力します。

記述02 指定したコード(ホットスポット)を数値ステートメントと文字ステートメントのどちらとして処理するかを入力します。

ホットスポットのデフォルト値は文字です。「記述2」カラムがブランクまたはNの場合、ホットスポットの計算式は文字列として扱われます。計算値ではなく、計算式が表示されます。

(Blank)は、データ辞書項目CNUMに含まれるデフォルト値を表します。通常、デフォルト値はN(文字)と定義されています。

期待される回答値が数値で、ホットスポットがハードコードされていない場合、「記述2」カラムにはYX(Xは数字)が指定されている必要があります。Yは回答値が数値であることを表し、Xは小数第何位で丸めるかを表します。

ハードコードされたホットスポットは数値としてあらかじめ定義されているため、1文字目は特に重要ではありません。端数処理のために、2文字目に数字を指定するだけで十分です。

たとえば、1.2345という計算値のユーザー定義のホットスポットがあるとします。

Nと指定されている場合、計算式が表示されます。計算値は表示されません。

Y2と指定されている場合、1.23と表示されます。

Y9と指定されている場合、1.2345と表示されます。小数部分が9桁を超えるまで端数処理は行われません。

特殊取扱コード

使用言語を指定します。ホットスポットの計算には、影響しません。

ハードコード

特定のホットスポットをハードコードとソフトコードのどちらに定義するかを指定します。自動定義のホットスポットはハードコードで、このフィールドはYになります。ユーザーがホットスポットのコードを設定する場合、このフィールドはNにする必要があります。

アセンブリ組込規則プログラム(P3293)の処理オプションの設定

この処理オプションでは、アセンブリ組込規則プログラムのデフォルトの処理を制御します。

デフォルト

この処理オプションでは、デフォルトの規則タイプを制御します。

規則タイプ

アセンブリ組込規則の結果値が部品番号、価格、作業工程、計算値のどれであるかを指定します。値は次のとおりです。

P: 部品リスト

Q: 作業オーダー部品リスト

C: 計算

H: ホットスポット

X: 価格/原価調整

R: 工程シート

相互規則用行タイプ

行の処理方法を指定します。このコードにより、JD Edwards EnterpriseOne一般会計、JD Edwards EnterpriseOne作業原価、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理など、連動して取引を処理するシステムが制御されます。また、

行をレポートに印刷する場合や、行を計算に組み込む場合の条件も指定します。次のようなコードがあります。

- S: 在庫品目
- J: 作業原価
- N: 非在庫品目
- F: 運賃
- T: テキスト情報
- M: その他費用
- W: 作業オーダー

編集

この処理オプションでは、外部プログラムの検証を制御します。

関数使用コード

外部プログラムの検証に対する関数の用途を入力します。この処理オプションを空白にすると、外部プログラムとして指定されたビジネス関数およびUBEオブジェクトに対する関数使用コードは検証されません。

アセンブリ組込規則ロジックの定義

「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームにアクセスします。

AND/OR 選択	親セグメント番号	比較演算子	値	比較セグメント番号	順序番号	品目番号	品目記述
I	10	EQ	6000		1		
A	30	GE	10		2		
*					3	6014	Pneumatic Tire
E					4	6015	Hard Rubber Tire

「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォーム

ブール論理を使用して、アセンブリ組込規則それぞれに無条件規則と条件付き規則を定義します。条件付き規則を定義するには、まず無条件規則を定義して、セグメント値に影響されない部品、価格調整、原価調整、計算値、表示値、作業工程を組み込みます。

注意: 無条件規則はすべて最初の規則(規則番号1)にまとめる必要があります。

コンフィギュレーション品目の別のレベルからセグメントを参照する手順は次のとおりです。

1. 「AND/OR選択」フィールドに値を入力します。

2. 「セグメント項目 - 左」、「セグメント事業所 - 左」、「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」、「セグメント項目 - 右」、「セグメント事業所 - 右」および「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドに値を入力します。
3. 残りの規則情報を続けて入力します。

注意: コンフィギュレーション品目内の別のレベルからセグメントを参照する際、この順序で規則が記述されていない場合は、誤ったセグメントが参照されるか、エラー・メッセージが表示されます。

規則タイプ	<p>アセンブリ組込規則の結果値が部品番号、価格、作業工程、計算値のどれであるかを表す値を入力します。値は次のとおりです。</p> <p>P: 部品リスト Q: 作業オーダー部品リスト C: 計算 H: ホットスポット X: 価格/原価調整 R: 工程シート</p>
親セグメント番号	<p>質問に対する回答を参照するための番号を入力します。セグメント番号はユーザーが定義します。</p> <p>セグメント間編集規則では、設定値によって有効なコンフィギュレーションが定義されていることを確認するために、セグメント番号が参照されます。</p> <p>アセンブリ組込規則では、価格、構成部品、作業工程、および計算値をコンフィギュレーション品目に定義するために、セグメント番号およびそのセグメントに関連付けられた値が参照されます。</p> <p>このセグメント番号がアセンブリ組込規則またはセグメント間編集規則で使用される場合は、これが条件の左側に使用されるセグメントになります。</p>
比較セグメント番号	<p>質問に対する回答を参照するための番号を入力します。セグメント番号はユーザーが定義します。</p> <p>セグメント間編集規則では、設定値によって有効なコンフィギュレーションが定義されていることを確認するために、セグメント番号が参照されます。</p> <p>アセンブリ組込規則では、価格、構成部品、作業工程、および計算値をコンフィギュレーション品目に定義するために、セグメント番号およびそのセグメントに関連付けられた値が参照されます。</p> <p>このセグメント番号がアセンブリ組込規則またはセグメント間編集規則で使用される場合は、これが条件の右側に使用されるセグメントになります。</p>
品目番号	<p>品目に割り当てられる番号を入力します。略式、詳細形式、第3品目番号形式があります。</p>
構成事業所	<p>2次または下位レベルのビジネスユニットを入力します。この入力値によって、事業所の下に複数の従属部門または作業があることが示されます。たとえば、構成部品事業所の名称をMMCUと仮定します。</p> <p>この場合、MMCUの構成は次のとおりになります。</p> <p>事業所 - (MMCU) 部署A - (MCU)</p>

<p>部署 B - (MCU)</p> <p>作業 123 - (MCU)</p>	<p>UDC 32/CI の値を入力します。この値は、規則によって参照されるコンフィギュレーション品目の特定のインスタンスを指定します。</p> <p>「アセンブリ組込規則」フォームの「コンフィギュレーション品目エイリアス」フィールドでは、特定の組込品目を参照できます。これは必須フィールドではありません。「コンフィギュレーション品目エイリアス」フィールドは、重複した構成部品に使用します。重複した構成部品にこのフィールドを使用しない場合、重複した構成部品は、キャッシュに格納されている最初の重複した品目の値に基づいて処理されます。</p>
<p>コンフィギュレーション品目エイリアス</p>	<p>重要: 正しい重複品目がコンフィギュレーションで使用されていることを確認するには、「コンフィギュレーション品目エイリアス」フィールドを使用してください。</p> <hr/> <p>コンフィギュレーション品目エイリアスは、アセンブリ組込規則を使用して品目に割り当てられる場合があります。システムでは、コンフィギュレーション品目エイリアスがそのアセンブリ組込規則の別の品目に割り当てられていないかが検証されます。これによって、任意の規則上の 2 つの構成部品が同じコンフィギュレーション品目エイリアスに割り当てられることを回避できます。</p> <p>コンフィギュレーション品目エイリアスがアセンブリ組込規則に割り当てられると、セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則の「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」および「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドを、コンフィギュレーション品目エイリアスを参照するように設定できます。コンフィギュレーション品目エイリアスがその規則内の品目に割り当てられていることが検証されます。</p>
<p>部品印刷</p>	<p>UDC (32/PF) を入力して、受注オーダーおよび作業オーダーにコンフィギュレーション部品を出力するかどうかを指定します。このフィールドに入力する値により、ピッキング・リスト印刷 (R42520)、請求書印刷 (R42565)、船荷証券 (R42530)、および作業オーダー印刷 (R31415) の部品リストなどの出力内容が変わります。値は次のとおりです。</p> <p>0: 受注オーダーにも作業オーダーにもコンフィギュレーション部品を出力しない。</p> <p>1: 受注オーダーと作業オーダーの両方。</p> <p>2: 受注オーダーのみ。</p> <p>3: 作業オーダーのみ。</p>
<p>数量</p>	<p>トランザクションに適用される数量を入力します。</p>
<p>単位</p>	<p>金額または数量の単位を識別する UDC (00/UM) を入力します。バレル、箱、立方メートル、リットル、時間などがあります。</p>
<p>作業順序番号</p>	<p>作業順序を示す番号を入力します。</p> <p>作業工程指示では、品目の製造における加工や組立ステップの作業順序を指定する番号になります。作業別に原価をトラッキングして時間を請求できます。</p> <p>部品表では、製造または組立プロセスで特定の構成部品を必要とする作業工程ステップを指定する番号になります。品目の作業工程指示を作</p>

成してから、作業順序を定義します。JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理システムでは、作業プロセス別にバックフラッシュまたはプレフラッシュでこの番号が使用されます。

設計変更オーダーでは、設計変更における組立ステップの作業順序を指定する番号になります。

繰り返し生産では、品目の製造スケジュールにおける作業順序を示す番号になります。

スキップ先のフィールドには、情報の表示を開始する作業順序番号を入力できます。

小数を使用すると、既存のステップ間にステップを追加できます。たとえば、ステップ12と13の間にステップを追加するには12.5を使用します。

出庫タイプ

部品表の各構成成品を在庫から出庫する方法を示すコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理では、この値は、システムによって部品が作業オーダーにどのように出庫されるかを示します。値は次のとおりです。

- I: 手作業による出庫
- F: 床積在庫(出庫なし)
- B: バックフラッシュ(部品の完了報告時)
- P: プレフラッシュ(部品リスト生成時)
- U: スーパー・バックフラッシュ(引落点作業時)
- S: 外注品目(仕入先へ送信)
- ブランク: 出荷可能最終品目

部品表および作業オーダー部品リストで異なるコードを使用すると、1つの事業所内で1つの構成成品を複数の方法で出庫できます。部品表コードによって、事業所の値が一時変更されます。

行タイプ

取引行の処理方法を制御するコードを入力します。これにより、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理、JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理など、トランザクションがやり取りをするシステムが制御されます。また、行をレポートに印刷する場合や、行を計算に組み込む場合の条件も指定します。次のようなコードがあります。

- S: 在庫品目
- J: 作業原価
- N: 非在庫品目
- F: 運賃
- T: テキスト情報
- M: その他費用
- W: 作業オーダー

明細行生成

UDC 32/WAの値を入力して、構成成品が出荷されるかどうかを示す明細行が構成成品の行に対して生成されるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

- 0: 作成しない。

1: 作成する。

このフィールドは、規則タイプがPの場合にのみ機能します。このフィールドを正しく設定すると、明細が受注オーダーに書き込まれます。また、原価も受注オーダーに積み上げられます。購買オーダーの構成品では明細行が生成されないため、このフィールドは購買オーダーでは機能しません。

明細行が処理されないようにするには、明細行生成を無効にします。

トランザクション・タイプ

UDC 32/DEの値を入力して、コンフィギュレーション品目の構成品目によって生成されるトランザクションのタイプを指定します。トランザクション・タイプに適合しないトランザクション、処理オプション、および事業所を条件に指定した場合、トランザクションは生成されません。「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームの「トランザクション・タイプ」フィールドと「明細行の生成」フィールドを使用します。値は次のとおりです。

0: 受注オーダー

1: 直送

2: 転送

3: 事業所間

4: 購買オーダー

注意: 直送オーダーまたは購買オーダー・トランザクション・タイプを選択する場合は、構成品目の「仕入先番号」を入力する必要があります。

このフィールドは、規則タイプがPの場合にのみ機能します。

「トランザクション・タイプ」フィールドの値が4(購買オーダー)の場合、構成品目の在庫タイプと行タイプの両方が検証されます。擬似品目の在庫タイプ、あるいは購買オーダーや作業オーダーを生成するように設定された行タイプの品目はサポートされていません。

仕入先番号

仕入先のJD Edwards EnterpriseOne住所録システムにあるエントリを識別する番号を入力します。

「トランザクション・タイプ」フィールドで1(直送)または4(購買オーダー)の値を選択する場合は、構成品目の仕入先番号を入力する必要があります。

「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームの「仕入先番号」フィールドに値が入力されていない場合は、「品目/事業所情報」フォームから仕入先番号が取得され、この番号がデフォルト値として入力されます。

このフィールドは、規則タイプがPの場合にのみ機能します。Q規則では表示専用です。

セグメント項目 - 左

条件の左側で参照されるセグメントに対する親コンフィギュレーション品目の品目番号を入力します。このフィールドを使用して、別のコンフィギュレーション・レベルで選択されているセグメントを参照します。

セグメント事業所 - 左

条件の左側で参照されるセグメント番号を含むコンフィギュレーション品目に関連する事業所を入力します。この値を使用して、別のコンフィギュレーション・レベルで選択されているセグメント、および「セグメント項目 - 左」フィールドの品目の事業所を参照します。

コンフィギュレーション品目 エイリアス - 左

UDC 32/CIの値を入力します。この値は、条件の左側で参照されるコンフィギュレーション品目の特定のインスタンスを指定します。

「セグメント間編集規則」および「アセンブリ組込規則」フォームの「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」フィールドでは、特定の組込品目を参照できます。これは必須フィールドではありません。「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」フィールドは、重複した構成部品に使用します。重複した構成部品にこのフィールドを使用しない場合、重複した構成部品は、キャッシュに格納されている最初の重複した品目の値に基づいて処理されます。

重要: 正しい重複品目がコンフィギュレーションで使用されていることを確認するには、「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」フィールドを使用することをお勧めします。

コンフィギュレーション品目エイリアスは、アセンブリ組込規則を使用して品目に割り当てられる場合があります。システムでは、コンフィギュレーション品目エイリアスとそのアセンブリ組込規則の別の品目に割り当てられていないかが検証されます。これによって、任意の規則上の2つの構成部品が同じコンフィギュレーション品目エイリアスに割り当てられることを回避できます。

コンフィギュレーション品目エイリアスがアセンブリ組込規則に割り当てられると、セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則の「コンフィギュレーション品目エイリアス - 左」フィールドを、コンフィギュレーション品目エイリアスを参照するように設定できます。コンフィギュレーション品目エイリアスがその規則内の品目に割り当てられていることが検証されます。

セグメント項目 - 右

条件の右側で参照されるセグメントに対する親コンフィギュレーション品目の品目番号を入力します。このフィールドを使用して、別のコンフィギュレーション・レベルで選択されているセグメントを参照します。

セグメント事業所 - 右

条件の右側で参照されるセグメント番号を含むコンフィギュレーション品目に関連する事業所を入力します。この値を使用して、別のコンフィギュレーション・レベルで選択されているセグメント、および「セグメント項目 - 右」フィールドの品目の事業所を参照します。

コンフィギュレーション品目エイリアス - 右

UDC 32/CIの値を入力します。この値は、条件の右側で参照されるコンフィギュレーション品目の特定のインスタンスを指定します。

「セグメント間編集規則」および「アセンブリ組込規則」フォームの「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドでは、特定の組込品目を参照できます。これは必須フィールドではありません。「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドは、重複した構成部品に使用します。重複した構成部品にこのフィールドを使用しない場合、重複した構成部品は、キャッシュに格納されている最初の重複した品目の値に基づいて処理されます。

重要: 正しい重複品目がコンフィギュレーションで使用されていることを確認するには、「コンフィギュレーション品目エイリアス - 右」フィールドを使用してください。

コンフィギュレーション品目エイリアスは、アセンブリ組込規則を使用して品目に割り当てられる場合があります。システムでは、コンフィギュレーション品目エイリアスとそのアセンブリ組込規則の別の品目に割り当てられていないかが検証されます。これによって、任意の規則上の2つの構成部品が同じコンフィギュレーション品目エイリアスに割り当てられることを回避できます。

コンフィギュレーション品目エイリアスがアセンブリ組込規則に割り当てられると、セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則の「コンフィギュ

レーション品目エイリアス - 右」フィールドを、コンフィギュレーション品目エイリアスを参照するように設定できます。コンフィギュレーション品目がその規則内の品目に割り当てられていることが検証されます。

- 単価** 単位に対して請求される価格を隣接するフィールドに入力します。たとえば、基本単位はEA(個)であるものの、通常は箱ごとの表示価格を使用する場合にこのフィールドを使用します。
- 単位原価** ユーザーが指定した情報を基に使用されるユーザー定義の原価を入力します。この原価には、原価計算方法および計算方法の名前が含まれています。
- 価格積上げ** UDC(32/PP)を入力して、追加する価格または原価が親コンフィギュレーション品目の価格または原価に含まれるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

 - 0: 追加する価格または原価は親品目の価格または原価に含まれない。
 - 1: 追加する価格または原価は親品目の価格または原価に含まれる。この値を指定すると、合計価格または合計原価はゼロになります。
- 規則番号** 特定のコンフィギュレーション品目に対する規則が入力された順序を表す番号を表示します。この番号は、規則の処理順序も表します。
- 順序番号** セグメント間編集規則またはアセンブリ組込規則の編集グループ内の行の順序番号を表示します。この番号は、コンフィギュレーション品目に対して入力される順序に基づいて規則内の行に割り当てられます。規則内に行を挿入すると、順序番号を新規に割り当てることができます。

順序番号は、規則内の各行の処理順序も表します。

上級アセンブリ組込規則の定義

「上級規則機能」フォームにアクセスします。

The screenshot shows a software window titled "アセンブリ組込規則 - 上級規則機能". At the top, there are menu options: "OK(O)", "取消(L)", "フォーム(F)", and "ツール(T)". Below the menu are several icons. The main area contains a form with the following fields:

- 規則No.: 1
- 規則順序No.: 2
- 規則タイプ: P
- 更新モード: (empty)
- 誘導計算: (S60/50)+1
- 外部プログラム: (empty)
- テーブル名: (empty)
- スマート部品計算式: (empty)

「上級規則機能」フォーム

アセンブリ組込規則のコピー

「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームにアクセスします。

アセンブリ組込規則をコピーするには、次の手順に従います。

1. ブランク行を選択します。

2. 「ロー」メニューの「コピー」を選択します。
3. 「規則コピー・ウィンドウ - アセンブリ組込規則」フォームで、規則のコピー元のコンフィギュレーション品目を検索します。
4. 1つ以上の行を選択し、「選択」をクリックします。
5. 「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームで、必要に応じて変更を行います。

誘導計算のテスト

「誘導計算」フォームにアクセスします。

アセンブリ組込規則 - 誘導計算

取消(L) 計算 フォーム(F) ツール(T)

×

コンフィギュレータ規則タイプ: P ビジネスユニット: M30

誘導計算: $(S60/50)+1$

計算値:

レコード 1-1 グリッドのカスタマイズ

セグメントNo./外部フィールド	第2品目番号	記述	回答	デフォルト回答	コード(Y/N)	製
60	6000	Calculated Counter Weight			Y	コ

「誘導計算」フォーム

注意: アセンブリ組込規則のテスターを使用して、6タイプのアセンブリ組込規則のいずれかに対して、誘導計算のテストを実行します。テスト対象の誘導計算は、フォームの上部に表示されます。誘導計算に関連付けられたセグメントは、フォームの中央部に表示されます。

回答 表示されるセグメントそれぞれの「回答」フィールドに値を入力し、「計算」ボタンをクリックします。

計算値 「計算値」フィールドに表示される値が正しいかどうかを確認します。

アセンブリ組込規則の印刷

「アセンブリ組込規則の処理」フォームで、「フォーム」メニューの「規則の印刷」を選択します。

アセンブリ組込規則の印刷プログラム (R32493) を実行し、アセンブリ組込規則のハード・コピーを印刷してアセンブリ組込規則の設定を確認します。

コンフィギュレーション・テーブルの設定

この項では、コンフィギュレーション・テーブルの設定の概要、および次の処理を行う方法について説明します。

- コンフィギュレーション・テーブルのテーブル名の定義
- コンフィギュレーション・テーブルの定義プログラム (P3281) の処理オプションの設定

- コンフィギュレーション・テーブルのディメンションの定義
- コンフィギュレーション・テーブル/品目相互参照プログラム (P3282) の処理オプションの設定
- コンフィギュレーション・テーブル/品目の相互参照の定義
- Cテーブルのテーブル戻りセグメント値の定義
- コンフィギュレーション・テーブル値プログラム (P3283) の処理オプションの設定
- コンフィギュレーション・テーブルの値の定義
- アセンブリ組込規則とコンフィギュレーション・テーブルの関連付け
- コンフィギュレーション・テーブルのコピー
- コンフィギュレーション・テーブルの確認
- コンフィギュレーション規則テーブル値の印刷

コンフィギュレーション・テーブルの設定について

コンフィギュレーション規則テーブルは、コンフィギュレーション品目に対して定義するデータの集合です。オーダーの処理時にアセンブリ組込規則によってテーブルが参照され、構成品部品、計算セグメント値、価格調整、表示情報が読み込まれます。

テーブルを使用することにより、セグメントの回答値が膨大な数になった場合に、必要なアセンブリ組込規則の数を減らすことができます。テーブル・タイプは、そのテーブルを参照するアセンブリ組込規則タイプと同じにする必要があります。

テーブルを設定することで、システムの設定段階には時間がかかります。しかし、テーブルを使用することによって、アセンブリ組込規則の数とその複雑さを大幅に軽減できるため、結果的には処理時間を短縮して設定を簡略化できます。

コンフィギュレーション品目のオーダーを入力するときに、品目に対して定義されているセグメントの回答値を指定します。たとえば、フォークリフトの場合、セグメント10(リフト定格)に対して値4000を選択し、セグメント20(パワータイプ)に対して値PROPANEを選択します。

各セグメントに対して定義した値に応じて、該当オーダーに戻す情報を指定できます。各セグメントの値は、テーブルに対するキーとして定義する必要があります。

次の表は定義可能なテーブルの一覧で、該当するアセンブリ組込規則タイプに対応しています。

テーブル	説明
Pテーブル(数量/部品)	複数の部品番号を戻す部品テーブルを定義します。コンフィギュレーション品目を製造する際には、Pテーブルから受注オーダーに部品番号が読み込まれ、最終的には作業オーダーの部品リストに読み込まれます。
Qテーブル(数量/部品)	複数の部品番号を戻す部品テーブルを定義します。Pテーブルと似ていますが、Qテーブルからは部品番号が作業オーダーの部品リストのみに読み込まれます。受注オーダーには値は読み込まれません。
Cテーブル(計算値)	コンフィギュレーション品目セグメントで定義した、複数の数値または英数字の値を戻す、計算セグメント・テーブルを定義します。Cテーブルから計算値がセグメントに戻されます。この値は、他の規則タイプで処理の制御や反映をするのに使用できます。

テーブル	説明
Hテーブル(ホットスポット)	オーダー入力フォームの「ホットスポット」フィールドに戻す、コンフィギュレーション品目の数値情報を定義します。このフィールドは表示専用です。Hテーブルからの戻り値は、1つだけです。Hテーブルの考え方はCテーブルと似ています。ホットスポット情報の例としては、価格、外貨価格、国内価格、原価、外貨原価、国内原価、重量があげられます。
Xテーブル(価格設定)	1つの数値に戻す価格テーブルを定義します。Xテーブルの価格は、1つ以上のセグメントの回答値に基づいて受注オーダーに戻されます。特別に設定をしていないかぎり、行タイプのデフォルトはMに設定されます。アセンブリ組込規則の行タイプが何であっても、規則の価格積上げフラグの設定が優先されます。つまり、親品目とは別に積み上げられる場合も、親品目の一部として積み上げられる場合もあります。Xテーブルからの戻り値は、1つのみです。

注意: 作業工程用のアセンブリ組込規則に対応するテーブルはありません。

HテーブルとXテーブルでは戻すことのできる値は1つだけのため、これらのテーブル・タイプの戻り値のディメンションを指定する場合、使用可能な設定オプションは限定されます。

テーブルには多数のセグメント(キー)と値が含まれるため、テーブル情報を確認するには、どのように表示するかをあらかじめ決定しておく必要があります。

注意: JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システム内で規則処理に使用されるテーブルは、UDCではありません。

テーブル情報を使用する際には、ローのデータがコピーできるように処理オプションを設定しておく、データ入力を迅速に行うことができます。

テーブルには有効日付を定義することもできます。

複数の値に戻すCテーブルを作成する場合は、テーブル/品目相互参照ステップで戻りセグメント番号を定義する必要があります。「テーブル戻りセグメント値」フォームは、Cテーブルを入力すると自動的に表示されます。

コンフィギュレーション・テーブルのディメンションの定義

コンフィギュレーション・テーブルを作成するには、テーブル・タイプとディメンションを定義する必要があります。ディメンションは、テーブルのキーとして使用されるセグメントの数、およびテーブルからコンフィギュレーション品目に戻される値の数を表します。テーブルに対するキーの最大数は20です。戻り値の最大数は99,999です。

テーブルには次のディメンションを設定できます。

- 1つのセグメントと1つの戻り値
- 1つのセグメントと複数の戻り値
- 複数のセグメントと1つの戻り値
- 複数のセグメントと複数の戻り値

テーブルで処理する内容は、ディメンションを定義する前に決めておく必要があります。1つのセグメントと1つの戻り値を設定したテーブルは、価格、原価、ホットスポット値、その他の固有情報などを定義する場合に特に便利です。

1つのセグメントから複数の情報を常に戻すことができる場合は、1つのセグメントと複数の戻り値を設定したテーブルを作成することもできます。特定のセグメント回答値に多数の構成品番号が関連付けられます。たとえば製紙業者の場合、あるサイズのレターヘッドに対し、対応するサイズの封筒と返信用カードの値を戻すように設定できます。

PテーブルまたはQテーブルを使用すると、複数のセグメントと複数の戻り値を設定したテーブルを作成できます。PテーブルとQテーブルでは、Pアセンブリ組込規則とQアセンブリ組込規則に基づき、部品の値が受注オーダーまたは作業オーダーに戻されます。

注意: 複数のセグメントと複数の戻り値を設定したテーブルを使用する際は、フォームのカラムにセグメント情報、ローに値が表示されることに注意してください。

アセンブリ組込規則とコンフィギュレーション・テーブルを関連付ける方法について

テーブルの値を定義した後は、テーブルへのアクセスを設定して、部品番号、計算値、価格調整、または表示情報がオーダーに読み込まれるようにする必要があります。テーブルは、対応するアセンブリ組込規則に関連付けられます。テーブルには無条件規則と条件付き規則のどちらからでもアクセスできます。オーダー処理時にアセンブリ組込規則によりテーブルが読み取られ、値がオーダーに戻されます。

コンフィギュレーション・テーブルの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
ユーザー定義コード	W0004AI	「略式コマンド」フィールドにUDCと入力します。 「ユーザー定義コードの処理」フォームでテーブル32/TNを検索し、「追加」をクリックします。	テーブル名を追加します。
コンフィギュレーション・テーブル定義の処理	W3281B	「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)、「コンフィギュレーション・テーブルの定義」	コンフィギュレーション・テーブル定義の検索と確認を行います。
規則テーブル定義の改訂	W3281A	「コンフィギュレーション・テーブル定義の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	コンフィギュレーション・テーブル定義を設定します。
コンフィギュレーション品目相互参照の処理	W3282A	「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)、「テーブル/品目相互参照」	コンフィギュレーション品目のテーブル・タイプとテーブル名の検索と確認を行います。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
コンフィギュレーション品目 相互参照の改訂	W3282B	「コンフィギュレーション品目相互参照の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	コンフィギュレーション・テーブル/品目の相互参照を定義します。 テーブルを参照するコンフィギュレーション品目を指定して、テーブルにアクセスする特定のセグメントを定義する必要があります。 相互参照を作成するには、指定するセグメントの数とテーブルに定義されているセグメントの数を同じにする必要があります。また、別のコンフィギュレーション・レベルにアクセスするセグメントを指定することもできます。
コンフィギュレーション品目 /規則テーブル・戻りセグメント値	W3282C	「コンフィギュレーション品目相互参照の処理」フォームで、「ロー」メニューの「戻りセグメント」を選択します。	複数の値を戻すCテーブルに対する戻りセグメント番号を定義します。 注意: 「コンフィギュレーション品目/規則テーブル・戻りセグメント値」フォームは、Cテーブルを定義すると自動的に表示されます。
コンフィギュレーション・ テーブル値の処理	W3283A	「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)、「コンフィギュレーション・テーブル値」	コンフィギュレーション・テーブルの値の検索と確認を行います。
コンフィギュレーション・ テーブル値の改訂	W3283C	「コンフィギュレーション・テーブル値の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	ディメンションを定義し、テーブル/品目の相互参照を作成した後に、コンフィギュレーション・テーブルの値を定義します。 セグメントごとに、テーブルのキーとなる特定の値を定義します。次に、セグメントに対して特定の値が選択されたときにオーダーへ戻される、部品番号、計算値、価格調整、または表示情報を指定します。
アセンブリ組込規則の処理	W3293N	「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)、「アセンブリ組込規則」	事業所、コンフィギュレーション品目、規則タイプを指定してアセンブリ組込規則を選択します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
アセンブリ組込み規則編集グループの改訂	W3293A	「アセンブリ組込み規則の処理」フォームで行を選択し、「ロー」メニューの「編集グループの挿入」を選択し、「前に挿入」または「後に挿入」を選択します。	コンフィギュレーション・テーブルに関連付けるアセンブリ組込み規則を作成します。
上級規則機能	W3293B	「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームで行を選択し、「ロー」メニューの「上級規則」を選択します。	コンフィギュレーション・テーブルをアセンブリ組込み規則に関連付けます。
テーブルのコピー	W3289B	「コンフィギュレーション・テーブル定義の処理」フォームで「コピー」をクリックします。	コンフィギュレーション品目テーブルをコピーします。
構成品/値テーブル使用先照会	W32830B	「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)、「構成品/値テーブル使用先照会」	コンフィギュレーション・テーブルで使用されている戻り値または特定の構成品を確認します。 コンフィギュレーション・テーブルの値と構成品が表示されます。

コンフィギュレーション・テーブルのテーブル名の定義

「ユーザー定義コード」フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション・テーブルの定義プログラム (P3281) の処理オプションの設定

この処理オプションでは、コンフィギュレーション・テーブルの定義プログラムのデフォルトの処理を指定します。

データ・デフォルト

この処理オプションでは、プログラムの実行時に使用されるデフォルト値を指定します。

1. 規則テーブル・タイプ (任意) 規則テーブル・タイプを示す値を指定します。値は次のとおりです。
- P: 部品リスト(受注オーダーおよび作業オーダー)
 - Q: 作業オーダー構成品(作業オーダーのみ)
 - C: 計算値
 - H: ホットスポット
 - X: 価格調整/原価調整

コンフィギュレーション・テーブルのディメンションの定義

「規則テーブル定義の改訂」フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション・テーブルの定義 - 規則テーブル定義の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(D)

テーブル規則タイプ

Cテーブル - 計算値
 Pテーブル - 受注オーダー部品リスト
 Qテーブル - 作業オーダー部品リスト
 Xテーブル - 価格調整
 Hテーブル - ホットスポット

事業所
 有効開始日付
 有効終了日付

規則テーブル名 フォークリフト6000のリフト定格
 記述
 セグメント数
 テーブル値の数

「規則テーブル定義の改訂」フォーム

規則テーブル名

コンフィギュレーション品目に必要なアセンブリ組込規則の数を最小限にするために設定するデータ集合の名前を入力します。このフィールドには、UDCテーブル32/TNの規則テーブル名を指定します。1つの規則テーブルでアクセス可能なキーは1個から20個までで、最大99個の値を返すことができます。アセンブリ組込規則で規則テーブルを参照する際は、規則テーブルに関連付けられている値が規則キーを基に取得されます。たとえば、セグメント10を品目の色に定義した場合、顧客がセグメント10にRed(赤)と入力した際に品目Red Component(赤色の構成部品)が取得されるように規則テーブルを設定できます。この例では、テーブルは次のようになります。

品目の色: 値

Red(赤): Red Component(赤色の構成部品)

テーブルは次の内容を表しています。

品目の色を表すセグメント値がRed(赤)の場合に、品目Red Component(赤色の構成部品)をコンフィギュレーション品目の受注オーダーおよび作業オーダーの部品リストで使用します。

Cテーブル - 計算値、P
 テーブル - 受注オーダー
 部品リスト、Qテーブル -
 作業オーダー部品リスト、
 Xテーブル - 価格調整、H
 テーブル - ホットスポット

規則テーブルのタイプを示す値を指定します。値は次のとおりです。

P: 部品リスト(受注オーダーおよび作業オーダー)

Q: 作業オーダー構成部品(作業オーダーのみ)

C: 計算値

H: ホットスポット

X: 価格調整/原価調整

セグメント数

テーブルへのアクセスで使用するキー(セグメント)の数を入力します。キーの値は、コンフィギュレーション品目の現行レベルまたは前のレベルに存在する必要があります。

キーの最大数は20です。

テーブル値の数

テーブル・キーで該当する値が検出されたときに、規則テーブルから戻される値の数を入力します。C(計算)規則の戻り値を複数入力した場合、値の戻り先のセグメント番号を指定する必要があります。

HテーブルとXテーブルを使用すると、「テーブル値の数」フィールドには自動的に1が設定されます。

テーブル/品目相互参照プログラム(P3282)の処理オプションの設定

この処理オプションでは、テーブル/品目相互参照プログラムのデフォルトの処理を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、テーブル/品目相互参照プログラムのデフォルト値を指定します。

デフォルト規則テーブル・タイプ

規則テーブル・タイプを示す値を指定します。値は次のとおりです。

- P: 部品リスト(受注オーダーおよび作業オーダー)
- Q: 作業オーダー構成部品(作業オーダーのみ)
- C: 計算値
- H: ホットスポット
- X: 価格調整/原価調整

コンフィギュレーション・テーブル/コンフィギュレーション品目の相互参照の定義

「コンフィギュレーション品目相互参照の改訂」フォームにアクセスします。

テーブル/品目相互参照 - コンフィギュレーション品目相互参照の改訂

OK(O) 取消(L) ツール(D)

規則テーブル・タイプ *	<input type="text" value="P"/>	部品組込規則	事業所	<input type="text" value="M30"/>
テーブル名	<input type="text" value="LIFT"/>			
コンフィギュレーション品目	<input type="text" value="6000"/>	Forklift		

セグメント	記述	セグメント項目	セグメント事業所
1	10 Forklift Rating	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2	20 Power Type	<input type="text"/>	<input type="text"/>

「コンフィギュレーション品目相互参照の改訂」フォーム

注意: 複数のコンフィギュレーション品目から単一のテーブルを参照することも、単一のコンフィギュレーション品目から複数のテーブルを参照することもできます。

品目に「*ALL」と入力すると、すべてのコンフィギュレーション品目に対して汎用の相互参照を定義できます。*ALLを使用する場合、すべてのコンフィギュレーション品目に同じセグメント番号を使用する必要があります。

セグメント (セグメント番号) テーブルから情報を取得する際にキーとして使用されるセグメント番号を入力します。セグメントの数は、コンフィギュレーション・テーブルの定義プログラム(P3281)で定義した数と同じになります。

- セグメント項目** このセグメントを含むコンフィギュレーション品目を入力します。このフィールドを使用すると、上位レベルのコンフィギュレーション品目からセグメントを参照できます。
- セグメント事業所** このセグメントに関連付けられている事業所を入力します。上位レベルのコンフィギュレーション品目が参照されている場合、別の事業所にその品目がある場合があります。

Cテーブルのテーブル戻りセグメント値の定義

「コンフィギュレーション品目/規則テーブル・戻りセグメント値」フォームにアクセスします。

戻りセグメント テーブル戻り値の戻りセグメント番号を指定します。

コンフィギュレーション・テーブル値プログラム (P3283) の処理オプションの設定

この処理オプションでは、コンフィギュレーション・テーブル値プログラムのデフォルトの処理を指定します。

デフォルト

この処理オプションでは、コンフィギュレーション・テーブル値プログラムの実行時に使用されるデフォルト値を指定します。

- 1. 規則テーブル・タイプ (任意)** 規則テーブル・タイプを示す値を指定します。値は次のとおりです。
- P: 部品リスト(受注オーダーおよび作業オーダー)
 - Q: 作業オーダー構成品(作業オーダーのみ)
 - C: 計算値
 - H: ホットスポット
 - X: 価格調整/原価調整

処理オプション

この処理オプションでは、ローのコピーが可能かどうかを指定します。

- 1. ローのコピーを可能にするには1を入力します。** 「1」を入力すると、ローがコピーできるようになります。

コンフィギュレーション・テーブルの値の定義

「コンフィギュレーション・テーブル値の改訂」フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション・テーブル値 - コンフィギュレーション・テーブル値の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

事業所 M30

テーブル・タイプ P
 テーブル名 LIFT
 部品組込規則 Lift Rate & Power Type

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	C	Forklift Rating	Power Type	Return Seq No	品目 No.	数量	単位
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2000	BATTERY	1	6001	1	EA
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

「コンフィギュレーション・テーブル値の改訂」フォーム

セグメント値1、セグメント値2

テーブルのディメンションを定義したときに「規則テーブル定義の改訂」フォームで指定した数と同じ数のセグメント値フィールドをすべて入力します。セグメント値フィールドの名前は、テーブル/品目の相互参照の作成時に定義します。

セグメントと関連品目番号の値を入力するたびに、新しい空白のローが追加されます。

注意: テーブル情報を使用する際には、ローのデータがコピーできるように処理オプションを設定しておく、データ入力を迅速に行うことができます。ローをコピーするには、2つの方法のうちどちらかを行います。1番目の方法は、1つのローを選択してから「ロー」メニューの「ローのコピー」を選択する方法です。コピーした後は、必要に応じてローのデータを変更します。2番目の方法は、コピー対象のローの「C」フィールドに1を入力する方法です。コピーするローのフィールドに値を入力してから[Enter]キーを押すと、そのローが次のローにコピーされます。ローをコピーする必要がなくなるか、またはローの値を変更する場合は、「C」フィールドをクリアします。

アセンブリ組込規則とコンフィギュレーション・テーブルの関連付け

「上級規則機能」フォームにアクセスします。

テーブル名 アセンブリ組込規則にリンクするテーブル名を入力します。

コンフィギュレーション・テーブルのコピー

「テーブルのコピー」フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション・テーブルの定義 - テーブルのコピー

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

コピー

テーブル名
 テーブル事業所
 テーブルタイプ

コピー先

テーブル名
 テーブル事業所
テーブル規則タイプ

C規則 - 計算値
 P規則 - 受注オーダー部品リスト
 Q規則 - 作業オーダー部品リスト
 X規則 - 価格調整
 Hテーブル - ホットスポット

テーブル定義
 テーブル品目相互参照
 テーブル値

「テーブルのコピー」フォーム

テーブル定義

選択すると、テーブルを記述する基本データであるテーブル定義がコピーされます。「テーブル定義」フォームで「コピー」ボタンを選択すると、テーブル定義がコピーされます。他のテーブル・データも選択可能ですが、必要に応じてテーブル定義のみをコピーできます。

コンフィギュレーション・テーブルの確認

「構成品/値テーブル用途先照会」フォームにアクセスします。

構成部品/値テーブル 用途先照会 - 構成部品/値テーブル 用途先照会

選択(S) 検索(O) 閉じる(L) ロー(B) ツール(T)

値 事業所

構成部品

構成部品

レコード 1 - 10

規則 テー ブル タイ プ	規則 テー ブル 名	事業所	テー ブル セ グ メ ン ト 値 1	テー ブル セ グ メ ン ト 値 2	品目 No.	数量	計 量 単 位	略 式 品 目 No.	第2品目 No.
<input checked="" type="radio"/> P	LIFT	M30	2000	GAS	6001	1	EA	61217	6001
<input type="radio"/> P	LIFT	M30	2000	PROPANE	6001	1	EA	61217	6001
<input type="radio"/> P	LIFT	M30	2000	BATTERY	6001	1	EA	61217	6001
<input type="radio"/> P	LIFT	M30	4000	BATTERY	6002	1	EA	61225	6002
<input type="radio"/> P	LIFT	M30	4000	PROPANE	6002	1	EA	61225	6002
<input type="radio"/> P	LIFT	M30	4000	GAS	6002	1	EA	61225	6002
<input type="radio"/> P	LIFT	M30	6000	BATTERY	6003	1	EA	61233	6003
<input type="radio"/> P	LIFT	M30	6000	PROPANE	6003	1	EA	61233	6003
<input type="radio"/> P	LIFT	M30	6000	GAS	6003	1	EA	61233	6003
<input type="radio"/> P	LIFT	M30	2000	GAS	6004	1	EA	61241	6004

「構成部品/値テーブル用途先照会」フォーム

事業所ごとに構成部品品目を選択して、規則テーブルの詳細を読み込みます。また、データの表示を値ごとにするか構成部品ごとにすることも選択します。

コンフィギュレーション規則テーブル値の印刷

「コンフィギュレータ・セットアップ」(G3241)の「コンフィギュレーション規則テーブル値」を選択します。

コンフィギュレーション・テーブル情報のハード・コピーを印刷して、コンフィギュレーション・テーブルのキーと戻り値が正しいかどうかを確認します。指定したテーブル名とテーブル・タイプに対して、テーブルのセグメントとその値が正しいかどうかを確認します。

第 5 章

コンフィギュレーション品目の改訂の使い方

この章では、コンフィギュレーション品目の改訂プログラム、規則処理、基準日有効日付を使用したコンフィギュレーション品目価格調整および原価調整、事前設定、および次の方法について説明します。

- コンフィギュレーション品目に対するオーダーの入力
- 共通属性のコンフィギュレーション品目への割当
- カスタム構成品およびカスタム価格調整の入力
- コンフィギュレーション品目に対するエラー・メッセージの修正
- コンフィギュレーション品目在庫の確認
- コンフィギュレーション品目履歴の確認
- コンフィギュレーション・テキストの確認

コンフィギュレーション品目の改訂プログラムについて

セグメント、セグメント間編集規則、アセンブリ組込規則、コンフィギュレーション・テーブル、およびコンフィギュレーション品目に添付するメディア・オブジェクトの設定が終わったら、そのコンフィギュレーション品目に対するオーダーを入力できます。

コンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) を使用して、コンフィギュレーション品目のフィーチャとオプションをオーダーに指定します。コンフィギュレーション品目のオーダーは、受注オーダー入力 (P4210)、購買オーダー (P4310)、および製造作業オーダー処理 (P48013) を使用して入力します。どのオーダーの場合でも、オーダーの見出しと明細の情報を入力します。品目番号を入力して [Tab] を押すかそのオーダー行から移動すると、コンフィギュレーション品目フォームが自動的に呼び出され、表示されます。コンフィギュレーション品目番号が品目マスターで在庫タイプ C になっている場合に、この処理は行われず。このように、コンフィギュレーション品目をオーダーに定義できるように、コンフィギュレーション品目の改訂プログラムが自動的に呼び出されるようにプログラミングされています。

コンフィギュレーション品目の改訂プログラムの処理オプションの設定によって、コンフィギュレーション品目フォームに表示される情報が変わります。オーダー入力処理では、動的コンフィギュレーション入力またはコンフィギュレーション検証機能を使用します。

メッセージ・センターでは、コンフィギュレーション状態、ホットスポット値、重量、エラー・メッセージなど、コンフィギュレーション固有の情報が表示されます。コンフィギュレーション状態では、コンフィギュレーションが有効か無効か、または検証が必要かどうかを示します。コンフィギュレーション品目フォームには、最大 10 の異なるホットスポット値を表示できません。規則計算の正常終了後に表示されるホットスポットは、処理オプションで設定します。詳細なエラー・メッセージを確認するには、エラー・リンクをクリックします。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、親品目を構成する複数レベルの品目に基づいてコンフィギュレーション品目の重量が計算されます。また、コンフィギュレーション品目の基本重量を指定できます。重量は、オーダー入力で品目が入力されたときに計算されます。親品目を構成する各セグメントの重量単位には、同じ単位を入力する必要があります。重量は、P規則の構成品のみに使用して計算されます。

「品目フィルタ」フィールドでは、「品目フィルタ」フィールド内の品目番号をクリックすると、親コンフィギュレーション品目内の様々なレベルでコンフィギュレーション品目およびその関連セグメントにアクセスできます。

コンフィギュレーション品目のフィーチャやオプションを表すセグメントは強調表示されます。セグメントをさらに詳細に定義するためにフィールドが表示される場合もあります。各セグメントの「回答の選択」または「回答の入力」フィールドに値を入力します。回答の選択フィールドでは、セグメントごとに定義されたユーザー定義コード(UDC)にアクセスできます。UDCがセグメントに添付されていない場合は、「回答の入力」フィールドに値を入力します。UDCテーブル、値の範囲、特定の数値を使用して、各セグメントの値は検証されます。

コンフィギュレーション・オーダーの行品目には、共通の属性を設定できます。共通属性はコンフィギュレーション品目で使用され、オーダーの開始時に設定します。選択した値は、その後に入力される各行品目のデフォルト値として適用されます。この機能は、属性の選択や行品目を高度に使用するオーダー環境で有効です。この機能により、オーダー入力処理にかかる時間と労働力を節約できます。また、オーダー入力時に不要なエラーが発生しなくなります。共通属性は、オーダー入力の途中で顧客の要求にあわせて改訂できます。

処理オプションによって、共通属性のプロンプトを制御できます。共通属性は、オーダー入力の開始時に自動的に表示されるように設定できます。その場合、オーダー・フォームとコンフィギュレーション品目フォームの間に表示されます。また、コンフィギュレーションを定義する際、コンフィギュレーション品目フォームから「コンフィギュレータ共通属性」フォームにアクセスできます。

たとえば家具産業では、ソファのコンフィギュレーションに共通属性を使用できます。ソファのコンフィギュレーションでは、色を共通属性にできます。“色”共通属性を、フレーム、底面のクッション、アーム・カバー、アクセサリ・クッションの各セグメントに関連付けます。顧客が色を指定すると、担当者はその値を「コンフィギュレータ共通属性」フォームの「属性」フィールドに入力できます。この色は、入力された共通属性に関連付けられているすべてのセグメントの回答値として適用されます。

処理オプションが設定され、コンフィギュレーション品目にメディア・オブジェクトが添付されている場合は、コンフィギュレーション品目フォームの下部にメディア・オブジェクトの添付が表示されます。コンフィギュレーション品目には、カスタム構成およびカスタム価格調整を入力できます。また、コンフィギュレーション品目フォームからは、コンフィギュレーション品目在庫および履歴情報にアクセスできます。

コンフィギュレーション・ストリング履歴プログラム(P3296)によって、コンフィギュレーション品目に対する既存オーダーのコンフィギュレーションをあらゆるレベルで確認できます。この履歴には、顧客、オーダー、オーダー・タイプ、および事業所についての情報が含まれます。

コンフィギュレーション品目在庫検索プログラム(P3220)では、コンフィギュレーション品目のオーダー入力に使用できる在庫を特定します。

規則処理について

コンフィギュレーション品目のオーダーを入力する場合は、受注オーダー入力(P4210)、購買オーダー入力(P4310)、および製造作業オーダー処理(P48013)プログラムによってコンフィギュレーション品目の改訂プログラム(P3210)を呼び出します。コンフィギュレーション品目の改訂プログラムのコンフィギュレーション品目フォーム(W3210B)は、品目のコンフィギュレーションと規則処理の実行に使用します。

オーダー入力中、コンフィギュレーション品目の規則は動的に処理されます。または、コンフィギュレーション検証機能の使用を選択することもできます。動的コンフィギュレーション入力は、「コンフィギュレーション品目データ」フォーム(W3291A)の品目レベルで有効化または無効化されます。子コンフィギュレーション品目は、親コンフィギュレーション品目の動的コンフィギュレーション入力設定を継承します。

動的コンフィギュレーションが有効か無効かに関係なく、変更されたセグメントに関連する規則のみが処理されます。セグメントの回答値が変更され、それが有効になるたびに、そのセグメントを参照するすべてのコンフィギュレーション規則が処理対象としてマークされます。規則は動的コンフィギュレーション入力設定に基づいて処理されます。

動的コンフィギュレーション入力が有効な場合、オーダーが入力されると品目のコンフィギュレーションが動的に検証されます。セグメントの回答値が変更されるたびに、すべてのコンフィギュレーションに新しい値が反映されます。セグメントの回答値が変更されると、他のセグメントの許容値すべてが更新され、処理されたセグメント間編集規則に基づいて有効な値のみが含まれるようになります。セグメント間編集規則が処理された後、そのセグメントに有効な値がなくなった場合は、そのセグメントはコンフィギュレーションから削除されます。

処理済のアセンブリ組込規則により、構成部品、価格調整、原価調整およびホットスポットが更新されます。

動的コンフィギュレーション入力によって、製品が構成され、無効なセグメント値を選択する可能性が減少すると、即時にフィードバックが返されます。コンフィギュレーションは、オーダーへの即時引当が可能な状態になります。

動的コンフィギュレーション入力が無効な場合、コンフィギュレーション品目フォームに「コンフィギュレーション検証」ボタンが表示されます。コンフィギュレーション品目のオーダーを入力するには、セグメントの値を入力し、「コンフィギュレーション検証」ボタンをクリックします。変更されたセグメントに関連する規則を処理して、品目コンフィギュレーションが検証されます。

このオーダー入力および規則処理の方法には、セグメント間編集規則のエラー・メッセージを表示する機能があります。表示されたエラー・メッセージから、コンフィギュレーション品目のコンフィギュレーションについて理解することができます。また、顧客のセグメント選択では有効なコンフィギュレーションを生成できない場合の理由を顧客に説明することができます。

セグメント間編集規則エラーがない場合は、「オーダーに追加」ボタンをクリックしてコンフィギュレーションを受け入れます。

コンフィギュレーション品目フォームが表示され、グリッドがロードされた後、コンフィギュレーション品目のオーダーを入力します。オーダーを入力する場合は、このオーダーがJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータでレベルごとに次のように処理されていることが検証されます。

1. セグメント値を変更するか、「オーダーに追加」ボタンをクリックしてすべてのデフォルト値を受け入れます。
2. セグメントの設定が検証されます。
UDCの検証、値の範囲チェック、英数字チェック、長さチェック、必須チェックなどが行われます。
3. 変更されたセグメントに関連するアセンブリ組込規則が処理されます。
 - a. Cアセンブリ組込規則の処理およびCセグメントの更新
計算によって導かれるセグメントの回答値がコンフィギュレーションの検証に必要なため、C規則がまず処理されます。この回答値は、コンフィギュレーション品目に対する他の計算を実行するときにも必要な場合があります。
 - b. Xアセンブリ組込規則の処理
 - c. Hアセンブリ組込規則の処理
 - d. Pアセンブリ組込規則の処理
 - e. Qアセンブリ組込規則の処理

Qアセンブリ組込規則が処理され、コンフィギュレータ構成テーブル(F3215)に構成部品が格納されます。構成部品は、原価を設定するための販売見積(P4210)および部品リスト作成と原価設定のためのオーダー処理(R31410)に使用されます。

f. Rアセンブリ組込規則の処理

Rアセンブリ組込規則が処理され、コンフィギュレータ作業工程テーブル(F3212)に作業工程が格納されます。作業工程は、原価を設定するための販売見積(P4210)および作業工程作成と原価設定のためのオーダー処理(R31410)に使用されます。

4. 変更されたセグメントに関連するセグメント間編集規則を処理します。
動的コンフィギュレーション入力が無効な場合は、エラー・メッセージが表示されます。
動的コンフィギュレーション入力がある場合は、次のように処理されます。
 - 他のセグメントの許容値がすべて更新され、有効な値のみが含まれます。
 - あるセグメントの許容値が1つのみの場合は、有効な値が設定されます。
 - セグメントに対して有効な値がなくなった場合は、コンフィギュレーションからセグメントが削除されます。
5. セグメント間編集規則エラーがない場合は、「オーダーに追加」ボタンを有効化します。
6. 「オーダーに追加」ボタンをクリックします。

注意: JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則での上方および下方参照をサポートしています。上方または下方参照には、制限はありません。

作業オーダーの処理

PおよびQアセンブリ組込規則のすべての構成部品は、F3215テーブルに格納されます。作業工程、Rアセンブリ組込規則の出力は、F3212テーブルに格納されます。オーダー処理プログラム(R31410)が実行されると、部品リストと作業工程がF3215とF3212テーブルから取得され、部品リスト・マスター・ビジネス関数(MBF)と作業工程MBFに戻されます。このため、R31410ではコンフィギュレーション品目規則は処理されません。

エラー状況

コンフィギュレーション品目のオーダーを入力する際、いくつかの状況ではコンフィギュレーション品目の改訂プログラム(P3210)でエラーが表示されます。

1つめとして、セグメントがUDCテーブルに添付されていない場合は、セグメントの回答値のフィールドに自由形式で入力できます。セグメントに値の範囲が割り当てられている場合は、違反のためエラーが発生します。

2つめは、セグメントがUDCに添付されていない場合、セグメント間編集規則が作成され、違反した場合にエラーが生成されます。

最後に、1つめの状況としてエラーが発生すると思われるが、デフォルトのセグメント値でエラー状況になるときにコンフィギュレーション品目の改訂プログラムを最初に行うと、複数のエラーが表示される場合があります。

エラー状況を最小限にするため、可能な限りセグメントにUDCを添付します。また、コンフィギュレーション品目のデフォルトのセグメント回答値を検討し、デフォルト値が有効なコンフィギュレーションを示すことを確認します。

コンフィギュレーション品目を設定する際、エラーを回避するようにセグメントの質問を設計できます。たとえば、最初に最も重要な質問をします。これによって、コンフィギュレーションを無効にするような選択肢は顧客に示されません。たとえば、最初に、車両の色ではなく、自動車かトラックのどちらを顧客が必要かを質問します。

また、警告メッセージも使用できます。警告メッセージには、その選択がコンフィギュレーションで有効かどうかに関する情報が示されます。選択した値は削除されませんが、警告によってユーザーは別のものを選択することができます。

基準日有効日付を使用したコンフィギュレーション品目 価格設定および原価計算について

コンフィギュレーション品目のオーダーを入力し、コンフィギュレーションの検証を開始すると、価格調整と原価調整が計算されます。コンフィギュレーションの検証では、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムにより、コンフィギュレーション品目データ(F3290)テーブルから基準日コードが読み取られます。

次に、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、JD Edwards EnterpriseOne受注管理、JD Edwards EnterpriseOne作業オーダー処理またはJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムから、元のオーダーのオーダー・タイプについて、親コンフィギュレーション品目の基準日コードに対応する日付を取得します。取得された値は、コンフィギュレータのデータ・キャッシュに格納され、処理に使用されます。この日付はX規則基準日です。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、コンフィギュレータのデータ・キャッシュからX規則の基準日を取得し、それぞれのX規則設定をアセンブリ組込規則(F3293)テーブルで検証します。X規則の基準日は、Xアセンブリ組込規則の有効期間と比較されます。

有効なXアセンブリ組込規則が検出されると、コンフィギュレーション品目オーダーの価格と原価の計算にその規則が適用されます。有効なX規則が処理された後、受注オーダー明細(F4211)、作業オーダー・マスター(F4801)または購買オーダー明細(F4311)テーブルに新規レコードが挿入されるか、既存のレコードが更新されます。

たとえば、コンフィギュレーション品目は、オーダー日付を受注オーダー基準日として、要求日付を作業オーダー基準日として使用するよう設定されます。品目の受注オーダーが、要求日付に10月15日を指定して8月15日に入力されると、8月15日に有効なXアセンブリ組込規則が検索されます。有効なX規則により、価格調整がその受注に適用されます。コンフィギュレーション品目の作業オーダーが入力されると、X規則の検証と作業オーダーへの原価調整に10月15日が使用されます。

X規則の基準日を取得できない場合、または日付が空白で返された場合、Xアセンブリ組込規則の処理には要求日付が使用されます。親コンフィギュレーション品目の基準日設定は、子コンフィギュレーション品目に継承されます。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムの基準日有効日付の機能は、JD Edwards EnterpriseOne価格管理の機能と類似しています。JD Edwards EnterpriseOne価格管理では、ユーザーはオーダー日付や要求日付など、様々な日付を指定して価格調整を組み込むことができます。「価格有効日付」の基準日コードは、JD Edwards EnterpriseOne価格管理と同期を保つため、X規則の検証時にJD Edwards EnterpriseOne価格管理と同じ日付が使用されます。これは受注オーダーと購買オーダーの両方に該当します。

受注オーダー入力中は、「価格有効日付」フィールドには価格が表示される場合がありますが、この値は一時変更可能です。購買オーダーについては、X規則の原価調整のみがオーダーに適用されます。

参照: [第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「基準日有効日付を使用したコンフィギュレーション品目価格設定および原価計算について」、27ページ](#)

参照: [第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「コンフィギュレーション品目情報の定義」、41ページ](#)

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 「受注オーダー入力」(P4210)の処理オプションで、作成する作業オーダーの作業オーダー行タイプを設定するか、または各コンフィギュレーション品目に対する事業所レコードに行タイプWを定義します。
この処理オプションを空白にすると、事業所の行タイプが使用されます。
- コンフィギュレーション品目に対する販売見積、転送オーダー入力、および直送オーダー入力に使用する受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを処理オプションで設定します。
- コンフィギュレーション品目に使用する購買オーダー・プログラム (P4310) のバージョンを処理オプションで設定します。
- コンフィギュレーション品目に使用する作業オーダー入力プログラム (P48013) のバージョンを処理オプションで設定します。

コンフィギュレーション品目に対するオーダーの入力

この項では、コンフィギュレーション品目に対するオーダーの改訂の概要と、次の方法について説明します。

- コンフィギュレーション品目の改訂 (P3210) の処理オプションの設定
- コンフィギュレーション品目に対するオーダーの入力
- コンフィギュレーション品目に対する既存オーダーに基づいたオーダーの入力

コンフィギュレーション品目に対するオーダーの改訂について

オーダーに対する情報の追加や変更の要請が顧客からあった場合、コンフィギュレーション品目に対するオーダーを改訂できます。また、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、コンフィギュレーション品目に対する作業オーダーの改訂もできます。

次の表は、発生する可能性のある改訂の種類をまとめたものです。

改訂	説明
数量の変更	オーダー数量が変更されます。処理オプションの設定に応じて、作業オーダーの数量も変更されます。

改訂	説明
セグメント値の変更	オーダーのセグメント値が変更されます。処理オプションの設定に応じて、作業オーダーのセグメント値も変更されます。セグメント値の変更により、コンフィギュレーション構成部品または価格の新規作成が必要になる場合があります。作業オーダー処理を再度実行する必要があります。
ピッキング日付の変更	リードタイムに基づいて、作業オーダーの開始日が再計算されます。オーダーのピッキング日付を変更すると、関連する作業オーダーに対する逆算スケジュールも複数レベルで再計算されます。
オーダー日付の変更	既存のオーダーの日付が変更されると、Xアセンブリ組込規則の価格調整および原価調整が再計算されます。
購買オーダーを生成したオーダーの変更	コンフィギュレーションが変更されると、コンフィギュレーション品目の構成部品購買オーダーが変更または取り消されます。
オーダー行の除去	変更後に不要になった構成部品に対するオーダー行が除去されます。
新しいオーダー行番号の計算	コンフィギュレーション品目の基本行番号を基に、コンフィギュレーション構成部品ごとに0.001ずつインクリメントされます。
オーダーの取消	コンフィギュレーション品目に対するオーダーを取り消すと、その品目の半組立品および下位セグメントも取り消されます。
作業オーダー番号の再割当	改訂後も有効な作業オーダーは保持されています。変更後不要になった作業オーダーは、状況コードが変更され取り消されます。
作業オーダーの締切り状況コードの変更	<p>作業オーダー入力プログラム (P48013) で作業している場合、作業オーダー状況が締切り状況より小さい値だと作業オーダーが変更されます。開始状況コードが空白でない場合、状況は処理オプションで定義されている値に更新されます。</p> <p>作業オーダー状況の値が締切り状況の値と同じか大きい場合、作業オーダーは変更されません。変更状況コードが空白でない場合、作業オーダー状況は処理オプションで定義されている値に更新されます。</p>
オーダーの保留 (保留状況コード)	<p>作業オーダー入力プログラムの作業オーダー状況が締切り状況より小さい値で、保留状況コードが空白でない場合、作業オーダー状況は処理オプションで定義されている保留状況コードの値に更新されます。</p> <p>作業オーダー状況の値が締切り状況の値と同じか大きい場合、作業オーダーは更新されません。</p>

改訂	説明
オーダーの取消 (取消状況コード)	<p>作業オーダー状況が締切り状況より小さい値で、取消状況コードがブランクでない場合、作業オーダー入力プログラムによって、作業オーダー状況は処理オプションで定義されている取消状況コードの値に更新されます。</p> <p>作業オーダー状況の値が締切り状況の値と同じか大きい場合、作業オーダーは更新されません。</p>
作業オーダーの新規作成	<p>変更後、必要に応じて作業オーダーが新規に作成されます。</p>

コンフィギュレーション品目に対するオーダーの入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注オーダー明細の改訂	W4210A	<p>「日次処理」(G32)、「受注オーダーの入力」</p> <p>「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」ボタンをクリックします。</p>	<p>顧客およびコンフィギュレーション品目情報を追加します。</p>
コンフィギュレーション品目	W3210B	<ul style="list-style-type: none"> 新規に受注オーダー情報を入力し、[Tab]を押してそのローから移動します。 「受注残/完了オーダー照会」フォームでコンフィギュレーション品目オーダーを検索してローを選択し、「選択」をクリックします。 <p>「受注オーダー明細の改訂」フォームのローを選択して「ロー」メニューの「キット/コンフィギュレータ」を選択します。</p> <p>コンフィギュレーション品目フォームで回答値を改訂して「オーダーに追加」ボタンをクリックします。</p>	<p>コンフィギュレーション品目に対するオーダーを入力するか、または既存のコンフィギュレーション品目に対するオーダーを改訂します。</p>

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
品目/価格/原価の編集	W3210A	コンフィギュレーション品目フォームで「アクション」ドロップダウン・リストから「Edit Item / Price / Cost」を選択し、移動ボタンをクリックします。	ナビゲーション・ツリーで、オーダーのコンフィギュレーション品目のレベル構造を確認します。 このツリーに表示される品目は、Pアセンブリ組込規則または「品目」の追加オプションによって追加されています。また、このツリーに表示される価格は、Xアセンブリ組込規則または「価格/原価の追加」オプションによって追加されています。ツリーの各行の隣に表示されるボタンは、その行がアセンブリ組込規則によって自動作成されたものかユーザーによって追加されたものかを表します。
コンフィギュレータ共通属性	W32994A	コンフィギュレーション品目フォームで「アクション」ドロップダウン・リストから「Common Attributes」を選択し、移動ボタンをクリックします。	共通属性の値を確認し、変更します。
コンフィギュレーション品目在庫検索	W3220B	コンフィギュレーション品目フォームで「アクション」ドロップダウン・リストから「Configured Item Inventory」を選択し、移動ボタンをクリックします。	コンフィギュレーション品目の在庫を確認します。
コンフィギュレーション品目履歴	W3210G	コンフィギュレーション品目フォームで「アクション」ドロップダウン・リストから「Configured Item History」を選択し、移動ボタンをクリックします。	コンフィギュレーション品目の履歴を確認します。

コンフィギュレーション品目の改訂(P3210)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、コンフィギュレーション品目の改訂プログラムの実行時に使用されるデフォルト情報を制御します。

1. デフォルト・アクション

コンフィギュレーション品目フォームの「アクション」ドロップダウン・リストで事前を選択されているデフォルト・アクションを指定します。値は次のとおりです。

- 1: 品目/原価の編集
- 2: 共通属性

- 3: コンフィギュレーション品目在庫
 4: コンフィギュレーション品目履歴
- 2. コンフィギュレータ印刷フラグ**
- 受注オーダーおよび作業オーダーにコンフィギュレーション部品を出力するかどうかを指定します。この処理オプションは、ピッキング・リスト、請求書の印刷、船荷証券、部品リストの印刷の各プログラムで使用されます。値は次のとおりです。
- Y: 受注オーダーおよび作業オーダーに出力する。Yのかわりに1を使用することもできます。
- N: 受注オーダーにも作業オーダーにも出力しない。Nのかわりに0を使用することもできます。
- 2: 受注オーダーのみ。
- 3: 作業オーダーのみ。
- 3. 行タイプ**
- 行の処理方法を指定します。行タイプにより、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne一般会計、JD Edwards EnterpriseOne作業原価、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理など、連動して取引を処理するシステムが制御されます。また、行のレポートへの出力や計算への組込みの条件も行タイプによって決まります。
- この処理オプションの行タイプを使用して、X価格設定規則のグループ化が行われます。値は次のとおりです。
- S: 在庫品目
 J: 作業原価
 N: 非在庫品目
 F: 運賃
 T: テキスト情報
 M: その他費用
 W: 作業オーダー

ホットスポット

この処理オプションでは、コンフィギュレーション品目フォームの「メッセージ・センター」に表示されるホットスポットを指定します。

1. **ホットスポット選択** から UDC 32/HSのユーザー定義コードを指定して、ホットスポットに表示される
 10. **ホットスポット選択** 情報のタイプ(国内通貨価格、外貨価格、重量など)を指定します。

編集

この処理オプションでは、許容ロット状況を持つオーダーの処理方法を指定します。

1. **検証する許容ロット状況グループを入力してください** ロット状況が空白でない品目を処理するかどうかの判断に使用するロット状況グループを指定します。ロット状況コードが空白以外で、許容ロット状況テーブル(F41081)に登録されている場合、そのロット状況コードは空白とみなされ、保留中の品目は受注オーダー処理中も保留状態のままになります。

処理

この処理オプションでは、値の処理および表示方法を指定します。

- | | |
|--------------------------------|---|
| 1. メディア・オブジェクトの表示 | <p>コンフィギュレーション品目フォームにメディア・オブジェクトを表示するかどうかを指定します。このオプションによって、品目、セグメント、およびユーザー定義コード値に関連付けられているメディア・オブジェクトの状況に応じた表示を制御します。値は次のとおりです。</p> <p>1: 表示する。
 ブランク: 表示しない。</p> |
| 2. メディア・オブジェクト表示順序 | <p>コンフィギュレーション品目またはセグメントに添付されているメディア・オブジェクトのタイプが複数ある場合に、コンフィギュレーション品目の改訂フォームに表示されるメディア・オブジェクトの順序を指定します。同じタイプのメディア・オブジェクトが複数ある場合は、最初に添付されたオブジェクトが表示されます。値は次のとおりです。</p> <p>1: テキスト
 2: イメージ
 3: OLE
 ブランク: イメージ</p> |
| 3. 共通属性の表示 | <p>コンフィギュレーション品目間の共通属性を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>1: 表示する(自動プロンプトなし)。
 2: 表示する(自動プロンプトあり)。
 ブランク: 共通属性を表示しない。</p> |
| 4. 共通属性表示スコープ | <p>コンフィギュレーション品目に指定されている共通属性を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>1: すべての共通属性を表示する。
 ブランク: コンフィギュレーションで使用されている共通属性のみを表示する。</p> |
| 5. C規則の計算 | <p>コンフィギュレーション品目の入力時にC規則を使用した計算を実行するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 実行する。
 1: 実行しない。</p> |
| 6. コンフィギュレーション品目テキストの代用 | <p>コンフィギュレーション品目テキストを置き換えるか、追加するかを指定します。このコンフィギュレーション品目テキストはメディア・オブジェクトです。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 追加する。
 1: 置き換える。</p> |

注意: オフライン処理モードではこのオプションは無視され、テキストは常に置き換えられます。

バージョン

この処理オプションでは、コンフィギュレーション品目の改訂プログラムから他のプログラムを呼び出すときに使用するバージョンを指定します。

1. 転送オーダーのバージョン
 コンフィギュレーション品目のオーダー入力中に関連する転送オーダーが作成される場合は、使用される転送オーダー・プログラム (P4210) のバージョンを指定します。顧客のニーズに応じて、このプログラムのバージョンを複数作成できます。
2. 購買オーダー・バージョン
 コンフィギュレーション品目のオーダー入力中に関連する購買オーダーが作成される場合は、使用される購買オーダー入力プログラム (P4310) のバージョンを指定します。

 親コンフィギュレーション品目のオーダーを保存する場合は、トランザクション・タイプが4 (購買オーダー) のコンフィギュレーション品目の構成商品購買オーダーを生成または更新する際、このバージョンが使用されます。

コンフィギュレーション検証を使用したコンフィギュレーション品目に対するオーダーの入力

コンフィギュレーション品目フォームにアクセスします。

受注オーダーの入力 - コンフィギュレーション品目 6000 - Forklift i ?

レコード 1 - 5

メッセージ・センター
✓ Valid Configuration
● 価格(国内通貨) : 106,070
● 原価(国内通貨) : 23,725

品目フィルタ
➡
 アクション
➡

レコード 1 - 10

品目属性	必須/任意	回答の選択	回答の入力
Forklift Rating	必須	4000ポンド積載能力	
Power Type	必須	ガス・エンジン	
Boom Height	必須	10フィートブーム	
Interior	任意	-- 1つ選択 --	
Paint	任意	標準ペイント	
Propane Tank	任意	-- 1つ選択 --	
Calculated Counter Weight	計算		2190.106342212
Additional fork (spare)	必須	不要	
Lift Speed	必須	標準ポンプ	

コンフィギュレーション品目フォーム

重要: 「コンフィギュレーション品目データ」フォームの「動的コンフィギュレーション入力」チェックボックスの選択を解除し、動的コンフィギュレーションを無効にする必要があります。

注意: すべてのハード・エラーが修正されるまで、オーダー入力は完了できません。

メッセージ・センター

コンフィギュレーション状態、ホットスポット値、エラー・メッセージなど、コンフィギュレーション固有の情報が表示されます。

追加オーダー入力要素

品目フィルタ	アセンブリで特定のコンフィギュレーション品目に表示する品目を選択します。特定のコンフィギュレーション品目を選択されていない場合は、すべての品目が表示されます。
回答の選択	セグメントにユーザー定義コードが設定されている場合は、値リストから値を選択します。
回答の入力	セグメントにユーザー定義コードが添付されていない場合は、各セグメントに値を入力します。
コンフィギュレーション検証	クリックすると、入力したコンフィギュレーションの回答値が処理されます。この検証機能では、セグメント間編集規則を使用してフィーチャとオプションの設定が適切かどうかを検証されます。
デフォルトに戻す	クリックすると、すべてのセグメント値がシステム設定時に入力したデフォルト値に復元されます。
オーダーに追加	クリックすると、コンフィギュレーション品目に対するオーダーが作成されます。このボタンは、検証が正常に終了してコンフィギュレーションが有効な場合に使用可能になります。

アクション

「アクション」ドロップダウン・リストからオプションを選択し、移動ボタンをクリックします。

Edit Item / Price / Cost	<p>選択すると「品目/価格/原価の編集」フォームにアクセスします。ナビゲーション・ツリーで、オーダーのコンフィギュレーション品目のレベル構造を確認できます。</p> <p>このツリーに表示される品目は、Pアセンブリ組込規則または「品目」の追加オプションによって追加されています。また、このツリーに表示される価格は、Xアセンブリ組込規則または「価格/原価の追加」オプションによって追加されています。ツリーの各行の隣に表示されるボタンは、その行がアセンブリ組込規則によって自動作成されたものかユーザーによって追加されたものかを表します。</p>
Common Attributes	<p>選択すると「コンフィギュレータ共通属性」フォームにアクセスします。</p> <p>共通属性がコンフィギュレーション品目に関連付けられていない場合、このオプションは非表示にされます。</p>
Configured Item Inventory	選択すると「コンフィギュレーション品目在庫検索」フォームにアクセスします。

Configured Item History 選択すると「コンフィギュレーション品目履歴」フォームにアクセスします。

動的コンフィギュレーションを使用したコンフィギュレーション品目に対するオーダーの入力

コンフィギュレーション品目フォームにアクセスします。

重要: 「コンフィギュレーション品目データ」フォームの「動的コンフィギュレーション入力」チェックボックスを選択し、動的コンフィギュレーションを有効にする必要があります。

注意: 動的コンフィギュレーション入力では、「コンフィギュレーション検証」ボタンは使用されません。

コンフィギュレーション品目に対する既存オーダーに基づいたオーダーの入力

コンフィギュレーション品目フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション品目に対する既存オーダーに基づいたオーダーを入力するには、次の手順に従います。

1. 「アクション」ドロップダウン・リストから「Configured Item History」を選択し、移動ボタンをクリックします。
2. 「コンフィギュレーション品目履歴」フォームで検索条件フィールドに値を入力して「検索」をクリックします。
3. 受注オーダーを選択して、「選択」をクリックします。

コンフィギュレーション情報が新規オーダーに戻されます。「回答の選択」フィールドの値は、「コンフィギュレーション品目履歴」フォームで選択したオーダーの値に変更されています。オーダーを変更するか、そのまま使用できます。

4. コンフィギュレーション品目フォームで必要な変更を加えます。

注意: 動的コンフィギュレーション入力が無効な場合は、「コンフィギュレーション検証」ボタンをクリックします。

5. エラーが何もない場合は、「オーダーに追加」ボタンをクリックします。

共通属性のコンフィギュレーション品目への割当

この項では、コンフィギュレーション品目の共通属性の概要、事前設定、および共通属性の値の割当方法について説明します。

コンフィギュレーション品目の共通属性について

コンフィギュレーション品目を効率的に構成し、オーダー入力時に入力するコンフィギュレーションを簡潔にするには、コンフィギュレーション品目やセグメントに共通属性を割り当てます。共通属性は、最初はコンフィギュレーション品目/セグメント・プログラム(P3291)によってセグメントにリンクされます。「コンフィギュレータ共通属性」フォームで共通属性を割り当てます。

共通属性値は、各コンフィギュレーション・レベルでデフォルトの回答値として機能します。たとえば、色として定義されている共通属性コードの値が赤だとします。共通属性が有効な場合、“色”共通属性を持つコンフィギュレーション・レベルではそれぞれ“赤”という値が設定されます。

処理オプションを設定して、すべての共通属性をコンフィギュレーション品目に表示するか、または現在のコンフィギュレーションで有効な共通属性を表示するかを指定します。また、オーダー入力時に共通属性の値を変更できます。

共通属性が自動的に表示されるように設定されている場合でも、オーダー入力時に「コンフィギュレータ共通属性」フォームにアクセスし、関連付けられているすべてのセグメントの値を変更できます。「コンフィギュレータ共通属性」フォームで「OK」をクリックすると、コンフィギュレーション品目の改訂フォームが表示され、オーダー入力を続けることができます。

また、回答フィールドを使用してセグメントの値を個別に変更することもできます。

事前設定

コンフィギュレーション品目の改訂プログラム(P3210)で「共通属性の表示」および「共通属性表示スコープ」処理オプションを設定し、「コンフィギュレータ共通属性」フォームの表示形式を定義します。

参照: [第 5 章、「コンフィギュレーション品目の改訂の使い方」、「コンフィギュレーション品目の改訂\(P3210\)の処理オプションの設定」、105ページ](#)

共通属性のコンフィギュレーション品目への割当に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コンフィギュレータ共通属性	W32944A	<p>「日次処理」(G32)、「受注オーダーの入力」</p> <p>「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」ボタンをクリックします。</p> <p>「受注オーダー明細の改訂」フォームで必要な顧客情報およびコンフィギュレーション品目情報を入力して、「OK」をクリックします。</p>	<p>共通属性をコンフィギュレーション品目に割り当てます。</p> <p>注意: コンフィギュレーション品目の改訂プログラム(P3210)の「処理」タブで「共通属性の表示」および「共通属性表示スコープ」処理オプションを設定します。</p> <p>また、受注オーダー入力プログラム(P4210)の「バージョン」タブで「コンフィギュレーション品目(P3210)」処理オプションを設定し、P4210でコンフィギュレーション品目オーダーに使用するP3210のバージョンを指定します。</p>

共通属性値の割当

「コンフィギュレータ共通属性」フォームにアクセスします。

共通属性	共通属性を指定するコードを入力します。共通属性とは、1つのコンフィギュレーション品目内の複数のセグメントに共通する特徴または特性のことです。オーダー入力時に共通属性の属性値を入力すると、共通属性に関連付けられたセグメントすべての「回答」フィールドが更新されます。
属性値	選択した共通属性の値を入力します。

カスタム構成品およびカスタム価格調整の入力

この項では、カスタム構成品およびカスタム価格調整の概要と、その追加方法について説明します。

カスタム構成品およびカスタム価格調整について

コンフィギュレーション品目のコンフィギュレーションに対し、特別な部品の追加や価格設定を行う必要がある場合、カスタム構成品および価格調整を入力できます。カスタムの構成品や価格調整を入力することにより、アセンブリ組込規則、テーブル、スマート部品を新規に作成せずに、コンフィギュレーション品目のコンフィギュレーションを行うことができます。

カスタム構成品は、親コンフィギュレーション品目のキット/コンフィギュレータ価格設定方法に従って価格設定されます。価格調整および原価調整は、コンフィギュレーション品目に対して設定するXアセンブリ組込規則に似ています。これらは受注オーダーに対してのみ有効です。作業オーダーには使用できません。

カスタム構成品およびカスタム価格調整は、「品目/価格/原価の編集」フォームで追加します。このフォームによって行品目の確認前に、オーダーのすべての構成品と価格を確認できます。品目または価格/原価が入力されると、ツリー表示が自動的にリフレッシュされます。

親コンフィギュレーション品目のカスタム構成品およびカスタム価格調整は削除できます。標準の構成品および価格調整は削除できません。カスタム構成品およびカスタム価格調整は、「品目/価格/原価の編集」フォームのナビゲーション・ツリーで該当項目の隣に表示されるボタンによって、標準の構成品および価格と区別できます。

注意: 「品目/価格/原価の編集」フォームでは、Pアセンブリ組込規則で追加された品目がツリー表示されます。このツリーに表示される価格は、Xアセンブリ組込規則によって追加されています。ツリーの各行の隣に表示されるボタンは、その行がアセンブリ組込規則によって自動作成されたものかユーザーによって追加されたものかを表します。

カスタム構成品およびカスタム価格調整の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
品目/価格/原価の編集	W3210A	<p>「日次処理」(G32)、「受注オーダーの入力」</p> <p>「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」ボタンをクリックします。</p> <p>「受注オーダー明細の改訂」フォームで必要な顧客情報およびコンフィギュレーション品目情報を入力して、「OK」をクリックします。</p> <p>コンフィギュレーション品目フォームで「アクション」ドロップダウン・リストから「Edit Item / Price / Cost」を選択し、移動ボタンをクリックします。</p>	カスタム構成品およびカスタム価格調整を追加します。

カスタム構成品およびカスタム価格調整の追加

「品目/価格/原価の編集」フォームにアクセスします。

The screenshot shows the 'Item/Price/Cost Edit' form. On the left is a tree view of items under '6000 - Forklift', including '6100 - Forklift, Boom', '6200 - Forklift, Fork', '6103 - Rack', '6104 - Chain', '6101 - Standard Pump', '6013 - Counter Weights', '6002 - 4000lb Chassis', '6004 - Gas Engine', '6015 - Hard Rubber Tire', '6008 - 10ft Boom', '6010 - Yellow Paint', 'Freight Charge', and 'Dealer Prep.'. On the right is a details panel for the selected item '61188 Forklift', showing fields for '親品目(略式品目)No.' (61188), '記述' (Forklift), 'ビジネスユニット' (M30), '単位' (EA), '行タイプ' (W), '価格積上フラグ', '総重量', '数量' (1), '合計価格' (106,070.00), '合計価格(外貨)' (106,070.00), '原価小計' (23,725.00), and '合計原価(外貨)' (23,725.00). There is a '閉じる(L)' button at the top left and a '削除(D)' button at the bottom right of the details panel.

「品目/価格/原価の編集」フォーム (1/3)

品目の追加

「品目の追加」タブを選択します。

The screenshot shows a web-based form with two tabs: '品目の追加' (Item Addition) and '価格/原価の追加' (Price/Cost Addition). The '品目の追加' tab is active. The form contains the following fields:

- 品目 No. (Item No.): Text input field.
- 記述 (Description): Text input field.
- ビジネスユニット (Business Unit): Text input field.
- 数量 (Quantity): Text input field with the value '0'.
- 単位 (Unit): Text input field.
- 印刷フラグ (Print Flag): Dropdown menu.
- 行タイプ (Item Type): Dropdown menu.

At the bottom of the form is a button labeled '品目の追加(D)' (Add Item).

「品目/価格/原価の編集」フォーム - 「品目の追加」タブ(2/3)

印刷フラグ

受注オーダーと作業オーダーにコンフィギュレーション部品を印刷するかどうかを示すUDC 32/PFの値を入力します。このフィールドに入力する値により、ピッキング・リスト印刷(R42520)、請求書印刷(R42565)、船荷証券(R42530)、および作業オーダー印刷(R31415)の部品リストなどの出力内容が変わります。値は次のとおりです。

- 0: 受注オーダーにも作業オーダーにもコンフィギュレーション部品を出力しない。
- 1: 受注オーダーと作業オーダーの両方。
- 2: 受注オーダーのみ。
- 3: 作業オーダーのみ。

品目の追加

このタブ上のフィールドに値を入力して「品目の追加」ボタンをクリックすると、構成部品が追加されます。

価格/原価の追加

「価格/原価の追加」タブを選択します。

The screenshot shows a web form with two tabs: '品目の追加' (Add Item) and '価格/原価の追加' (Add Price/Cost). The '価格/原価の追加' tab is active. The form contains the following fields:

- 記述 (Description):
- 単価 (Unit Price):
- 単位原価 (Unit Original Price):
- 行タイプ (Line Type):
- 通貨コード (Currency Code):
- 価格積上フラグ (Price Increase Flag):

At the bottom of the form is a button labeled '価格/原価の追加(D)'.

「品目/価格/原価の編集」フォーム - 「価格/原価の追加」タブ (3/3)

単価 この品目1単位に対して請求される表示価格または基本価格を入力します。受注オーダーの入力では、すべての価格が品目基本価格テーブル (F4106) に設定されている必要があります。

単位原価 単位当たりの金額、つまり合計原価を単位数量で割った金額を入力します。

価格積上フラグ UDC (32/PP) を入力して、追加する価格または原価が親コンフィギュレーション品目の価格または原価に含まれるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

- 0: 追加する価格または原価は親品目の価格または原価に含まれない。
- 1: 追加する価格または原価は親品目の価格または原価に含まれる。この値を指定すると、合計価格または合計原価はゼロになります。

価格/原価の追加 このタブ上のフィールドに値を入力して「価格/原価の追加」ボタンをクリックし、価格または原価を追加します。

注意: カスタム構成部品およびカスタム価格調整の追加が終わったら、「閉じる」ボタンをクリックします。エラーが表示されなければ、コンフィギュレーション品目フォームの「オーダーに追加」をクリックします。すべてのハード・エラーが修正されるまで、オーダー入力は完了できません。

コンフィギュレーション品目に対するエラー・メッセージの修正

この項では、コンフィギュレーション品目に対するエラー・メッセージの概要と、その修正方法について説明します。

コンフィギュレーション品目に対するエラー・メッセージについて

オーダー入力のコンフィギュレーション処理では、セグメント間編集規則とコンフィギュレーション品目セグメントにより、入力したセグメント値が検証されます。未入力の値に対しても、編集規則に反していないかどうかを検証されます。編集規則に違反するセグメント値が検出されると、ハード・エラー・メッセージまたはソフト・エラー・メッセージが出力されます。

ハード・エラー・メッセージは、セグメント間のエラーチェックで重大なエラーが検出された場合に出力されます。ハード・エラー・メッセージが出た場合、エラーが修復されるまでそのオーダーの処理は続行できません。

ソフト・エラー・メッセージの場合、エラー情報は出力されますが、オーダー処理は続行できます。エラーは修復することもそのままにしておくこともできます。どちらの場合でもオーダーは処理されます。

セグメント間編集規則でエラーが検出されると、動的コンフィギュレーション処理中、またはコンフィギュレーション検証の実行後にエラー・メッセージが出力されたことを示す通知が送信されます。

コンフィギュレーション品目に対するエラー・メッセージの修正に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コンフィギュレーション品目	W3210B	「日次処理」(G32)、「受注オーダーの入力」 「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」ボタンをクリックします。 「受注オーダー明細の改訂」フォームで必要な顧客情報およびコンフィギュレーション品目情報を入力して、「OK」をクリックします。	コンフィギュレーション品目に対するエラー・メッセージを修正します。

コンフィギュレーション品目に対するエラー・メッセージの修正

コンフィギュレーション品目フォームにアクセスします。

1. メッセージ・センターのセグメント間編集規則のエラーを確認します。
2. 「回答の選択」カラムのドロップダウン・リストから値を選択するか、「回答の入力」カラムに値を入力してセグメントの値を変更します。
3. 動的コンフィギュレーション入力が無効な場合、エラーが修正されたことを確認するには、「コンフィギュレーション検証」ボタンをクリックします。
4. 「オーダーに追加」ボタンをクリックします。

すべてのハード・エラーが修正されるまで、オーダー入力は完了できません。

コンフィギュレーション品目在庫の確認

この項では、コンフィギュレーション品目在庫の概要と、コンフィギュレーション品目在庫の確認方法について説明します。

コンフィギュレーション品目在庫について

上級コンフィギュレーション品目在庫検索プログラム (P3220) では、コンフィギュレーション品目のオーダー入力に使用できる在庫を特定します。最初に「コンフィギュレーション品目在庫検索」フォーム (W3220B) を入力すると、デフォルトのコンフィギュレーションはコンフィギュレーション品目フォームのコンフィギュレーションになります。「回答」フィールドに* (アスタリスク) を使用してセグメントの全検索を実行します。在庫からコンフィギュレーション品目を選択すると、その品目が受注オーダーに対してハード・コミットされます。

参照: 第 7 章、「コンフィギュレーション品目の使い方」、「コンフィギュレーション品目の在庫」、173 ページ

参照: 第 7 章、「コンフィギュレーション品目の使い方」、「コンフィギュレーション品目の在庫状況」、173 ページ

コンフィギュレーション品目在庫の確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コンフィギュレーション品目在庫検索	W3220B	コンフィギュレーション品目フォームで「アクション」ドロップダウン・リストから「Configured Item Inventory」を選択し、移動ボタンをクリックします。	コンフィギュレーション品目在庫を確認します。 オーダーに追加する在庫のコンフィギュレーション品目を選択します。

コンフィギュレーション品目在庫の確認

「コンフィギュレーション品目在庫検索」フォームにアクセスします。

検索	クリックすると、JD Edwards EnterpriseOne データベース内で検索基準と一致するコンフィギュレーション品目在庫が検索されます。
コンフィギュレーション参照	クリックすると、「コンフィギュレーション参照」フォーム (W32983B) にアクセスします。コンフィギュレーション品目に対するコンフィギュレーション・ツリー、属性およびセグメントの回答値を確認します。
選択	クリックすると、在庫のコンフィギュレーション品目に対して選択したレコードがオーダーに追加されます。

コンフィギュレーション品目履歴の確認

この項では、コンフィギュレーション品目履歴の概要と、コンフィギュレーション品目履歴の確認方法について説明します。

コンフィギュレーション品目履歴について

コンフィギュレーション・ストリング履歴プログラム (P3296) によって、コンフィギュレーション品目に対する既存オーダーのコンフィギュレーションをあらゆるレベルで確認できます。この履歴には、顧客、オーダー、オーダー・タイプ、および事業所についての情報が含まれます。

「コンフィギュレーション品目履歴」フォームのコンフィギュレーションを選択すると、コンフィギュレーション値がコンフィギュレーション品目フォームのコンフィギュレーションに戻されます。

参照: 第 7 章、「コンフィギュレーション品目の使い方」、「コンフィギュレーション品目履歴の確認」、182 ページ

コンフィギュレーション品目履歴の確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コンフィギュレーション品目履歴	W3210G	コンフィギュレーション品目フォームで「アクション」ドロップダウン・リストから「Configured Item History」を選択し、移動ボタンをクリックします。	コンフィギュレーション品目履歴を確認します。

コンフィギュレーション品目履歴の確認

「コンフィギュレーション品目履歴」フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション参照 クリックすると、「コンフィギュレーション参照」フォーム (W32983B) にアクセスします。コンフィギュレーション品目に対するコンフィギュレーション・ツリー、属性およびセグメントの回答値を確認します。

コンフィギュレーション・テキストの確認

この項では、コンフィギュレーション・テキストの概要とその確認方法について説明します。

コンフィギュレーション・テキストについて

コンフィギュレーション品目に対するコンフィギュレーション・テキストおよび汎用テキストは、メディア・オブジェクトとして表示されます。コンフィギュレーション品目に対する汎用テキストは、コンフィギュレーション品目/セグメント (P3291) で定義された設定に基づいて作成されます。

コンフィギュレーション・テキストには次のものがあります。

- 親コンフィギュレーション品目の部品番号
- セグメント番号
- セグメント記述
- セグメント値
- 関連付けられているUDCテーブル値の記述

オーダー入力時に、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムによってコンフィギュレーション品目ごとにテキストのコピーが生成され、コンフィギュレータ・マスター (F3201) に添付されます。汎用テキストは、受注オーダー入力 (P4210)、購買オーダー入力 (P4310)、製造作業オーダー処理 (P48013) などのオーダー入力プログラムの照会フォームの「ロー」メニューからアクセスできます。

オーダーに直接添付するのではなく、F3201テーブルに汎用テキストを添付すると、テキストのより柔軟な制御とオーダーごとのテキストの使用の両方が可能になります。

コンフィギュレーション品目の改訂プログラム(P3210)の「処理」タブの「コンフィギュレーション品目テキストの代用」処理オプションによって、汎用テキストの作成方法が決まります。この処理オプションで、変更が行われるたびにテキストをすべて置き換えるか、既存テキストの末尾に新規テキストを追加するかを指定します。

オーダー入力時にコンフィギュレーション品目の構成商品購買オーダーが生成される場合は、コンフィギュレーション固有情報がメディア・オブジェクトの形式で仕入先に転送されます。

コンフィギュレーション・テキストの確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「日次処理」(G32)、「受注オーダーの入力」 「受注残/完了オーダー照会」フォームでオーダーを選択し、「ロー」メニューで「オーダー」、「コンフィギュレーション品目汎用テキスト」と選択します。	コンフィギュレーション品目に対するテキストを確認します。メディア・オブジェクトに表示される情報は、コンフィギュレーション品目/セグメント・プログラムで定義します。

コンフィギュレーション・テキストの確認

「受注残/完了オーダー照会」フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション品目に対する汎用テキストを確認します。

第 6 章

コンフィギュレーション品目に対するオーダーの入力

この章では、コンフィギュレーション品目のオーダー入力、コンフィギュレーション品目受注オーダー、コンフィギュレーション品目直送オーダー、コンフィギュレーション品目転送オーダー、コンフィギュレーション品目事業所間オーダー、コンフィギュレーション品目組合せオーダー、コンフィギュレーション品目購買オーダー、コンフィギュレーション品目構成品の購買オーダー、コンフィギュレーション品目作業オーダー、受注設計生産のコンフィギュレーション品目オーダーの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- コンフィギュレーション品目に対する販売見積の入力および変換
- コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーの入力
- コンフィギュレーション品目に対する受注オーダーのオフライン処理の使い方

コンフィギュレーション品目のオーダー入力について

セグメント、セグメント間編集規則、アセンブリ組込規則、コンフィギュレーション・テーブル、メディア・オブジェクトの添付、およびコンフィギュレーション品目の改訂プログラム(P3210)の設定を完了すると、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでコンフィギュレーション品目に対するオーダーを処理できます。コンフィギュレーション品目に対するオーダーは、受注オーダー入力(P4210)、購買オーダー(P4310)、製造作業オーダー処理(P48013)の各プログラム、およびJD Edwards EnterpriseOne受注設計生産システムで作成できます。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、コンフィギュレーション品目に対して次のオーダー処理がサポートされています。

- 受注オーダー
- 販売見積
- クレジット・オーダー
- 直送オーダー
- 転送オーダー
- 事業所間オーダー
- 購買オーダー
- 組合せオーダー
- オフライン処理オーダー

受注オーダー入力プログラムでは、販売提案も作成できます。販売提案には、販売構成や見積、財務上の重要点、製品情報、価格設定や値引情報、製品の在庫状況などの情報が含まれます。自動文書生成システムを使用して、様々な部門から受注、会計、マーケティング、在庫などの各種の情報を収集できます。

注意: JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、ほとんどの優先プロファイルがサポートされています。ただし、複数事業所引当に対する優先プロファイルはサポートされていません。

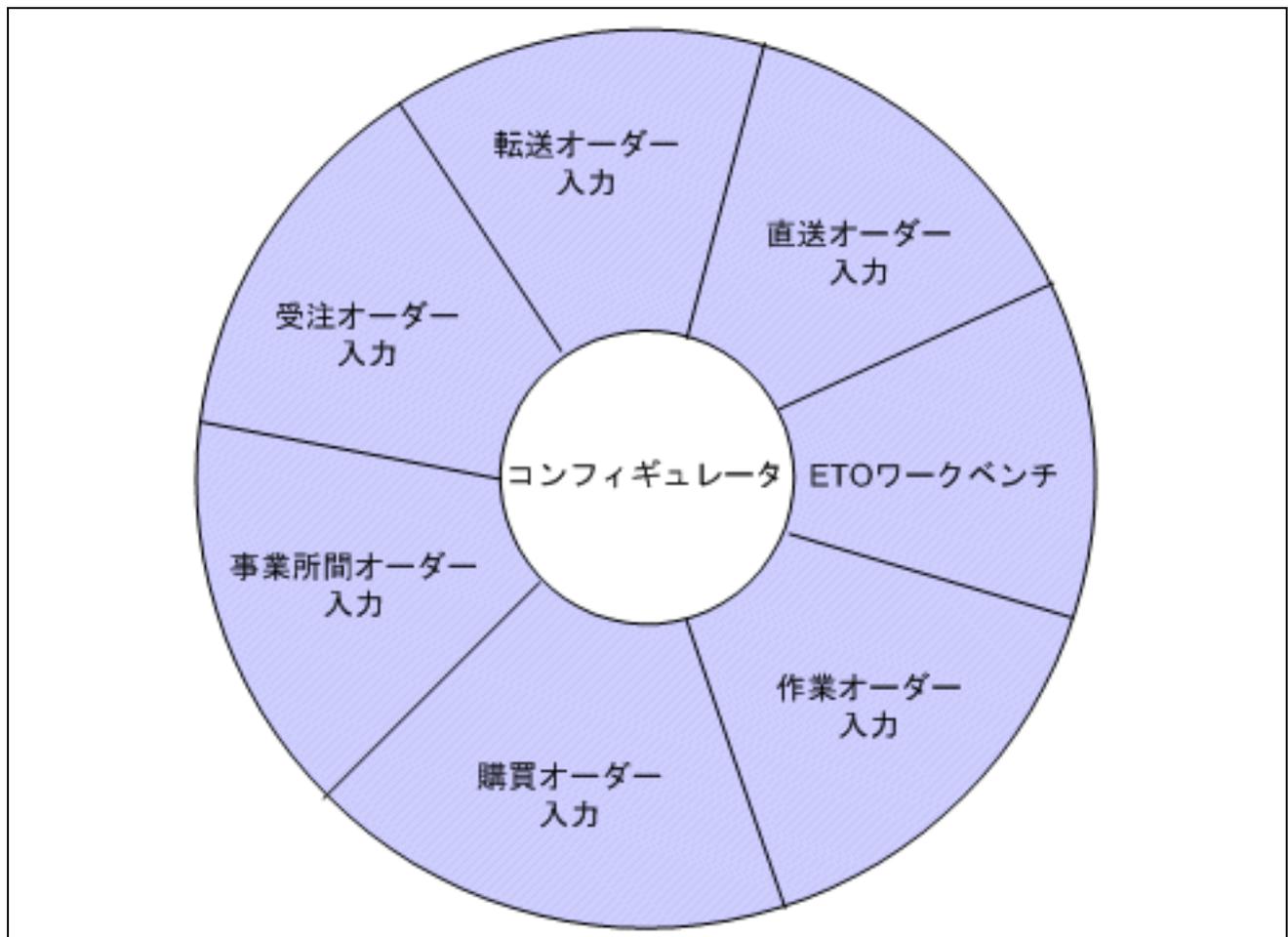
JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでは、コンフィギュレーション品目に対して通常の購買オーダーがサポートされています。直送オーダーや転送オーダーに対する受注オーダーの入力時に作成されたコンフィギュレーション品目の購買オーダーもサポートされています。また、コンフィギュレーション品目の構成品の購買オーダーもサポートされています。

JD Edwards EnterpriseOne作業オーダー管理システムでは、作業オーダー入力処理でコンフィギュレーション品目の作業オーダーを直接入力できます。

JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産システムでは、コンフィギュレーション品目に対する購買オーダーと作業オーダーがサポートされています。プロジェクト・ワークベンチ (P31P001) には、製造作業オーダー処理 (P48013) プログラムと購買オーダー (P4310) プログラムへのアクセスが用意されています。

注意: 各タイプのオーダーの作成および完了が正常に行われるようにするには、コンフィギュレーション品目が各事業所で適切に設定されている必要があります。

次の図は、コンフィギュレーション品目オーダーの入力ポイントを示しています。



コンフィギュレーション品目オーダーの入力ポイント

コンフィギュレーション品目に対するオーダーの変更

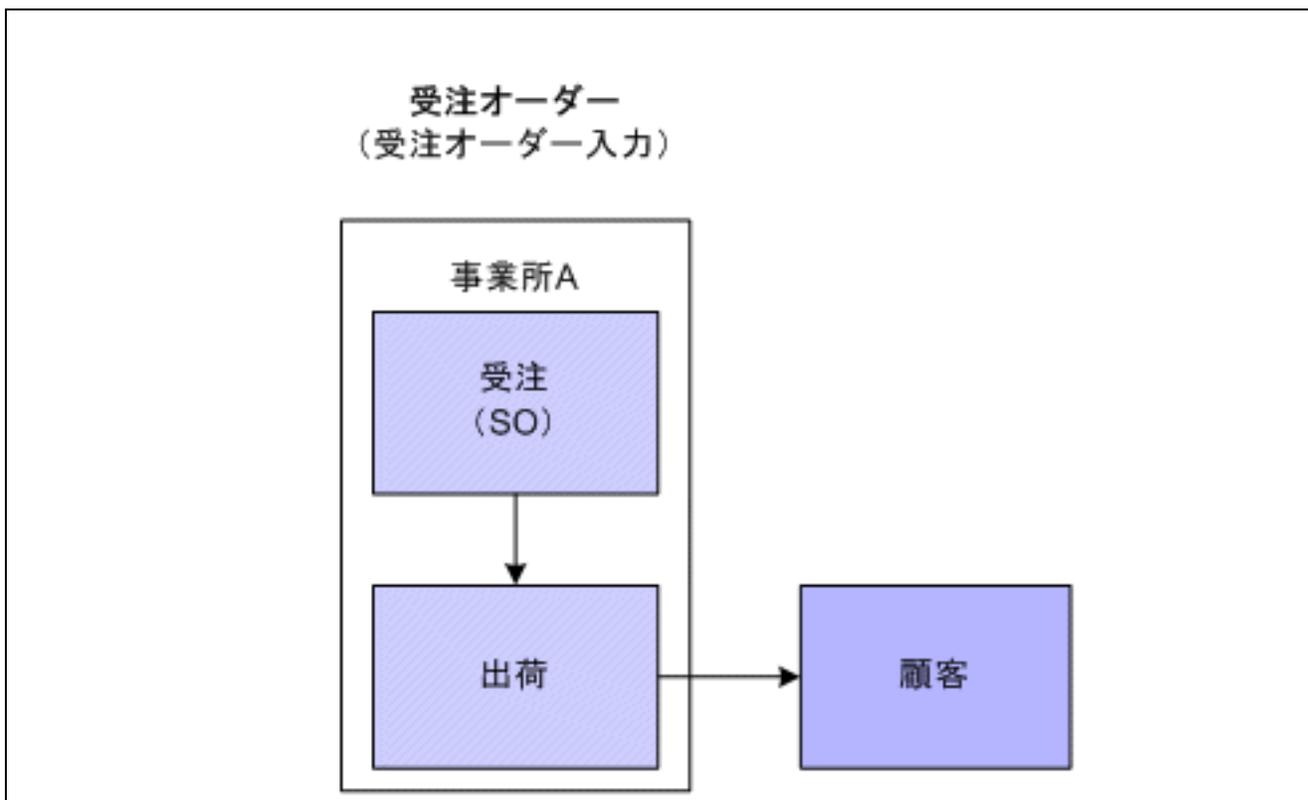
このソフトウェアは幅広い機能と高い柔軟性を有しているため、変更管理はシステム設定時およびビジネス・プロセスの定義時の重要な検討事項になります。コンフィギュレーション品目に対して複数のオーダー・タイプを関連付けることがサポートされています。このため、状況コードなどの一部の領域はシステムによって制御されていますが、オーダー変更管理の大部分はビジネス・プロセスを通して、または手作業で管理する必要があります。

重要: コンフィギュレーション品目オーダーに対する変更はすべて、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムを介して行い、関連するオーダーが正しく変更されるようにします。このシステムは、JD Edwards EnterpriseOne受注管理、JD Edwards EnterpriseOne調達管理、JD Edwards EnterpriseOne作業オーダー管理など、他のシステムによるオーダーの手動調整を制限するものではありません。ただし、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システム外での手動変更は、JD Edwards EnterpriseOneシステム内のコンフィギュレーションと他の関連するオーダーとは同期されません。

コンフィギュレーション品目受注オーダーについて

顧客からコンフィギュレーション品目の要求があった場合、受注オーダーを入力します。顧客の指定に従って、受注オーダーを入力し、品目のコンフィギュレーションを行います。

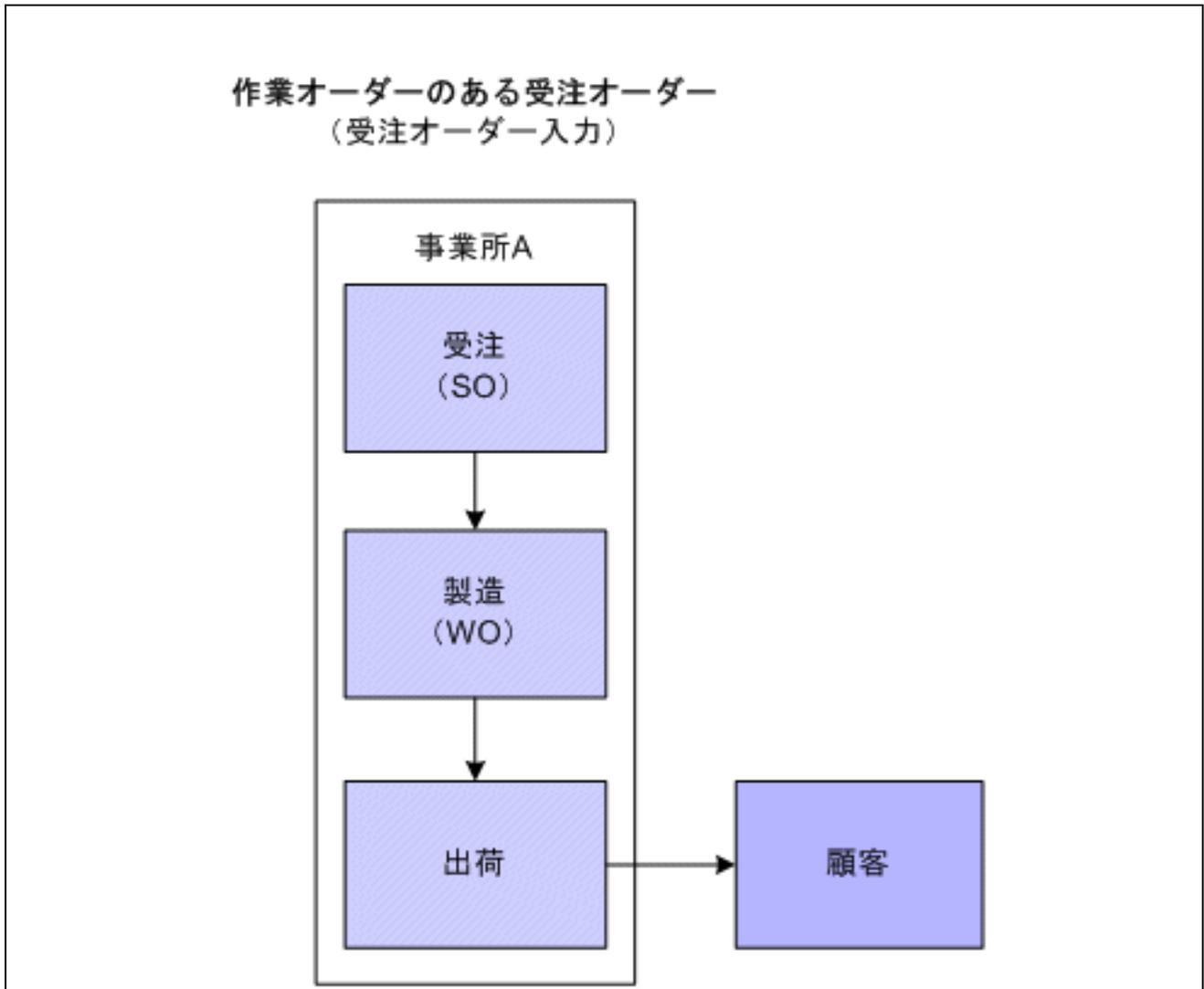
次の図は、受注オーダー処理を示しています。



コンフィギュレーション受注オーダー

コンフィギュレーション品目の行タイプが作業オーダーの場合は、対応する作業オーダーが作成されます。その後、品目を製造し、顧客に出荷します。

次の図は、作業オーダー処理のある受注オーダーを示しています。



作業オーダーのあるコンフィギュレーション受注オーダー

次の表は、コンフィギュレーション品目の受注オーダーに関する技術的考慮事項の一覧です。

機能	考慮事項
多通貨処理	<p>外貨による受注オーダーに対しては価格設定規則(Xアセンブリ組込規則)が適用されます。基本通貨金額で価格調整は行われ、必要に応じて、その金額が別の通貨金額に換算されます。</p> <p>設定時に、国内通貨でX価格設定規則を定義する必要があります。受注オーダー入力時に、国内価格が外貨に換算されます。</p>
行品目値引	<p>受注オーダー入力の際に、コンフィギュレーション品目に対する行品目値引がサポートされています。</p>

機能	考慮事項
引当可能数量チェック	コンフィギュレーション品目に対する引当可能数量チェックはサポートされていません。
引当	<p>作業オーダー行タイプの受注オーダー引当は、すべての品目に対してサポートされています。</p> <p>受注オーダー入力プログラム (P4210) によって、オーダー入力時に構成部品が受注オーダーに引き当てられます。オーダー処理 (R31410) の実行時に、引当情報が部品リストに移されます。したがって、オーダー入力時に作業オーダーの生成をただちに実行して、引当を行う必要はありません。</p> <p>オーダー処理プログラムによって、親コンフィギュレーション品目に関連付けられた構成部品が引き当てられます。</p>
代替品目/相互参照	<p>標準部品表が存在しないため、コンフィギュレーション品目に対して代替品目は設定されません。</p> <p>相互参照機能は、設定して使用できます。これは、受注オーダー入力時に使用します。</p>
その他のオーダー処理	JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムでは、コンフィギュレーション品目に対するバックオーダーはサポートされていません。

コンフィギュレーション品目の受注オーダーに関する設定時の考慮事項

コンフィギュレーション品目に対して受注オーダーを正しく処理するには、受注オーダー入力プログラム (P4210) の「作業オーダー行タイプ」処理オプションを設定し、作業オーダーを作成する必要があります。もう1つの方法として、各コンフィギュレーション品目に対する事業所レコードに行タイプWを定義することもできます。この処理オプションを空白にすると、事業所の行タイプが使用されます。

行タイプにWを設定すると、受注オーダーの承認後に、コンフィギュレーション品目に対する作業オーダー見出しを生成できます。これにより、コンフィギュレーション品目を正しく製造し、顧客に出荷できます。

コンフィギュレーション品目直送オーダーについて

仕入先から品目を購入し、それを仕入先から直接顧客に配送するのが直送オーダーです。

直送オーダーを入力すると、顧客に対する受注オーダーと、仕入先に対する購買オーダーが同時に作成されます。購買オーダーでは、品目を直接顧客に配送するように指示されます。

オーダー入力時に、品目番号が検証されますが、数量の更新または引当可能数量のチェックは行われません。

コンフィギュレーション品目の場合、直送オーダーは、親コンフィギュレーション品目およびその構成部品にも有効です。

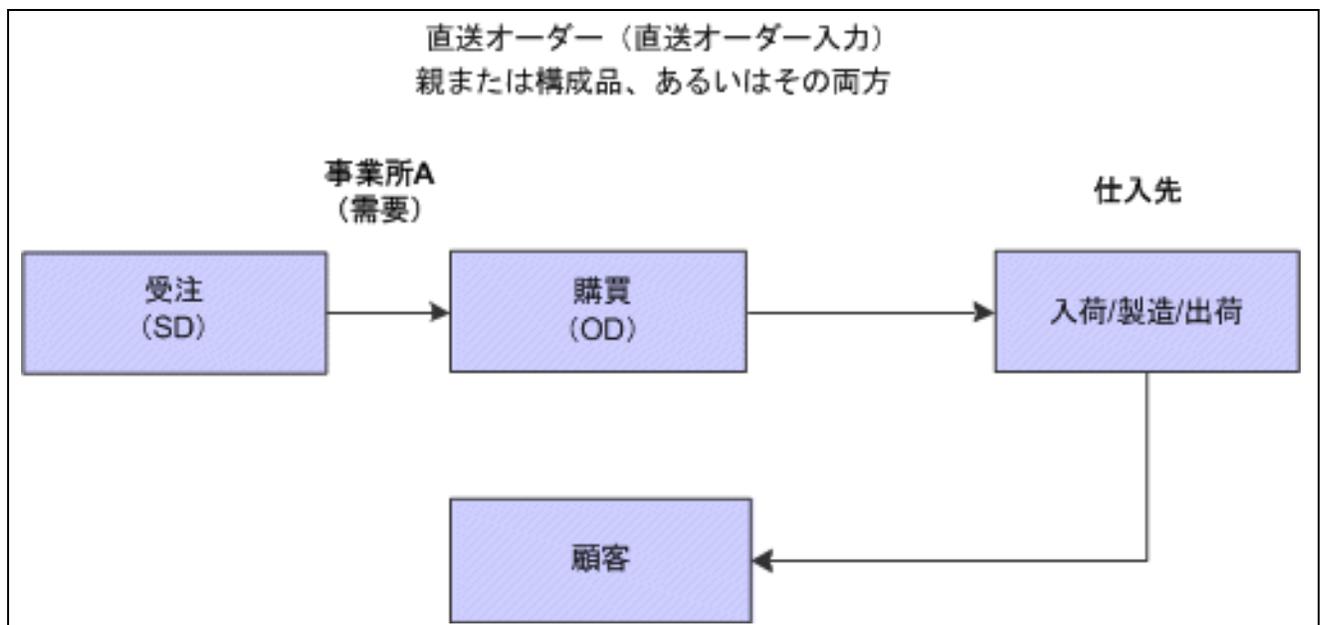
親コンフィギュレーション品目の直送オーダーでは、受注オーダーは品目のコンフィギュレーションに使用され、後に顧客への請求に使用されます。購買オーダーは仕入先に送られ、仕入先が親コンフィギュレーション品目を製造し、顧客に出荷します。

コンフィギュレーション品目の販売および構成品の直送に対する直送オーダーでは、受注オーダーは品目のコンフィギュレーション、製造、および顧客への出荷に使用されます。購買オーダーは仕入先に送られ、仕入先がコンフィギュレーション品目の構成品を製造し、顧客に出荷します。

親コンフィギュレーション品目の構成品には、標準製造された構成品、半組立品、またはコンフィギュレーション半組立品の場合があります。

コンフィギュレーション品目について、適切な情報を使用し、「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームでPタイプ規則の「仕入先番号」フィールドを設定します。また、アセンブリ組込規則テーブル (F3293) のテーブル変換プログラムを使用して、「品目/事業所情報」フォームから直送トランザクション・タイプの既存のP規則レコードに仕入先番号をロードします。

次の図は、直送プロセスを示しています。



コンフィギュレーション直送オーダー

コンフィギュレーション品目の直送オーダーに関する設定時の考慮事項

親コンフィギュレーション品目または親コンフィギュレーション品目の構成品に対する直送オーダーを正しく処理するには、品目を適切に設定する必要があります。

直送オーダーを生成するコンフィギュレーション品目のすべての構成品に対して、アセンブリ組込規則プログラム (P3293) で「トランザクション・タイプ」フィールドを設定します。

構成品目について、適切な情報を使用し、Pタイプ規則の「仕入先番号」フィールドを設定する必要があります。仕入先番号がP規則に示されていない場合は、品目/事業所レコードの「仕入先番号」フィールドから仕入先が取得されます。

直送オーダー入力用の受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを作成し、処理オプションを適切に設定します。受注オーダー入力とともに直送オーダーを生成するのに使用される購買オーダー・プログラム (P4310) のバージョンの処理オプションを設定します。

コンフィギュレーション品目転送オーダーについて

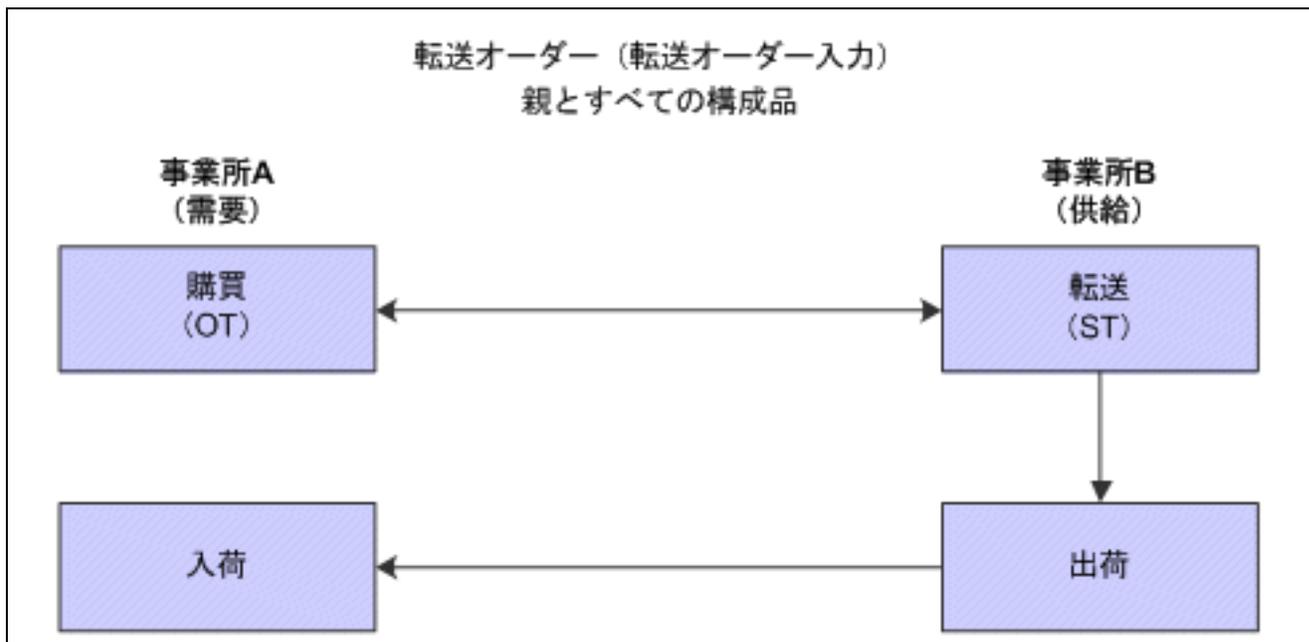
転送オーダーを使用して、社内の事業所間の在庫移動を行います。転送オーダーを入力すると、在庫を正確に管理するために使用されるサポート購買オーダーと受注オーダーが作成されます。

事業所間でコンフィギュレーション品目を転送できます。受注オーダー入力(P4210)の転送オーダー入力バージョンを使用して、コンフィギュレーション品目に対する転送オーダーを作成します。

転送オーダー入力を使用して、コンフィギュレーション品目に対するオーダーを直接入力すると、オーダーに関するすべての情報が転送されます。したがって、親コンフィギュレーション品目が完全に転送されます。

この転送オーダーのシナリオでは、事業所Aに、事業所Bにあるコンフィギュレーション品目に対する需要があります。このコンフィギュレーション品目は親コンフィギュレーション品目とその構成部品からなっています。転送オーダー入力は、購買オーダーで品目のコンフィギュレーションを行うために使用されます。コンフィギュレーション品目の対応する受注オーダーが、事業所Bに送られます。コンフィギュレーション品目は事業所Bから事業所Aに出荷され、事業所Aで入荷処理され在庫に保管されます。

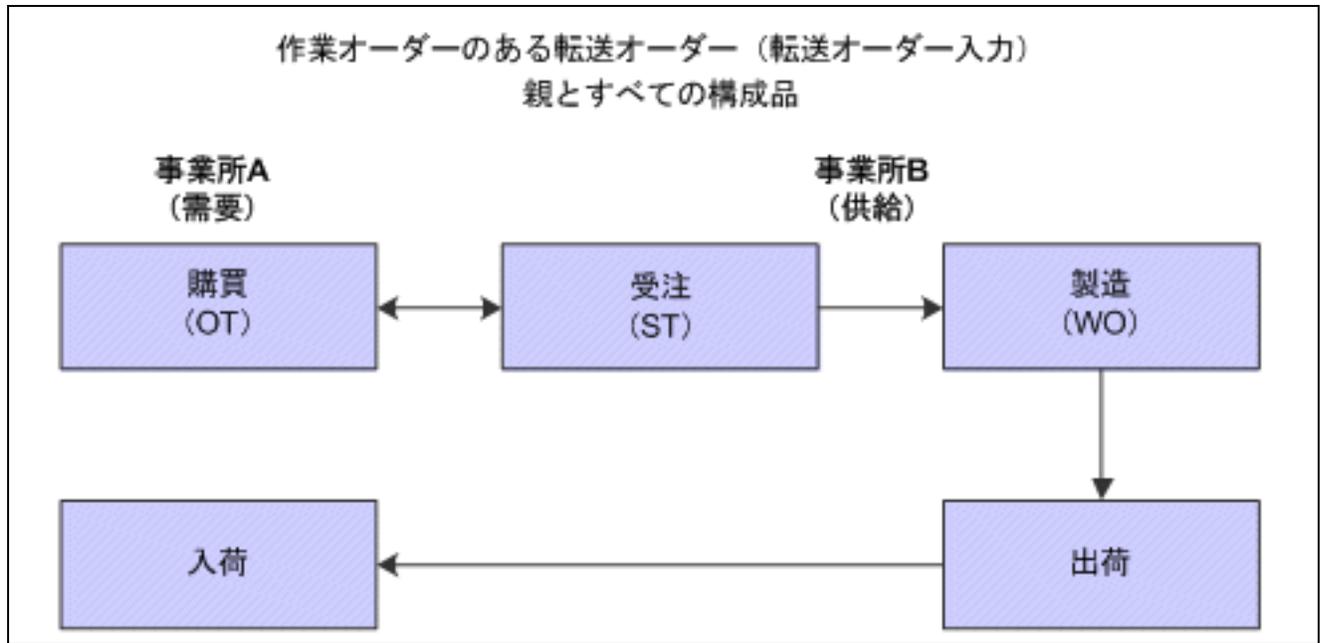
次の図は、転送オーダー処理を示しています。



コンフィギュレーション転送オーダー

事業所Bが、事業所Aに出荷する前にコンフィギュレーション品目を製造しなければならない場合があります。

次の図は、コンフィギュレーション品目を事業所Aに出荷する前に製造する作業オーダーの生成手順を示しています。



作業オーダーのあるコンフィギュレーション転送オーダー

親コンフィギュレーション品目の構成品に対する転送オーダーもサポートされています。親コンフィギュレーション品目の構成品には、標準製造された構成品、半組立品、またはコンフィギュレーション半組立品の場合があります。設定要件は変わりますが、機能は同じです。

注意: 転送オーダーは、アセンブリ組込規則PおよびXの処理を含め、通常の受注オーダーと同じ方法で処理されます。

コンフィギュレーション品目の転送オーダーに関する設定時の考慮事項

親コンフィギュレーション品目に対する転送オーダーを正しく処理するには、品目を適切に設定し、事業所設定を確認する必要があります。

転送オーダー入力用の受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを作成し、処理オプションを適切に設定します。受注オーダー入力とともに転送オーダーを生成するのに使用される購買オーダー・プログラム (P4310) のバージョンの処理オプションを設定します。

注意: 「処理」タブの「原価または基本価格の割増」処理オプションは、コンフィギュレーション品目のためにサポートされています。

親コンフィギュレーション品目の構成品に対する転送オーダーを作成するには、親コンフィギュレーション品目のオーダーで在庫行タイプ (通常S) を使用します。これにより、コンフィギュレーション品目の構成品に対する転送が行われます。

転送オーダーを生成するコンフィギュレーション品目のすべての構成品に対して、アセンブリ組込規則プログラム (P3293) で「トランザクション・タイプ」フィールドを設定します。また、構成品事業所が構成品に対して設定されていることを確認します。

コンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) の処理オプションを設定する際に、転送オーダーを必要とする構成品のオーダー作成に使用する受注オーダー入力 (P4210) のバージョンを指定します。

コンフィギュレーション品目事業所間オーダーについて

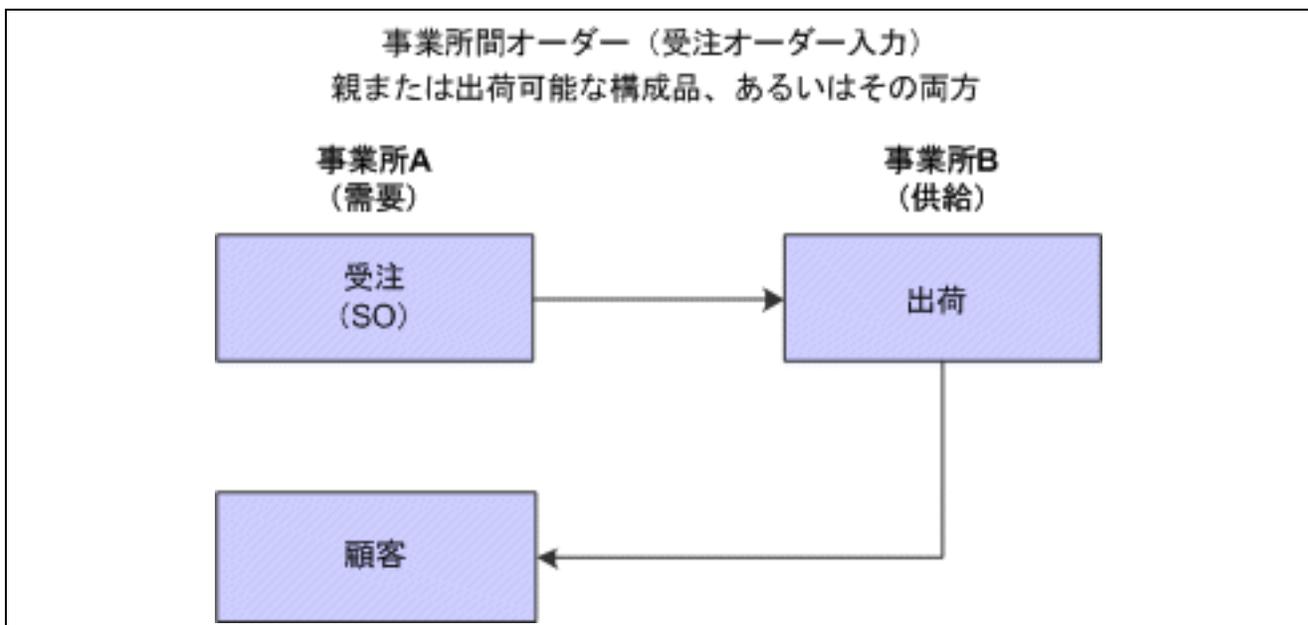
事業所間オーダーを使用して、社内の別の事業所から顧客へ品目を直接出荷できます。コンフィギュレーション品目に対して事業所間オーダーを使用できます。

事業所AとB間で発生する受注オーダーと事業所間オーダーは、親コンフィギュレーション品目に対する場合もあれば、親コンフィギュレーション品目の構成部品に対する場合もあります。親コンフィギュレーション品目の構成部品には、標準製造された構成部品、半組立品、またはコンフィギュレーション半組立品の場合があります。

親コンフィギュレーション品目の受注オーダーと事業所間オーダーの場合は、事業所Aでは受注オーダー入力(P4210)を使用して、顧客要求に基づいて品目の受注とコンフィギュレーションを行います。ただし、事業所Bは親コンフィギュレーション品目を供給します。したがって、コンフィギュレーション品目に対するオーダーを入力する際は、詳細事業所はデフォルトで事業所Bになります。次に、事業所Bが品目を顧客に出荷します。

親コンフィギュレーション品目の構成部品の事業所間オーダーを含む受注オーダーの場合は、事業所Aでは受注オーダー入力を使用して親コンフィギュレーション品目のコンフィギュレーションと受注を行います。親コンフィギュレーション品目は事業所Aで製造されますが、構成部品は事業所Bによって供給されます。構成部品は、親品目とは別個に出荷されます。したがって、事業所Aは親品目を顧客に出荷し、事業所Bは構成部品を顧客に出荷します。

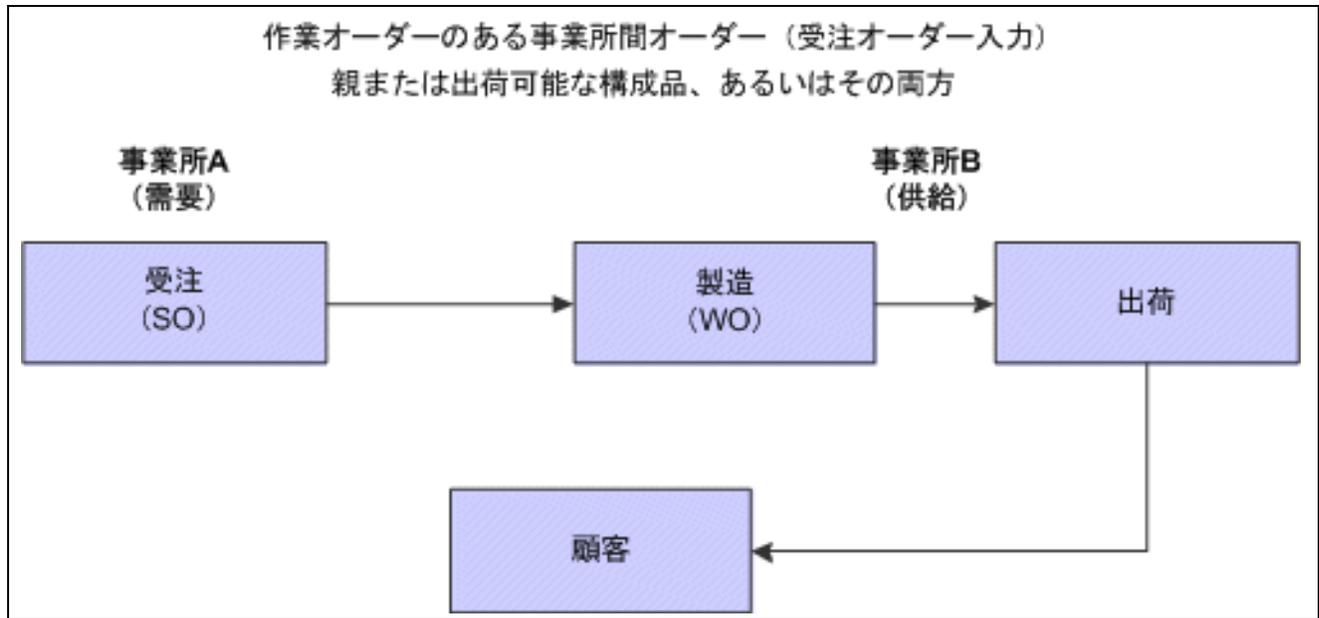
次の図は、事業所間オーダー処理を示しています。



コンフィギュレーション事業所間オーダー

事業所Bが、顧客に出荷する前に親コンフィギュレーション品目または親コンフィギュレーション品目の構成部品を製造しなければならない場合もあります。

次の図は、品目を顧客に出荷する前に製造する作業オーダーの生成手順を示しています。



作業オーダーのあるコンフィギュレーション事業所間オーダー

コンフィギュレーション品目の事業所間オーダーに関する設定時の考慮事項

コンフィギュレーション品目に対して事業所間オーダーを作成できます。親コンフィギュレーション品目または親コンフィギュレーション品目の構成成品に対する事業所間オーダーを正しく処理するには、品目を適切に設定する必要があります。

コンフィギュレーション品目セグメント・プログラム (P3291) でコンフィギュレーション品目の事業所設定を確認します。

事業所間オーダーを生成するコンフィギュレーション品目のすべての構成成品に対して、アセンブリ組込規則プログラム (P3293) で「トランザクション・タイプ」フィールドを設定します。また、構成成品事業所が構成成品に対して設定されていることを確認します。

受注オーダー入力 (P4210) および受注オーダー入力で使用する転送オーダー入力のバージョンの処理オプションを設定します。

注意: 「処理」タブの「原価または基本価格の割増」処理オプションは、コンフィギュレーション品目のためにサポートされています。

コンフィギュレーション品目の事業所間オーダーの場合は、オーダー入力時にその他のオーダーは作成されません。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータでは、原価または基本価格の割増しは、受注オーダー入力の実行バージョンの処理オプションに従って処理されます。

コンフィギュレーション品目組合せオーダーについて

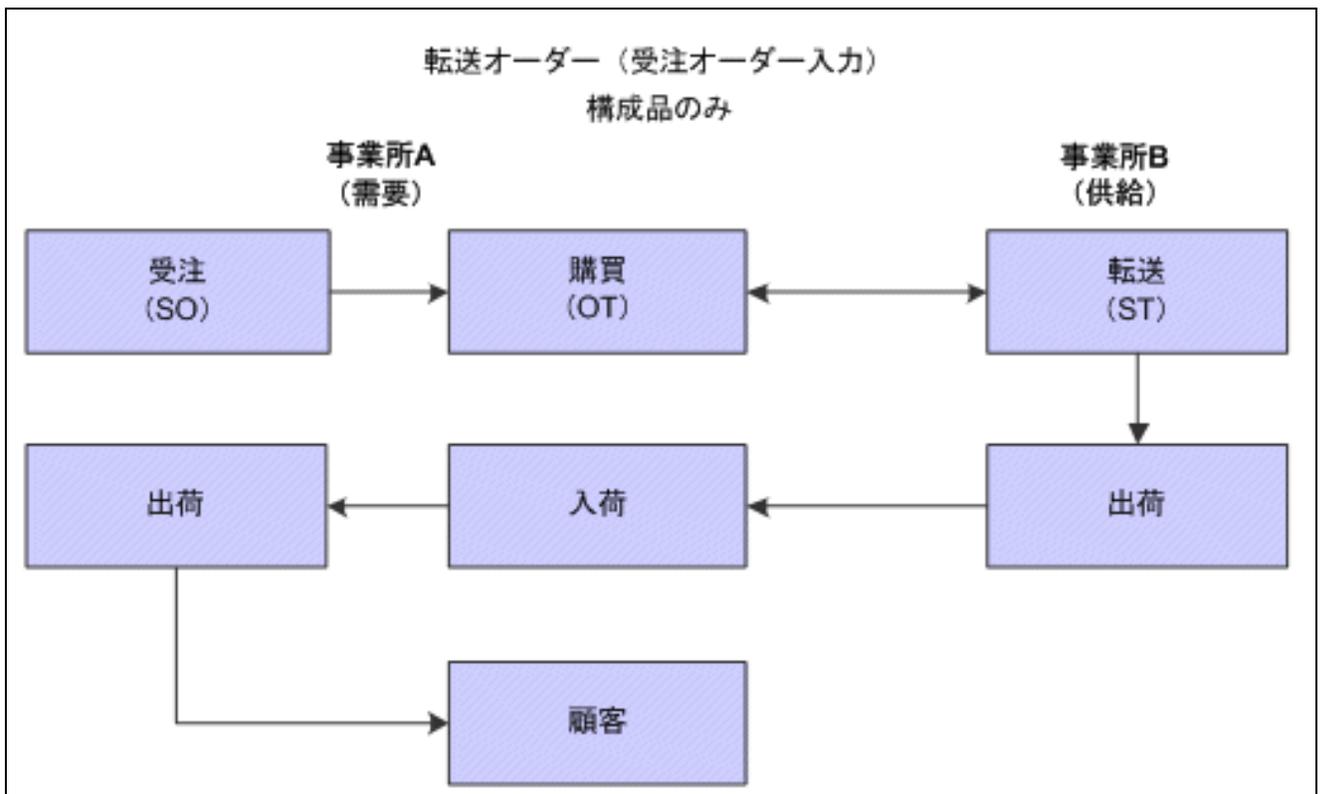
様々なタイプのオーダーを組み合わせ、コンフィギュレーション品目に対する組合せオーダーを作成できます。親コンフィギュレーション品目の構成成品について、アセンブリ組込規則で構成成品トランザクション・タイプを設定します。多数のオーダーの組合せが可能ですが、受注オーダーと転送オーダーの組合せの例が、この項の図に示されています。

事業所AとB間で発生する受注オーダーと転送オーダーは、親コンフィギュレーション品目に対する場合もあれば、親コンフィギュレーション品目の構成部品に対する場合もあります。親コンフィギュレーション品目の構成部品には、標準製造された構成部品、半組立品、またはコンフィギュレーション半組立品の場合があります。

親コンフィギュレーション品目の構成部品の受注オーダーと転送オーダーの場合は、事業所Aでは受注オーダー入力を使用して親コンフィギュレーション品目のコンフィギュレーションと受注を行います。親コンフィギュレーション品目は事業所Aで製造されますが、構成部品は事業所Bによって供給されます。購買オーダーが事業所Bに送られます。事業所Bでは付随する受注オーダーを使用してコンフィギュレーション品目をピッキングし、事業所Aに出荷します。事業所Aではその品目を入荷後、在庫して親コンフィギュレーション品目の製造を完了します。その後、事業所Aは、受注オーダー入力で作成した元の受注オーダーを使用して、完全な親コンフィギュレーション品目を顧客に出荷します。

注意: 使用する受注オーダー入力のバージョンは、コンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) の正しいバージョンを参照して、受注オーダー入力 (P4210) で使用する転送オーダー入力の正しいバージョンを呼び出す必要があります。

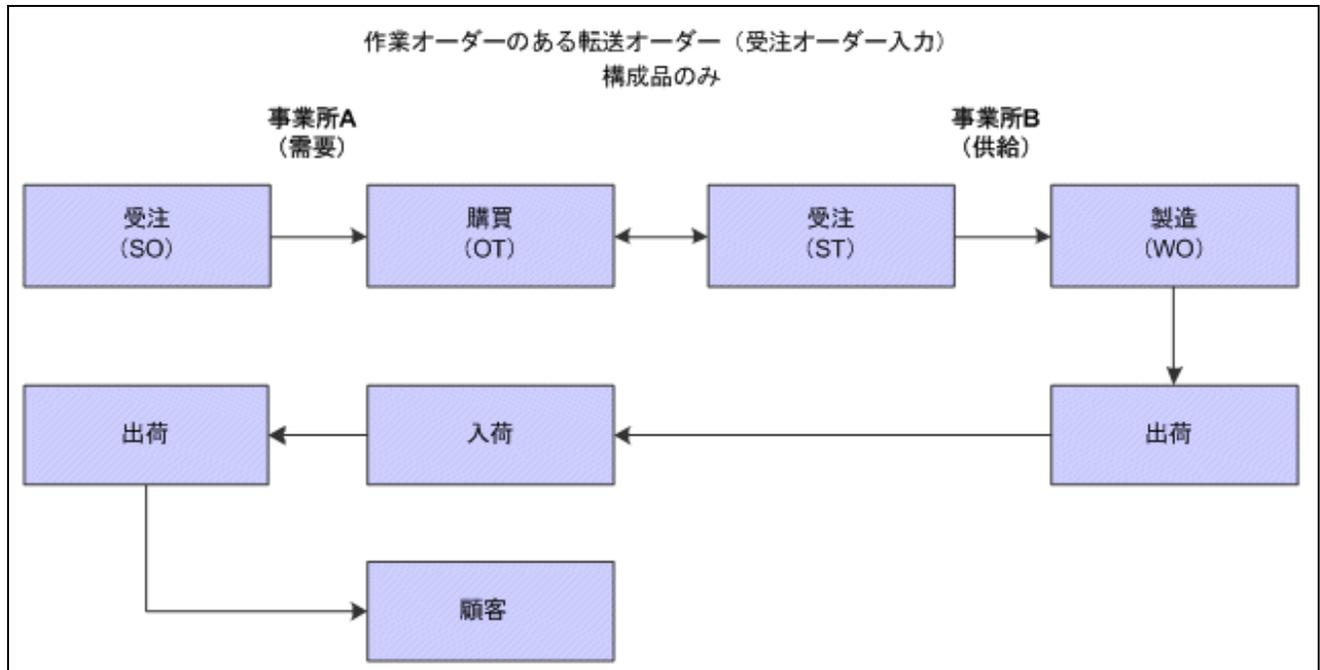
次の図は、組合せオーダー処理を示しています。



コンフィギュレーション組合せオーダー

事業所Bが、事業所Aに出荷する前に品目を製造しなければならない場合もあります。

次の図は、品目を事業所Aに出荷する前に製造する作業オーダーの生成手順を示しています。



作業オーダーのあるコンフィギュレーション組合せオーダー

コンフィギュレーション品目の組合せオーダーに関する設定時の考慮事項

親コンフィギュレーション品目または親コンフィギュレーション品目の構成品に対する組合せオーダーを正しく処理するには、品目を適切に設定し、事業所設定の確認をする必要があります。

オーダーを生成するコンフィギュレーション品目のすべての構成品に対して、アセンブリ組込規則プログラム (P3293) で「トランザクション・タイプ」フィールドを設定します。また、構成品事業所が構成品に対して設定されていることを確認します。

受注オーダー入力 (P4210) および購買オーダー入力 (P4310) の必要なバージョンを作成します。処理オプションを適切に設定します。

コンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) の処理オプションを設定する際に、転送オーダーを必要とする構成品のオーダー作成で使用する、受注オーダー入力の転送オーダー入力バージョンを指定します。

コンフィギュレーション品目購買オーダーについて

仕入先にコンフィギュレーション品目の仕様を送る必要がある場合に、コンフィギュレーション品目に対する購買オーダーを入力します。

購買オーダー・プログラム (P4310) には、メニューから、または JD Edwards EnterpriseOne ETO システムのプロジェクト・ワークベンチ (P31P001) からアクセスできます。コンフィギュレーション品目に対する購買オーダーの入力は、受注オーダーの入力と同様です。

購買オーダーは、「オーダー見出し」フォームまたは「オーダー明細」フォームを表示するように設定できます。見出し情報を入力すると、コンフィギュレーション品目が詳細グリッドに入力されます。コンフィギュレーション品目のセグメントに回答値が入力され、コンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) によって検証されると、購買オーダー入力フォームに戻ります。

在庫行タイプ(通常、S)が購買オーダーでは使用されます。

コンフィギュレーション品目に対する購買オーダーは、購買明細行を生成するコンフィギュレーションの構成品を持たないという点で、受注オーダーとは異なります。購買オーダーには、親コンフィギュレーション品目のみを含む単一行があります。購買オーダーは、親コンフィギュレーション品目のコンフィギュレーション半組立品に対するオーダーの場合があります。

Xアセンブリ組込規則は、コンフィギュレーション購買オーダーに対して処理されますが、すべての原価が親コンフィギュレーション品目の原価に積み上げられます。

コンフィギュレータ固定情報で在庫検索が実行されるように設定されている場合でも、自動在庫検索は行われません。

コンフィギュレーション購買オーダーに対しては、「品目/価格/原価の編集」フォームの「品目の追加」タブと「価格/原価の追加」タブにはアクセスできません。

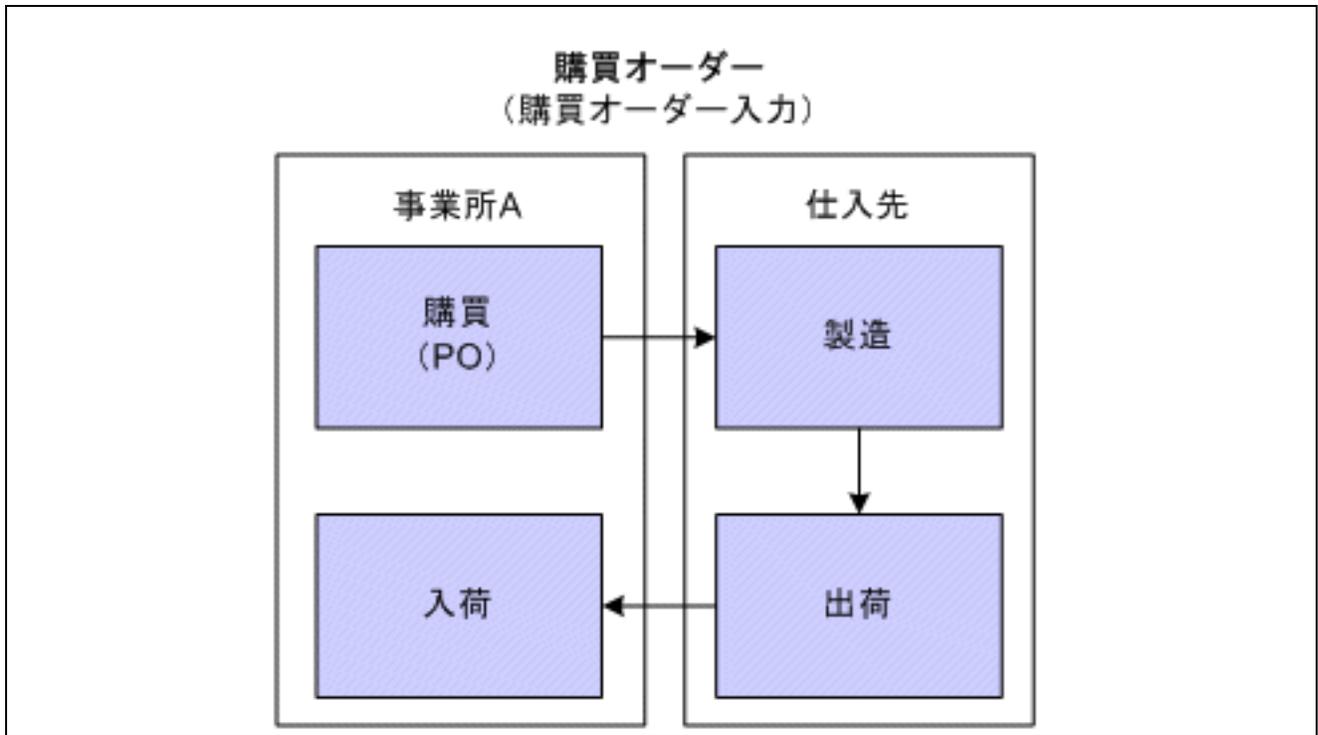
メディア・オブジェクトが購買オーダー行に添付されます。メディア・オブジェクトには、コンフィギュレーション品目/セグメント・プログラム(P3291)で設定された汎用コンフィギュレーション・テキストが含まれています。この添付テキストは、コンフィギュレーションを仕入先に伝えるために使用されます。

参照: 第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「コンフィギュレーション品目のメディア・オブジェクトの添付について」、35ページ

品目マスターのコンフィギュレータ原価計算方法フィールドは、購買オーダーでコンフィギュレーション品目の原価計算を行うために使用します。さらに、JD Edwards EnterpriseOne 価格管理がコンフィギュレーション品目の価格設定のために使用できます。ただし、総勘定元帳への仕訳は作成されません。

例として、事業所Aでコンフィギュレーション品目を在庫保管する必要があるとします。購買オーダー入力は、品目の発注とコンフィギュレーションを行うために使用されます。購買オーダーが仕入先に送られると、仕入先はコンフィギュレーション品目を事業所Aに出荷します。事業所Aはコンフィギュレーション品目を入庫します。

次の図は、購買オーダー処理を示しています。



コンフィギュレーション購買オーダー

購買オーダーは、コンフィギュレーション品目に対する転送オーダー、直送オーダー、および組合せオーダーの受注オーダー入力時にも作成されます。

入荷確認を入力すると、コンフィギュレーションIDとロット番号が購買オーダーに関連付けられます。コンフィギュレーション品目を在庫または受注オーダーに対して入荷できます。

コンフィギュレーション品目の購買オーダーに関する設定時の考慮事項

コンフィギュレーション品目に対する購買オーダーを正しく処理するには、購買オーダープログラム (P4310) の在庫行タイプで「行タイプ」処理オプションを設定する必要があります。もう1つの方法として、各コンフィギュレーション品目に対する事業所レコードに行タイプSを定義することもできます。この処理オプションを空白にすると、事業所の行タイプが使用されます。

また、コンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) の正しいバージョンが呼び出されるように処理オプションを設定する必要があります。

品目マスターで、コンフィギュレータ原価計算方法フィールドを設定して、購買オーダーのコンフィギュレーション品目の原価計算を容易に行えるようにすることができます。JD Edwards EnterpriseOne価格管理を使用して、コンフィギュレーション品目の価格設定を行うこともできます。ただし、総勘定元帳への仕訳は作成されません。

コンフィギュレーション品目構成品の購買オーダーについて

親コンフィギュレーション品目にオーダーを入力する際、構成品の購買オーダーを生成できます。購買構成品はコンフィギュレーション品目を作成する作業オーダーで使用されるか、または受注オーダーのコンフィギュレーション品目とともに出荷されます。コンフィギュレーション品目構成品の購買オーダーの作成、編集および取消がサポートされています。

コンフィギュレーション品目について、適切な情報を使用し、「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームでPタイプ規則の「トランザクション・タイプ」フィールドおよび「仕入先番号」フィールドを設定します。「トランザクション・タイプ」フィールドを値4に設定し、コンフィギュレーション品目構成品の購買オーダーを生成します。

次のオーダー・タイプを使用して、コンフィギュレーション品目構成品の購買オーダーを生成できます。

- 受注オーダー
- 作業オーダー
- 転送オーダー
- 作業オーダーによる転送オーダー
- 事業所間オーダー
- 一括オーダー

このオーダー・タイプには、一括オーダー入力を使用してコンフィギュレーション品目を入力します。一括オーダーをリリースすると、購買オーダーを生成するコンフィギュレーションの構成品である受注オーダーが生成されます。

注意: コンフィギュレーション品目構成品では、購買一括オーダーは生成されません。

- 見積のリリース

このオーダー・タイプには、販売見積入力を使用してコンフィギュレーション品目見積を入力します。見積をリリースすると、購買オーダーを生成するコンフィギュレーションの構成品である受注オーダーが生成されます。

- 非在庫品目の購買オーダー

注意: JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、在庫タイプ0(擬似)のコンフィギュレーション品目構成品に対する購買オーダーの生成はサポートされていません。また、購買オーダーまたは作業オーダーを生成するように設定された行タイプの構成品に対する購買オーダーの生成もサポートされていません。在庫インターフェイスYの行タイプのみ、構成品に対する購買オーダーが生成されます。

オーダー入力時には、トランザクション・タイプ4(購買オーダー)の構成品に対する購買オーダーが生成されます。構成品に対する購買オーダーの生成に使用される購買オーダー入力(P4310)のバージョンを指定します。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、構成品に対する新規購買オーダーが作成され、購買オーダー見出し(F4301)および購買オーダー明細(F4311)テーブルにその品目番号が挿入されます。購買オーダー伝票番号は、関連オーダーとしてコンフィギュレータ・マスター(F3201)に格納されます。F4311および購買オーダーの生成ファイル(F4311Z)のテーブルには、「コンフィギュレータ作成フラグ」フィールドに値が格納され、購買オーダーに関連するコンフィギュレーション・オーダーがあることを示します。

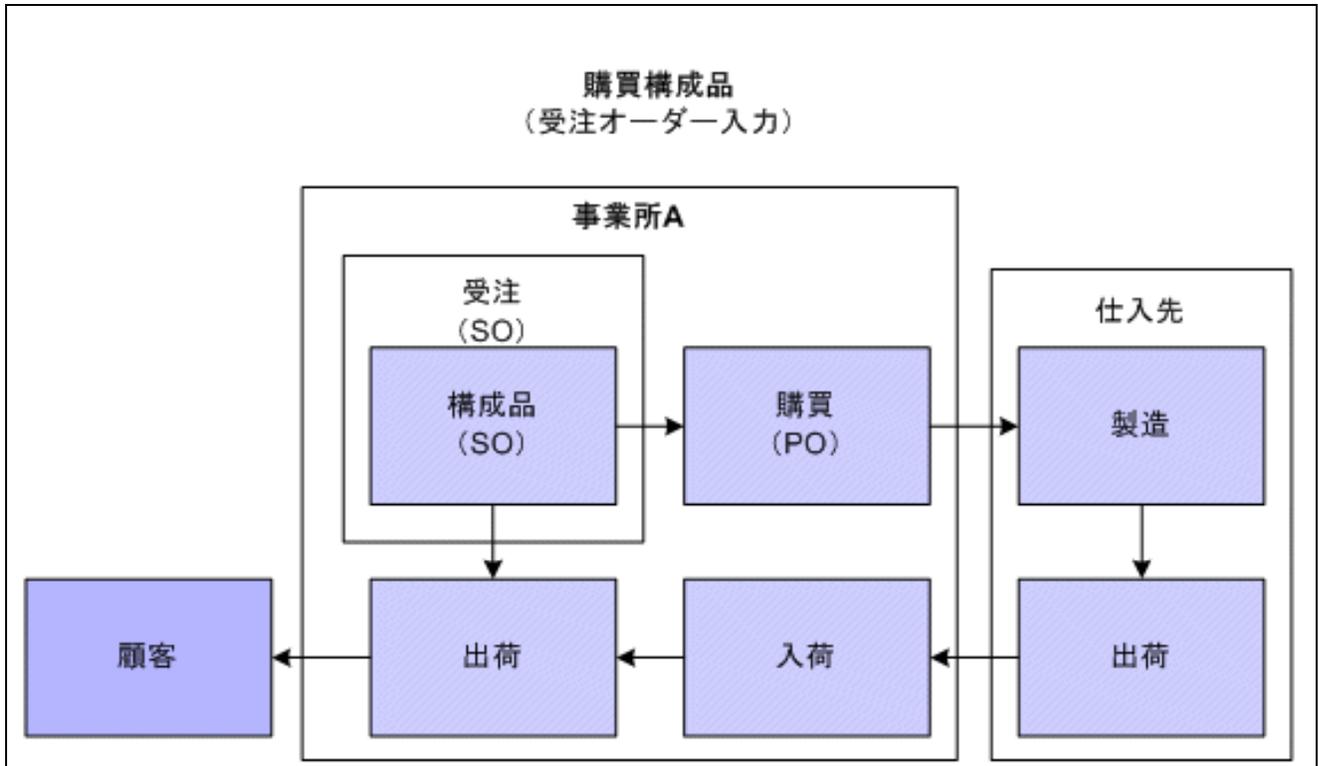
オーダーを受け入れると、メディア・オブジェクトが購買オーダー一行に添付されます。メディア・オブジェクトには、コンフィギュレーション品目/セグメント・プログラム(P3291)で設定された汎用コンフィギュレーション・テキストが含まれています。この添付テキストは、コンフィギュレーション固有の情報を伝えるために仕入先に送信されます。

参照: [第 4 章、「コンフィギュレータの設定」、「コンフィギュレーション品目のメディア・オブジェクトの添付について」、35ページ](#)

入荷確認プログラム (P4312) を使用すると、構成品の入庫、入庫場所を示す関連オーダーの引当の更新、またはコンフィギュレーション作業オーダーの部品リスト行への引当および自動出庫を実行できます。次に JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムで、在庫保管場所引当が更新され、オーダー状況に関する情報が確認されます。

例として、事業所 A でコンフィギュレーション品目を顧客に販売するとします。品目の発注とコンフィギュレーションに受注オーダー入力を使用されます。購買オーダーが仕入先に送信されると、コンフィギュレーション品目の構成部品が事業所 A に出荷されます。事業所 A は構成部品を受領すると、親コンフィギュレーション品目と構成部品を顧客に出荷します。

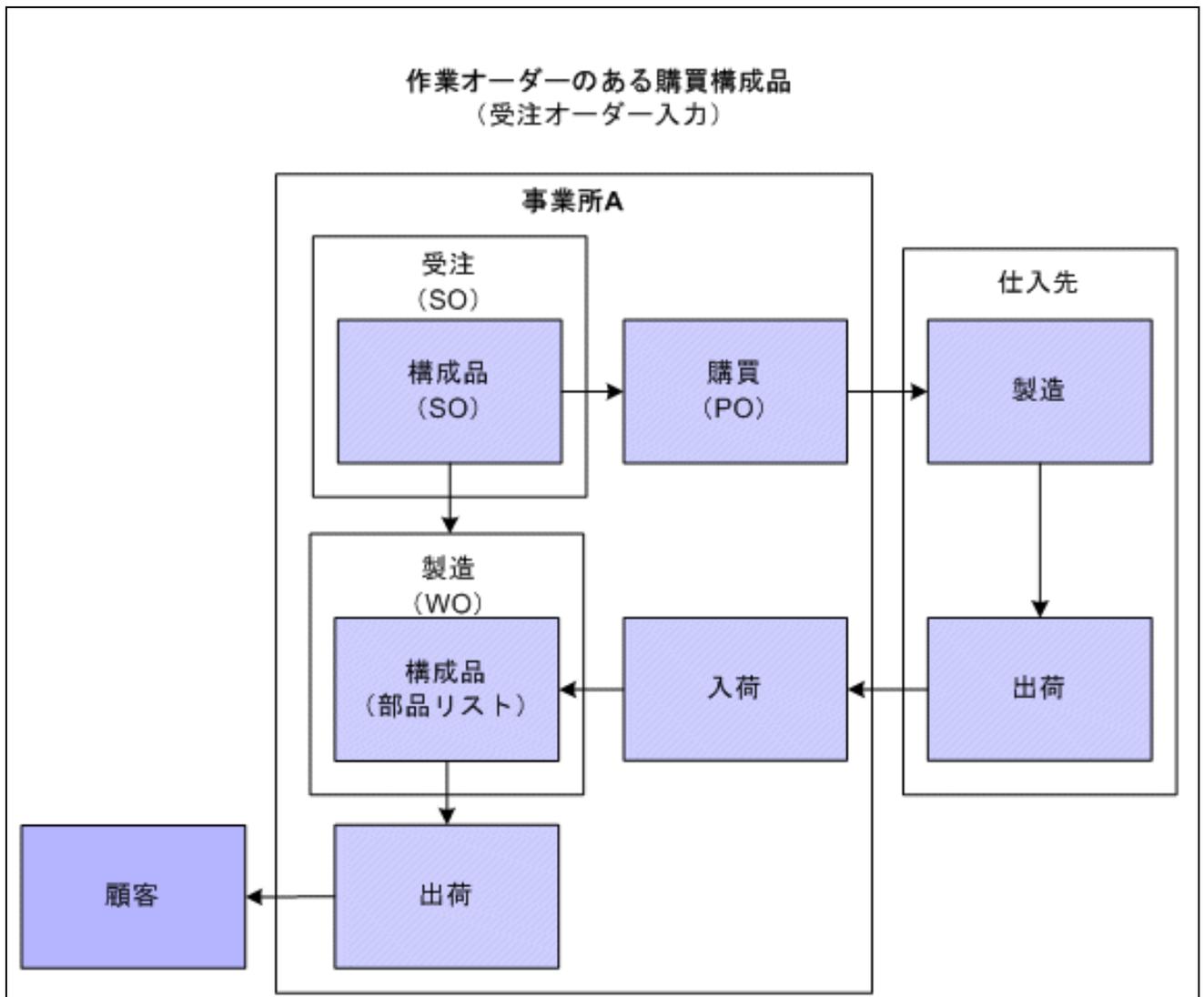
次の図は、購買構成品のオーダー処理を示しています。



購買構成部品オーダー

事業所 A は、顧客に出荷する前に購買構成部品を使用してコンフィギュレーション品目を製造する必要があります。

次の図は、作業オーダー処理のある購買構成部品を示しています。



作業オーダーのある購買構成成品オーダー

オーダーの改訂

顧客からオーダーに対する情報変更の要求があった場合は、コンフィギュレーション品目に対するオーダーを改訂できます。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、親コンフィギュレーション品目のコンフィギュレーションが変更された場合、コンフィギュレーション品目の構成成品に対する購買オーダーを改訂することができます。

次の表は、発生する可能性のある改訂の種類をまとめたものです。

改訂	説明
数量の変更	構成成品目に対する購買オーダーのオーダー数量が変更されます。
単位の変更	構成成品目に対する購買オーダーの単位が変更されます。

改訂	説明
要求日付の変更	構成品目に対する購買オーダーの日付が変更されます。
コンフィギュレーションの変更	コンフィギュレーションの変更を反映するように購買オーダーが変更されます。関連する購買オーダーが締切り状況を超えている場合は、関連するオーダー（作業オーダーなど）を手動で更新する必要があります。
構成品目の除外	生成された購買オーダーが取り消されます。 オーダーがすべて受領されている場合、またはその状況が締切り状況より先まで進んでいる場合は、購買オーダーは取り消されません。 購買オーダーを取り消せない場合は、警告メッセージが表示されます。
オーダーの取消	コンフィギュレーション品目のオーダーを取り消すと、そのコンフィギュレーション品目の構成品に対する購買オーダーが取り消されます。

コンフィギュレーション品目構成品の購買オーダーに関する設定時の考慮事項

親コンフィギュレーション品目構成品に対する購買オーダーを正しく処理するには、「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォームのPタイプ規則について、その構成品目の該当する情報を使用して「トランザクション・タイプ」フィールドと「仕入先番号」フィールドを設定する必要があります。「トランザクション・タイプ」フィールドを値4に設定し、コンフィギュレーション品目構成品の購買オーダーを生成します。

P3210プログラムの「バージョン」タブで「購買オーダー・バージョン」処理オプションを設定する必要もあります。構成品に対する購買オーダーの生成には、購買オーダー入力プログラム(P4310)の指定のバージョンが使用されます。

コンフィギュレーション品目作業オーダーについて

コンフィギュレーション品目を製造する場合、コンフィギュレーション品目に対する作業オーダーを作成します。コンフィギュレーション品目は、オーダーに充当する場合もあれば、将来使用するために在庫に入れる場合もあります。

受注オーダー入力時に、システム設定と処理オプション設定に基づいて、関連するコンフィギュレーション品目に対する作業オーダー見出しが作成されます。作成された作業オーダー見出しは、コンフィギュレーション品目を製造するための製造現場管理処理で使用されます。コンフィギュレーション品目に対する作業オーダーは、製造作業オーダー処理(P48013)でも直接作成できます。製造作業オーダー処理には、メニューから、またはJD Edwards EnterpriseOne受注設計生産システムのプロジェクト・ワークベンチ・プログラムからアクセスできます。

コンフィギュレーション品目に対する作業オーダーの入力は、通常の作業オーダーの入力と同様です。コンフィギュレーション品目に対する作業オーダーの作成は、製造作業オーダー処理プログラムにより開始されます。親コンフィギュレーション品目が作業オーダーに入力されると、コンフィギュレーション品目の改訂プログラム(P3210)が呼び出されて、コンフィギュレーション・セグメントの回答値の入力および検証が行われます。コンフィギュレーションが受け入れられると、作業オーダー入力フォームに戻ります。必要に応じて、子コンフィギュレーション品目に対する作業オーダーが作成されます。

メディア・オブジェクトが作業オーダー行に添付されます。メディア・オブジェクトには、コンフィギュレーション品目/セグメント(P3291)で設定された汎用コンフィギュレーション・テキストが含まれています。

参照: 第 5 章、「コンフィギュレーション品目の改訂の使い方」、「コンフィギュレーション・テキストについて」、118 ページ

コンフィギュレーション品目に対する作業オーダー入力の際、原価の積上げは行われますが、価格の積上げは行われません。

コンフィギュレーション品目の作業オーダーに関する設定時の考慮事項

コンフィギュレーション品目に対する作業オーダーを処理するには、製造作業オーダー処理プログラム(P48013)の「伝票タイプ」処理オプションを設定する必要があります。作業オーダーに使用する伝票タイプを定義します。

また、コンフィギュレーション品目の改訂プログラム(P3210)の正しいバージョンが呼び出されるように処理オプションを設定する必要があります。

品目事業所の各コンフィギュレーション品目の行タイプが作業オーダー行タイプになっていることを確認します。

受注設計生産におけるコンフィギュレーション品目オーダーについて

JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産(ETO)システムでは、量産方式から個別生産方式への移行がサポートされています。この受注設計生産の環境では、関係する不明の情報の量を考慮すると、プロジェクト管理が最も重要になります。JD Edwards EnterpriseOne ETOシステムでは、プロジェクトの開始、計画、実行、制御、および完了の各フェーズを含む標準的なプロジェクト指向業務がライフ・サイクル全体にわたってサポートされています。

JD Edwards EnterpriseOne ETOシステムで、コンフィギュレーション品目に対する作業オーダーまたは購買オーダーを入力できます。プロジェクト・ワークベンチ(P31P001)から、製造作業オーダー処理(P48013)にアクセスできます。コンフィギュレーション品目に対する既存の作業オーダーをプロジェクトに添付することもできます。

購買オーダープログラム(P4310)には、プロジェクト・ワークベンチからアクセスします。JD Edwards EnterpriseOne ETOで購買オーダーのコンフィギュレーションを行う際に、PおよびXアセンブリ組込規則が評価されます。

“ルート”または“最上位”コンフィギュレーション品目とも呼ばれる親コンフィギュレーション品目、または親コンフィギュレーション品目のコンフィギュレーション半組立品に対するオーダーを入力できます。

注意: コンフィギュレーション品目フォームの「Configured Item Inventory」オプションは、JD Edwards EnterpriseOne ETOでは使用できません。JD Edwards EnterpriseOne ETOでは、すべての在庫はプロジェクト固有であり、プロジェクトごとに製造または購入する必要があります。

ETOでのコンフィギュレーション品目オーダーを設定する際の考慮事項

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムが設定されると、JD Edwards EnterpriseOne ETOでコンフィギュレーション品目のオプションを使用できます。

コンフィギュレーション品目の新規作業オーダーのプロジェクトへの追加

プロジェクト・ワークベンチ・プログラム (P31P001) を使用して、ルート・コンフィギュレーション品目に対する新規作業オーダーを追加できます。作業オーダーの入力後は、コンフィギュレーション品目の仕様を入力できます。このオプションから、コンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) が呼び出され、品目のコンフィギュレーションが定義されます。

必要に応じて、JD Edwards EnterpriseOne コンフィギュレータによって、子コンフィギュレーション品目に対する作業オーダーが作成されます。また、JD Edwards EnterpriseOne コンフィギュレータによって、生成済の子コンフィギュレーション作業オーダーが ETO プロジェクトに関連付けられます。

その結果、コンフィギュレーション品目とそのコンフィギュレーション構成部品に対して作業オーダーが作成されるとともに、部品リストや作業工程も作成されます。

注意: 親コンフィギュレーション作業オーダーまたはその子作業オーダーに、集計または製造などの他のタイプのオーダーを子として追加することは許可されていません。

コンフィギュレーション品目に対する既存作業オーダーのプロジェクトへの添付

プロジェクト・ワークベンチ・プログラム (P31P001) を使用して、コンフィギュレーション作業オーダーの既存セットを ETO プロジェクトに添付できます。コンフィギュレーション作業オーダーは、製造作業オーダー処理 (P48013) を使用して作成されている必要があります。さらに、次の条件を満たしている必要があります。

- 作業オーダーがコンフィギュレーション作業オーダーの場合、ルートまたは最上位の作業オーダーでなければならない。
- コンフィギュレーション作業オーダーは、すでにプロジェクトに関連付けられてはならない。
- 作業オーダーには、その部品リストに出庫された資材があってはならない。
- 作業オーダーには、そのオーダーに対して報告済の活動があってはならない。

コンフィギュレーション作業オーダーが、受注オーダー入力 (P4210) を使用して作成されている場合は、そのオーダーの既存セットを ETO プロジェクトに添付することはできません。受注オーダーから作成されたコンフィギュレーション作業オーダーが ETO プロジェクトに添付された場合、その作業オーダーに対する受注オーダーが 2 セットできる可能性があります。1 つは元の受注オーダーで、もう 1 つはコンフィギュレーション品目のプロジェクト・ワークベンチからの出荷に使用される受注オーダーです。問題が発生するのを避けるために、受注オーダーから作成されたコンフィギュレーション作業オーダーを ETO プロジェクトに添付しないでください。

プロジェクトのコンフィギュレーション入力の確認

プロジェクト・ワークベンチ (P31P001) とコンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) によって作業オーダー・レコードをコミットすると、セグメント値の処理プログラム (P32983) を使用して、親コンフィギュレーション作業オーダーとそのすべての子作業オーダーの設定を確認できます。

事前設定

コンフィギュレーション品目のオーダーを入力するには、次を実行する必要があります。

- JD Edwards EnterpriseOne コンフィギュレータ・システムでのコンフィギュレーション品目の設定

- JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでのコンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) の処理オプションの設定

コンフィギュレーション品目に対する販売見積の入力および変換

この項では、コンフィギュレーション品目販売見積およびコンフィギュレーション品目に対する販売見積から受注オーダーへの変換の概要、事前設定、およびコンフィギュレーション品目の販売見積から受注オーダーへの変換方法について説明します。

コンフィギュレーション品目販売見積について

顧客から発注の前に正式な価格見積を要求された場合に、販売見積を入力します。販売見積の入力は受注オーダーと同じ方法で行います。ただし、コンフィギュレーション品目の販売見積をサポートするには、特定のJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ固定情報と処理オプションを設定する必要があります。見積オーダーを入力して、次の処理を実行します。

- 品目の価格および引当可能数量に関する情報を提示する。
- 将来の参照用に数量および価格見積を記録する。
- 顧客がオーダーを承認するまで見積を保留にする。
- 一定期間にわたって見積価格を保証する。

顧客からのオーダーが確定した時点で、見積オーダーを実際の受注オーダーに変換します。

注意: 販売見積を入力しても、親コンフィギュレーション品目や構成品の移動に対して原価は累計されません。

コンフィギュレーション品目の販売見積から受注オーダーへの変換について

販売見積を作成して顧客が見積品目の購買を承諾すると、その販売見積を使用して受注オーダーを作成できます。

受注オーダー処理で、販売見積を受注オーダーに変換するのに次の3つの方法が使用できます。

- 見積オーダーからの受注オーダーの作成 (一括オーダー機能による自動作成)
- 見積オーダーのリリース
- 受注オーダーへの販売見積のコピー

コンフィギュレーション品目には固有の設定および処理要件があるため、コンフィギュレーション品目の販売見積から受注オーダーの変換についても同じことが当てはまります。コンフィギュレータを使用する際、販売見積から受注オーダーへの変換には、すべての受注オーダー処理方法を使用できるわけではありません。

販売見積からの受注オーダーの自動作成は、コンフィギュレーション品目に対してサポートされていません。コンフィギュレーション品目フォームの表示前に見積 (一括オーダー) の使用を指定することはできません。

受注オーダーへの販売見積のリリース機能は、コンフィギュレーション品目に対してサポートされていません。リリース処理時に、コンフィギュレータのリンクが見積からオーダーへ渡されることはありません。

販売見積の受注オーダーへのコピーは、コンフィギュレーション見積処理では優先して処理され、コンフィギュレーション品目に対してサポートされている唯一の方法です。販売見積のコピー方法には、コンフィギュレーション・リンクの整合性を保つためのロジックがあります。このため、販売見積が受注オーダーにコピーされても、新規受注オーダーにはリンクが含まれ、受注オーダー作成後にコンフィギュレーションに戻ることができます。

コンフィギュレーション品目に対して販売見積からの受注オーダーの作成をサポートするには、コピー処理の前に特定の処理オプションを設定しておく必要があります。

事前設定

コンフィギュレーション品目の販売見積を正しく処理するには、次を実行する必要があります。

- コンフィギュレータ固定情報を設定します。
 - コンフィギュレータ固定情報プログラム (P3209) の「伝票タイプ・リスト」フィールドに販売見積の伝票タイプを指定します。
- このユーザー定義コード (UDC) は、社内で販売見積に対する有効な伝票タイプを定義するために使用します。「伝票タイプ・リスト」フィールドは通常、QT に設定されます。
- 販売見積原価の累計方法を指定するには、コンフィギュレータ固定情報で「原価-販売見積」オプションを設定します。

コンフィギュレーション品目の販売見積の原価計算は、コンフィギュレーション品目の受注オーダーの原価計算とは異なります。通常、コンフィギュレーション品目の原価が累計されるのは、オーダー処理プログラム (R31410) を実行して受注オーダーに関連付けられたコンフィギュレーション品目の作業オーダーを作成する場合だけです。ただし、コンフィギュレーション品目の販売見積の原価を累計する特別な機能があります。コンフィギュレーション品目の販売見積が入力されたときに原価が累計されるように、コンフィギュレータ固定情報を設定できます。コンフィギュレーション品目の原価計算を行うこの方法は、通常の前原価計算処理に対する例外であり、コンフィギュレーション品目の販売見積に対してのみ機能します。

「原価-販売見積」オプションを選択すると、販売見積の入力時にアセンブリ組込規則 P、Q、R および X (原価) によるすべての原価が累計されます。「原価-販売見積」オプションの選択を解除すると、販売見積の入力時にアセンブリ組込規則 P と X (原価) による原価のみが累計されます。

オーダー処理プログラムでは、アセンブリ組込規則 P、Q、R、および X (原価) に基づいて、コンフィギュレーション品目の原価が計算されます。

- 販売見積のオーダー・タイプが UDC 40/BT (一括オーダー・タイプ) に設定されていることを確認します。通常は、オーダー・タイプ SQ を設定します。
- 受注オーダー入力 (P4210) のバージョンの 1 つである販売見積の処理オプションを設定します。
 - 「デフォルト」タブで「オーダー・タイプ」フィールドを販売見積タイプ (通常は SQ) に設定します。
 - 「引当」タブの「引当可能数量チェックの有効化」フィールドを確認し、販売見積の在庫状況への反映方法が指定されていることを検証します。
 - 「引当」タブの「数量 1 または数量 2 への引当」フィールドには、販売見積に対して作業オーダー見出しが作成されないように、1 または 2 の値を設定します。販売見積の場合は通常、この値を 1 に設定します。販売見積に対しては、このフィールドを空白にしないでください。

コンフィギュレーション品目に対して販売見積を受注オーダーに正しくコピーするには、使用するバージョンを「受注オーダー入力」処理オプションで適切に設定する必要があります。受注オーダー入力 (P4210) の通常のバージョンを使用して見積を受注にコピーします。

- ・「デフォルト」タブで「オーダー・タイプ」処理オプションを受注オーダー・タイプ(通常はSO)に設定します。
- ・「行タイプ」フィールドを「W」に設定して、コンフィギュレーション品目の作業オーダー見出しが生成されるようにします。
- ・「複写」タブの「オーダー・タイプ」フィールドを非見積伝票タイプに設定します。通常、この値はSOに設定します。
- ・「引当」タブの「数量1または数量2への引当」フィールドを空白に設定します。

受注オーダー入力時に作業オーダー見出しが適切に作成されるようにするために、このフィールドは受注オーダーに対して空白にする必要があります。販売見積入力では、販売見積に対して作業オーダー見出しが作成されないようにするため、この処理オプションの値は1または2に設定されています。

コンフィギュレーション品目に対する販売見積から受注オーダーへの変換に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「日次処理」(G32)、「販売見積」	コンフィギュレーション品目の販売見積から受注オーダーに変換します。

コンフィギュレーション品目の販売見積から受注オーダーへの変換

「受注残/完了オーダー照会」フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション品目の販売見積から受注オーダーに変換する手順は次のとおりです。

1. 販売見積を検索します。
2. 販売見積から1行を選択し、「コピー」をクリックします。
3. 「受注オーダー明細の改訂」で「OK」をクリックします。
受注タイプはSO(受注オーダー)と表示されます。
4. 受注オーダーを処理します。

コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーの入力

この項では、コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーとその代替処理の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- ・ コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーの入力
- ・ コンフィギュレーション品目に対する在庫調整

コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーについて

顧客から返品された商品を在庫に戻す場合や不良品が返品され在庫に戻せない場合には、クレジット・オーダーを使用します。どちらの場合も適切なクレジット・オーダーを作成し、返品された商品に対する調整を行う必要があります。

受注オーダーが作成済で、顧客が商品の返品を希望している場合は、クレジット・オーダーを使用して、返品処理を管理できます。クレジット・オーダーの入力は、受注オーダーの入力と同じ方法で行います。

受注オーダー処理では、クレジット・オーダーの入力に次の2つの方法が使用できます。

- 手作業によるクレジット・オーダーの入力
- 自動生成によるクレジット・オーダーの入力(履歴からクレジット・オーダーを作成)

コンフィギュレーション品目には固有の設定および処理要件があるため、クレジット・オーダーの作成についても同じことが当てはまります。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータを使用する際に、クレジット・オーダーを作成するための受注オーダー処理方法のすべてが使用できるわけではありません。

クレジット・オーダーの手動入力処理は、コンフィギュレーション品目に対してはサポートされていません。親コンフィギュレーション品目の当初受注情報が、関連するクレジット・オーダーに確実に引き継がれるようにすることはできません。

履歴からのクレジット・オーダーの作成(自動生成によるクレジット・オーダー)は、コンフィギュレーションクレジット・オーダー処理にとって好ましい方法です。履歴からクレジット・オーダーを作成する際に、元の受注オーダー情報を取り込みます。この情報は、親コンフィギュレーション品目、コンフィギュレーションID、保管場所、ロット番号、および価格の関係から、コンフィギュレーション品目にとって特に重要です。この方法によって、返品される親コンフィギュレーション品目に関する正しいオーダー情報を確実に得ることができます。

品目価格に関して、顧客が実際に支払った単価に基づいて、顧客への返金処理が行われます。この価格は現行価格と異なる場合があります。オーダー情報は受注明細実績テーブル(F42199)から取り込まれます。

コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーの作成をサポートするために、特定のシステム設定および処理オプション設定を行う必要があります。この設定には、クレジット・オーダーの設定だけでなく、必要な受注明細履歴情報がシステムに保存されるようにするための受注オーダーの設定も含まれます。

後でクレジット・オーダーを正しく入力できるようにするには、コンフィギュレーション品目の受注オーダーの初期入力時に特定の処理を行う必要があります。さらに、コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーを正しく処理するためにも特定の処理を行う必要があります。

コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダー

クレジット・オーダーの入力が正しく行われるようにするには、次の手順に従います。

1. 受注オーダー入力(P4210)を使用してコンフィギュレーション品目に対する受注オーダーを入力します。
2. オーダー処理(R31410)を実行して、関連するコンフィギュレーション品目作業オーダーを処理します。
3. 親コンフィギュレーション品目を含めて、コンフィギュレーション品目の作業オーダーを完了します。このアクションには、在庫の出庫、作業時間と作業量の報告、および完了処理が含まれます。
4. 出荷確認(P4205)でコンフィギュレーション品目の出荷確認を行います。
5. 請求書の印刷(R42565)を実行します。
6. 売上更新(R42800)で顧客売上を更新します。

処理オプションが、見出しと明細に対して“履歴に移動”するように設定されていることを確認します。「更新」タブで、「販売明細実績への移動」と「販売見出し実績への移動」の両方のフィールドがブランクになっている必要があります。

7. 履歴からクレジット・オーダーを入力します。
8. クレジット・オーダーに対する出荷確認を作成します。

この時点で、資材が元の受注オーダーと同じ保管場所とロット番号の在庫に戻されている必要があります。

コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーの代替処理について

コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーを作成しない場合、かわりの方法があります。その方法は、在庫調整を行って、顧客に対するクレジット・メモを入力することです。

注意: これらの手順を実行する前に、この会計処理をサポートするためにAAI(自動仕訳)の作成が必要になる場合があります。また、取引のトラッキングを保持するために新規の伝票タイプの作成が必要になる場合もあります。

在庫調整は親コンフィギュレーション品目に対して行われ、その品目を在庫に戻すように調整します。その後、在庫保管されたコンフィギュレーション品目は再び販売可能になります。

親コンフィギュレーション品目の在庫調整が完了したら、顧客に対するクレジット・メモを作成します。このクレジット・メモによって、コンフィギュレーション品目の返品に対する返金処理が行われます。

事前設定

コンフィギュレーション品目のクレジット・オーダーを正しく作成するには、次を実行する必要があります。

- 受注オーダーに対する伝票タイプと行タイプの組合せについて、オーダー処理規則(P40204)で、適切な情報が履歴に記録されるように設定されていることを確認します。オーダー処理規則で、受注オーダー・タイプと作業オーダー行タイプに対して出荷確認の状況が受注明細実績を更新する設定になっていることを確認します。このプロセスによって履歴テーブルにレコードが書き込まれます。このテーブルには、親コンフィギュレーション品目のロット番号や保管場所などの重要な情報が含まれています。
- 伝票タイプの管理プログラム(P40040)でクレジット・オーダーの伝票タイプを設定する必要があります。通常、この伝票タイプはCOに設定します。
- クレジット・オーダーの行タイプを設定します。通常、この行タイプはCに設定します。
- 行タイプ固定情報プログラム(P40205)のクレジット・オーダーに使用される行タイプが、Y(在庫インターフェイス)に設定されていることを確認します。また、品目が在庫に戻されるように「符号の反転」チェックボックスが選択されていることを確認します。
- クレジット・オーダーに対する伝票タイプと行タイプの組合せについてオーダー処理規則を設定します。オーダー処理規則で、クレジット・オーダー、オーダー・タイプ、および返品行タイプに対して、適切なオーダー処理規則が設定されていることを確認します。
- クレジット・オーダーに対する受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを作成し、処理オプションを適切に設定します。

コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーの入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
受注残/完了オーダー照会	W4210E	「追加オーダー処理」(G4212)、「履歴のクレジット・オーダー」	コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーを入力します。
在庫調整の処理	W4114B	「在庫マスター/トランザクション」(G4111)、「在庫調整」	コンフィギュレーション品目に対する在庫調整を行います。

コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーの入力

「受注残/完了オーダー照会」フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーを入力するには、次の手順に従います。

1. 「追加」ボタンをクリックします。
2. 「受注オーダー明細の改訂」フォームの「フォーム」メニューの「クレジット・メモ」を選択します。
3. 「販売履歴照会の処理」フォームで、クレジット・オーダーの作成に使用する受注オーダー番号を入力し、「検索」をクリックします。
4. 親コンフィギュレーション品目を含む行をハイライトします。

注意: この行は出荷確認の時点で作成されている必要があります。この行には、正しいロット番号が含まれており、これにより正確なコンフィギュレーションIDと価格を取得できます。

5. 「ロー」メニュー、「クレジット・メモ」、「行の選択」の順に選択します。

重要: このメニューは1回だけ選択します。他のフォームにアクセスしないでください。アクセスしても画面がちらつく以外は何の変化も起きません。

6. 「販売履歴照会の処理」フォームで「閉じる」をクリックします。
7. 「受注オーダー明細の改訂」フォームの「OK」をクリックし、クレジット・オーダーを作成します。

コンフィギュレーション品目に対する在庫調整

「在庫調整の処理」フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション品目に対する在庫調整を行うには、次の手順に従います。

1. 「追加」ボタンをクリックします。
2. 「在庫調整」フォームの見出しで次のフィールドに値を入力します。
 - 事業所
 - トランザクション日付
 - 伝票番号
 - 伝票タイプ
 - 元帳日付

- 摘要
3. 詳細グリッドで、次のフィールドに値を入力します。
 - 品目番号
 - 数量
 - UM(単位)
 - 事業所
 4. 行をハイライトして、「ロー」メニュー、「コンフィギュレーション品目」、「オーダー履歴からの選択」の順に選択し、品目のオーダー履歴を表示します。
 5. 「コンフィギュレーション・STRING履歴の処理」フォームで、在庫調整に使用する該当オーダーをハイライトし、「選択」をクリックします。
 6. 「在庫調整」フォームで、次のフィールドに値を入力し、「OK」をクリックします。
 - 保管場所
 - ロット/シリアル
- トランザクションが処理され、トランザクションの伝票番号、伝票タイプ、およびバッチ番号が表示されます。

コンフィギュレーション品目に対する受注オーダーの オフライン処理の使い方

この項では、コンフィギュレーション品目に対する受注オーダーのオフライン処理の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- オフライン処理によるコンフィギュレーション品目に対する受注オーダーの作成
- コンフィギュレーション品目に対する受注オーダーのサーバーへのアップロード
- 受注オーダー・バッチ・トランザクション・エディタ(R4210Z)の使用

コンフィギュレーション品目に対する受注オーダーの オフライン処理について

オフラインでの受注オーダー処理は、現地販売部門を受注管理プロセスに統合するための効率的な方法です。オフライン処理により、受注オーダーを正確かつタイムリに処理できます。オフライン処理を使用して、現地販売部門は受注オーダーをPC上で作成し、サーバーにアップロードできます。遠隔地において、サーバーにアクセスする専用線がない場合は、通常の業務時間中はPC上で受注オーダーを作成するのが、成果が上がり費用効果があるやり方になります。後からサーバーにアップロードして、オフピーク時に処理できます。

注意: オフライン処理は、標準の受注オーダーに対してのみ使用できます。

オフライン処理で受注オーダーを作成した場合は、テーブルからダウンロードした情報に基づいて、各受注オーダーが検証されます。また、受注オーダーごとにトランザクション制御レコードが作成され、状況1(処理準備完了)が割り当てられ、トランザクション制御テーブル(F0041Z1)に保存されます。

コンフィギュレーション品目に対しては、次の処理が行われます。

- コンフィギュレータ・セグメント詳細テーブル (F3211) へのセグメントの保存
- コンフィギュレーション品目の価格設定、原価計算、値引
- セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則の処理
- コンフィギュレーション・テキストの添付
- 受注オーダー見出しテーブル (F4201) および受注オーダー明細テーブル (F4211) へのコンフィギュレーション品目情報の保存
- PCでのコンフィギュレーションID履歴情報の保存
- F3201、F3211、F3215、F3216などの様々なシステム32テーブルへのコンフィギュレータ情報の保存
- カスタム構成品およびカスタム価格調整の追加のサポート
- 基本価格設定および値引のサポート

受注オーダーのオフライン処理では、コンフィギュレーション品目に対して次の機能はサポートされていません。

- サーバーのトランザクション更新後のオーダー変更
- リモート・クライアントからの、在庫保管されたコンフィギュレーション品目の引当可能数量チェック
- コンフィギュレーション品目の引当可能数量に対する行分割

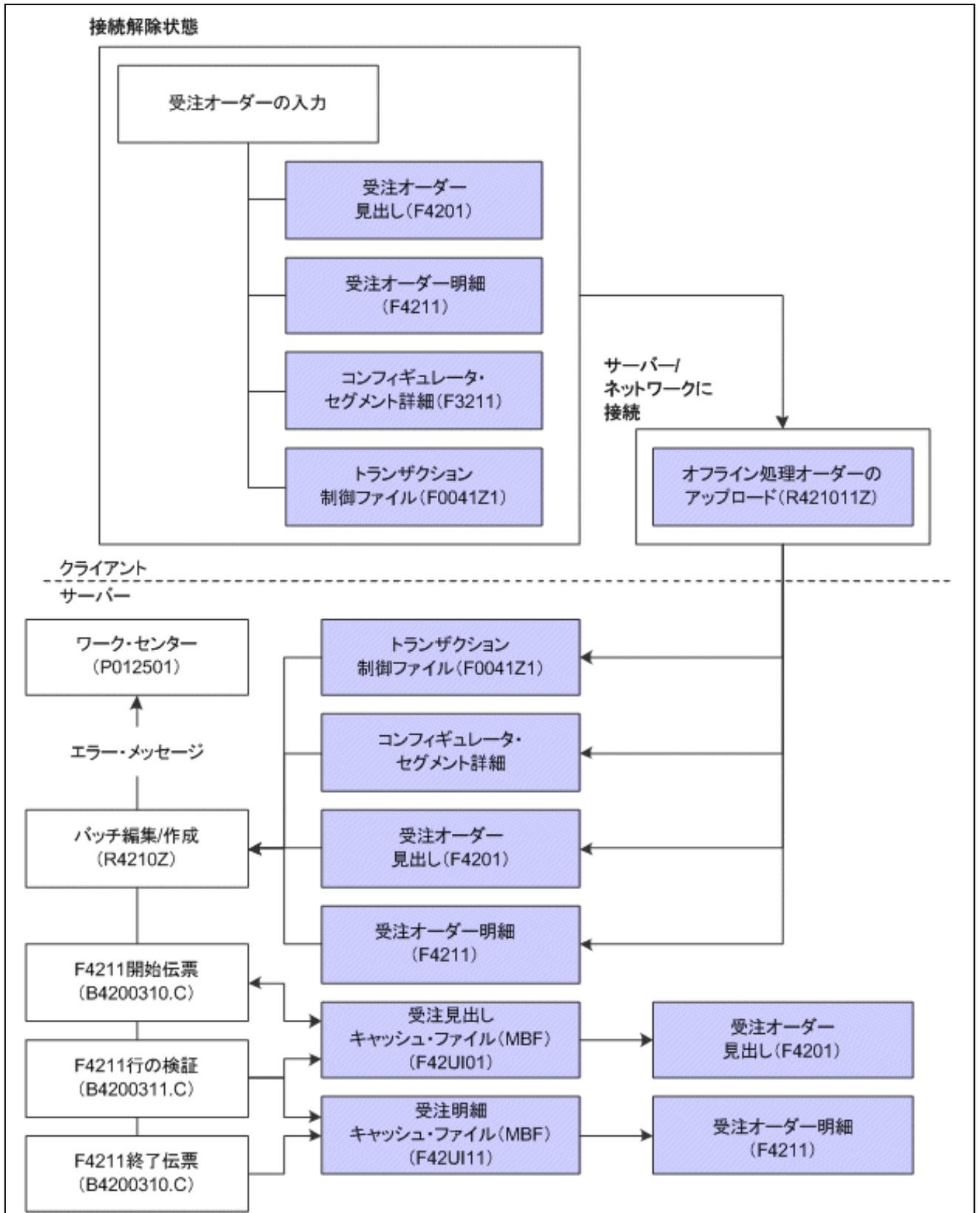
オフライン処理の受注オーダーを入力すると、見出し情報がF4201テーブルに、明細情報がF4211テーブルに転送されます。コンフィギュレーション情報は、F3211テーブルに保存されます。転送されたデータは、オーダー処理の準備ができるまでこれらのテーブルに保存されます。

オフライン処理の受注オーダーを転送する準備ができたなら、オフライン処理オーダーのアップロード・プログラム (R421011Z) を実行する必要があります。オフライン処理のオーダー情報が検証され、標準の受注オーダーに転送されます。

受注オーダーを生成するには、バッチ編集/作成プログラム (R4210Z) を実行する必要があります。オーダーが作成されたら、受注オーダーをそのまま処理することも、あるいは受注オーダー入力 (P4210) を使用して明細情報を変更することもできます。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムのすべての設定ファイルは、ローカルのPCに保存されます。設定ファイルに重要な変更が行われたときは、ローカルのPCにダウンロードする必要があります。

次の図は、コンフィギュレーション品目に対するオフライン処理を示しています。



コンフィギュレーション品目に対するオフライン処理

オフライン処理を使用するオーダーの作成

マスター・テーブルをPCにダウンロードしたら、オフライン環境で標準形式の受注オーダーを作成できます。受注オーダーは、サーバーにアップロードまたは転送して処理するまで、ローカルPCに保存しておきます。

オフラインで受注オーダーを作成すると、次の処理が実行されます。

- テーブルからダウンロードした情報に基づいて、各受注オーダーが編集され、検証されます。
- 受注オーダーごとにトランザクション制御レコードが作成され、状況1(処理準備完了)が割り当てられ、トランザクション制御ファイル・テーブル(F0041Z1)に格納されます。
- 受注オーダー入力のバージョンが作成され、処理オプションが設定されます。

オフライン処理のアップロード・プログラム(R421011Z)を実行すると、履歴フィールドに重複する受注オーダー番号がないかがチェックされます。バッチ・オーダー番号が重複している場合は、新しい番号が受注オーダーに割り当てられ、受注オーダー見出しファイル(F4201)および受注オーダー明細ファイル(F4211)テーブルの「当初オーダー番号」フィールドで重複オーダー番号が参照されます。

コンフィギュレーション品目の受注オーダーのサーバーへのアップロード

受注オーダーを作成したら、サーバーにアップロードして処理する必要があります。まず、サーバーに接続して本稼働用環境にサインオンし、ジョブをローカルで送信します。

注意: システムのパフォーマンスを最適化するには、オフピーク時に受注オーダーをアップロードしてください。

受注オーダーをアップロードすると、次の処理が実行されます。

1. サーバーのF4201テーブルとF4211テーブルにレコードが作成されます。
2. PC上の各受注オーダーのトランザクション制御状況が5(アップロード済)に更新されます。
受注オーダーがこの状況に更新されると、PC上では変更できなくなります。状況更新後は、サーバー上でのみ変更できます。
3. PCの受注オーダーの状況が1(処理準備完了)または2(エラー)の場合は、その受注オーダーをPCで変更できます。
4. サーバー上で各受注オーダーに対するトランザクション制御レコードが作成され、状況コード1(処理準備完了)が割り当てられます。
5. コンフィギュレーション品目に対して、コンフィギュレータ・テーブル(F3201、F3211、F3215、およびF3216)がアップロードされます。

受注オーダーをアップロードして処理した後は、PC上の受注オーダーのトランザクション制御状況がサーバー上の受注オーダーの状況と一致するように編集されます。

注意: コンフィギュレータ・セグメント詳細テーブル(F3211)は、クライアントとサーバーの両方で使用されます。サーバー側でコンフィギュレーションが作成された場合は、クライアント側との競合を回避するために新規の番号が使用されます。

コンフィギュレーション品目に対する受注オーダーのバッチ処理

オーダー作成後は、作成された受注オーダーをそのまま処理することも、サーバー上に定義された規則を使用してコンフィギュレーション品目を再処理することもできます。受注オーダーを処理するには、オーダーのバッチ編集/作成プログラム(R4210Z)を実行する必要があります。入力した情報が検証されると、一度にすべてのオーダーが作成されます。データの整合性を保つため、検証処理の完了後にのみ受注オーダーがバッチで作成されます。

エラーのあるオーダーは、未処理としてバッチ入荷確認テーブルに残ります。情報を修正して、オーダーのバッチ編集/作成プログラムを再度実行してください。

アップロードした受注オーダーを処理するときは、バッチ入力の受注オーダー処理に使用するのと同じプログラムを使用します。

コンフィギュレーション品目に対して、次のタスクが実行されます。

1. 入力したコンフィギュレーション品目が承認されるか、またはセグメント値の取り込みによりコンフィギュレーション品目が再検証されます。
2. コンフィギュレーション品目/セグメント・テーブル(F3291)からオーダーのセグメント値が取り込まれます。
3. セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則が処理されます。
4. 適切な受注オーダーおよびコンフィギュレータ・テーブルに情報が保存されます。
5. 在庫保管されたコンフィギュレーション品目に対する引当可能数量チェックがサポートされます。
6. 次のようなエラーがレポートされます。
 - セグメントのUDC値
 - セグメント範囲
 - 必須セグメント
 - セグメントの英数字要件
 - セグメント間編集規則
 - アセンブリ組込規則
7. エラーのないトランザクションに対してコンフィギュレーション品目の受注オーダーが作成されます。

オーダーのバッチ編集/作成プログラムの“受注オーダー・トランザクションのバッチ検証”バージョンを使用して、PCから価格をアップロードしたり、その価格を再計算したりすることができます。価格をアップロードすると、既存の価格が一時変更されます。

サーバーに接続した際に、各トランザクションに対するエラーとバッチ状況コードを確認できます。次のバッチ状況コードにより、オーダー処理のどの段階にあるかを識別します。

- 1 - トランザクションは処理可能。
- 2 - トランザクションにエラーあり。
- 3 - トランザクションの処理中。
- 4 - トランザクションの伝送中。
- 5 - トランザクションが使用できない、またはサーバー応答の待機中。
- 6 - 完了。トランザクションによって、サーバーの受注見出しテーブルおよび受注明細テーブルが更新されます。

受注オーダー入力プログラムのオフライン処理バージョンのサーバーバージョンを使用してエラーを修正してから、オーダーのバッチ編集/作成プログラムを再度実行する必要があります。

事前設定

コンフィギュレーション品目に対するオフライン処理の受注オーダーを作成するには、次の作業を行います。

- 受注オーダーのオフライン処理を実行する前に、必要なテクニカル・マスター・テーブルがシステム管理者によりダウンロードされていることを確認します。
- サーバーに接続して本稼働用環境にサインオンし、ワークステーションにマスター・テーブルをダウンロードします。
- システムにサインインする際は、適切な環境を選択します。
- コンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) の処理オプションを設定します。
- コンフィギュレーション品目に対して使用する、受注オーダー入力プログラム (P4210) のオフライン処理バージョンの処理オプションを設定します。

オフライン処理によるコンフィギュレーション品目の受注オーダーの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オフライン処理明細の改訂	W4210A	「日次処理」(G32)、「オフライン処理オーダー」 「オフライン処理オーダー照会」フォームで「追加」ボタンをクリックします。	オフライン処理を使用するコンフィギュレーション品目に対する受注オーダーを作成します。

オフライン処理によるコンフィギュレーション品目の受注オーダーの作成

「オフライン処理明細の改訂」フォームにアクセスします。

オフライン処理によるコンフィギュレーション品目のオーダーを作成するには、次の手順に従います。

1. 次の必須フィールドに顧客に関する情報を入力します。
 - 事業所
 - 販売先
 - 出荷先
 - オーダー日付
2. 次の必須フィールドにコンフィギュレーション品目に関する情報を入力し、「OK」をクリックします。
 - オーダー数量
 - 単位
 - 品目番号

注意: 処理オプションの設定によっては、コンフィギュレーション品目フォームの前に「コンフィギュレータ共通属性」フォームが表示される場合があります。

3. コンフィギュレーション品目フォームで「コンフィギュレーション検証」ボタンをクリックして、デフォルト値をそのまま使用します。

注意: 「コンフィギュレーション検証」ボタンは、動的コンフィギュレーション入力がある場合は使用できません。

4. エラーが何もなければ、「オーダーに追加」をクリックします。

注意: すべてのハード・エラーが修正されるまで、オーダー入力は完了できません。

5. 次のいずれかの手順を実行して、受注オーダーの作成を終了します。

- 処理オプションでオーダーを自動送信するように設定していない場合は、オーダーを送信する。
- バッチ編集/作成プログラム (R4210Z) を実行して、後で受注オーダーを処理する。

注意: いつオーダーを処理するかに関係なく、バッチ編集/作成プログラムでは情報が検証され、受注オーダーが作成されます。エラーがなければ、受注オーダー見出しテーブル (F4201) および受注オーダー明細テーブル (F4211) に情報が追加されます。

サーバーへのコンフィギュレーション品目の受注オーダーのアップロード

「日次処理」(G32) の「オフライン・トランザクションのアップロード」を選択します。

オフライン処理のアップロード・プログラム (R421011Z) を使用して、バッチ作成したコンフィギュレーション品目の受注オーダーを、指定したターゲット環境にアップロードします。アップロードしたすべての受注オーダーに対して、伝送アップロード・レポートが作成されます。このレポートを使用して、受注オーダーが正しくアップロードされていることを確認します。

受注オーダー・バッチ・トランザクション・エディタ (R4210Z) の使用

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

1. '1' を入力して引当可能数量チェックおよびキット残高調整を実行する。引当可能数量チェックとキット残高調整を実行するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: 引当可能数量チェックおよびキット残高調整を実行しません。
 1: 引当可能数量チェックおよびキット残高調整が実行されます。
2. '1' を入力して価格を上書きする。ブランク = F4106 の単価を使用します。価格を一時変更するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
 ブランク: F4106 テーブルの単価を使用します。
 1: 価格を一時変更します。

バージョン

1. 受注オーダー入力のバージョンIDを入力する。システムで使用する受注オーダー入力プログラム (P4210) のバージョンを指定します。

コンフィギュレータ

コンフィギュレーション品目の在庫分割。将来使用

将来使用のために予約されています。

'1'を入力してコンフィギュレータ・オーダーを再作成するか、空白にしてオーダーをそのまま受け入れる。

コンフィギュレーション品目のオーダーの処理方法を指定します。値は次のとおりです。

空白: コンフィギュレータ・オーダーをそのまま受け入れます。

1: コンフィギュレータ・オーダーを再作成します。

第 7 章

コンフィギュレーション品目の使い方

コンフィギュレーション品目のオーダーを入力した後は、オラクル社の他のJD Edwards EnterpriseOne製造管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne流通管理システムを使用して、ビジネス・サイクルの中でコンフィギュレーション品目を処理していくことができます。

この章では、コンフィギュレーションID、コンフィギュレーション品目と製造管理、コンフィギュレーション品目と流通、コンフィギュレーション品目と調達管理の概要、および次の処理を行う方法について説明します。

- コンフィギュレーション品目履歴の確認
- コンフィギュレーション品目の関連オーダーの確認
- コンフィギュレーション品目の在庫検索の実行

コンフィギュレーションIDについて

コンフィギュレーションIDは、個々のコンフィギュレーションを示すIDです。IDは暗号化アルゴリズムを使用して生成されます。コンフィギュレーション品目のセグメントやレベルの数とは関係なく、常に32文字のダイジェストに変換されます。ダイジェストは常に32文字の長さで、空白以外の数字と文字で構成されます。ダイジェストは意味のない文字列であるため、元の値は特定できません。

コンフィギュレータでは、コンフィギュレーションIDを使用してコンフィギュレーションの管理と識別が行われます。コンフィギュレーションIDによって、システムのオーダー番号と品目番号を使用して、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムで一意的IDが作成されます。コンフィギュレーションIDは親コンフィギュレーション品目およびその構成品のコンフィギュレーション品目の両方に対して作成されます。コンフィギュレーションIDはJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・テーブルで作成および格納され、このテーブルがJD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムで使用されます。したがって、コンフィギュレーションIDをユーザーが表示したり使用したりすることはありません。

注意: 行番号はJD Edwards EnterpriseOne受注設計生産(ETO)処理では使用されません。これは、JD Edwards EnterpriseOne ETOシステム内の各コンフィギュレーション品目タスクにはそれぞれの作業オーダー番号があり、作業オーダーごとに設定できるコンフィギュレーションは1つのみであるためです。

コンフィギュレーション品目と製造管理について

ここでは、次の事項について説明します。

- コンフィギュレーション品目の計画
- コンフィギュレーション品目の作業オーダー処理
- コンフィギュレーション品目の原価計算と会計処理
- コンフィギュレーション品目の作業オーダーの変更

- 受注設計生産におけるコンフィギュレーション品目作業オーダーの変更
- コンフィギュレーション品目の仕掛品の再評価
- コンフィギュレーション品目作業オーダーの作業時間と作業量
- コンフィギュレーション品目の作業オーダーの完了

コンフィギュレーション品目の計画

コンフィギュレーション品目の計画には独特の難しさがあります。これは、オーダーが入力および承認されるまでは最終的なコンフィギュレーションが不明であるためです。

最終品目がまだ定義されていないため、コンフィギュレーション最終品目を1つの事業所や複数の施設間で計画することはできません。計画部品表は、オーダーを入力する前に、コンフィギュレーション品目のフィーチャおよびオプションについて部品を計画して購入するのに使用します。

オーダーを入力して最終コンフィギュレーションが明確になった時点で、そのコンフィギュレーション品目の非コンフィギュレーション構成部品が計画できるようになります。

注意: コンフィギュレーション品目は、計画と生産を行う事業所ごとに設定する必要があります。コンフィギュレーション品目を1つの事業所だけに設定した場合、その事業所内で製造を行う必要があります。

コンフィギュレーション品目の設定が完了すると、すべての設定データを各事業所にコピーできます。ただし、各事業所データの管理と同期維持を確実に行う必要があるため、ビジネス・プロセスにはコンフィギュレーション品目設定の変更管理を必ず組み込んでください。

コンフィギュレーション品目自体は事業所をまたいで計画できませんが、コンフィギュレーション品目の完成に必要な構成部品は複数事業所からの供給として計画できます。

受注オーダー入力時に受注オーダー明細テーブル(F4211)に書き込めるのは、一部の構成部品だけです。このため、すべての構成部品はコンフィギュレータ構成部品テーブル(F3215)に書き込まれます。構成部品によって受注オーダーの明細行が生成されない場合は、その品目はソフト・コミットされます。ソフト・コミット情報は、F3215テーブルの引当フィールド(COMM)に記録されます。オーダー処理プログラム(R31410)を実行するまで、F4211テーブルにない構成部品は資材所要量計画(MRP)に表示されません。このため、別のビジネス関数を使用して、指定したレコードをF3215テーブルから読み取り、コンフィギュレーション要求の蓄積を行います。

オーダー処理を実行すると、コンフィギュレーション品目に対する部品表と作業工程が作成されます。F3215テーブルの品目は作業オーダー部品リスト・テーブル(F3111)に書き込まれます。

数量タイプUDC(ユーザー定義コード)テーブル(34/QT)の数量タイプCFDは、F3215テーブルからの構成部品需要を表します。計画処理時のコンフィギュレータ構成部品の組込みについては、計画プログラムの処理オプションで指定します。

コンフィギュレーション品目の計画について設定する際の考慮事項

コンフィギュレーション品目の構成部品を正しく計画するには、処理オプションの適切な設定が必要です。

MRP/MPS所要量計画プログラム(R3482)および基準計画スケジュール - 複数事業所プログラム(R3483)の処理オプションの「製造モード」タブのコンフィギュレータ処理オプションで、コンフィギュレーション品目の構成部品を計画するかどうかを指定できます。コンフィギュレーション品目の構成部品を計画するには、処理オプションを1に設定してコンフィギュレータ構成部品テーブル(F3215)と作業オーダー部品リスト(F3111)テーブルから需要品目としてコンフィギュレーション構成部品が含まれるようにします。コンフィギュレーション品目の構成部品を計画しない場合は、この処理オプションを空白にして処理時間を短縮します。

MRP/MPS所要量計画および基準計画スケジュール - 複数事業所プログラムでは、コンフィギュレーション品目の構成部品を計画に入れるかどうかを判断するため、数量タイプと処理オプションの両方が使用されます。

コンフィギュレーション品目の作業オーダー処理

受注オーダー入力 (P4210) または製造作業オーダー処理 (P48013) などのオーダー入力プログラムを使用してコンフィギュレーション品目の作業オーダー見出しを作成した後は、オーダー処理 (R31410) を実行して次の処理を行う必要があります。

- オーダー入力中に、PおよびQアセンブリ組込規則から生成されたF3215テーブルの部品を取得し、作業オーダー部品リストを生成します。

注意: F3215テーブルから部品番号が取得され、部品リスト・マスター・ビジネス関数 (MBF) に戻されません。R31410では、部品リストの生成のためにPおよびQアセンブリ組込規則は処理されません。

- オーダー入力中に、Rアセンブリ組込規則から生成されたF3212テーブルの作業工程ステップを取得し、作業オーダー作業工程指示を生成します。

注意: F3212テーブルから作業工程ステップが取得され、作業工程MBFに戻されます。R31410では、作業工程指示の生成のためにRアセンブリ組込規則は処理されません。

- 在庫のコミット
- コンフィギュレーション作業工程の逆算スケジュール計算

注意: 構成部品のコミットは、オーダー処理時のみではなく、受注オーダー入力時にも行われます。構成部品はオーダー入力時に受注オーダーに対してコミットされ、オーダー処理プログラム (R31410) の実行時に部品リストに移動されます。このため、オーダー処理をすぐに実行して構成部品のコミットを行う必要はありません。

ETOコンフィギュレーション品目作業オーダーの処理

ETOプロジェクトにおけるコンフィギュレーション品目の作業オーダー作成では、標準の処理とは異なる処理が行われます。

オーダー処理プログラム (R31410) のプロジェクト処理のバージョンは、プロジェクト・ワークベンチからプロジェクト構造全体に対して実行できます。この操作で、最下位レベルから最上位レベルまですべてのコンフィギュレーション作業オーダーが処理されます。

オーダーの処理は、単一のタスク・レベルでも実行できます。この処理では、現在のレベルの処理前にすべての下位レベルの作業オーダーが処理済かどうかを確認する警告メッセージが表示されます。選択したコンフィギュレーション作業オーダー・タスクの子タスクがあれば、現行タスクよりも先に処理しておく必要があります。

コンフィギュレーション品目の作業オーダー処理について設定する際の考慮事項

コンフィギュレーション品目の作業オーダーを正しく処理するには、オーダー処理プログラム (R31410) の処理オプションを適切に設定する必要があります。特定のコンフィギュレーション品目に対して設定した、オーダー処理の別バージョンを作成することもできます。

部品リストと作業工程の両方を作成するには、「処理」タブで「部品リストと作業工程指示の生成」フィールドを設定します。このオプションは、コンフィギュレータの処理で必須です。

オーダーを変更してオーダー処理を再実行する場合に、既存の部品リストと作業工程指示を更新するには、「部品リストと作業工程指示の更新」フィールドを設定します。

「部品リスト」タブの「代替品目」フィールドは空白にします。代替品目は部品表で定義します。ただし、コンフィギュレーション品目には標準の部品表がないため、代替品目は設定できません。

コンフィギュレーション品目が受注オーダーに入力されると、構成品の当初の行タイプが在庫インターフェイスを持ち、コミットメントを処理します。オーダー処理を実行するまでは、受注オーダーに対するコミットメントは保留になります。

受注オーダーには、親コンフィギュレーション品目についてのコミットメントのみが保持されます。このコミットメントの保持は、需要を処理して受注オーダーを充当するために行われます。

「受注/コンフィギュレーション」タブの「次状況」フィールドで状況を指定します。この値は、コンフィギュレーション品目の受注オーダーにある構成品行が次にどの状況になるかを示しています。値には、行タイプ処理オプション・フィールドに入力した行タイプに対して有効な状況が使用できます。

コンフィギュレーション品目の標準原価を計算するには、「受注/コンフィギュレーション」タブの「標準原価計算」フィールドを設定します。

通常、品目の標準原価は、製造部品表および製造作業工程に基づいて計算されます。しかし、コンフィギュレーション品目には製造部品表や製造作業工程がありません。コンフィギュレーション品目の部品表と作業工程は、オーダー入力後に最終コンフィギュレーションが明確になった時点で定義できます。

オーダー処理を行うと、コンフィギュレーション部品リストと作業工程からコンフィギュレーション品目の標準原価が算定されます。コンフィギュレーション品目の原価に含まれるものは、コンフィギュレーション作業工程の労務、コンフィギュレーション部品リストの資材と構成品、および外注作業情報などです。原価は製造原価テーブル (F3102) に保存されます。このテーブルは、作業オーダー差異テーブルとも呼ばれています。処理の際には、関連する受注オーダー明細行の標準原価も更新されます。

標準原価計算オプションは、計算前の場合にのみ、販売見積の処理または受注オーダーの変更時に自由に設定できます。この処理オプションを使用して当初原価の保持や再計算ができます。

「印刷1」タブの処理オプションでは、作業オーダーの部品リストをどのように出力するかを定義します。

「印刷2」タブの処理オプションでは、作業オーダーに作業工程指示をどのように出力するかを定義します。

「印刷2」タブでは、「受注オーダーのテキスト行」フィールドで値を指定します。処理オプションを設定して作業オーダーを出力する場合、「受注オーダーのテキスト行」処理オプションの設定で、作業オーダーに受注オーダーのテキスト行を出力するかどうかを指定します。テキスト行は作業オーダーの備考欄に出力されます。

コンフィギュレーション品目では、オプションの設定内容と関係なく常に、受注オーダーの汎用テキストが作業オーダーに出力されます。

「コンフィギュレータの汎用テキスト」処理オプションを使用すると、作業オーダー上のオーダーにある汎用テキストを出力できます。

データ順序

コンフィギュレーション品目の作業オーダーの生成には、データ順序が非常に重要です。データ順序は必ず降順で設定する必要があり、この設定によってコンフィギュレーション作業オーダーが正しい順序 (下位レベルから上位レベルへ) で作成されます。この処理で、標準原価および逆算スケジュール日付が正確に算出された作業オーダーを確実に生成できます。

オーダー入力の際には、コンフィギュレーション品目に関連する作業オーダーの見出しが作業オーダー行タイプを使用して生成されます。実際の作業オーダー番号は、次の表のように最上位レベルから下位へ割り当てられます。

オーダー番号	品目番号	品目記述	作業オーダー番号
3726	6000	フォークリフト	67890
3726	6100	ブーム	67891
3726	6200	フォーク	67892

オーダー入力時には、コンフィギュレーション品目の要求日付を入力します。このオーダーの要求日付、およびリードタイム情報を使用して、オーダー入力時に生成される作業オーダー見出しの逆算スケジュールが算定されます。リードタイム情報は、品目マスター・プログラム (P4101) の「追加システム情報」フォーム上の「標準リードタイム」フィールドから読み込まれます。

オーダー処理プログラムの実行時には、作業オーダー見出しを使用して作業オーダーが生成されます。既存の作業オーダー見出しは更新されません。オーダー処理を行うと、作業オーダー見出しの日付に基づいて作業オーダーの各作業工程の開始日付と終了日付の逆算スケジュールが算出されます。このようにして、オーダー処理プログラムで複数レベルのコンフィギュレーション品目のリードタイムが計算されます。ただし、リードタイム積上げはコンフィギュレーション品目には使用できません。

データ順序を降順に設定しなくても作業オーダーの生成は可能で、関連する部品リストと作業工程を使用して作業オーダーは正しく作成されます。しかしこの場合、作業工程の標準原価および逆算スケジュールは正しく処理されません。

コンフィギュレーション品目の原価計算と会計処理

コンフィギュレーション品目の原価計算は非コンフィギュレーション品目の原価計算とは異なります。コンフィギュレーション品目のオーダーを入力した後は、JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理システムのプログラムを使用して、コンフィギュレーション品目の製造原価と製造会計の処理を行います。

注意: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムおよび JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムで入力したコンフィギュレーション品目オーダーがどのように原価計算されるかについても、理解しておく必要があります。

コンフィギュレーション品目の製造原価計算

コンフィギュレーション品目には標準の部品表や作業工程がないため、コンフィギュレーション品目の原価計算はコンフィギュレーション品目以外の場合と異なります。また、標準コンフィギュレーションも存在しないため、オーダーを入力するまで原価の計算はできません。組立製造での標準原価積上げはコンフィギュレーション品目には適用されないため、原価シミュレーション - 一時ビルド・プログラム (R30812) は実行されません。このため、品目追加原価要素テーブル (F30026) に凍結標準原価は存在しません。

ただし、コンフィギュレーション品目で使用される購買部品や製造部品の標準原価を品目原価テーブル (F4105) で設定して凍結 (原価計算方法07) し、コンフィギュレーション品目用の作業オーダーの計算済原価に組み込む必要があります。

オーダー処理 (R31410) プログラムでは、コンフィギュレーション品目用の作業オーダーに部品リストや作業工程が添付されると、原価積上げが実行されます。プログラムが原価計算を行うタイミングについては、処理オプションで設定できます。原価は、F30026テーブルではなく、製造原価テーブル (F3102) のコラム 1 (凍結標準フィールド) に保存されます。

これらの原価は、構成品の標準原価 (製造固定情報で定義した労務費と間接費)、添付された作業工程と作業場のデータ、および作業オーダーの実績値の累計です。

コンフィギュレーション品目の場合、資材費 (原材料費) A1 は直接構成品の合計原価から計算されます。構成品は、アセンブリ組込規則 P および Q で定義されます。

直接労務費 B1 は、R アセンブリ組込規則で定義された品目の作業工程から計算されます。

X アセンブリ組込規則で定義された原価は、作業オーダーではなく受注オーダーにのみ適用されます。このため、X アセンブリ組込規則に関連する原価は F3102 テーブルには存在しません。

注意: 原価計算方法 02 (加重移動平均法) または 09 (実際原価、つまり製造最終原価) を使用する場合、プロセスとコンフィギュレーション品目は使用できません。このため、このトピックの内容は適用されません。

オーダー処理でコンフィギュレーション品目に標準原価が設定されると、そのコンフィギュレーション品目の仕訳がコンフィギュレーション以外の品目と同じ方法で作成されます。

コンフィギュレーション品目の販売見積は、コンフィギュレーション品目の標準原価計算規則の適用外です。コンフィギュレータ固定情報 (P3209) の「原価-販売見積」機能が選択されている場合、販売見積にあるコンフィギュレーション品目の標準原価は、オーダー処理を実行せずに計算されます。

次の表は、コンフィギュレーション品目に対するテーブル F3102 の原価の生成元を示しています。

原価計算 方法	標準	現行	計画	実際	完了	仕損	未計上完了	未計上仕損
標準原価計 算	R31410	不使用	R31802A	R31802A	R31802A	R31802A	不使用	不使用

コンフィギュレーション品目の製造会計

コンフィギュレーション品目の製造会計は、作業オーダー完了プログラム (P31114) を使用して作業オーダーを完了した時点で発生します。

コンフィギュレーション品目の作業オーダーは、コンフィギュレーション品目の最下位レベルから最上位レベルの順に完了する必要があります。この順序は、最大の作業オーダー番号から最小の作業オーダーの順に完了するのと同じです。たとえば、フォークリフトの作業オーダーの完了処理は次の順序で行います。

- 品目 6200、フォーク
- 品目 6100、ブーム
- 品目 6000、フォークリフト

作業オーダーの完了処理には、資材出庫、労働時間の報告、作業オーダー記載の品目の完了報告があります。作業オーダーの原価が作成されると、その品目は次のレベルに出庫可能になります。したがって、コンフィギュレーション品目の作業オーダーを正しい順序で完了すると、関連する原価の作成および次のレベルの作業オーダーへの繰り越しを確実に行うことができます。

完了処理時には、個別の保管場所およびロット番号に対してコンフィギュレーション品目を完了します。コンフィギュレーションIDは、品目および作業オーダー番号に関連付けられています。コンフィギュレーション品目を完了すると、該当する品目、事業所、保管場所、ロット・レベルで品目原価テーブル (F4105) が更新されます。製造原価テーブル (F3102) にあるコンフィギュレーション品目固有の標準原価は、関連する製造会計トランザクションに使用されます。

次に、F4105テーブルの正しい原価情報を使用して、品目元帳テーブル (F4111) が作成されます。

注意: コンフィギュレーション品目の製造時には設計差異は発生しません。これは、コンフィギュレーション品目には標準部品表や作業工程がないためです。

ETOコンフィギュレーション品目の原価計算

JD Edwards EnterpriseOne ETOでは、コンフィギュレーション品目に対して最良の原価見積を算出することが不可欠です。コンフィギュレーション品目の改訂プログラム (P3210) で品目のコンフィギュレーションを定義して、すべての子コンフィギュレーション品目を作成すると、ルート・コンフィギュレーション作業オーダーとすべての子コンフィギュレーション作業オーダーについての見積原価が、プロジェクト・ワークベンチ・プログラム (P31P001) によって更新されます。見積原価の更新は、コンフィギュレーション定義を使用した子コンフィギュレーション作業オーダーの生成中でも、既存のコンフィギュレーションへの変更中でも適用が可能です。

最良の原価見積結果を得るには、アセンブリ組込規則QおよびRを受注設計生産用に処理します。この処理は販売見積の原価計算の処理と同じです。

コンフィギュレーション品目の改訂プログラムを使用しても、原価が算定できます。この値は、該当タスクに対する合計見積原価フィールドの値として使用されます。

原価レコードは、受注設計生産のコンフィギュレーション品目作業オーダーの作成時点では製造原価テーブル (F3102) に書き込まれていないため、作業オーダー見出しレコードおよびプロジェクト・ワークベンチの「見積原価」フィールドは空白になります。この結果、コンフィギュレーション品目およびその子コンフィギュレーション品目の原価は、オーダー処理プログラム (R31410) を実行するまでプロジェクト原価に含まれません。

オーダー処理プログラムを実行するときは、単一のコンフィギュレーション作業オーダーを処理する場合もETOプログラム全体を処理する場合も、コンフィギュレーション作業オーダーに対するプロジェクト・ワークベンチに計画製造原価を積み上げる必要があります。

コンフィギュレーション作業オーダーに対する製造現場業務の処理時に、実際の製造原価を記録する際には、実際原価のワークベンチへの積上プログラム(R31P301)を使用してプロジェクト・ワークベンチの実際原価の更新を正しく行う必要があります。

見積原価、計画原価、および実際原価の積上げ処理ではF3102テーブルのデータを基にして、プロジェクト・ワークベンチ情報を更新できます。

重要: プロジェクト・ワークベンチ構造への新規ルート・コンフィギュレーション作業オーダーの追加時には、見積原価は更新されません。

見積の承認時には、すべてのコンフィギュレーション作業オーダーの見積原価は確定され、合計見積原価が合計計画原価にコピーされます。

次の表は、ETOのコンフィギュレーション品目に対するF3102レコードの原価の生成元を示しています。

原価計算 方法	標準	現行	計画合計	実績合計	完了数量	仕損	未計上完了	未計上仕損
標準原価計 算	P48013	P48013	不使用	R31410/ R31802A	R31802A	R31802A	R31802A	不使用

コンフィギュレーション品目受注オーダーの原価計算

Pアセンブリ組込規則は、オーダーの受注オーダー明細行として表示される構成品を決定します。受注オーダー明細行としての各構成品の原価には、品目原価テーブル(F4105)から取得された値が表示されます。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムではすべての構成品原価およびXアセンブリ組込規則を取り込んで値を積み上げ、親コンフィギュレーション品目の受注オーダー原価を算定します。原価の算定後は、最上位レベルのコンフィギュレーション品目に対してのみ、受注オーダー上の単位原価と合計原価が更新されます。

オーダー処理プログラム(R31410)を実行すると、アセンブリ組込規則P、Q、およびRに基づいてF3102レコードが計算され、該当受注オーダーに再書込みされます。これらの規則を、親コンフィギュレーション品目への積上げを定義したXアセンブリ組込規則と組み合わせて、親コンフィギュレーション品目の原価が算出されます。

Xアセンブリ組込規則で定義された原価は受注オーダーにのみ適用され、作業オーダーには適用されません。このため、Xアセンブリ組込規則に関連する原価はF3102テーブルには存在しません。

コンフィギュレーション品目購買オーダーの原価計算

購買オーダー・プログラム(P4310)では、仕入先/カタログ価格テーブル(F41061)および品目原価テーブル(F4105)を使用して購買オーダーの原価を決定します。購買オーダー・プログラムで品目原価を検索する際には、F41061テーブル、F4105テーブルの順に検索が行われます。原価の改訂プログラム(P4105)の購買オーダー原価計算方法(PCSM)は、F4105テーブルから原価を取得するのに使用されます。

品目マスター・プログラム(P4101)の「コンフィギュレータ原価計算方法」フィールドは、購買オーダーのコンフィギュレーション品目の原価計算に使用されます。

コンフィギュレータ原価計算方法1、2、または4を使用してコンフィギュレーション品目の購買オーダーを作成する際には、F41061テーブルとF4105テーブルが検索されて、構成品原価または親品目原価(方法2使用時)が取得されます。

次に、コンフィギュレータ原価計算方法1と2に対し、Xアセンブリ組込規則が追加されます。

最後に、コンフィギュレータ原価計算方法に従って購買オーダーの上級価格調整がすべて計算され、最終購買オーダー原価が算出されます。

コンフィギュレータ原価計算方法4の場合、受注オーダーのキット/コンフィギュレータ価格設定方法4と同様に、Xアセンブリ組込規則の追加前に上級価格調整が構成品に適用されます。

コンフィギュレーション品目構成品の購買オーダーについては、購買原価はR31410が実行されると計算され、その原価がF3102テーブルに追加されます。入荷確認では、品目が作業オーダーに引き当てられると原価が作成されます。この機能は、入荷時の購買オーダーに関連する実際原価に基づいています。

オーダーの原価計算の差異

受注オーダーと購買オーダーの原価計算には違いがあるため、これらの原価は異なる値になることがあります。購買オーダーの原価は受注オーダー明細行に表示される原価とは異なります。これは特に、製造環境の標準原価(原価計算方法07)で当てはまります。製造環境では、仕入先の品目原価超過を計上する変数を多数使用して、標準原価が計算および凍結されます。

注意: 品目マスター・プログラム (P4101) の「コンフィギュレータ原価計算方法」フィールドは購買オーダー・システムでのみ使用され、受注オーダー・システムの明細行の原価計算には使用されません。

原価計算の複雑さの要因には、様々な変数の使用があります。このような変数には、通貨と単位の変換、編集、一時変更を行うための変数や、受注オーダーと購買オーダー原価に影響を与えるその他のシステム変数などがあります。

コンフィギュレーション品目直送オーダーの原価計算

コンフィギュレーション品目やコンフィギュレーション構成品の直送オーダーでは、原価は購買オーダーで処理され、受注オーダー明細行に再度書き込まれます。この場合、品目マスター・プログラム (P4101) のコンフィギュレータ原価計算方法と原価の改訂プログラム (P4105) の原価計算方法の両方が原価計算の基準として使用されます。コンフィギュレータ原価計算方法で原価の積上げ方法が決まると、標準原価が非標準原価のいずれかとして原価が処理されます。

この状況の唯一の例外は、標準原価計算 (原価計算方法07) を受注オーダー入力に使用した場合で、製造会計環境ではよく見られます。この場合、購買オーダーの明細行は受注オーダーに書き込まれません。受注オーダーでは、非直送オーダーの場合と同様に原価の積上げが行われます。

コンフィギュレーション品目転送オーダーの原価計算

転送オーダーでは、出荷事業所からの受注オーダーの明細原価を基に原価が算出されます。転送購買オーダーの原価は、関連受注オーダーの原価ではなく単価と等しくなります。

親コンフィギュレーション品目の転送オーダーの場合、受注オーダーの原価は出荷事業所からの構成品の積上げ原価と等しくなります。また、関連購買オーダーの原価は転送受注オーダー明細行の単価と等しくなります。

コンフィギュレーションおよび非コンフィギュレーション構成品の両方で、当初受注オーダーの受注オーダー原価は関連する転送オーダーの単価で算出されます。計算方法については、受注オーダー入力プログラム (P4210) に対する「原価または基本価格の割増」処理オプションで設定します。このフィールドを空白にすると、受注オーダー原価は出荷事業所の積上げ原価と等しくなります。

値に「1」を入力すると、出荷事業所の積上げ原価が算出されて、事業所関係マスター (F3403) にある割増し率が乗算されます。その結果算出された原価が、受注オーダー明細行に書き込まれます。

値に「2」を入力すると、価格積上げ方式を使用して出荷事業所から基本価格が算出され、その結果の値が受注オーダー明細行に書き込まれます。

つまり、転送購買オーダーの原価はどのような場合でも転送受注オーダーの単価と等しくなります。

コンフィギュレーション品目事業所間オーダーの原価計算

事業所間受注オーダー明細行では、受注オーダー入力プログラム (P4210) に対する「原価または基本価格の割増」処理オプションを基に原価が算出されます。この状況は、転送オーダーの原価計算処理に似ています。

原価は、出荷事業所での原価、出荷事業所での原価に割増し率をかけた原価、出荷事業所での価格のいずれかと等しくなります。

事業所間購買オーダーの作成時は、原価は当初受注オーダーに対して算出された原価と等しくなります。

コンフィギュレーション品目の作業オーダーの変更

コンフィギュレーション作業オーダーは、その作業オーダーを作成したプログラムでのみ変更可能です。コンフィギュレーション作業オーダーを変更する際は、コンフィギュレーション品目の改訂プログラム(P3210)を起動して、該当オーダーのコンフィギュレーションおよびすべての子作業オーダーのコンフィギュレーションを変更できます。

コンフィギュレーション品目の改訂プログラムを起動して既存のコンフィギュレーション作業オーダーのコンフィギュレーションを変更できるのは、その作業オーダーが最上位レベルにある場合のみです。

コンフィギュレーション作業オーダーまたはコンフィギュレーションへの変更は、すべての子作業オーダーに反映されます。このため、子作業オーダーのオーダー数量、日付、および親作業オーダー番号が変更されます。また、コンフィギュレーションの変更を行うと、追加の作業オーダーが作成されたり、既存の作業オーダーがコンフィギュレーションから削除されたりする可能性があります。

注意: この機能は、受注オーダー入力プログラム(P4210)および製造作業オーダー処理プログラム(P48013)で作成された作業オーダーで有効です。JD Edwards EnterpriseOne ETOシステムのプロジェクトに対して作成された作業オーダーは、この機能では処理されません。

既存のコンフィギュレーション作業オーダーの変更後は、オーダー処理プログラムを再度実行し、部品リストおよび作業工程をコンフィギュレーション品目に再添付します。

製造作業オーダー処理プログラムの処理オプションの「受注/コンフィギュレーション」タブにある状況フィールドは、作業オーダーの締切り状況を設定するのに使用します。これらのフィールドの値は、受注オーダーおよび製造作業オーダー処理プログラムで作成したコンフィギュレーション作業オーダーから生成された、作業オーダーの状況を変更するのに使用されます。

受注オーダーから生成された作業オーダーの場合、受注オーダーへの変更が作業オーダーに影響しないようにする時期を、締切り状況によって定義します。つまり、作業オーダーの状況コードの値が設定値と同じか超えているときに受注オーダーを変更すると、作業オーダーの状況は変更されますが、部品リストと作業工程には変更が反映されません。

コンフィギュレーション作業オーダーの正味変更ロジック

コンフィギュレーション作業オーダーまたはそのコンフィギュレーションを変更した場合、コンフィギュレーション内の作業オーダーに対して正味変更ロジックを実行しないでください。コンフィギュレーションで変更を行うと、作業オーダーが削除されたり新しい作業オーダーがコンフィギュレーションに追加されたりする可能性があります。この状況では既存の作業オーダーに添付されている部品リストと作業工程が無効になることがあります。その結果、既存部品リストの数量および既存作業工程の時間に対する自動変更が無効になります。この場合、コンフィギュレーション内のすべての作業オーダーに対してオーダー処理プログラムを実行して、部品リストと作業工程を再添付する必要があります。

コンフィギュレーション品目作業オーダーの変更 - 作業オーダーの削除/追加なし

既存のコンフィギュレーション作業オーダーのコンフィギュレーションを変更する際に、作業オーダーの削除や新規追加が発生しないようにするには、次の2つの方法があります。

- コンフィギュレーション内の作業オーダーに設定されたオーダー数量、日付、単位を変更し、コンフィギュレーション品目の改訂プログラム(P3210)を実行する。
変更を行わずにコンフィギュレーションを検証し、「OK」をクリックします。
- セグメントの回答値が変更されると下位レベルの作業オーダーのオーダー数量と日付が変更されるように、コンフィギュレーション品目に対してアセンブリ組込規則を設定する。

コンフィギュレーションの既存作業オーダーに対してコンフィギュレーション品目の改訂プログラムを実行して、アセンブリ組込規則を満たすようにセグメントの回答値を変更できます。

両方の状況で、作業オーダーが締切り状況に達していない場合は、すべての下位レベルの作業オーダーのオーダー数量と日付を正しく再計算する必要があります。締切り状況に達していないすべての作業オーダーの状況は、変更状況(締切り前)に変更されます。

変更する作業オーダーの状況がすでに締切り状況以降になっている場合、この作業オーダーの状況は変更状況(締切り後)に変更されます。このような作業オーダーのオーダー数量、日付、単位は、変更しないでください。

作業オーダーが設定されていない品目についての部品リスト数量および作業工程時間は、コンフィギュレーション内の作業オーダーすべてに対してオーダー処理プログラム(R31410)を実行する際に再計算する必要があります。

コンフィギュレーション品目作業オーダーの変更 - 作業オーダー削除あり

コンフィギュレーション品目の改訂プログラムでは、既存のコンフィギュレーション作業オーダーのコンフィギュレーションを確認し、変更を行って品目をコンフィギュレーションから削除できます。

品目に関連付けられた作業オーダーがあるときに、その作業オーダーの既存の状況が締切り状況に達していない場合、作業オーダーとすべての子作業オーダー(存在する場合)を取消状況に変更する必要があります。作業オーダーの既存の状況が締切り状況かそれ以降の状況の場合は、作業オーダーは取消状況に更新できません。

コンフィギュレーションで保持されている作業オーダーの状況は、既存の状況が締切り状況に達していない場合、変更状況(締切り前)に変更する必要があります。保留中の作業オーダーの状況が締切り状況かそれ以降の状況の場合、状況を変更状況(締切り後)に変更する必要があります。

下位レベルのコンフィギュレーション作業オーダーの状況が締切り状況を超えた場合、コンフィギュレーションから削除されても取消にはなりません。ただし、該当オーダーの親作業オーダーは取消状況に変更されることがあります。作業オーダー完了プログラム(P31114)を下位レベルの作業オーダーに対して実行する場合、数量、ロット、および保管場所の完了処理に伴い、親作業オーダーの部品リスト内の該当する部品リスト行では分割と更新のいずれかまたは両方が行われます。更新された行の部品リスト数量は、ロットと保管場所の完了に対してハード・コミットされます。これらのコミットメントのリリースは、ユーザーが行う必要があります。

コンフィギュレーション作業オーダーがコンフィギュレーションから削除されたために取消状況に変更されている場合、誤った処理を避けるため、親作業オーダー・フィールドは空白にしないでください。

品目に関連付けられている作業オーダーがない場合、その品目の親作業オーダーのコンフィギュレーションと部品リストからその品目を削除する必要があります。この処理は、オーダー処理プログラム(R31410)をコンフィギュレーション内のすべての作業オーダーに対して実行する際に行われます。

コンフィギュレーション品目作業オーダーの変更 - 作業オーダー追加あり

コンフィギュレーション品目の改訂プログラムでは、既存のコンフィギュレーション作業オーダーのコンフィギュレーションを確認し、変更を行って品目をコンフィギュレーションに追加できます。品目をコンフィギュレーションに追加する場合、品目の在庫タイプに応じて特定の処理が発生します。

品目がコンフィギュレーション品目の場合、品目をコンフィギュレーション・ツリーに追加する必要があります。コンフィギュレーション品目に作業オーダー行タイプが設定されている場合、その品目および子品目(アセンブリ組込規則に作業オーダー行タイプがある場合)に対する作業オーダーを作成する必要があります。

品目が非コンフィギュレーション品目でアセンブリ組込規則に作業オーダー行タイプが設定されている場合、その非コンフィギュレーション品目に対する作業オーダーを作成する必要があります。

新規追加の作業オーダーと既存の作業オーダーの日付はすべて、正しく再計算する必要があります。

すべての新規作成作業オーダーは必ず、開始状況にします。締切り状況に達していないコンフィギュレーション内のすべての既存作業オーダーは、変更状況(締切り前)に変更する必要があります。締切り状況かそれ以降の状況になっているコンフィギュレーション内のすべての既存作業オーダーは、変更状況(締切り後)に変更する必要があります。

品目に作業オーダー行タイプがない場合、オーダー処理プログラム(R31410)をコンフィギュレーションの作業オーダーすべてに対して実行する際に、親品目の作業オーダーの部品リストに品目を追加する必要があります。

原価計算へのコンフィギュレーション品目作業オーダーの変更

既存のコンフィギュレーション作業オーダーを変更する際は、コンフィギュレーションのどの作業オーダーに対して報告された原価でも、自動的に変更をしないでください。製造原価テーブル(F3102)の標準原価カラムおよび標準数量カラムの値は、オーダー処理プログラム(R31410)実行時に自動入力されます。コンフィギュレーション作業オーダーでは、F3102テーブルの現行原価カラムおよび現行数量カラムの値は自動入力されません。

コンフィギュレーションの作業オーダーに対してオーダー処理プログラムを実行する前にコンフィギュレーションを変更した場合は、原価が未算定のため、原価の変更は不要です。

コンフィギュレーションの作業オーダーに対してオーダー処理プログラムを実行した後にコンフィギュレーション作業オーダーを変更した場合は、オーダー処理プログラムを再実行して、部品リスト、作業工程、および新規部品リストと作業工程に関連付けられているF3102の原価の再計算を行います。

注意: この処理により、作業オーダーの計画差異をなくすことができます。

受注設計生産におけるコンフィギュレーション品目作業オーダーの変更

コンフィギュレーション作業オーダーは、タスクとしてJD Edwards EnterpriseOne ETOシステムのプロジェクトに追加できます。オーダーの追加後は、作業オーダーの元になったコンフィギュレーション全体の変更や削除ができます。

受注設計生産プロジェクトのコンフィギュレーション作業オーダーは、プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)で変更します。作業オーダーは受注設計生産プロジェクトで作成されたコンフィギュレーション品目に対して変更が可能です。変更は作業オーダー・レコードのコミット前でもコミット後でも行うことができます。

注意: 製造作業オーダー処理プログラム(P48013)を使用して、受注設計生産プロジェクトのコンフィギュレーション作業オーダーは直接変更できません。

変更の承認前に、報告済の活動があるコンフィギュレーション作業オーダーはないかどうか、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムによって確認されます。さらに、コンフィギュレーション全体を削除する場合は、コンフィギュレーション・タスクに既存タスクとの依存関係がないかどうかをプロジェクト・ワークベンチ・プログラムで確認する必要があります。

プロジェクト・ワークベンチ・プログラムからコンフィギュレーション品目の改訂プログラムにアクセスして変更を行うときには、ルート・コンフィギュレーション作業オーダーまたは子作業オーダーにタスクの依存関係が存在するかどうかを確認する警告が表示されます。

注意: 警告を無視してコンフィギュレーションを変更した結果、既存のコンフィギュレーション作業オーダーが依存構造から消去されてしまった場合は、スケジュール処理で問題が発生するのを避けるため、手入力タスクの依存関係を削除する必要があります。

計画開始日付と計画完了日付などの日付および単位の変更を行うには、コンフィギュレーション品目の改訂プログラムを起動します。ルート・コンフィギュレーション作業オーダーの場合は、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムからコンフィギュレーション品目の改訂プログラムを変更モードで起動すると、コンフィギュレーションの変更ができます。

プロジェクト・ワークベンチ・プログラムまたはコンフィギュレーション品目の改訂プログラムで作業オーダー・レコードをコミットする前は、ルート・コンフィギュレーション作業オーダーのみプロジェクト・ワークベンチ・プログラムで再入力が可能です、コンフィギュレーション品目にアクセスして改訂できます。

プロジェクト・ワークベンチ・プログラムまたはコンフィギュレーション品目の改訂プログラムで作業オーダー・レコードをコミットした後は、ルート・コンフィギュレーション作業オーダーのみプロジェクト・ワークベンチ・プログラムで再入力が可能です、品目定義にアクセスして改訂できます。この操作は、ルート・コンフィギュレーション作業オーダーまたは子作業オーダーに対して製造現場活動が何も報告されていない場合にのみ行うことができます。このため、コンフィギュレーション作業オーダーの部品リストに対する資材出庫は行われず、コンフィギュレーション作業オーダーに対する活動の報告も行われません。

既存の受注設計生産作業オーダーのコンフィギュレーションを変更した場合は、コンフィギュレーションの他の品目と作業オーダーへの変更結果は、非受注設計生産作業オーダーを同様の方法で変更した場合と同じになります。コンフィギュレーション作業オーダーの状況変更を使用される値は、製造作業オーダー処理 (P48013) の処理オプションから読み込まれます。

受注設計生産プロジェクト全体で逆算スケジュールの算定を行うと、設定されているすべての受注設計生産コンフィギュレーション作業オーダーの日付も処理されます。作業オーダーは変更状況には変更されません。これは、作業オーダーを新しい日付に更新するために作業オーダーのプロジェクトが呼び出されていないためです。プロジェクト・ワークベンチ・プログラムは別のプロセスを呼び出して、プロジェクト作業オーダー・レコードを新しい日付に更新します。

下位レベルの非受注設計生産コンフィギュレーション作業オーダーの状況が締切り状況を超えた場合、コンフィギュレーションから削除されても取消にはなりません。ただし、該当オーダーの親作業オーダーは取消状況に変更されることがあります。作業オーダー完了プログラム (P31114) を下位レベルの作業オーダーに対して実行する場合、数量、ロット、および保管場所の完了処理に伴い、親作業オーダーの部品リスト内の該当する部品リスト行では分割と更新が行われます。更新された行の部品リスト数量は、ロットと保管場所の完了に対してハード・コミットされます。これらのコミットメントのリリースは、ユーザーが行う必要があります。

受注設計生産におけるコンフィギュレーション作業オーダーの正味変更ロジック

受注設計生産コンフィギュレーション作業オーダーまたはそのコンフィギュレーションを変更した場合、コンフィギュレーション内の作業オーダーに対して正味変更ロジックを実行しないでください。コンフィギュレーション内で変更を行うと、作業オーダーが削除されたり新しい作業オーダーがコンフィギュレーションに追加されたりする可能性があります。この状況では既存の作業オーダーに添付されている部品リストと作業工程が無効になることがあります。その結果、既存部品リストの数量および既存作業工程の時間に対する自動変更が無効になります。この場合、コンフィギュレーション内のすべての作業オーダーに対してオーダー処理プログラム (R31410) を実行して、部品リストと作業工程を再添付する必要があります。

ただし、プロジェクト・ワークベンチ・プログラムを使用してコンフィギュレーション作業オーダーの日付を変更した場合、正味変更の処理は、機能が使用可能な状態になっていれば実行されます。

受注設計生産におけるコンフィギュレーション品目作業オーダーの変更 - 作業オーダーの削除

プロジェクト・ワークベンチ・プログラム (P31P001) では、データベースに対する作業オーダー・レコードのコミット前でもコミット後でも、削除できるのはルート・コンフィギュレーション作業オーダーだけです。

プロジェクト・ワークベンチのグリッドで受注設計生産コンフィギュレーション作業オーダーを選択して「ロー」メニューの「タスクの取消」を選択して取消を行うと、コンフィギュレーションのレベルや既存状況とは関係なく、その作業オーダーだけが取消状況に変更されます。この場合、取消状況はプロジェクト・ワークベンチ・プログラムの処理オプションから読み込まれます。

会計上のコミットメントや、プロジェクト固有の在庫引当、その他の活動などが報告されている作業オーダーをコンフィギュレーションから削除する場合、締切り状況よりも後の状況になっていないと、取り消されません。ただし、該当オーダーの親作業オーダーは取消状況に変更されることがあります。このような場合は、報告済の活動を持つ作業オーダーには、親作業オーダーがなくなります。このため、親作業オーダーのない作業オーダーに対して作成された、会計上のコミットメントおよびプロジェクト固有の在庫引当をリリースする必要があります。

ルート・コンフィギュレーション作業オーダーの削除により、システム32のテーブルに存在するすべての子コンフィギュレーション作業オーダーおよびコンフィギュレータ・データが削除されます。

既存のコンフィギュレーションはJD Edwards EnterpriseOneシステム32のテーブルから削除されませんが、参照データとして保持されます。

ただし、その作業オーダーに対する参照は、コンフィギュレータ・マスター(F3201)、作業オーダー・マスター(F4801)、作業オーダー・マスター・タグ・テーブル(F4801T)からは削除されます。

取り消された作業オーダー見出しの該当プロジェクト番号は消去されます。

原価計算における受注設計生産のコンフィギュレーション品目作業オーダーの変更

ルート・コンフィギュレーション品目のコンフィギュレーション定義をコンフィギュレーション品目の改訂プログラムで行い、すべての子コンフィギュレーション作業オーダーの作成をした後は、プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)で、ルートおよび子コンフィギュレーション作業オーダーのすべてに対して見積原価の更新を行う必要があります。この更新が適用されるのは、コンフィギュレーション定義からの子コンフィギュレーション作業オーダー生成時、および既存のコンフィギュレーションの変更時です。

重要: 新しいルート・コンフィギュレーション作業オーダーをワークベンチ構造に追加したときは、見積原価は更新しないでください。

受注設計生産プロジェクトの見積承認後のコンフィギュレーション変更

コンフィギュレーションの変更またはコンフィギュレーション作業オーダーの新しいセットの追加を行う場合は、JD Edwards EnterpriseOne ETOをオラクル社のJD Edwards EnterpriseOne作業原価システムと連動させる際の処理方法、およびそのインターフェイスの実装について考慮する必要があります。

コンフィギュレーションの変更によって、同一構造内に新しいコンフィギュレーション作業オーダーが追加されるのであれば、新しいタスクには当初予算がないため問題にはなりません。見積承認後に製造作業オーダーを追加する場合は、この方法で正しく処理ができます。

しかし、コンフィギュレーションの変更によって、既存の構造からコンフィギュレーション作業オーダーが削除される場合は、当初予算額の変更が必要になります。削除された作業オーダーに関連付けられた予算が存在することもあれば、すでに予算がJD Edwards EnterpriseOne作業原価にアップロードされていることもあります。JD Edwards EnterpriseOne ETOとJD Edwards EnterpriseOne作業原価の統合は密なものではないため、システムによる自動処理は行われません。システムのチェックでは、JD Edwards EnterpriseOne作業原価のプロジェクト構造への原価コードと原価タイプの追加、および予算の追加が手入力によって行われたかどうかは、検証されません。

このため、プロジェクトのロックを解除して、手入力で追加された勘定科目情報と予算情報を削除し、予算額を正確なものにします。

コンフィギュレーション品目の仕掛品の再評価

コンフィギュレーション品目では、仕掛品(WIP)の再評価を行うことができます。

標準原価計算処理の場合は、資材費と労務費の変更が仕掛品の再評価に含まれます。

実際原価計算処理の場合は、資材費の変更のみが仕掛品の再評価に含まれます。

コンフィギュレーション品目作業オーダーの作業時間と作業量

コンフィギュレーション品目の作業オーダーに従って製造作業を行っている間も、製造に費やした時間とその時点での完了品目数量を記録する必要があります。記録を行うことにより、進捗状況および原価をモニターでき、作業の見積標準作業時間および見積作業量に対する比較ができます。

作業時間と作業量を入力したら、作業オーダーの時間入力プログラム (P311221) による手入力または勤務時間の入力のいずれかを使用して、トラッキングや原価計算のため、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 製造管理システムへ転記する前に内容を確認し、必要であれば改訂します。

オーダー済、完了、仕損の各実際数量など、コンフィギュレーション品目の作業オーダーのスケジュール済作業に対して入力された作業量を検討できます。また、標準値およびその差異を状況コードとあわせて確認でき、作業について更新できます。

コンフィギュレーション品目の作業オーダー完了

作業オーダー完了プログラム (P31114) では、JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理システムに入力された情報を使用して総勘定元帳の仕訳が作成されます。JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理システムでは対話形式による仕訳は作成されません。すべての仕訳はバッチ処理されます。

コンフィギュレーション品目の場合、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 流通管理システムのトランザクションで正しい原価を処理できるように、製造原価テーブル (F3102) の標準原価で新しい保管場所が更新されます。コンフィギュレーション品目の完了時には、個別のロット番号と保管場所の入力が必要です。作業オーダー完了プログラムを使用して、関連受注オーダーのハード・コミット、および受注オーダーのロット情報と保管場所情報の更新を行います。

下位レベルのコンフィギュレーション作業オーダーを完了した場合、親コンフィギュレーション作業オーダーの部品リストには、分割や更新、またはその両方が含まれています。子作業オーダー番号は親作業オーダーの部品行に書き込まれます。レコードは作業オーダー部品リスト・テーブル (F3111) に書き込まれます。

コンフィギュレーション品目の作業オーダー完了について設定する際の考慮事項

コンフィギュレーション品目の作業オーダーを正しく完了するには、作業オーダー完了 (P31114) の処理オプションをビジネス・プロセスにあわせて設定する必要があります。

コンフィギュレーション品目はロット単位で制御する必要があるため、品目マスター (P4101) の「ロット処理タイプ」フィールドを適切に設定し、ビジネス・プロセスに応じたロット番号が作成されるようにします。また、コンフィギュレーション品目を特定の保管場所に保管する必要もあります。

作業オーダー完了オーダーの処理オプションでは、ロット番号と保管場所を完了時に手入力するか、自動入力するかを指定します。処理オプションの「受注オーダー」タブで、「作業オーダーロット/保管場所のデフォルト」フィールドを適切に設定します。

注意: 事業所固定情報の「保管場所制御」オプションは選択解除します。

受注オーダーのロット/保管場所オプションを必要に応じて設定して、作業オーダー完了時に受注オーダーのロット情報と保管場所情報を更新します。

コンフィギュレーション品目と流通について

受注オーダーの入力を終えてコンフィギュレーション品目の作業オーダーを完了した後は、JD Edwards EnterpriseOne 流通管理システムのプログラムを使用して、受注オーダーの処理サイクルを完了します。

ここでは、次の事項について説明します。

- コンフィギュレーション品目の在庫
- コンフィギュレーション品目の在庫状況
- ピッキング・リスト
- 出荷
- 請求書

コンフィギュレーション品目の在庫

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、コンフィギュレーション品目を在庫として処理できます。在庫保管されたコンフィギュレーション品目では、JD Edwards EnterpriseOne流通管理システムのプログラムを使用して次の作業を行うことができます。

- コンフィギュレーション固有の原価計算情報の確認
- コンフィギュレーション最終品目の在庫状況の定義
セグメントで検索することも、特定のコンフィギュレーションだけを検索することもできます。
- 受注オーダー入力プログラム(P4210)でのコンフィギュレーション品目在庫の選択
品目はハード・コミットされますが、作業オーダーは生成されません。処理に使用される原価は事業所品目テーブル(F4102)から読み込まれます。
- 次の在庫トランザクションの実行
 - 出庫
 - 移動
 - 調整

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムでは、コンフィギュレーション品目の再分類はサポートしていません。

特定の保管場所のコンフィギュレーション品目は数量調整ができます。JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムでは、コンフィギュレーション固有の履歴が定義されていれば、既存在庫を持つ保管場所や、数量がゼロの品目に対して数量調整をすることができます。

コンフィギュレーション品目の在庫状況

コンフィギュレーション品目情報を確認するには、在庫集計照会フォーム、在庫明細照会フォーム、「受注残/完了オーダー照会」フォームを使用します。

在庫状況プログラム(P41202)の在庫集計照会フォームを使用すると、コンフィギュレーション品目を保管している在庫保管場所の確認ができます。各保管場所に関する手持数量、引当済数量、引当可能数量などの情報を詳細グリッドで確認します。

在庫状況プログラムの在庫明細照会フォームを使用すると、特定の保管場所にあるコンフィギュレーション品目の状況を確認できます。コンフィギュレーション品目の手持数量およびその数量に関係する引当などの情報を、詳細グリッドで確認します。

受注オーダー入力プログラム(P4210)の「受注残/完了オーダー照会」フォームを使用すると、次の作業ができます。

- 受注オーダー明細テーブル(F4211)および受注実績テーブル(F42119)にある現行受注オーダー情報の検索

- 受注オーダー、顧客、および品目レベルの情報の提供
- 受注オーダー行の関連テキストの変更

受注オーダー入力時のコンフィギュレーション品目の在庫確認

受注オーダー入力時に引当可能数量をチェックするには、コンフィギュレータ固定情報プログラム (P3209) の「引当可能数量チェック」オプションを選択する必要があります。受注オーダー入力時に該当品目とコンフィギュレーションIDが検出されると、特定のコンフィギュレーションを含むすべての保管場所が表示されます。コンフィギュレーション品目の全レベルについてセグメント値を確認して、受注オーダーに入力する品目を選択します。品目を選択すると、コンフィギュレータ固定情報で定義した在庫行タイプで、コンフィギュレーション品目が受注オーダーに引き当てられます。構成品の引当可能数量チェックは行われません。

注意: オーダーした数量が選択した数量と異なる場合は、行分割の自動処理は行われません。

ピッキング・リスト

コンフィギュレーション品目の受注オーダーと作業オーダーの生成後には、ピッキング・リストの印刷プログラム (R42520) を使用してピッキング・リストを出力します。ピッキング・リストには次の情報が含まれます。

- 倉庫の経由保管場所または出荷場所へピッキングおよび移動されたオーダー数量。
- 行品目ごとの価格およびオーダー全体の価格。代金引換払い (COD) 配達で利用できます。
- 配達担当者の署名行。
- 顧客の署名行。

出荷

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムではコンフィギュレーション品目の出荷をサポートしています。ただし、コンフィギュレーション品目のバックオーダーは処理できません。

出荷確認プログラム (P4205) を使用して、次の作業を行います。

- 既存のオーダー情報の検索
- 行品目の追加 (非在庫品目のみ)
- 出荷、バックオーダー、取消の数量変更
- 各行品目について、コンテナID、運送業者番号、出荷日付の指定
- 出荷先住所の一時変更
- 他事業所または複数事業所からの出荷
- 在庫調整 (手持、またはハード・コミット)
- 出荷の確認
- 出荷済品目のシリアル番号の記録
- 運賃/諸掛の改訂プログラムの確認

コンフィギュレーション品目の部分出荷

コンフィギュレーション品目のオーダー数量の一部を出荷することにより、次の作業を行うことができます。

- コンフィギュレーション品目を完了済品目として出荷
- 在庫管理費用の削減

・オーダーの出荷済数量についての支払受領

コンフィギュレーション品目の受注オーダーは多くの場合、部品や半組立品を含めると大量のオーダー数量になります。通常、コンフィギュレーション品目と構成品の製造が完了すると、全体のオーダーが完了するまで在庫として置かれます。その一方で、完了したコンフィギュレーション品目分だけの数量を出荷すると、経費を削減しながら在庫管理を効率よく行えます。また、オーダー全体が完了するまで待たなくても、完了した数量分だけを定期的に請求できます。

注意: コンフィギュレーション品目の部分出荷時には、バックオーダー機能は使用できません。

コンフィギュレーション品目の数量部分オーダー出荷

顧客から大量のコンフィギュレーション品目のオーダーがあった場合、品目の製造時に合計オーダー数量よりも少ない数量を出荷できます。たとえば、顧客から非常に大量のパーソナル・コンピュータの注文があったとします。コンピュータを一定量製造するたびに、当初オーダーの数量に達するまで、複数回に分けてパーソナル・コンピュータを出荷できます。

次の表では、コンフィギュレーション品目数量の部分出荷の一般的な処理手順について示しています。

プログラム	手順
受注オーダー入力 (P4210)	コンフィギュレーション品目の受注オーダーを入力します。オーダー行タイプがW(作業オーダー)の場合、関連する作業オーダーが作成されます。
オーダー処理 (R31410)	オーダー処理プログラムを実行します。すべての関連作業オーダーに対し、部品リストと作業工程が添付されます。
作業オーダー在庫出庫 (P31113)	コンフィギュレーション品目に関連付けられた作業オーダーの部品を、下位レベルの作業オーダーから順に出庫します。初期データのフォークリフト(品目6000)などのように、ネスト(入れ子)構造になっているコンフィギュレーション品目の場合、次の順序で処理が行われます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ フォーク(品目6200)の作業オーダーの出庫と完了 ・ ブーム・アセンブリ(品目6100)の作業オーダーの出庫と完了 ・ フォークリフト(品目6000)の作業オーダーの出庫と完了

プログラム	手順
<p>作業オーダー完了 (P31114)</p>	<p>在庫はこの段階で作成されます。全オーダー数量の処理が完了するまで出荷しないコンフィギュレーション品目のオーダーの場合、フォークリフトの例が基本的なシナリオになります。部分出荷の場合、作業オーダー完了を使用して受注オーダーを分割します。コンフィギュレーション品目の作業オーダーを部分的に完了する際に、関連する受注オーダー行も分割されます。たとえば、コンフィギュレーション品目の受注オーダーの当初数量が10で完了数量が6である場合、関連する受注オーダー行は2行に分割されます。このとき、1つの行には完了分(出荷待ち)の部分数量が、もう1つの行には未完了分の数量が設定されます。</p> <p>完了したコンフィギュレーション品目の各オーダー数量には、ロットおよび事業所の割当が必要です。部分出荷の際には、当初オーダーの部分数量ごとに異なるロットと保管場所を割り当てることができます。</p> <p>作業オーダー完了で受注オーダーを分割しても、出荷確認で受注オーダーをさらに分割できなくなることはありません。</p>

プログラム	手順
ピッキング・リストの印刷 (R42520)	出力対象の作業オーダーを選択してピッキング・リストの印刷プログラムを実行します。オーダーの取り込み時に、倉庫担当者が使用するピッキング・リストを出力します。
出荷確認 (P4205)	<p>前述の部分完了のシナリオ(10のうち6が完了)に続けて、完了した6割分すべてを出荷することも、一部の完了品のみ出荷することもできます。6割全体を出荷する場合、受注オーダーではコンフィギュレーション品目の行が2行で表示されます。1番目の行には完了した6割分が表示されます。完了品目には、当初の行番号および新規状況(次の状況)が表示されます。また、完了品目は作業オーダー完了で割当済のロット番号に対してハード・コミットされます。2番目の行には未完了の4割分が表示されます。これらの品目は、状況は変更されずに新しい行番号が付けられます。受注オーダー行の分割時には、受注オーダーの行番号のうち最も大きな値が新しい行番号として付与されます。番号の値は1.00ずつ増加します。品目には割り当てられたロット番号はありません。1番目の行を選択して完了品目の数量すべて(6割分)を出荷すると、その行は完了になります。これで部分出荷が終了します。</p> <p>完成した6割分のうち一部のみを出荷する場合、出荷確認を使用してロットまたは保管場所ごとに出荷した品目を指定します。作業オーダー完了を使用して完了した品目を指定する場合と同様に、出荷確認を使用して、顧客に出荷した完了品目を指定します。受注オーダーではこのコンフィギュレーション品目の行が3行表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1番目の行には、完了して出荷した品目が表示されます。 • 2番目の行には、完了していても未出荷の品目が表示されます。 • 3番目の行には、未完了の品目が表示されます。 <p>出荷の分割は、ビジネス・ニーズにあわせて必要であれば何度でも行うことができます。</p> <p>受注オーダー明細行が分割されると、作業オーダー・マスター(F4801)の作業オーダー行が新しい受注オーダー行番号で更新されます。この処理は、作業オーダーで常に未完了数量のある受注オーダーを把握するために行われます。</p> <p>コンフィギュレーション品目の部分出荷時には、コンフィギュレーション品目の構成品との親子関係は維持されます。構成品は行タイプがテキストになり、親コンフィギュレーション品目に含まれます。これらのテキスト行は出荷確認には表示されません。運賃など、“その他”の行タイプも出荷確認には表示されません。</p>

構成品の数量部分オーダー出荷

完了したコンフィギュレーション品目の部分数量を出荷するだけでなく、構成品の部分数量を出荷することもできます。完了用の作業オーダーが親品目で生成されていない構成品（行タイプが在庫）に対してのみ、部分出荷が可能です。

たとえば、パーソナル・コンピュータの大量オーダーがあったとします。オーダーには、モニター、本体と事前インストール済ソフトウェア、キーボード、マウス、ケーブルが含まれています。パーソナル・コンピュータを旧製品から新製品へ移行する際の顧客側での要望が、“パーソナル・コンピュータの実際の組立前に先にソフトウェアをインストールしてセットアップできるように、他の構成品よりも先に本体とソフトウェアを出荷してほしい”であったとします。

このシナリオの場合、本体とソフトウェア（構成品）のすべてまたは一部をパーソナル・コンピュータ（親コンフィギュレーション品目）とは別に出荷できます。出荷対象の本体とソフトウェアの数量は一時変更が可能です。親コンフィギュレーション品目からの関連付けを解除できます。本体は新しい親品目になり、ソフトウェアは本体の子品目のままですが、両品目ともパーソナル・コンピュータからの関連付けは解除されます。この処理を行った本体とソフトウェアの残存数量については、当初受注オーダーの全オーダー数量を出荷するまで、パーソナル・コンピュータとは別に管理、トラッキング、出荷を行う必要があります。

請求書

受注オーダーの請求書を出力するには、請求書の印刷プログラム（R42565）を使用します。請求書をテスト・モードで出力して確認後、最終版の請求書を出力してファイルを更新できます。また、下書きモードで出力をして更新前に請求書を確認することもできます。さらに、履歴から請求書を出力することもできます。

コンフィギュレーション品目と調達管理について

コンフィギュレーション品目の購買オーダーを入力後、JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムのプログラムを使用して購買オーダーの処理サイクルを完了します。

コンフィギュレーション品目に対する購買オーダーの入荷処理

商品の入荷時には、入荷明細が購買オーダー情報に一致していることを確認します。入荷確認プログラム（P4312）を使用して商品を入荷し、保管場所、数量、原価などの情報を入力します。

コンフィギュレーション品目の入荷時には、個別のコンフィギュレーションIDが品目に割り当てられます。このIDは、品目を在庫に入れる際に品目保管場所テーブル（F41021）のIDと一致している必要があります。新規保管場所が作成された場合、コンフィギュレーションIDも登録する必要があります。

P4312プログラムを使用して、コンフィギュレーション品目構成品と同様に、親コンフィギュレーション品目に対して生成された購買オーダーを入荷します。入荷処理により、部分入荷、複数保管場所への分割入荷、入荷戻し、および取消が可能です。入荷は品目別または購買オーダー別に入力できます。

コンフィギュレーション品目構成品の購買オーダーを入荷すると、システムでは次が実行されます。

1. JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムからの関連オーダー情報の取得。
2. 受注オーダーまたは作業オーダーのオーダー状況に関する情報の検証。
F4211テーブルから作業オーダー、およびF4801テーブルから作業オーダー状況が取り込まれます。
3. JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでの引当に関する購買オーダー入荷処理、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムでの在庫入荷処理、およびJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムでの引当の更新。

入荷情報により、テーブルF3201、F4311、F4211、F3111およびF43121が更新されます。

4. 作業オーダー部品リストおよび関連オーダー（作業オーダーまたは受注オーダー）に関する在庫保管場所引当の更新。

P4312プログラムの「コンフィギュレータ」タブで「関連オーダーの更新」処理オプションが設定されている場合は、資材が入手可能になったときに関連オーダーが更新されます。

関連するコンフィギュレーション・オーダーが受注オーダーの場合は、元の受注オーダーの明細に入荷在庫を引き当てることができます。明細行は、購買オーダー入荷の在庫保管場所にハード・コミットされます。

作業オーダー部品リストの構成部品によって購買オーダーが生成される場合は、トランザクション数量、単位、保管場所および部品リストのロット/シリアル番号が更新されます。また、購買オーダー入荷処理中に、作業オーダーに対して構成部品を出庫できます。P4312プログラムの「コンフィギュレータ」タブで「作業オーダー在庫出庫の処理」処理オプションが1に設定されている場合は、P4312プログラムの「作業オーダー在庫出庫のバージョン」処理オプションで指定されている作業オーダー在庫出庫プログラム（P31113）のバージョンを使用して、部品リストに対して品目が自動的に出庫されます。

注意: R31410が実行されると、引当制御処理の設定に基づき、製造固定情報（P3009）の部品リストが作業オーダーに添付されます。このため、在庫中の資材が部品リストに引き当てられる場合があります。購買オーダー入荷処理中は、部品リストの引当が一時変更され、購買オーダー入荷の品目が部品リストに引き当てられます。

部品リストの添付では、部品リスト・レベルで「入出庫」フィールドを0に設定すると、消費払いの金額も一時変更されます。

引当を更新できない場合は、元のオーダーを更新できないことを示す警告メッセージが表示されます。ただし、品目の在庫は通常どおり処理されます。

P4312プログラムの「コンフィギュレータ」タブで「作業オーダー締切状況」および「受注オーダー締切状況」処理オプションを設定し、オーダーが設定した状況に達すると、購買オーダーの入荷によって作業オーダーまたは受注オーダーが更新されなくなるようにします。

購買オーダーの数量を超える数量が入荷された場合は、すべての超過分（超過入荷）が在庫に転送されます。

コンフィギュレーション品目構成部品については、基の受注オーダーの明細行または元の作業オーダーの部品リスト行への、購買オーダーのペギングがサポートされています。

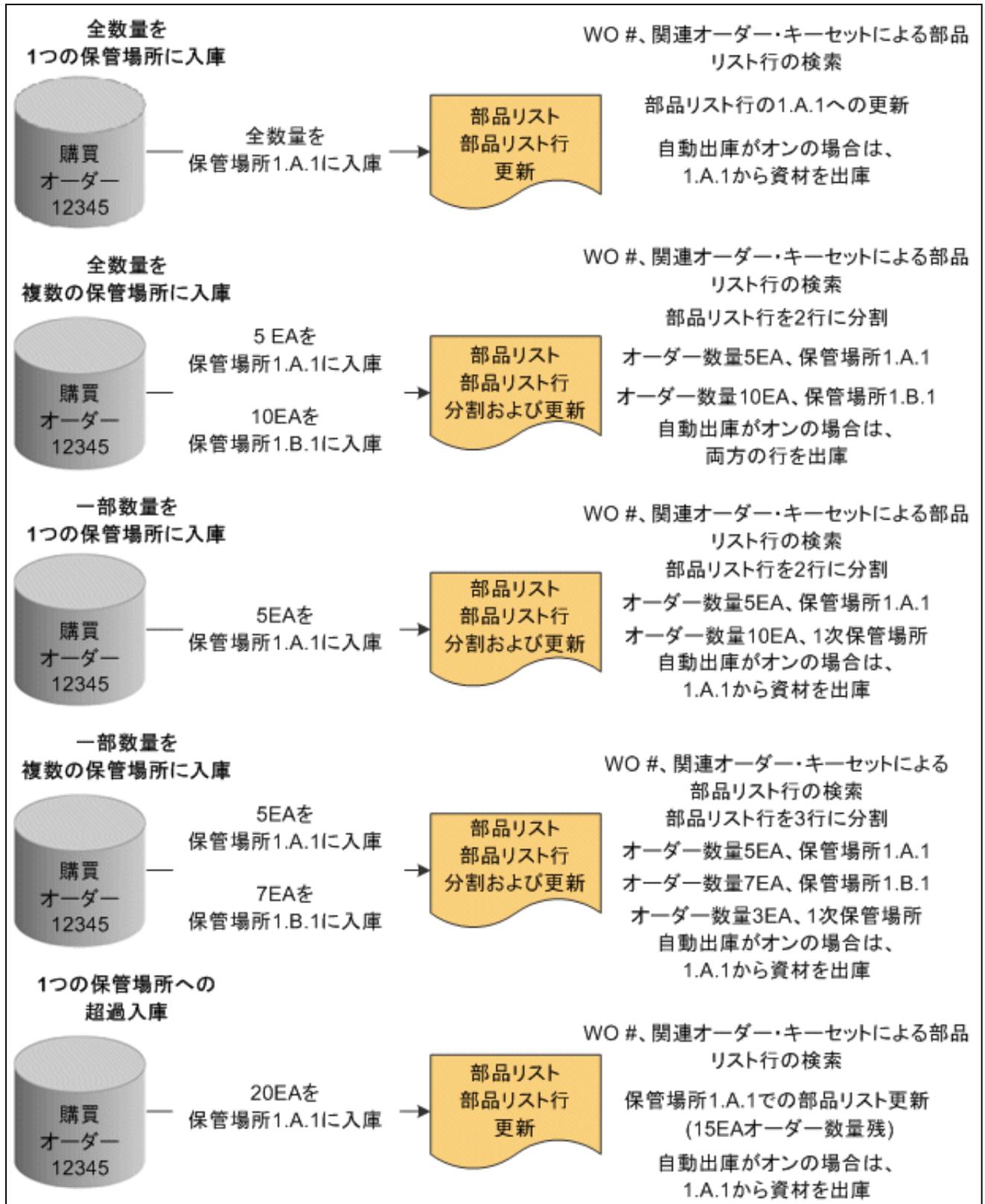
注意: ETOプロジェクトの在庫はすべてプロジェクト固有のものであり、プロジェクトに特定して製造または購買されるため、コンフィギュレーション品目構成部品の購買オーダーに対する購買オーダー入荷機能は、JD Edwards EnterpriseOne ETOシステムのプロジェクトには適用されません。

重要: このソフトウェアは幅広い機能と高い柔軟性を有しているため、トランザクション間のソリューション設計時の複雑性が増します。トランザクション処理管理は、システム設定とビジネス・プロセス定義において重要な検討事項です。

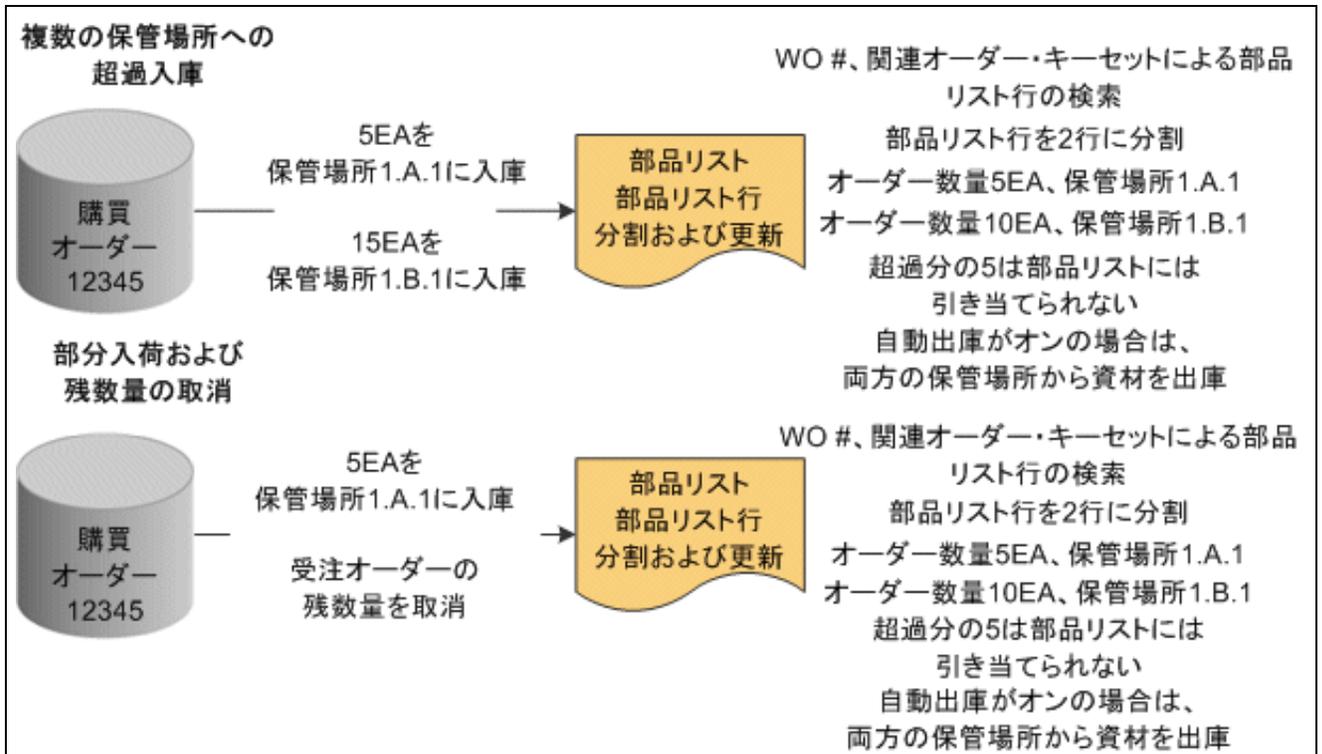
コンフィギュレーション品目構成部品の購買オーダー入荷については、基本入荷トランザクション、およびその他の複雑なシナリオがサポートされています。これらのシナリオ以外のトランザクションの実行は、可能な場合でもJD Edwards EnterpriseOneシステムでのビジネス・プロセスとは同期しない場合があります、手動での処理が必要になります。

この機能に定義されたシナリオで作業することをお勧めします。

次の図は、コンフィギュレーション品目構成部品の入荷トランザクションを示しています。



コンフィギュレーション品目構成品の入荷トランザクション(1/2)



コンフィギュレーション品目構成品の入荷トランザクション(2/2)

参照: 第6章、「コンフィギュレーション品目に対するオーダーの入力」、「コンフィギュレーション品目購買オーダーについて」、132ページ

参照: 第6章、「コンフィギュレーション品目に対するオーダーの入力」、「コンフィギュレーション品目構成品の購買オーダーについて」、134ページ

事前設定

コンフィギュレーション品目構成品の購買オーダー入荷を入力するには、次を実行する必要があります。

- 関連する構成部品受注オーダー行が更新されるように、構成部品のアセンブリ組込規則で「明細行の生成」フィールドが1に設定されているかどうかを確認します。
- 入荷確認プログラム(P4312)の「コンフィギュレータ」タブで処理オプションを設定します。

注意: 作業オーダー状況と受注オーダー状況が正しいレベルかどうかを確認します。P4312プログラムの「コンフィギュレータ」タブで「作業オーダー締切状況」および「受注オーダー締切状況」処理オプションを設定します。

作業オーダーについては、R31410プログラムの「デフォルト」タブで「見出し状況コード」処理オプションが、P4312プログラムの「コンフィギュレータ」タブの「作業オーダー締切状況」処理オプションにあわせて正しく設定されていることを確認します。

- 作業オーダー在庫出庫プログラム(P31113)の処理オプションの設定

コンフィギュレーション品目履歴の確認

この項では、コンフィギュレーション品目履歴の概要と、コンフィギュレーション品目履歴の確認方法について説明します。

コンフィギュレーション品目履歴について

コンフィギュレーション品目履歴を確認して、過去にオーダーが作成されたコンフィギュレーション品目をどのレベルでも検索できます。この履歴には、顧客、オーダー、オーダー・タイプ、および事業所についての情報が含まれます。

コンフィギュレーション・STRING履歴プログラム(P3296)の見出しに入力した値で、該当する過去のオーダー情報が取得されます。表示されるオーダー情報は、コンフィギュレータ・マスター(F3201)およびコンフィギュレータ構成テーブル(F3215)から取得されます。コンフィギュレーション・STRING履歴プログラムからは、セグメント値の処理プログラム(P32983)にアクセスして、コンフィギュレータ・セグメント詳細テーブル(F3211)に保存されている、特定のオーダーに対するコンフィギュレーション・ツリーおよびセグメントの回答値を確認できます。

顧客および品目別に履歴を確認して、売上分析を行ったり、カスタム・レポートや照会の生成を行ったりすることができます。

また、コンフィギュレーション品目履歴の表示はオーダー入力時にも可能で、過去に作成された該当コンフィギュレーション品目のオーダーを基に現行オーダーに入力する値を選択できます。

コンフィギュレーション品目履歴の確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コンフィギュレーション・STRING履歴の処理	W3296D	「日次処理」(G32)、「コンフィギュレーション品目履歴」 見出し領域のフィールドで検索条件を設定し、「検索」ボタンをクリックします。	特定のコンフィギュレーション品目に対するオーダーを確認します。
コンフィギュレーション参照	W32983B	行を選択して、「ロー」メニューの「コンフィギュレーションの表示」を選択します。	特定のオーダーに対するコンフィギュレーション・ツリーとセグメントの回答値を確認します。

コンフィギュレーション品目履歴の確認

「コンフィギュレーション・STRING履歴の処理」フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション品目の関連オーダーの確認

この項では、コンフィギュレーション関連オーダー・プログラムの概要、およびコンフィギュレーション品目の関連オーダーの確認方法について説明します。

コンフィギュレーション関連オーダー・プログラムについて

コンフィギュレーション・オーダー関連プログラム(P3201)では、特定のコンフィギュレーションに関連するすべてのオーダーが表示されます。コンフィギュレーション関連オーダーには、コンフィギュレーション品目の改訂プログラムからアクセスするか、または受注オーダー入力プログラム(P4210)、購買オーダー・プログラム(P4310)、製造作業オーダー処理プログラム(P48013)などのオーダー入力プログラムの照会フォームからアクセスします。

コンフィギュレーション関連オーダーを使用すると、コンフィギュレーション・ツリーとセグメント値の表示や、添付の確認ができます。さらに、関連作業オーダーの取消や削除も実行できます。

コンフィギュレーション品目の関連オーダー確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
関連コンフィギュレーション・オーダー	W3201A	<p>「日次処理」(G32)、「受注オーダーの入力」</p> <p>「受注残/完了オーダー照会」フォームでコンフィギュレーション品目オーダーを取得し、行を選択します。次に、「ロー」メニューで「オーダー」、「コンフィギュレーション品関連オーダー」を選択します。</p> <p>あるいは、「受注残/完了オーダー照会」フォームからコンフィギュレーション品目オーダーを取得し、ローを選択して「選択」をクリックします。「受注オーダー明細の改訂」フォームで、行を選択し、「ロー」メニューの「コンフィギュレーション品関連オーダー」を選択します。</p>	コンフィギュレーションに関連付けられているオーダー情報を確認します。

コンフィギュレーション品目の関連オーダーの確認

「関連コンフィギュレーション・オーダー」フォームにアクセスします。

受注オーダーの入力 - 関連コンフィギュレーション・オーダー

検索(🔍) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

オーダーNo.
 オーダー・タ仁

オーダー会社
 行番号

明細の表示

レコード 1 - 8 グリッドのカスタマイズ

	オーダー会社	オーダーNo.	オーダータイプ	オーダーサフィックス	行番号	品目No.	ビジネスユニット
<input checked="" type="radio"/>	00200	2791	SO	000	1.000	6000	M30
<input type="radio"/>	*	453510	WO	*		6000	M30
<input type="radio"/>	*	453528	WO	*		6100	M30
<input type="radio"/>	*	453536	WO	*		6200	M30
<input type="radio"/>	00200	2791	SO	000	1.001	6203	M30
<input type="radio"/>	00200	2791	SO	000	1.002	6201	M30
<input type="radio"/>	00200	2791	SO	000	1.003		M30
<input type="radio"/>	00200	2791	SO	000	1.004		M30

「関連コンフィギュレーション・オーダー」フォーム

コンフィギュレーション品目の在庫検索の実行

この項では、コンフィギュレーション品目の在庫検索の概要およびコンフィギュレーション品目の在庫検索の実行方法について説明します。

コンフィギュレーション品目の在庫検索について

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータ・システムではコンフィギュレーション品目の在庫を検索できます。コンフィギュレーション品目で検索してコンフィギュレーションを表示し、セグメント情報、保管場所、ロット/シリアル番号、事業所、引当可能数量の確認をすることができます。

注意: JD Edwards EnterpriseOne ETOシステムでは、在庫検索機能はETOへの適用対象外であるため使用できません。これは、受注設計生産ではすべての在庫がプロジェクト固有で、該当プロジェクト用に必ず購入されるためです。

コンフィギュレーション品目の在庫検索の実行に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コンフィギュレーション品目セグメントの検索	W32202C	「日次処理」(G32)、「コンフィギュレーション品目在庫検索」	コンフィギュレーション品目の在庫検索を実行します。

コンフィギュレーション品目の在庫検索の実行

「コンフィギュレーション品目セグメントの検索」フォームにアクセスします。

コンフィギュレーション品目の在庫検索を実行するには、次の手順に従います。

1. 「コンフィギュレーション品目」フィールドに値を入力し「検索」をクリックします。
2. コンフィギュレーション品目について次のセグメント情報を確認します。
 - 記述
 - 回答
 - セグメントNo.
 - 品目No.
 - 事業所
3. セグメント行を選択して「ロー」メニューの「セグメント値」を選択します。
4. 選択したセグメントの値を確認します。必要に応じて他の値を選択し、「セグメント値の選択処理」の「検索」をクリックします。
5. 「コンフィギュレーション品目セグメントの検索」フォームで、「フォーム」メニューの「すべてを検索」を選択します。
6. 「コンフィギュレーション品目の選択 - 受注オーダー処理」フォームで次のフィールドを確認します。
 - 保管場所
 - ロット/シリアル
 - 事業所
 - 引当可能数量

注意: 「コンフィギュレーション品目の選択 - 受注オーダー処理」フォームでは、「フォーム」メニューの「保管場所検索」オプションを使用して特定の事業所と保管場所のコンフィギュレーション品目を検索できます。また、行を選択してから「ロー」メニューの「コンフィギュレーションの表示」オプションを使用して、品目のコンフィギュレーションを確認することもできます。

7. 「選択」または「閉じる」をクリックして「コンフィギュレーション品目セグメントの検索」フォームに戻ります。
8. 「回答」フィールドにアスタリスク(*)を設定するには、「フォーム」メニューの「すべての値をクリア」オプションを使用します。
9. コンフィギュレーション品目の在庫検索が終了したら、「OK」または「取消」をクリックします。

付録 A

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータで使用するテーブル

この付録では、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータで使用するテーブルの一覧を記載します。

JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータで使用するテーブル

次の表は、JD Edwards EnterpriseOneコンフィギュレータで使用するテーブルをアルファベット順に示しています。

テーブル	説明
コンフィギュレータ・マスター (F3201)	オーダーが作成されているコンフィギュレーションすべてのコンフィギュレーション品目の履歴が保存されます。保存される情報には、コンフィギュレーションID番号、オーダー番号、オーダー・タイプ、行番号、および構成ID番号があります。これにはコンフィギュレーションの親オーダーおよび関連するすべてのオーダーの伝票番号が含まれます。
コンフィギュレータ・マスター履歴 (F32019)	F3201テーブルの履歴が保存されます。 注意: 現在、この除去テーブルは設定されていません。
コンフィギュレータ固定情報 (F3209)	事業所レベルでのコンフィギュレータの処理を制御する固定情報が定義されます。
コンフィギュレータ・セグメント詳細 (F3211)	コンフィギュレーションID番号、構成品ID番号、セグメント番号、セグメント値、親品目番号、コンフィギュレーション・stringIDなどのセグメント情報が保存されます。
コンフィギュレータ・セグメント詳細履歴 (F32119)	コンフィギュレータ・セグメント詳細テーブル (F3211) の履歴が保存されます。 注意: 現在、この除去テーブルは設定されていません。
コンフィギュレータ作業工程 (F3212)	コンフィギュレータの作業工程情報が保存されます。
コンフィギュレータ構成品 (F3215)	コンフィギュレーションID番号、構成品ID番号、親構成品ID番号、品目番号、事業所、保管場所、ロット番号などの構成品情報が保存されます。

テーブル	説明
コンフィギュレータ構成履歴 (F32159)	F3215テーブルの履歴が保存されます。 注意: 現在、この除去テーブルは設定されていません。
コンフィギュレータ価格/原価 (F3216)	コンフィギュレーションID番号、構成ID番号、行タイプ、価格積上げ、価格、原価などの価格/原価情報が保存されます。
コンフィギュレータ価格/原価履歴 (F32169)	F3216テーブルの履歴が保存されます。 注意: 現在、この除去テーブルは設定されていません。
規則テーブル定義 (F3281)	説明、テーブル・タイプ、セグメント数、戻り値などのテーブル情報が保存されます。
コンフィギュレーション品目/規則テーブル相互参照 (F3282)	各コンフィギュレーション品目に対するテーブルを参照するときどのセグメント値をキーとして使用するかが定義されます。
規則テーブル値定義 (F32821)	戻り値がセットされる計算セグメントが定義されます。
規則テーブル詳細 (F3283)	テーブルに定義するセグメント・キー値のそれぞれの組合せに対する実際のテーブル値(部品、価格など)が保存されます。
コンフィギュレーション品目情報 (F3290)	オーダー伝票へのコンフィギュレーション品目情報の印刷を制御する設定が定義されます。また、受注オーダー、購買オーダー、作業オーダーのX規則の基準日コード、および動的コンフィギュレーション入力の設定も保存されます。
コンフィギュレーション品目セグメント (F3291)	品目マスターおよび事業所品目テーブルに定義されたコンフィギュレーション品目のセグメントが含まれています。
セグメント間編集規則 (F3292)	コンフィギュレーション品目のセグメント間の関係が定義されます。
セグメント間編集規則 - 値 (F32921)	セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則の*VALUES定義が保存されます。
セグメント間編集規則 - 範囲 (F32922)	セグメント間編集規則およびアセンブリ組込規則の*RANGE定義が保存されます。
アセンブリ組込規則 (F3293)	コンフィギュレーション品目の構成、作業工程、計算、および価格調整の情報が保存されます。コンフィギュレーション品目の購買構成に関連する仕入先番号も保存されます。
品目マスター (F4101)	品目番号、品目名、カテゴリ・コード、単位など、在庫品目ごとの基本情報が保存されます。

テーブル	説明
事業所品目 (F4102)	数量、事業所レベルのカテゴリ・コード、品目の原価情報などの事業所情報が保存されます。
品目保管場所 (F41021)	品目の基本保管場所および2次保管場所の情報が保存されます。
品目原価 (F4105)	在庫の原価レコードが保存されます。
品目基本価格 (F4106)	品目の基本価格情報が保存されます。
受注オーダー見出し (F4201)	請求指示、住所、配送などの顧客オーダーの情報が管理されます。
購買オーダー見出し (F4301)	仕入先、支払条件、配送先住所、支払期日などの購買オーダーの情報が管理されます。
購買オーダー明細 (F4311)	購買オーダーのコンフィギュレーション品目および数量が定義されます。 GBCFGのカラム(コンフィギュレータにより生成)には、購買オーダーが関連のコンフィギュレーション・オーダーを持つことを示すフラグがあります。
作業オーダー・マスター (F4801)	作業オーダーごとに1つのレコードが格納されます。品目名、見積時間数、責任者、原価情報などの作業オーダーに関する情報が保存されます。また、予定開始日付および予定終了日付も保存されます。

JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。 JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne 供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。 JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne 売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne 買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。 “ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

BPEL	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
BPEL PM	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
ビルド構成ファイル	ANTスクリプトを生成するプログラムで使用される、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
ビルド・エンジニア	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
ビルド・プログラム	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
ビジネス・アナリスト	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
ビジネス関数	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます(在庫照会、作業オーダー発注など)。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック(Credit Check)や在庫照会(Item Availability)などがあげられます。
ビジネス関数イベント・ルール	“ネームド・イベント・ルール(NER)”の説明を参照してください。
ビジネス・サービス	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
ビジネス・サービス・アーティファクト	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
ビジネス・サービス・クラス・メソッド	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
ビジネス・サービス構成ファイル	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertieなど(他にもある)の構成ファイルです。
ビジネス・サービス相互参照	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
ビジネス・サービス開発環境	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
ビジネス・サービス開発ツール	JDeveloperという名前でも知られています。
ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

ビジネス・サービス・フレームワーク	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
ビジネス・サービス・ペイロード	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
ビジネス・サービス・プロパティ	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
ビジネス・サービス・プロパティ・キー	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用されるユーティリティAPIです。
ビジネス・サービス・プロパティ値	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
ビジネス・サービス・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
ビジネス・サービス・サーバー	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の一つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート	Cビジネス関数で使用される、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
ビジネス・ビュー	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOneテーブル(複数可)から、特定の列を選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定の行を選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
セントラル・オブジェクトのマージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル・サーバー	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。

チャート	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
チェックイン・リポジトリ	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
コネクタ	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間でロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
相殺/相手勘定	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
コントロール・テーブル・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
コントロール・テーブルのマージ	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
関連データ	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
コスト割当	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
原価要素	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
資格証明	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
相互参照ユーティリティ・サービス	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
セグメント間編集	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
cXML	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
データベース資格証明	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
データベース・サーバー	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

データ・ソース・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
デプロイメント・アーティファクト	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
デプロイメント・サーバー	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
明細情報	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
ダイレクト接続	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
DNT (Do Not Translate)	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
2重価格設定	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
重複した公開ビジネス・サービス承認レコード	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
編集コード	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
電子データ交換 (EDI)	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
埋込みイベント・ルール	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
従業員ワーク・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
エンタープライズ・サーバー	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

ESB (Enterprise Service Bus)	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
EnterpriseOne管理者	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
EnterpriseOne資格証明	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
EnterpriseOneオブジェクト	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
EnterpriseOne開発クライアント	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
EnterpriseOne拡張機能	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
EnterpriseOneプロセス	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
EnterpriseOneリソース	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
環境ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
エスカレーション・モニター	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
イベント・ルール	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
明示的トランザクション	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
公開されたメソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
施設、事業所	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
略式コマンド	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
ファイル・サーバー	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけでなく、ネッ

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
最終モード	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
基盤	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBjがあげられます(この他にもあります)。
FTPサーバー	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに回答するサーバーです。
見出し情報	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
HTTPアダプタ	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
インスタンス化	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
統合開発者	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
インテグレーション・ポイント(IP)	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
インテグレーション・サーバー	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
整合性テスト	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
インターフェイス・テーブル	“Zテーブル”の説明を参照してください。
内部メソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
インタオペラビリティ・モデル	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
エラー表示の有効化	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
IServerサービス	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
代替ラベル	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
Javaアプリケーション・サーバー	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
JDBNET	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

JDEBASEデータベース・ミドルウェア	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
JDECallObject	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
jde.ini	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
JDEIPC	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
jde.log	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
JDENET	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
JDeveloperプロジェクト	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
JDeveloperワークスペース	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
JMSキュー	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
リスナー・サービス	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
ローカル・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。
ロケーション・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
ロジック・サーバー	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
差し込み印刷ワークベンチ	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
手動コミット・トランザクション	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
マスター・ビジネス関数(MBF)	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
マスター・テーブル	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
照合伝票	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
メディア・ストレージ・オブジェクト	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
メッセージ・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
メッセージング・アダプタ	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
メッセージング・サーバー	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
中間層BPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
監視アプリケーション	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
ネームド・イベント・ルール (NER)	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
Nota Fiscal	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
Nota Fiscal Factura	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
オブジェクト構成マネージャ (OCM)	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
オブジェクト・ライブラリアン	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
オブジェクト・ライブラリアンのマージ	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
オープン・データ・アクセス (ODA)	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

出力ストリーム・アクセス(OA)	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
パッケージ	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
パッケージ・ビルド	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
パッケージ・ロケーション	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下のサブディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
パッケージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
パスコード・ディレクトリ	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
パターン	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
プリント・サーバー	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
プリステイン環境	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
処理オプション	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィール

	<p>ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。</p>
本稼働用環境	<p>ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。</p>
本稼働レベルのファイル・サーバー	<p>品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。</p>
本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。</p>
プログラム一時修正 (PTF)	<p>JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。</p>
プロジェクト	<p>JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。</p>
プロモーション・パス	<p>ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。</p> <p>11>21>26>28>38>01</p> <p>このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。</p>
プロキシ・サーバー	<p>企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。</p>
公開ビジネス・サービス	<p>EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。</p>
公開ビジネス・サービス識別情報	<p>関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。</p>
公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。</p>
パブリッシュ済テーブル	<p>マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。</p>
パブリッシュ	<p>パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。</p>
プル・レプリケーション	<p>JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクリイバとしてセットアップされます。プル・サブスクリイバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクリイバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。</p>

QBE	Query by Example (例示照会)の略語です。JD Edwards EnterpriseOneでは、QBE行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
リアルタイム・イベント	外部システムで使用するためにEnterpriseOneのアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
リフレッシュ	新規リリースやPTF/累積アップデート・リリース(B73.2やB73.2.1など)に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアまたはそのサブセット(テーブルや業務データなど)を修正する機能です。
レプリケーション・サーバー	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
Rt-Addressing	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
規則	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
見積オーダー	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。 JD Edwards EnterpriseOne受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
Secure by Default	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
SSL (Secure Socket Layer)	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSLを使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
SEI実装	サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI)を宣言するメソッドを実装するJavaクラスです。
選択項目	JD Edwards EnterpriseOneメニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して[Enter]キーを押します。
シリアライズ	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
サーバーワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI)	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言するJavaインターフェイスです。
SOA	Service Oriented Architectureの略語です。
ソフトコーディング	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
ソース・リポジトリ	HTTPアダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
スポット・レート	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

スペックのマージ	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
スペック	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
SSL証明書	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
オフライン処理	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
サブスクリイバ・テーブル	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシュ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリイバ・マシンの識別に使用されます。
スーパークラス	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。
補足データ	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
テーブル・アクセス管理(TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブル変換ディレクタ	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル変換	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル・イベント・ルール	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
ターミナル・サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
3ステップ処理	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

3方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
トランザクション処理(TP)モニター	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
トランザクション処理方法	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です(開始、コミット、ロールバック、取消など)。
トランザクション・セット	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション(電子データ交換の標準ドキュメント)です。
トリガー	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
トリガーイベント	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
2方向認証	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
2方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
ユーザー識別情報	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
ユーザー一時変更のマージ	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
値オブジェクト	データ構造がデータを渡すのとよく似たように入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開(公開ビジネス・サービスで使用)か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
差異	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。 JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
公開ビジネス・サービスのバージョン	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
バージョン・リストのマージ	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
ビジュアル・アシスト	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
用語一時変更	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
wchar_t	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

Webアプリケーション・サーバー	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
Webサーバー	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
WSDL (Web Service Description Language)	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
WSIL (Web Service Inspection Language)	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
Webサービス・プロキシ基盤	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
Webサービス・ソフトコーディング・レコード	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
WHERE句	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部です。
Windowsターミナル・サーバー	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
ウィザード	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
ワークベンチ	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエンリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
作業日カレンダー	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成品と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
ワークフロー	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス(ワークフロー)では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
ワークグループ・サーバー	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
XAPIイベント	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XMLディスパッチ	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XMLリスト	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XMLサービス	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
XMLトランザクション	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
XMLトランザクション・サービス(XTS)	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
Zイベント	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
Zテーブル	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
Zトランザクション	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

索引

Customer Connection Webサイト xiv
Cテーブル
 テーブル戻りセグメント値の定義 93
F32019テーブル 187
F3201テーブル 187
F3209テーブル 35, 187
F32119テーブル 187
F3211テーブル 187
F3212テーブル 187
F32159テーブル 188
F3215テーブル 187
F32169テーブル 188
F3216テーブル 188
F3281テーブル 188
F32821テーブル 188
F3282テーブル 188
F3283テーブル 188
F3290テーブル 188
F3291テーブル 188
F32921テーブル 188
F32922テーブル 188
F3292テーブル 188
F3293アセンブリ組込規則評価ビジネス
 関数(B3200460) 74
F3293テーブル 188
F4101テーブル 188
F41021テーブル 189
F4102テーブル 189
F4105テーブル 189
F4106テーブル 189
F4201テーブル 189
F4301テーブル 189
F4311テーブル 189
F4801テーブル 189
P31P001プログラム 139
P3201プログラム 183
P3209プログラム
 用途 35
P3210プログラム
 オーダー入力のセグメント表示 97
 オーダー入力のツリー表示 97
 オーダー入力のホットスポット表示 97
 オーダーの入力 108
 処理オプション 40, 105
 品目の重量計算 98

 用途 97
P3220プログラム 117
P3281プログラム
 処理オプション 90
 用途 90
P3282プログラム
 処理オプション 92
 用途 92
P3283プログラム
 処理オプション 93
 用途 93
P3289プログラム 94
P3291プログラム
 共通属性 39
P32921プログラム 55
P3292プログラム 51
P3293プログラム
 処理オプション 77
 用途 78
P32944プログラム 111
P3296プログラム 98, 117, 182
P32983プログラム 140
P3299プログラム 48
P3403Tプログラム 50
P4210プログラム 104
P4312プログラム 136, 178
P48013プログラム
 用途 25
PeopleCodeの表記規則 xvi
R31410プログラム
 用途 25
R32492プログラム 59
R32493プログラム 85
R4210Zプログラム
 処理オプション 153
X規則基準日の表 28

あ

アセンブリ組込規則
 C(計算)の定義 60
 C(計算)必須フィールドの定義 67
 H(ホットスポット)の定義 60
 H(ホットスポット)必須フィールドの定
 義 67
 P(構成品部品)の定義 60

P(構成品部品)必須フィールドの定義 66
 Q(作業オーダー構成品部品)の定義 60
 Q(作業オーダー構成品部品)必須フィールドの定義 66
 R(作業工程)の定義 61
 R(作業工程)必須フィールドの定義 66
 X(価格設定)の定義 61
 X(価格設定)必須フィールドの定義 67
 印刷 85
 オーダー入力中の処理 29, 63, 98, 99
 概要 62
 規則番号の利用 62
 コピー 84
 コンフィギュレーション・テーブルへのリンク 94
 順序番号の利用 62
 上級の定義 67, 84
 条件付き規則の定義 84
 設定 59, 62
 定義 12, 78
 テーブルとの関連付け 88
 ハードコードのホットスポットの処理 72
 ビジネス事例 62
 必須フィールドの定義 66
 ホットスポットの定義 72
 ユーザー定義ホットスポットの定義 74
 論理ステートメントの定義 62
 「アセンブリ組込規則セグメント使途照会の処理」フォーム 76
 アセンブリ組込規則テーブル (F3293) 188
 アセンブリ組込規則の印刷プログラム (R32493) 85
 「アセンブリ組込規則の処理」フォーム 75, 89
 アセンブリ組込規則プログラム (P3293) 処理オプション 77
 用途 78, 84
 「アセンブリ組込み規則編集グループの改訂」フォーム 75, 78, 90
 アセンブリ組込規則ロジック 定義 78
 「値の改訂」フォーム 54, 57, 75
 「値」フィールド 58

アプリケーションの基礎 xiii

え

エラー状況 32, 100
 エラー・メッセージ
 カスタム設定 52
 警告の修正 116
 コンフィギュレーション品目のオーダー修正 115
 自動生成 52
 セグメント間編集規則 52
 ソフト 52
 ハード 52
 ハード・エラーの修正 116
 表示 53
 エラー・メッセージの表示 設定 53

お

オフライン処理
 オーダーの作成 150
 コンフィギュレーション品目の処理 147
 「オフライン処理明細の改訂」フォーム 152
 オーダー改訂
 購買オーダーの変更 137
 オーダー処理規則 設定
 組合せオーダー 24
 購買オーダー 24
 事業所間オーダー 24
 受注オーダー 23
 直送オーダー 24
 オーダー処理プログラム (R31410) 用途 25
 「オーダー・タイプ」処理オプション
 販売見積変換の設定 143
 「オーダー・タイプ」フィールド
 販売見積変換の設定 143
 オーダー入力方法
 キットとコンフィギュレータの比較 18
 オーダー入力ユーザーインターフェイス
 キットとコンフィギュレータの比較 18

か

外部フィールド参照 69
 外部プログラム参照 70
 価格設定

アセンブリ組込規則の定義 27
 基本価格の定義 26
 グループの定義 26
 設定 21, 26
 カスタム構成部品およびカスタム価格調整
 オーダーへの追加 113
 カスタム構成部品またはカスタム価格調
 整 112
 「カスタム・メッセージ」フィールド 58
 関連オーダー
 確認 183
 「関連コンフィギュレーション・オーダー」
 フォーム 183
 関連コンフィギュレーション・オーダー・プ
 ログラム(P3201) 183
 関連ドキュメンテーション xiv

き

「規則コピー・ウィンドウ - アセンブリ組
 込規則」フォーム 75
 「規則コピー・ウィンドウ - セグメント間
 編集規則」フォーム 54
 規則作成
 動的コンフィギュレーション入力 52
 規則処理 29, 63, 99
 規則処理の図 30, 64
 規則テーブル詳細テーブル(F3283) 188
 規則テーブル値
 印刷 96
 規則テーブル値定義テーブル
 (F32821) 188
 「規則テーブル定義の改訂」フォー
 ム 88, 90
 規則テーブルの定義テーブル
 (F3281) 188
 「キット/コンフィギュレータ価格設定方
 法」フィールド 21, 25
 キット処理 17
 コンフィギュレータとの比較 17
 キットとコンフィギュレータの比較
 オーダー入力方法 18
 オーダー入力ユーザーインターフェイ
 ス 18
 グラフィックの確認 18
 コンフィギュレーション検証 18
 コンフィギュレーション固有の計算 18
 最終品目の識別 18
 作業オーダー階層 18
 作業工程 18
 製品構造 17

部品表 18
 部品リスト 18
 行タイプ
 設定
 組合せオーダー 24
 クレジット・オーダー 23
 購買オーダー 24
 作業オーダー 23
 事業所間オーダー 24
 受注オーダー 23
 直送オーダー 24
 販売見積 23
 「行タイプ」フィールド 21
 購買オーダーの設定 134
 作業オーダー処理の設定 158
 販売見積変換の設定 143

共通属性
 コンフィギュレーション品目への割
 当 110
 例 40
 「共通属性の表示スコープ」フィール
 ド 40
 「共通属性の表示」フィールド 40
 「共通属性」フィールド 39
 「共通属性」フォーム 40
 共通属性プログラム(P32944) 111
 共通フィールド xviii
 行品目値引
 コンフィギュレーション品目受注オー
 ダーの入力 124

く

組合せオーダー
 コンフィギュレーション品目の設
 定 132
 コンフィギュレーション品目への使
 用 130
 グラフィックの確認
 キットとコンフィギュレータの比較 18
 クレジット・オーダー
 システム生成の作成 144
 手動入力 144
 代替処理の使用 145
 入力 146
 履歴から作成 144
 クレジット・オーダーの代替処理
 クレジット・オーダーの作成 145
 グローバル
 導入 3

け

警告 xvii
 警告メッセージ
 修正 116
 原価計算
 設定 21
 原価差異 165
 「原価-販売見積」オプション
 販売見積の設定 142
 「原価または基本価格の割増」処理オ
 プション 128
 事業所間オーダーの設定 130

こ

ご意見 xviii
 構成品
 部分オーダー数量出荷 178
 「構成品/値テーブル用途先照会」フォー
 ム 90, 95
 「構成品の逆展開」フォームの処理 76
 構成品の重複利用 33
 定義 13
 例 34
 購買オーダー
 改訂 137
 原価計算 165
 コンフィギュレーション品目構成品の
 設定 138
 コンフィギュレーション品目構成品へ
 の使用 134
 コンフィギュレーション品目の設
 定 134
 コンフィギュレーション品目への使
 用 132
 入荷入力 178
 購買オーダー見出しテーブル
 (F4301) 189
 購買オーダー明細テーブル(F4311) 189
 購買構成品オーダーの図 136
 ご要望 xviii
 コンフィギュレーションID
 定義 13, 155
 コンフィギュレーション規則テーブル
 定義 13
 コンフィギュレーション規則テーブル値
 印刷 96
 コンフィギュレーション組合せオーダー
 の図 131
 コンフィギュレーション検証

キットとコンフィギュレータの比較 18
 コンフィギュレーション検証機能 29
 コンフィギュレーション購買オーダーの
 図 133
 コンフィギュレーション固有の計算
 キットとコンフィギュレータの比較 18
 コンフィギュレーション事業所間オーダー
 の図 129
 コンフィギュレーション受注オーダーの
 図 123
 「コンフィギュレーション・STRING履歴
 の処理」フォーム 110, 182
 コンフィギュレーション・STRING履歴プ
 ログラム(P3296) 98, 110, 117, 182
 コンフィギュレーション直送オーダーの
 図 126
 コンフィギュレーション・テキスト 158
 確認 119
 定義 118
 コンフィギュレーション転送オーダー
 原価計算 166
 コンフィギュレーション転送オーダーの
 図 127
 コンフィギュレーション・テーブル
 C(計算)の使用 86
 H(ホットスポット)の使用 87
 P(数量/部品)の使用 86
 Q(数量/部品)の使用 86
 X(価格設定)の使用 87
 アセンブリ組込規則へのリンク 88, 94
 値の定義 93
 確認 95
 コピー 94
 コンフィギュレーション・テーブルのディ
 メンションの設定 87
 コンフィギュレーション品目へのテー
 ブルのリンク 92
 設定 86
 定義 71
 ディメンションのテーブル定義 90
 テーブル/品目の相互参照の定義 92
 テーブル名の定義 90
 コンフィギュレーション・テーブル値
 定義 93
 「コンフィギュレーション・テーブル値の改
 訂」フォーム 89, 93
 「コンフィギュレーション・テーブル値の
 処理」フォーム 89
 コンフィギュレーション・テーブル値プロ
 グラム(P3283)

- 処理オプション 93
 - 用途 93
- 「コンフィギュレーション・テーブル定義の処理」フォーム 88
- コンフィギュレーション・テーブルのコピー・プログラム (P3289) 94
- コンフィギュレーション・テーブルの定義プログラム (P3281)
 - 処理オプション 90
 - 用途 90
- コンフィギュレーション・テーブルのディメンションの定義
 - 設定 87
- コンフィギュレーション入力
 - 受注設計生産プロジェクトの表示 140
- 「コンフィギュレーションの処理」フォーム 182
- コンフィギュレーション品目
 - 印刷 50
 - エラー・メッセージの修正 115
 - オフライン処理を使用するオーダーの作成 150
 - オーダーの改訂 102
 - オーダーの入力 108, 121
 - オーダーの変更 123
 - 概要 9
 - 価格設定 25
 - 基準日有効日付 27, 101
 - 価格調整の追加 112
 - カスタム構成品の追加 112
 - 関連オーダーの確認 183
 - 既存オーダーのあるコンフィギュレーション品目に基づくオーダー入力 110
 - 既存の作業オーダーのプロジェクトへの添付 140
 - 共通属性の割当 110
 - 業務環境 5
 - 組合せオーダーの使用 130
 - 組合せオーダーの設定 132
 - クレジット・オーダーの作成 144
 - クレジット・オーダーの代替処理の使用 145, 146
 - クレジット・オーダーの入力 146
 - 計画 156
 - 計画の設定 156
 - 計画部品表の使用 156
 - 原価計算 27
 - 基準日有効日付 27, 101
 - 構成部品購入オーダーの使用 134
 - 構成部品に対する購入オーダーの設定 138
 - 購入オーダーの原価計算 165
 - 購入オーダーの使用 132
 - 購入オーダーの設定 134
 - コピー 48
 - コンフィギュレーション品目へのテーブルのリンク 92
 - 在庫検索の実行 184, 185
 - 在庫調整 146
 - 在庫の使用 173
 - 作業オーダー完了の設定 172
 - 作業オーダー削除のための作業オーダー変更 168
 - 作業オーダー処理の設定 157
 - 作業オーダーの完了 172
 - 作業オーダーの原価計算 169
 - 作業オーダーの作業時間および作業量の検討 172
 - 作業オーダーの削除または追加なしの変更 168
 - 作業オーダーの使用 138
 - 作業オーダーの処理 157
 - 作業オーダーの設定 139
 - 作業オーダーの変更 167
 - 作業オーダーを削除するための受注設計生産での作業オーダー変更 170
 - 作業工程の設定 22
 - 仕掛品の再評価 171
 - 事業所間オーダーの原価計算 166
 - 事業所間オーダーの使用 129
 - 事業所間オーダーの設定 130
 - 受注オーダーのオフライン処理の使用 147
 - 受注オーダーの行品目値引入力 124
 - 受注オーダーの原価計算 165
 - 受注オーダーの設定 125
 - 受注オーダーの相互参照入力 125
 - 受注オーダーの代替品目入力 125
 - 受注オーダーの多通貨入力 124
 - 受注オーダーの追加オーダー処理の実行 125
 - 受注オーダーの入力 104, 123
 - 受注オーダーの引当可能数量チェック 125
 - 受注オーダーの引当処理 125
 - 受注設計生産での原価計算の実行 162
 - 受注設計生産での作業オーダーの原価計算 171

- 受注設計生産での作業オーダーの変更 169
- 受注設計生産の使用 139
- 受注設計生産の設定 139
- 受注設計生産プロジェクトの表示 140
- 受注設計生産プロジェクト見積承認後の
 コンフィギュレーションの変更 171
- 出荷 174
- 製造 155
- 製造会計での処理 159
- 製造会計の実行 162
- 製造環境について 8
 - 組立生産 8
 - 受注生産 8
 - 受注設計生産 8
 - 受注ピッキング 8
- 製造原価計算での処理 159
- 製造原価計算の実行 158, 159
- 代替品目の実行 158
- 調達管理の使用 178
- 直送オーダーの原価計算 166
- 直送オーダーの使用 125
- 直送オーダーの設定 126
- 定義 11
- 転送オーダーの原価計算 166
- 転送オーダーの使用 127
- 転送オーダーの設定 128
- データ順序の設定 158
- テーブル/品目の相互参照の定義 92
- 動的コンフィギュレーションを使用した
 オーダー入力 110
- 入荷確認の入力 178
- 販売見積から受注オーダーへの変
 換 141, 143
- 販売見積の入力 141
- 引当可能数量の在庫確認 173
- 品目の分析 9
- 複数レベルの検索 39
- 部品表の設定 22
- 部分オーダー数量出荷 175
- 部分出荷の実行 174
- プロジェクトへの新規作業オーダーの
 追加 140
- メディア・オブジェクトの定義 35
- 流通の使用 172
- 「コンフィギュレーション品目エイリアス」
 フィールド 34
- コンフィギュレーション品目オーダー
 エラー・メッセージの修正 115
- オフライン処理による受注オーダー
 の作成 152
- オフライン処理を使用するオーダー
 の作成 150
- 価格調整の追加 112
- カスタム構成品の追加 112
- 原価差異 165
- サーバーへの受注オーダーのアップ
 ロード 150, 153
- システム生成のクレジット・オーダー
 の作成 144
- 受注オーダーのバッチ処理 151
- 手作業によるクレジット・オーダーの
 入力 144
- 履歴からのクレジット・オーダーの作
 成 144
- コンフィギュレーション品目/規則テーブ
 ル相互参照テーブル(F3282) 188
- 「コンフィギュレーション品目/規則テーブ
 ル・戻りセグメント値」フォーム 89
- コンフィギュレーション品目規則の範囲/
 値プログラム(P32921) 55
- コンフィギュレーション品目計画
 設定 156
- コンフィギュレーション品目構成品の入荷
 トランザクションの図 179
- コンフィギュレーション品目購買オーダー
 原価計算 165
- 入荷入力 178
- コンフィギュレーション品目在庫 117
- 「コンフィギュレーション品目在庫検索」
 フォーム 105, 117
- コンフィギュレーション品目作業オーダー
 構成引当 157
- 設定 157
- コンフィギュレーション品目作業オーダー
 のデータ順序 158
- コンフィギュレーション品目事業所間オー
 ダー
 原価計算 166
- コンフィギュレーション品目受注オーダー
 原価計算 165
- コンフィギュレーション品目情報
 定義 38
- コンフィギュレーション品目情報テーブ
 ル(F3290) 188
- コンフィギュレーション品目セグメント
 オーダー入力中の処理 29, 63, 99
- 計算式での参照 68
- 情報の検索 50

- 定義 38
- メディア・オブジェクトの定義 35
- 「コンフィギュレーション品目セグメント詳細」フォーム 40, 46
- コンフィギュレーション品目セグメント・テーブル(F3291) 188
- 「コンフィギュレーション品目セグメントの改訂」フォーム 40, 44
- 「コンフィギュレーション品目セグメントの検索」フォーム 184
- コンフィギュレーション品目/セグメント・プログラム(P3291)
 - 共通属性 39
- 「コンフィギュレーション品目相互参照の改訂」フォーム 89, 92
- 「コンフィギュレーション品目相互参照の処理」フォーム 88
- コンフィギュレーション品目直送オーダー原価計算 166
- 「コンフィギュレーション品目データ」フォーム 40, 41
- コンフィギュレーション品目に対するオフライン処理を表す図 148
- コンフィギュレーション品目に対するクレジット・オーダーの代替処理 146
- コンフィギュレーション品目の改訂フォーム 116
- コンフィギュレーション品目の改訂プログラム(P3210)
 - オーダー入力のセグメント表示 97
 - オーダー入力のツリー表示 97
 - オーダー入力のホットスポット表示 97
 - オーダーの入力 108
 - 処理オプション 40, 105
 - 品目の重量計算 98
 - 用途 97
- コンフィギュレーション品目の計画部品表 156
- コンフィギュレーション品目のコピーウィンドウ・プログラム(P3299) 48
- 「コンフィギュレーション品目のコピー」フォーム 41, 48
- コンフィギュレーション品目の作業工程 22
- 「コンフィギュレーション品目の処理」フォーム 40
- コンフィギュレーション品目の製造会計 159
- コンフィギュレーション品目の製造原価 159
- コンフィギュレーション品目の部品表 22
- コンフィギュレーション品目フォーム 104, 108, 116
- コンフィギュレーション品目履歴 117
 - 確認 182
- 「コンフィギュレーション品目履歴」フォーム 105, 118
- コンフィギュレーション方法 6
- コンフィギュレータ
 - キットとの比較 17
 - 共通属性の定義 39
 - 在庫管理の設定 21
 - 作業オーダー管理の設定 24
 - 受注管理の設定 23
 - 受注設計生産の設定 25
 - 製造現場管理の設定 22
 - 製造データ管理の設定 22
 - 設定 19
 - 設定の前提条件の定義 20
 - 調達管理の設定 24
 - 定義 6
 - 統合 1
 - 導入 2
 - ビジネス環境について 6
 - 必要性評価の実行 9
 - 利点について 7
- コンフィギュレータ価格/原価テーブル(F3216) 188
- コンフィギュレータ価格/原価履歴テーブル(F32169) 188
- 「コンフィギュレータ共通属性」フォーム 105, 111
- 「コンフィギュレータ原価計算方法」フィールド 21, 27
 - 購買オーダーの設定 133, 134
- コンフィギュレータ構成部品テーブル(F3215) 187
- コンフィギュレータ構成部品履歴テーブル(F32159) 188
- コンフィギュレータ固定情報
 - 設定 35
 - 引当可能数量チェックの設定 174
- コンフィギュレータ固定情報テーブル(F3209) 35, 187
- 「コンフィギュレータ固定情報の改訂」フォーム 36
- コンフィギュレータ固定情報の設定 35
- コンフィギュレータ固定情報プログラム(P3209)
 - 用途 35

コンフィギュレータ固有
 導入 3
 コンフィギュレータ作業工程テーブル
 (F3212) 187
 コンフィギュレータ・システム
 機能 15
 統合 15
 コンフィギュレータ・セグメント詳細テー
 ブル(F3211) 187
 コンフィギュレータ・セグメント詳細履歴
 テーブル(F32119) 187
 コンフィギュレータで使用するテーブ
 ル 187
 コンフィギュレータ・マスター(F3201) 187
 コンフィギュレータ・マスター履歴テーブ
 ル(F32019) 187

さ

在庫
 コンフィギュレーション品目の確
 認 117
 在庫管理
 設定 21
 統合 1
 「在庫原価レベル」フィールド 21
 在庫検索
 実行 184, 185
 「在庫タイプ」フィールド 21
 「在庫調整の処理」フォーム 146
 「在庫調整」フォーム 146
 最終品目の識別
 キットとコンフィギュレータの比較 18
 作業オーダー
 完了 172
 完了の設定 172
 コンフィギュレーション・テキストの出
 力 158
 コンフィギュレーション品目処理の設
 定 157
 コンフィギュレーション品目の処
 理 157
 コンフィギュレーション品目の設
 定 139
 コンフィギュレーション品目のデータ順
 序設定 158
 コンフィギュレーション品目の変
 更 167
 コンフィギュレーション品目への使
 用 138
 作業オーダー削除のための変更 168

作業オーダー追加のための変更 168
 作業オーダーの原価計算 169
 作業オーダーの再処理 167
 作業オーダーを削除するための受注設
 計生産での作業オーダー変更 170
 作業時間と作業量の検討 172
 削除または追加なしの変更 168
 受注設計生産コンフィギュレーション
 品目の処理 157
 受注設計生産におけるコンフィギュ
 レーション品目の原価計算 171
 受注設計生産におけるコンフィギュ
 レーション品目の変更 169
 受注設計生産における正味変更ロジッ
 クによる変更 170
 正味変更ロジックによる変更 167
 処理 100
 標準原価の更新 158
 作業オーダー階層
 キットとコンフィギュレータの比較 18
 作業オーダー管理
 設定 24
 統合 2
 「作業オーダー行タイプ」フィールド
 コンフィギュレーション品目受注オー
 ダーの設定 125
 作業オーダーのある購買構成品オー
 ダーの図 136
 作業オーダーのあるコンフィギュレーシ
 ョン組合せオーダーの図 131
 作業オーダーのあるコンフィギュレーシ
 ョン事業所間オーダーの図 129
 作業オーダーのあるコンフィギュレーシ
 ョン受注オーダーの図 124
 作業オーダーのあるコンフィギュレーシ
 ョン転送オーダーの図 127
 作業オーダーの処理 32
 作業オーダー・マスター(F4801) 189
 「作業オーダーロット/保管場所のデフォ
 ルト」フィールド
 作業オーダーの完了 172
 作業工程
 キットとコンフィギュレータの比較 18
 作業時間と作業量
 検討 172
 サブストリング 68
 三角関数と対数関数 68

し

「仕入先番号」フィールド 126, 135, 138

- 仕掛品
 - コンフィギュレーション品目の再評価 171
 - 事業所間オーダー
 - コンフィギュレーション品目の設定 130
 - コンフィギュレーション品目への使用 129
 - 事業所間関係の改訂プログラム (P3403T) 50
 - 事業所情報
 - 設定 22
 - 事業所品目テーブル (F4102) 189
 - 受注オーダー
 - オフライン処理 147
 - オフライン処理によるオーダーの作成 152
 - オフライン処理を使用するオーダーの作成 150
 - 改訂 167
 - 原価計算 165
 - コンフィギュレーション・テキストの出力 158
 - コンフィギュレーション品目の設定 125
 - サーバーへのアップロード 150, 153
 - バッチ・オーダー処理 151
 - 引当可能数量の在庫確認 174
 - 標準原価の更新 158
 - 受注オーダー入力プログラム (P4210) 104
 - 「受注オーダーのロット/保管場所」フィールド
 - 作業オーダーの完了 172
 - 受注オーダー・バッチ・トランザクション・エディタ・プログラム (R4210Z)
 - 処理オプション 153
 - 受注オーダー見出しテーブル (F4201) 189
 - 「受注オーダー明細の改訂」フォーム 104
 - 受注管理
 - 設定 23
 - 統合 2
 - 「受注残/完了オーダー照会」フォーム 119, 143, 146
 - 受注設計生産
 - コンフィギュレーション品目の原価計算の実行 162
 - コンフィギュレーション品目の設定 139
 - 設定 25
 - 統合 2
 - 受注設計生産オーダー
 - コンフィギュレーション品目の使用 139
 - 受注設計生産におけるコンフィギュレーション品目の原価計算 162
 - 受注設計生産プロジェクト
 - コンフィギュレーション入力の表示 140
 - コンフィギュレーション品目作業オーダーの処理 157
 - コンフィギュレーション品目の既存の作業オーダーの添付 140
 - コンフィギュレーション品目の新規作業オーダーの追加 140
 - プロジェクト見積承認後のコンフィギュレーションの変更 171
 - 手動入力
 - クレジット・オーダーの作成 144
 - 上級アセンブリ組込規則
 - 定義 84
 - ビジネス事例 72
 - 「上級規則機能」フォーム 75, 84, 90, 94
 - 上級コンフィギュレーション品目在庫検索プログラム (P3220) 117
 - 条件付き論理
 - ブール論理 33
 - 条件文
 - ブール論理 33
- す**
- 「数量1または数量2への引当」フィールド
 - 販売見積の設定 142
 - 販売見積変換の設定 143
 - スマート部品
 - 計算 71
 - 定義 71
- せ**
- 請求書
 - 印刷 178
 - 製造会計
 - 実行 162
 - 製造原価計算
 - 実行 159
 - 製造現場管理

- 設定 22
 - 統合 2
 - 製造作業オーダー処理プログラム
(P48013)
 - 用途 25
 - 製造データ管理
 - 設定 22
 - 統合 2
 - 製品ガイド
 - 注文 xiv
 - 製品構造
 - キットとコンフィギュレータの比較 17
 - セグメント
 - オーダー入力中の処理 98
 - 定義 12
 - 「セグメントNo.」フィールド 54
 - セグメント間編集規則
 - 値の定義 57
 - 印刷 59
 - オーダー入力中の処理 29, 63, 98, 99
 - カスタム・エラー・メッセージの設定 58
 - 規則番号の利用 51
 - コピー 58
 - 情報の検討 59
 - 設定 51
 - 定義 12, 54
 - 範囲の定義 57
 - セグメント間編集規則 - 値テーブル
(F32921) 188
 - セグメント間編集規則テーブル
(F3292) 188
 - 「セグメント間編集規則の使途先照会」
フォーム 54
 - 「セグメント間編集規則の処理」フォー
ム 53
 - セグメント間編集規則の処理プログラム
(R32492) 59
 - セグメント間編集規則の設定 51
 - セグメント間編集規則 - 範囲テーブル
(F32922) 188
 - セグメント間編集規則プログラム
(P3292) 51
 - 「セグメント間編集グループの改訂」
フォーム 53, 54
 - セグメント間論理
 - 規則番号の利用 51
 - 順序番号の利用 51
 - 編集規則の設定 51
 - セグメント間論理の設定 51
 - 「セグメント項目」フィールド 54
 - セグメント参照 68
 - 「セグメント事業所」フィールド 54
 - セグメント値
 - 定義 12
 - セグメント値の処理プログラム
(P32983) 140
 - セグメントの結合 69
 - 「セグメント・ユーザー定義コードの使途
先」フォーム 41
 - 前提知識 xiii
- そ**
- 相互参照 xvii
 - コンフィギュレーション品目受注オー
ダーの入力 125
 - 「属性値」フィールド 40
 - その他のオーダー処理
 - コンフィギュレーション品目受注オー
ダーの入力 125
- た**
- 代数式 68
 - 代替品目
 - コンフィギュレーション品目受注オー
ダーの入力 125
 - 「代替品目」フィールド 158
 - 多通貨
 - コンフィギュレーション品目受注オー
ダーの入力 124
- ち**
- 注意 xvii
 - 注意事項 xvii
 - 調達管理
 - 設定 24
 - 統合 2
 - 直送オーダー
 - コンフィギュレーション品目の設
定 126
 - コンフィギュレーション品目への使
用 125
- つ**
- 追加ドキュメンテーション xiv
- て**
- ディメンションのテーブル定義
 - コンフィギュレーション・テーブルの定
義 90

- 転送オーダー
 - コンフィギュレーション品目の設定 128
 - コンフィギュレーション品目への使用 127
- 伝票タイプ
 - 設定
 - 組合せオーダー 24
 - クレジット・オーダー 23
 - 購買オーダー 24
 - 作業オーダー 23
 - 事業所間オーダー 24
 - 受注オーダー 23
 - 直送オーダー 24
 - 販売見積 23
 - 「伝票タイプ」処理オプション
 - 作業オーダーの設定 139
 - 「伝票タイプ・リスト」フィールド
 - 販売見積の設定 142
 - 「テーブルで使用したアセンブリ組込規則の処理」フォーム 76
 - 「テーブルのコピー」フォーム 90, 94
 - テーブル/品目相互参照プログラム (P3282)
 - 処理オプション 92
 - 用途 92
 - テーブル名
 - 定義 90
 - テーブル戻りセグメント値
 - Cテーブルの定義 93
- と
 - 統合
 - コンフィギュレータ 1
 - 在庫管理 1
 - 作業オーダー管理 2
 - 受注管理 2
 - 受注設計生産 2
 - 製造現場管理 2
 - 製造データ管理 2
 - 調達管理 2
 - 動的コンフィギュレーション
 - コンフィギュレーション品目のオーダー入力 110
 - 動的コンフィギュレーション入力
 - 規則作成 52
 - 無効 29
 - 有効 29
 - 導入
 - グローバル 3
 - コンフィギュレータ 2
 - コンフィギュレータ固有 3
 - ドキュメンテーション
 - 関連 xiv
 - 最新版 xiv
 - ダウンロード xiv
 - ドキュメンテーションのダウンロード xiv
 - 「トランザクション・タイプ」フィールド 126, 128, 135, 138
 - 組合せオーダーの設定 132
 - 事業所間オーダーの設定 130
- に
 - 入荷確認プログラム(P4312) 136, 178
- ね
 - ネスト
 - ブール論理 33
- は
 - 「範囲の改訂」フォーム 54, 57, 75
 - 販売見積
 - コピー 142
 - 自動作成 141
 - 受注オーダーへの変換 143
 - 入力 141
 - リリース 141
 - 汎用テキスト
 - 定義 118
 - ハード・エラー・メッセージ
 - 修正 116
 - ハードコードのホットスポット 72
- ひ
 - 引当
 - コンフィギュレーション品目受注オーダーの入力 125
 - 引当可能数量チェック
 - コンフィギュレーション品目受注オーダーの入力 125
 - ピッキング・リスト
 - 印刷 174
 - 表記規則 xvi
 - 「標準原価計算」フィールド 158
 - 「品目/価格/原価の編集」フォーム 105, 113
 - 品目基本価格テーブル(F4106) 189
 - 品目原価テーブル(F4105) 189
 - 品目保管場所テーブル(F41021) 189

品目マスター(F4101) 188
品目マスター情報
設定 21

ふ

複数の変数
ブール論理 33
複数レベル・コンフィギュレーション品目
定義 11, 39
例 13
複数レベル・コンフィギュレーション品目
の図 13
部品表
キットとコンフィギュレータの比較 18
部品リスト
キットとコンフィギュレータの比較 18
「部品リストと作業工程指示の更新」
フィールド 158
「部品リストと作業工程指示の生成」
フィールド 157
部分出荷
構成品の数量部分オーダー出荷 178
コンフィギュレーション品目の出
荷 174
コンフィギュレーション品目の部分オー
ダー数量出荷 175
プロジェクト・ワークベンチ・プログラム
(P31P001) 139
ブール論理
概要 32
条件付き論理 33
条件文 33
ネスト 33
複数の変数 33

ほ

「保管場所制御」オプション
作業オーダーの完了 172
保管場所番号
設定 22
ホットスポット
定義 76
ハードコードの使い方 72
ユーザー定義の定義 74
ホットスポット・アセンブリ組込規則
定義 72

め

メディア・オブジェクト

オーダー入力での表示の定義 35
コンフィギュレーション・テキストの確
認 118
汎用テキストの確認 118

ゆ

誘導計算
オーダー入力中の処理 29, 63, 98, 99
外部フィールド参照の使い方 69
外部プログラム参照の使い方 70
概要 67
結合の使い方 69
サブストリングの使い方 68
三角関数と対数関数の使い方 68
セグメント参照の使用 68
代数式の使用 68
テスト 85
リテラル・テキストの使い方 70
「誘導計算」フォーム 76, 85
ユーザー定義コード
ホットスポットの定義 76
メディア・オブジェクトの定義 35
「ユーザー定義コード」フォーム 41, 47,
74, 88
ユーザー定義ホットスポット 74

り

リテラル・テキスト 70
流通情報
設定 24
履歴 117
リードタイム
計算 159
設定 22

れ

連絡先情報 xviii

ろ

「ロット処理タイプ」フィールド 22
作業オーダーの完了 172
ロット番号
設定 22
論理ステートメント 51